第３節　遺構と遺物

富山城跡

調査区は、Dグリットから北側の部分にあたる。この地区には、試掘結果や古地図などから調査前から東西方向の外堀の存在を推定していた。そのため表層を重機で除去し、外堀の上面を検出して堀範囲を確定した上で、３カ所に大きくトレンチを入れて外堀内部の状況確認を行った。トレンチは西から東へトレンチ１、トレンチ２、トレンチ３とした。その結果外堀の南側上端は、調査区域外である総曲輪通りの範囲に入るため検出できず、堀北側の上端のみ確認した。

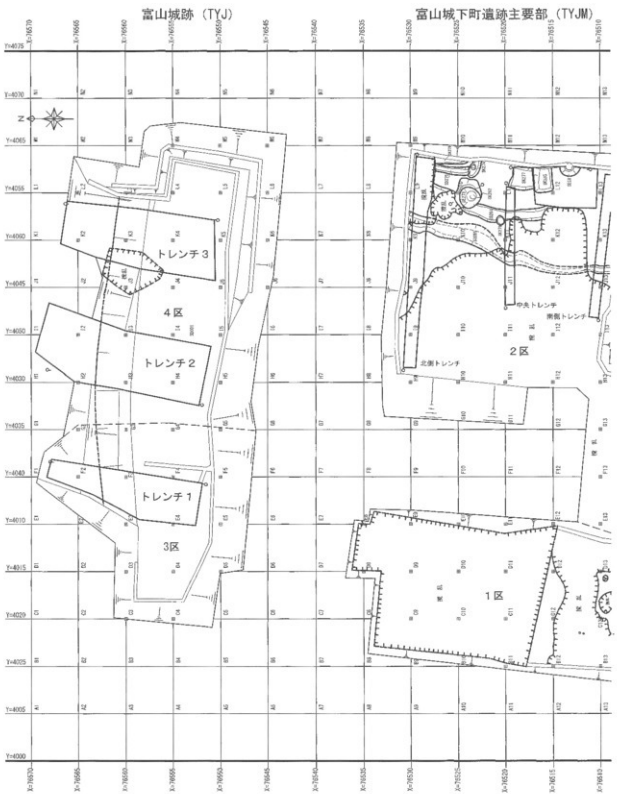
SD1（富山城跡外堀　第６図～第10図）

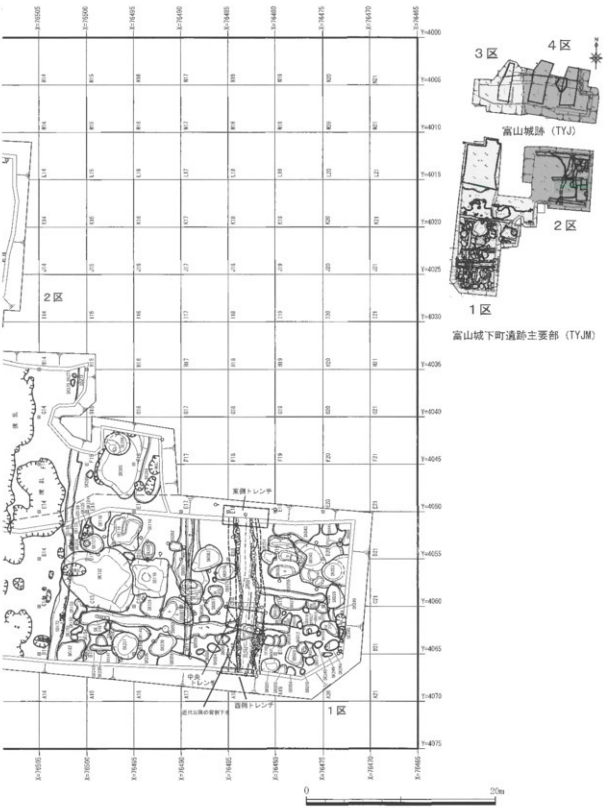
確認した規模は全長が45.94ｍ、幅が12.78ｍ、深さは3.46ｍとなる。堆積土は、ほぼどのトレンチも10層を超える層序で、トレンチ１の第16～18層とトレンチ３の第９～12層以外は各層の層厚は均一となり、層の頭は平坦で層尻は角状に立ち上がらず、壁へ水平に接し堆積する。さらに層中にラミナ状堆積が見られないことなどから、これらの層は人為堆積と考える。

外堀の底部分はトレンチ１で第16～18層と、トレンチ３で第９～11層が自然堆積土となる。底面の形状は、やや丸みを持ったトレンチ３の形状に近い様相も見られたものの、平坦なものが主であった。この底面から壁面は、Ｖ字状な傾斜を持ち、直線的に立ち上がる。この壁面では壁を形成するための人為的な盛土を確認した。トレンチ１では第19層、トレンチ２では第17層～21層、トレンチ３では第12層がそれにあたる。これらの層には円礫の小砂利が多く含まれ、この土で壁面を形成し、角度調整を行っていたと考えられる。

外堀の上方では、土塁の痕跡と考えられる堆積を検出した。土塁は外堀上端の北側で見られ、大部分が後世の攪乱による削平を受けている。土塁の堆積は、層底面が平坦で層厚の均一な堆積土が何層にもわたって堆積しているものの、斜めに堆積するなど厳密な意味での版築とは違い、土叩きもなく締まりも弱い。この土塁層の下、堀の基盤層となる部分であるが、これらの層は安定した基盤層ではなく、何層にもわたる水平堆積層であり人為堆積土といえる。このことから壁面構築には石垣の構築方法と同じように大きく堀方を掘削し、まずは壁面の構築を行っていたか、または外堀に何時期かの時期差があった可能性が考えられる。

遺物は陶磁器、瓦質土器、珠洲、木製遺物が出土した。陶器は、蓋（第10図1、2）や磁器碗（3、4）皿（5）や擂鉢（6）がある。陶器の蓋は１が土瓶の蓋であり、２は在地産の土鍋の蓋であろう。磁器は碗（3、4）皿（５）がある。碗は平形の３や端反形の４などが見られ、ともに肥前系の19世紀代と考えられる。擂鉢は口縁部が欠損し、形状を知るに至っていない。底端部周辺は、使用によって丸味を持ち糸切り痕が残る。体部全面には鉄釉が施され、胎土は乳白色を呈する。卸目は中太の11本を１単位とし、密には入らない。堀への混入遺物としては他に珠洲の擂鉢片がある（7）。木製遺物は漆器椀や（8、9、10）しゃもじ（11）がある。漆器椀は、内外面共に黒漆が施されている椀（8、9）と内外面ともに朱漆のもの（10）が見られた。８は高台脇から腰部へ鋭く屈曲し口縁端部へほぼ直線的に立ち上がり、高台内には朱で『大』の文字が入る。９は８に比べ大ぶりで、高台長は長い。高台脇から腰部へは緩やかに屈曲し、口縁端部へも丸みを持って立ち上がる。高台内には朱で『二』の文字が入る。10は口縁端部、高台部分ともに欠損していて、形状は不明である。高台脇から腰部へは緩やかに屈曲し、体部は丸味を持ち、９に似た形状の可能性がある。内外面共に朱漆となる。11のしゃもじは柄の部分で一部漆が剥がれるが、ほぼ全面黒漆で塗られ、へら部分は裏が黒漆となり、表は朱漆になる。


富山城跡（TYJ）
富山城下町遺跡主要部（TYJM）
トレンチ3
4区
トレンチ2
トレンチ1
3区
2区
1区
中央トレンチ
東側トレンチ
北側トレンチ



第6図　富山城跡・富山城下町遺跡主要部遺構全体図（1:400）

第7図　3区 SD1 トレンチ（外堀部分）東壁断面図（1:80）

3区　トレンチ1　SD 1

1　2.5Y6/6明黄褐色シルト 超粗砂含む。径5cmの小礫多く含む。(撹乱層)

2　N7/灰白色シルト 細粗砂含む。径5～20cmの小礫含む。(SD1埋土)

3　N2/黒色シルト 細粗砂含む。木片多く含む。径10cmの小礫多く含む。(SD1埋土)

4　5Y3/1オリーブ黒色シルト 径5cmの小礫多く含む。植物片含む。(SD1埋土)

5　5Y4/1灰色シルト 極細粗砂含む。7.5Y6/1灰色シルトをブロック状に含む。炭化物含む。(SD1埋土)

6　2.5Y4/1黄灰色シルト 極細粗砂含む。白色粒子多く含む。炭化物多く含む。(SD1埋土)

7　7.5Y5/1灰色シルト 細粗砂含む。7.5Y6/1灰色シルトをブロック状に含む。(SD1埋土)

8　5Y3/2オリーブ黒色シルト 極細粗砂含む。白色粒子わずかに含む。炭化物わずかに含む。(SD1埋土)
＋
9　2.5Y3/2黒褐色シルト 中粒砂多く含む。白色粒子わずかに含む。(SD1埋土)

10　7.5Y3/1オリーブ黒色シルト 極粗砂含む。炭化物含む。(SD1埋土)

11　N5/灰色細粗砂 植物片わずかに含む。(SD1埋土)

12　5Y2/2オリーブ黒色シルト 白色粒子わずかに含む。(SD1埋土)

13　5Y5/1灰色中粒砂 5Y4/1灰色シルトをブロック状に含む。(SD1埋土)

14　7.5Y5/1灰色シルト 中粒砂含む。径5cmの小礫多く含む。炭化物含む。(SD1埋土)

15　10YR4/2灰黄褐色シルト 中粒砂含む。径5cmの小礫含む。(SD1埋土)

16　7.5Y3/1オリーブ黒色シルト 極細粗砂含む。(SD1埋土)

17　7.5Y4/1灰色シルト 極細粗砂含む。(SD1堰土)

18　10Y3/1オリーブ黒色シルト 極細粗砂含む。(SD1埋土)

19　5Y6/1灰色中粒砂 径5cmの小礫多く含む。(人為堆積層)

20　2.5Y4/4オリーブ褐色中粒砂 径10～20cmの礫多く含む。(人為堆積層)

21　5Y5/1灰色シルトと5Y6/1灰色中粒砂との斑土 径2～5cmの小礫含む。植物片含む。(人為堆積層)

22　7.5Y3/1オリーブ黒色細粗砂(人為堆積層)

23　2.5Y6/2灰黄色中粒砂 径5～20cmの礫含む。(人為堆積層)

24　2.5Y7/2灰黄色中粗砂 径5～10cmの礫含む。(人為堆積層)

25　2.5Y4/2暗灰黄色シルト 極細粗砂多く含む。(人為堆積層)

26　10YR5/6明黄褐色粗粗砂 径5～10cmの小礫含む。(人為堆積層 土壇)

27　10YR5/4にぶい黄褐色粗粗砂 10YR6/2灰黄褐色シルトをブロック状に含む。径1～5cmの小礫含む。(人為堆積層 土壇)

28　10YR5/6黄褐色粗粗砂 径5～10cmの小礫多く含む。(人為堆積層 土壇)

29　10YR5/2灰黄褐色中粒砂 10YR7/1灰白色シルトをブロック状に極めて多く含む。(人為堆積層 土壇？)

30　10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂 10YR7/1灰白色シルトをブロック状に含む。(人為堆積層 土壇？)

31　2.5Y6/1黄灰色シルト 細粗砂を含む。10YR6/1褐灰色シルトをブロック状に含む。径2～5cmの小礫含む。(自然堆積層)
＋
32　2.5Y5/1黄灰色シルト 極細粗砂含む。2.5Y4/1黄灰色シルトをブロック状に含む。(自然堆積層)

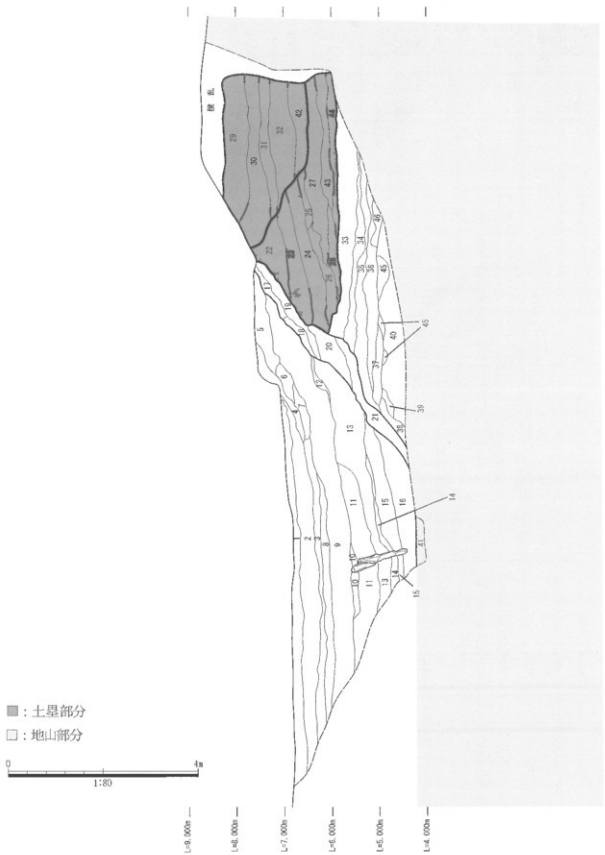
33　2.5Y6/2灰黄色細粗砂(自然堆積層)

34　7.5Y3/2オリーブ黒色シルト 極細粗砂わずかに含む。(自然堆積層)

35　10YR6/6明黄褐色粗粗砂(自然堆積層)

36　7.5Y3/2オリーブ黒色シルトとN5/1灰色細粗砂との斑土(自然堆積層)

37　N5/1灰色粗粗砂(自然堆積層)



第8図　4区　SD1　トレンチ2（外堀部分）西壁断面図（1:80）

4区　トレンチ2　SD1

1　N2/黒色シルト　細粒砂含む。植物片多く含む。径5cmの小礫多く含む。(SD001埋土)

2　5Y3/1オリーブ黒色シルト　細粒砂含む。(SD1埋土)

3　5Y3/1オリーブ黒色シルトと5Y3/2オリーブ黒色シルトとの斑土。　細粒砂含む。(SD001埋土)

4　5Y5/1灰色シルト　中粒砂多く含む。径10～20cmの礫多く含む。(SD001埋土)

5　5YA/1灰色シルト　中粒砂含む。白色粒子含む。炭化物含む。(SD001埋土)

6　2.5Y3/2黒褐色シルト　中粒砂含む。炭化物含む。植物片多く含む。(SD001埋土)

7　7.5Y6/1灰色シルト　中粒砂多く含む。植物片多く含む。(SD001埋土)

8　5Y3/2オリーブ黒色シルト　細粒砂含む。炭化物含む。(SD001埋土)

9　5Y2/2オリーブ黒色シルト　細粒砂含む。炭化物含む。白色粒子多く含む。(SD001埋土)

10　N6/灰色超粗砂　植物片多く含む。(SD001埋土)

11　5Y3/1オリーブ黒色シルト　極細粒砂含む。白色粒子含む。植物片含む。(SD001埋土)

12　2.5Y4/1黄灰色シルト　中粒砂含む。炭化物、植物片含む。(SD001埋土)

13　5Y4/1灰色シルト　極細粒砂含む。植物片含む。(SD001埋土)

14　5Y6/1灰色シルト　細粒砂多く含む。炭化物含む。(SD001埋土)

15　10Y5/2オリーブ灰色シルト　細粒砂含む。(SD001埋土)

16　7.5Y4/1灰色シルト　細粒砂含む。白色粒子含む。(SD001埋土)

17　2.5Y5/2暗灰黄色シルト　細粒砂多く含む。(人為堆積層　盛土層)

18　10Y6/1灰色細粒砂(人為堆積層　盛土層)

19　5Y6/1灰色細粒砂　径5cmの小礫含む。(人為堆積層　盛土層)

20　5Y5/1灰色シルトとN6/1灰色細粒砂との斑土(人為堆積層　盛土層)

21　2.5Y6/1黄灰色中粒砂　径5～10cmの小礫含む。(人為堆積層　盛土層)

22　2.5Y6/2灰黄色中粒砂　径5～10cmの小礫多く含む。(人為堆積層　盛土層)

23　10YR6/6明黄褐色中粒砂(人為堆積層　盛土層)

24　10YR6/2灰黄褐色中粒砂　径10～20cmの小礫多く含む。(人為堆積層　盛土層)

25　N4/灰色シルトと5G6/1緑灰色中粒砂との斑土(人為堆積層　盛土層)

26　10YR5/2灰黄褐色シルト　中粒砂含む。(人為堆積層　盛土層)

27　N4/灰色シルト　細粒砂含む。(人為堆積層　盛土層)

28　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　細粒砂含む。(人為堆積層　盛土層)

29　7.5YR5/6明褐色中粒砂　N7/灰白色細粒砂ブロックを含む。径2～3cmの小礫含む。(人為堆積層　土壇)

30　10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂　径5～10cmの小礫含む。(人為堆積層　土壇)

31　10YR6/6明黄褐色中粒砂　径5～10cmの小礫含む。(人為堆積層　土壇)

32　10YR6/1褐灰色中粒砂　径2～3cmの小礫含む。(人為堆積層　土壇)

33　7.5Y4/1灰色シルト　細粒砂含む。(自然堆積層)

34　5Y6/1灰色中粒砂　5Y5/1灰色シルトブロックを含む。(自然堆積層)

35　N6/灰色中粒砂と2.5Y5/1黄灰色シルトとの斑土(自然堆積層)

36　2.5Y5/1黄灰色シルト　中粒砂含む。(自然堆積層)

37　N4/灰色細粒砂　径5cmの小礫含む。(自然堆積層)

38　7.5Y5/1灰色シルト　細粒砂含む。植物片含む。(自然堆積層)

39　5Y2/1黒色シルト　細粒砂含む。5G7/1明緑灰色シルトブロックを含む。(自然堆積層)

40　7.5Y7/1灰白色シルト　細粒砂含む。(自然堆積層)

41　N5/灰色超粗砂(自然堆積層)

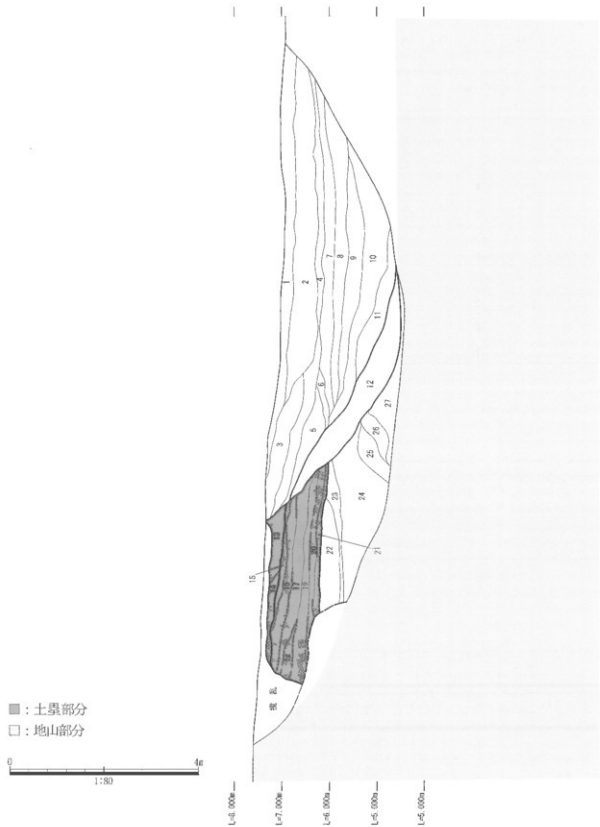
42　10YR5/1褐灰色シルトと2.5GY5/1オリーブ灰色シルトとの斑土　細粒砂含む。(人為堆積層　土壇)

43　7.5Y6/1灰色シルトとN6/灰色シルトとの斑土　細粒砂含む。(人為堆積層　盛土層)

44　N4/灰色中粒砂(人為堆積層　盛土層)

45　10Y2/1黒褐色シルト　極細粒砂含む。(自然堆積層)

46　2.5Y6/1黄灰色粗砂砂(自然堆積層)



第9図　4区　SD1　トレンチ3（外堀部分）東壁断面図（1:80）

4区　トレンチ3　SD1

1　N2/黒色シルト　細粒砂含む。植物片含む。径2～10cm大の小礫多く含む。(SD1埋土)

2　N4/灰色シルト　細粒砂含む。植物片多く含む。白色粒子含む。(SD1埋土)

3　5Y6/1灰色シルト　細粒砂極めて多く含む。植物片含む。(SD1埋土)

4　10Y4/1灰色シルト　細粒砂わずかに含む。植物片含む。(SD1埋土)

5　10YR4/1褐灰色シルト　細粒砂多く含む。植物片含む。(SD1埋土)

6　10YR5/1褐灰色シルト　細粒砂多く含む。径5～10cmの小礫多く含む。(SD1埋土)

7　5Y3/1オリーブ黒色シルト　細粒砂含む。炭化物含む。植物片含む。(SD1埋土)

8　7.5Y6/1灰色シルトとN3/暗灰色シルトとの斑土　中粒砂含む。(SD1埋土)

9　5Y4/1灰色シルト　細粒砂含む。白色粒子含む。植物片含む。(SD1埋土)

10　5Y3/2オリーブ黒色シルト　細粒砂わずかに含む。植物片含む。(SD1埋土)

11　5Y5/1灰色シルト　中粒砂多く含む。(SD1埋土)

12　7.5Y6/1灰色中粒砂　径5～10cmの小礫多く含む。(人為堆積層)

13　10YR7/4にぶい黄橙色細粒砂　径5～20cmの小礫多く含む。(人為堆積層　土壇)

14　10YR6/6明黄褐色シルト　中粒砂含む。(人為堆積層　土壇)

15　5B4/1暗青灰色シルト　中粒砂含む。(人為堆積層)

16　5G5/1緑灰色シルト　細粒砂含む。(人為堆積層)

17　5G4/1暗緑灰色シルト　中粒砂含む。(人為堆積層)

18　7.5Y4/1灰色シルト　中粒砂含む。N7/灰白色シルトをブロック状に含む。(人為堆積層)

19　10Y3/1オリーブ黒色シルト　中粒砂含む。7.5Y6/1灰色シルトをブロック状に含む。(人為堆積層)

20　5Y4/1灰色シルトとN6/灰色細粒砂との斑土(人為堆積層)

21　5B5/1青灰色中粒砂(人為堆積層)

22　10Y4/1灰色シルト　細粒砂含む。白色粒子わずかに含む。(自然堆積層)

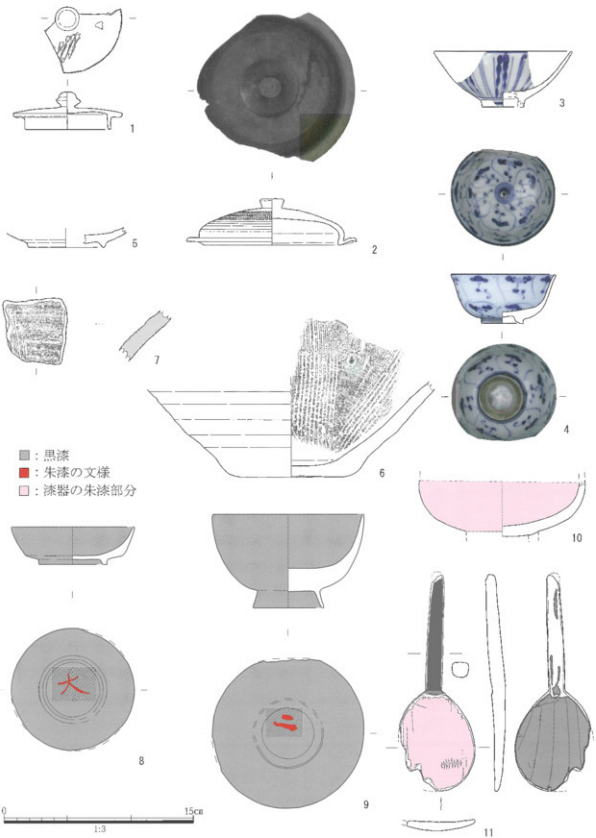
23　2.5Y5/1黄灰色シルト　細粒砂多く含む。(自然堆積層)

24　7.5Y5/1灰色　粗粒砂含む。径5～10cmの小礫含む。(自然堆積層)

25　10Y3/1オリーブ黒色シルト　細粒砂含む。植物片多く含む。白色粒子多く含む。(自然堆積層)

26　5Y3/1オリーブ黒色シルト　細粒砂含む。植物片含む。(自然堆積層)

27　N5/灰色細粒砂(自然堆積層)



第10図　富山城跡　外堀（SD1）出土遺物実測図（1:3）

富山城下町遺跡主要部

溝

SD1（背割下水　第12図～19図）

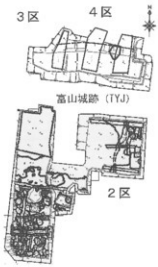
1区のA18～D18グリッドに位置する。調査区を東西方向に貫く形で検出した。明治期に敷設した背割下水の底部も、同一範囲で確認した。検出した長さは16.35mで幅は1.9m、深さは1.25mである。断面形状は方形であり底面はやや皿状にくぼむ形の素堀である。側壁は人頭大の玉石を乱積みに配する。この玉石を配するにあたって、現況より大きな堀方を設け、玉石が配置し易い様な傾斜を設ける地業を行っている。さらに溝の壁際底面には、丸太を配置し、それを杭止めして、その上から玉石を組むいわゆる胴木として使用していた。玉石の石積みに裏込め土として栗石などの混在はなかった。石積みは杭によって積んだ石の崩壊を止める程度であり、全般的に見て簡素な作りであったと推察する。

土層は29層からなり、溝の上層では戦災時の整地土や近代段階の背割下水に関係する堆積土も見られたが、近世段階の溝の廃棄時に堆積した人為堆積土も明瞭に観察できた。近世段階の溝の使用時の堆積土は底面で若干確認できたものの、溝内は溝さらえが十分に行われていた様で、層厚のある堆積土は確認していない。また断面観察から、溝の補修や大規模な改変の痕跡はなかった。

遺物の出土状況は、溝廃絶後に一気に埋め戻している堆積状況から、明治期の遺物から江戸時代の遺物までが混在する形で出土する。溝の開削時期が明確に判る遺物はなかった。

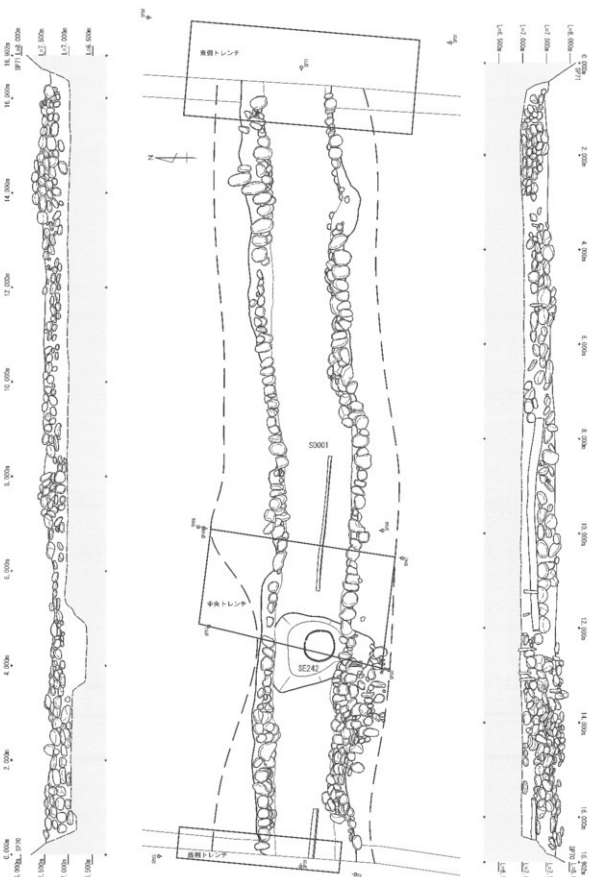
遺物は陶磁器、越中瀬戸、土師質土器、土人形、木製遺物、金属製品が出土した。陶器は、碗（第14図1～6）、皿（第14図7．11～15、18～21）鉢（第14図8～10、第15図22、23）、壺、甕、瓶類（第15図24～28）合子や紅猪口などが見られた（第14図16.17）。碗は腰張形や半球形のものと半筒形が見られ、鉄釉が全面に施されたものや灰釉のもの、在地産のビラがけのものなどが出土している。第14図8～10の鉢は、ほぼ鉄釉によるものであり、高台は削り出しとなる。体部下半は露胎となり、口縁端部は、第14図9のように平坦で内湾する形のものが見られた。皿は第14図11が志野の折縁皿である。貫入が入り、鉄絵で笹ノ葉文を描いている。鉄絵の入るものは、他にも見られ（第14図12、13）、13は輪花皿となる。14は灰釉を施す皿である。底部から口縁端部へ丁寧なロクロヘラケズリが施され、底部の厚みは非常に薄いつくりとなる。在地産のもので、越中丸山焼の可能性が考えられる。口辺部外面だけに、漆痕か煤痕が残る。第14図15は灰釉を施し、見込みは蛇ノ目釉ハギとなる。高台は削り出しとなり、高台脇から口縁部へ緩やかに立ち上がる。第14図18はひだ皿であり、鉄釉を施し、体部下半は露胎となる。第14図19～21は灯明受け皿の台無しである。明確な使用痕跡はない。第15図22、23の鉢は灰釉（22）や白泥し透明釉を施す（23）。22は口縁部が直角に折れるもので、瀬戸美濃の植木鉢と考えられる。23は底部片のみであり、削り出し高台となり体部は直線的に立ち上がる。第15図24～28は壺、甕、瓶類である。25と26は在地産の壺であり、口縁部は内側に受け部を設け蓋が付く形となる。器厚は薄く26の頸部には幾条もの短線を配す。28は肥前系陶器の大型の甕である。内外面共に鉄釉を施し、頸部は直立し口縁端部は玉縁上に肥大する。第15図32は醤油壺である。体部外面は下半に露胎部分が見られるもののそれ以外は灰釉を施す。底部は回転糸切り未調整となる。

磁器は肥前系でほぼ占められ、碗や皿が出土している。第16図33～43は碗である。碗は丸形、腰張り形、半筒形などが見られ、文様も菊花文、松葉文、矢羽根、渦巻き、草花文などさまざまである。

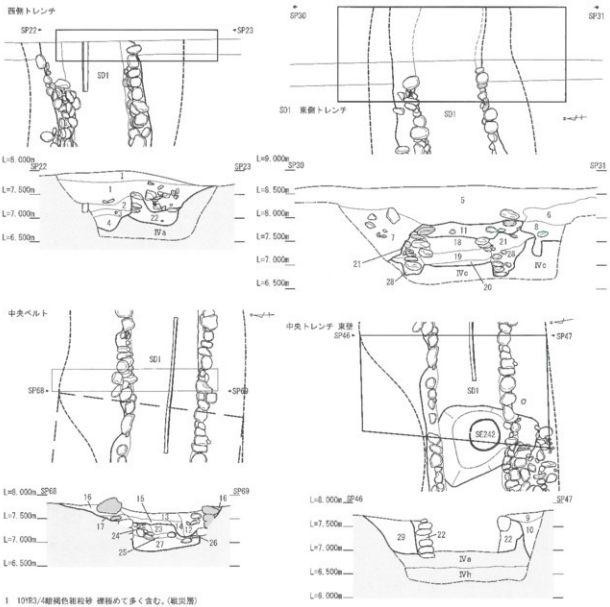


富山城下町遺跡主要部（TYJM）

第11図　富山城下町遺跡主要部全体図 (1:300)



第12図　SD1（背割下水）平面図、立面図（1:80）



1 10YR3/4暗褐色礫粗砂 礫径めて多く含む。(撹乱層)
2 10YR3/1黒褐色シルト 礫粗砂径めて多く含む。(撹乱層)
3 7.5Y3/1オリーブ黒色礫粗砂 10YR3/1黒褐色シルトを含む。(撹乱層)
4 2.5Y3/1黒褐色シルト 礫含む。(撹乱層)
5 7.5YR3/4暗褐色シルト 焼土、ガラ多く含む。(撹乱層)
6 7.5YR4/1暗灰色シルト 焼土、ガラ多く含む。(撹乱層)
7 7.5YR4/3暗色シルト 焼土、ガラ、礫多く含む。(撹乱層)
8 7.5YR3/1黒褐色シルト 径10~20cmの礫多く含む。(撹乱層)
9 10YR3/1黒褐色シルト 礫径めて多く含む。(撹乱層)
10 10YR3/1黒褐色シルト 礫、焼土ブロック含む。(撹乱層)
11 7.5YR4/4暗色シルト 中粒砂含む。径50cm礫多く含む。(近代以降背割下水埋土)
12 2.5Y4/1黄灰色シルト 細粗砂含む。径10~30cmの小礫多く含む。(近代以降背割下水埋土)
13 10YR4/2灰黄褐色シルト 細粒砂含む。径10~20cmの小礫多く含む。ガラス片等含む。(近代以降背割下水埋土)
14 2.5Y3/1黒褐色細粒砂 植物片多く含む。(近代以降背割下水埋土)
15 10YR5/1褐灰色中粒砂 (近代以降背割下水埋土)
16 10YR5/1褐灰色シルト 細粒砂多く含む。(近代以降背割下水埋土)
17 N3/暗灰色シルト 中粒砂多く含む。(近代以降背割下水埋土)
18 10YR4/1褐灰色シルト 細粒砂多く含む。(近世背割下水埋土)
19 10YR3/1黒褐色シルト 中粒砂多く含む。径5cmの礫多く含む。(近世背割下水埋土)
20 2.5Y4/2暗灰黄色シルト 細粒砂含む。(近世背割下水埋土)
21 5Y3/1オリーブ黒色シルト 細粒砂含む。(近世背割下水埋土)
22 2.5Y3/1黒褐色シルト 10YR6/1灰色粘土質シルトを含む。(近世背割下水埋土)
23 2.5Y5/1黄褐色中粒砂 径5~10cmの小礫多く含む。(近世背割下水埋土)
24 10YR2/1黒褐色シルト 細粒砂含む。(近世背割下水埋土)
25 7.5Y4/1灰色中粒砂 径5~10cmの小礫多く含む。(近世背割下水埋土)
26 5Y4/1灰色シルト 細粒砂多く含む。(近世背割下水埋土)
27 2.5GY6/1オリーブ灰色粘土質シルト (近世背割下水埋土)
28 5Y3/1オリーブ黒シルトと5G7/1明緑灰色シルトとの互土 細粒砂含む。(近世背割下水埋土)
29 10YR2/1黒色シルト 礫多く含む。(近世背割下水埋土)
I 2.5Y5/2暗灰黄色細粒砂 礫多く含む。(盛土層)
IVa 10Y6/1灰色粘土質シルト (地山)
IVc 5G7/1明緑灰色シルト 礫細粒砂含む。(地山)
IVh 10Y4/1灰色粘土質シルト (地山)

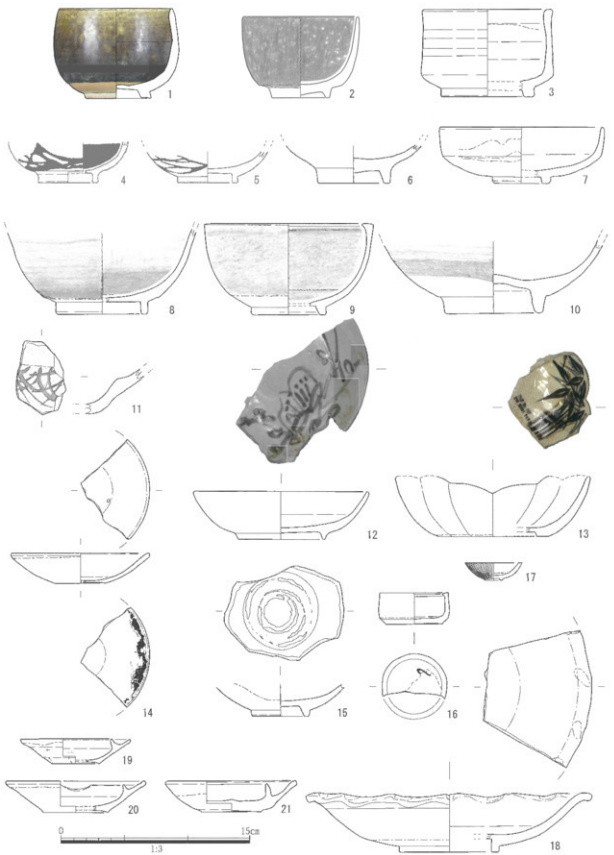
■ : 近代以降背割下水側石
□ : 地山部分

0 4m
1:80

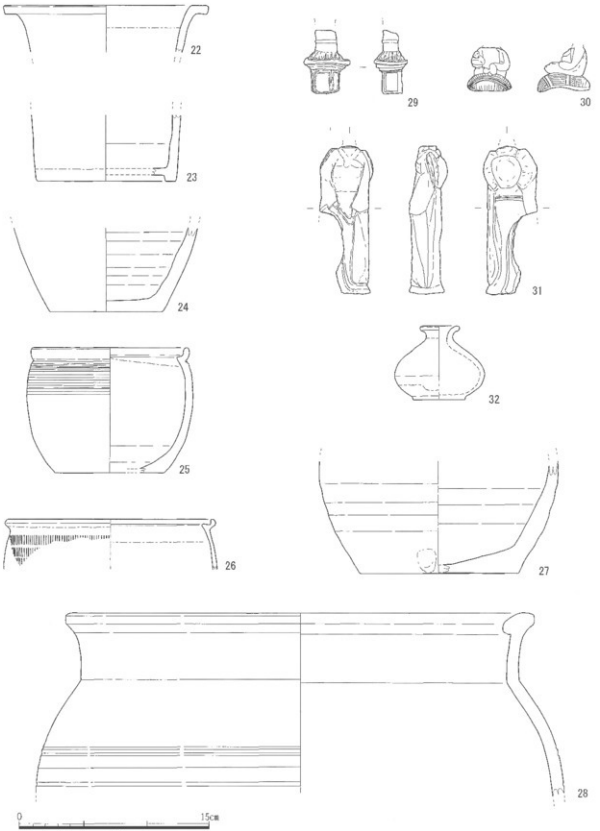
第13図　SD1（背割下水）平面図、立面図（1:80）

第16図40の内面には酸化した鉄分が塊状になった物が、碗内に入った形で出土した。この酸化の状況からこの塊は、お歯黒の可能性が考えられる。皿は五寸皿や大皿が中心であり、器厚が厚手で全体的にどっぷりとした感じのいわゆる『くらわんか手』のものも見られた（第16図45、46、第17図51）。また第16図47には焼継ぎ痕が見られるものもあり、当時は日常的に物を修理して使用したことが分かる。

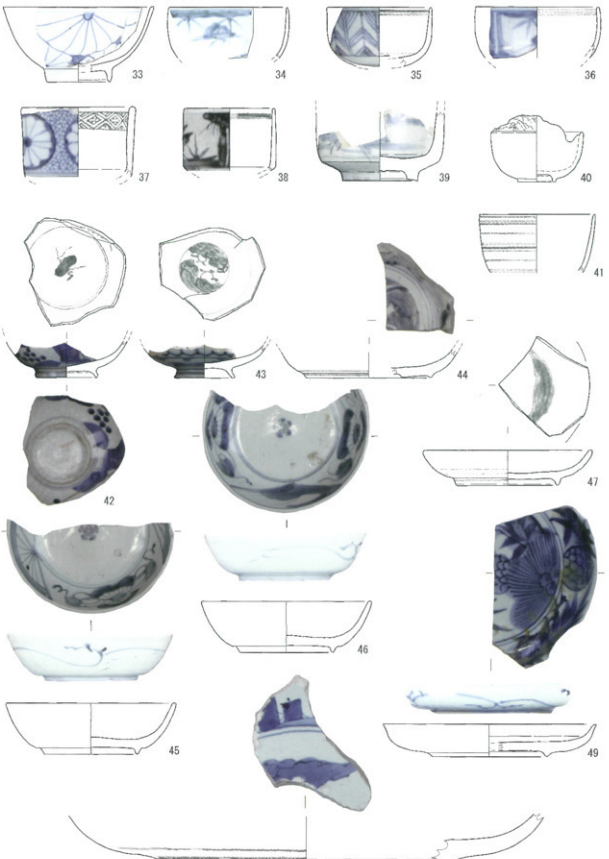
これら磁器の時代は、大皿の一部に17世紀後葉からのものがあったが（第16図48）、その多くは18世紀前葉～中葉に集中し、一部には18世紀後葉にまで至るものも見られた。越中瀬戸は皿、ひだ皿、埦鉢、鉢、広口壺などがある。皿は高台の付くものと無高台のもの（第17図60、61、第18図62～66、第19図86、87、88）と２種類見られ、有高台のものは少ない。有高台のもの（第18図67、68、69）は高台が削り出しであり、内底面に釉止めの段は見られない。67は見込みが蛇の目釉はぎとなり、68、69は無釉となる。高台は端部が三角形となり、67、68は灰釉を施し、69は鉄釉が施されていた。69の底部高台内には『一』という墨書が見られた。無高台のものは、総じて鉄釉となり内底面まで施す。内底面には、すべてに重ね焼き痕を確認できる。外底面は回転糸切り未調整であり、施釉はされない。ひだ皿（第18図70）は１点出土しており、鉄釉により漬け掛けされている。高台は削り出しとなり、体部下半は露胎となる。内底面は無釉である。71～75は匣鉢である。内外面ともに鉄釉がかかる。75の内底面には重ね焼き痕が見られる。底部は回転糸切り未調整であった。76～78は広口壺であり、内外面ともにロクロナデによる調整が行われ、鉄釉が施されている。79は鉢であり鉄釉が施される。底部は回転糸切り未調整である。ひょうそくは２点見られ（57、58）、鉄釉がかかる。越中瀬戸の時期は、皿から宮田編年（宮田　1997）Ⅱ期の特徴とされる釉止めの段は見られず、口縁部は外方へ延び、高台は削り出しとなる。高台は断面三角形ではあるものの、内底面には印花文を無高台、有高台の皿ともに全く見ることができない。この様な様相と共伴している肥前系磁器の状況から、Ⅱ期よりさらに新しいⅢ期以降の段階の可能性を考えたい。土師質土器は皿が出土し、この多くには煤痕が見られ、灯明皿として使用されていたものと考えられる。皿の形状には底部から口縁部へ直線的に立ち上がり、体部下位で強く屈曲して外反し口縁端部に至るもの（第19図82～85、89）とほぼ直線的に口縁端部に至るもの（第19図90、91、94～96）体部中位で内斜し、扁平な形のもの（第19図92、93）と径の大きいもの（第19図97、98）が見られた。これらすべて底部は回転糸切り未調整であり、手づくねといった非ロクロのものはなかった。擂鉢は在地系などの陶器（第19図101、104）と越中瀬戸のもの（第19図99、100、102、103）があった。擂鉢はすべて鉄釉が施され、特に越中瀬戸のすり鉢は胎土が粗く、乳白色と赤褐色のものが混在していた。餌目は均一に内面全面に万遍なく入る。底部の残る102は回転糸切り未調整となる。金属製品は、古銭の寛永通宝（第19図105）、天秤の皿と考えられるもの（第19図106）とキセルの吸い口（第19図107）かんざし（第19図108、109、110）が出土した。石製品は砥石（第18図80）と硯（第18図81）が見られ、土製品としては箱庭道具に使われたと考えられる宝塔（第15図）と大黒（第15図30）や土人形の狆抱き人形（第15図31）などが出土した。木製遺物には草履の芯が出土している（第19図111）。鍔には紐を通す穴を確認した。



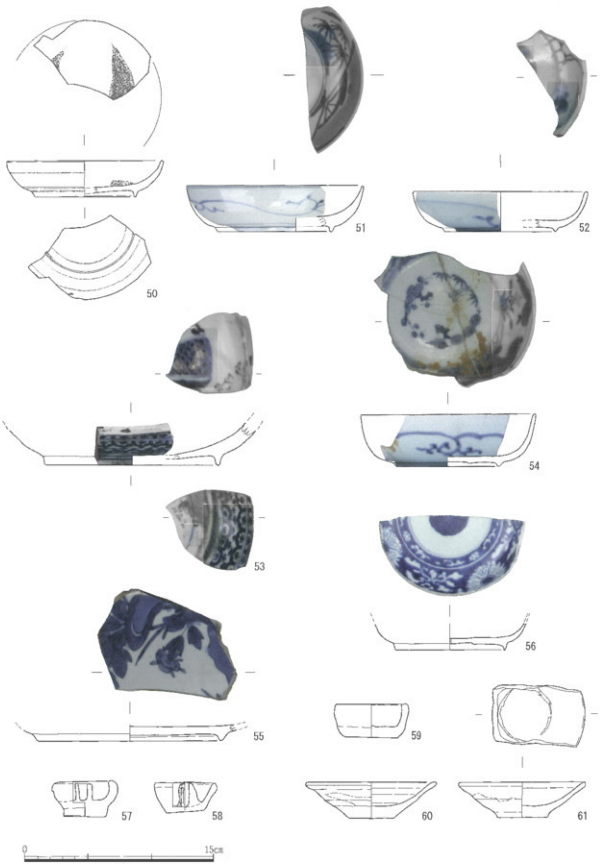
第14図　背割下水（SD1）遺物実測図その1（1:3）



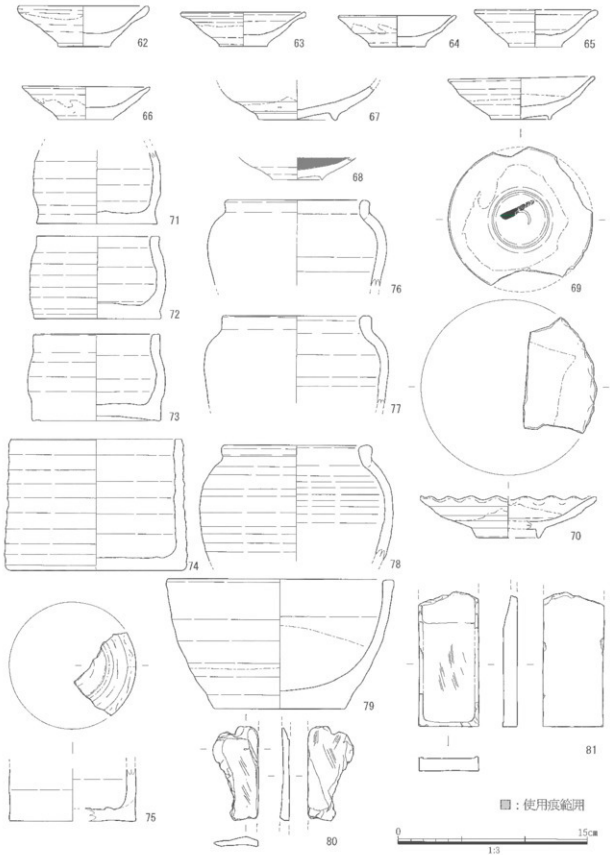
第15図　背割下水（SD1）遺物実測図その2（1:3）



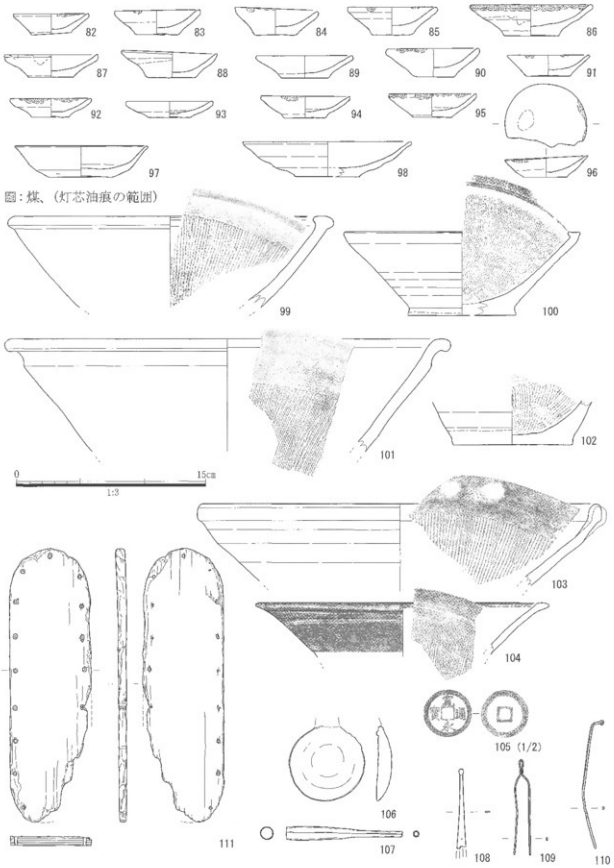
第16図　背割下水（SD1）遺物実測図その3（1:3）



第17図　背割下水（SD1）遺物実測図その４（1:3）



第18図　背割下水（SD1）遺物実測図その5（1:3）



第19図　背割下水（SD1）遺物実測図その6（1:3）

SD53（第6、11、20図）

1区のB14～B18グリッドで検出した。新旧関係にあるSD1より時期は古い。SD1のさらに調査区南側には、断面形が方形のSX254が立地しており、これがSD53の延長部分の可能性もある。しかし遺構の深さや平面形などに差異があることから、別番号を記した。

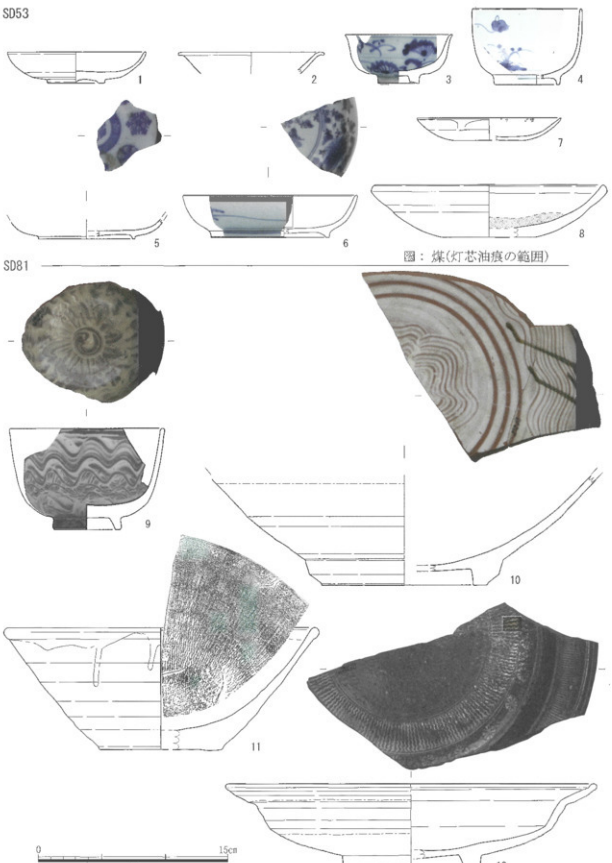
遺構の軸方位は南北方向に向き、規模は全長16.71m、幅1.7m、深さ0.45mをはかる。断面形状は逆台形であり底面は、中央部分がやや窪む形で、側面は緩やかな傾斜となる。堆積土は2層からなり、第1層からは炭化物や焼土を多く含む特徴が見られることや、ほぼ単層に近い堆積であることから人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は陶磁器や越中瀬戸、土師質土器が出土した。第20図1は陶器の皿で緑色が濃く発色した灰釉によって内面は全面、外面は体部上方を釉がけし、体部下半は露胎となる。7は身の浅い皿であり、体部外面はロクロヘラケズリとなり、内面は鉄釉を刷毛塗する。2～6は磁器の碗、皿であり、碗は端反り（3）や腰丸（4）のものが見られた。時期は18世紀後半が主を占めながら、19世紀代のもの（3）も見られる。土師質土器皿（8）は、大振りで15世紀後半～16世紀代のものと考えられる。

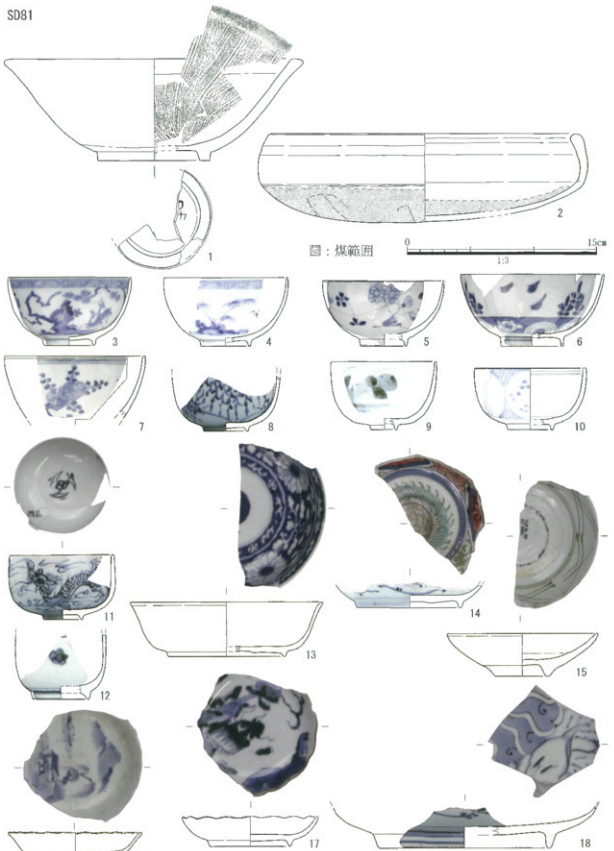
SD81（第6、11、21～24図）

1区のC16～D16、C17～D17グリッドで検出した。遺構の軸方位は東西方向を向き、調査区中央部分で止まる。規模は全長7.86m、幅0.58m、深さ0.52mをはかる。底面は一定でなく、起伏に富む。側壁は底面から上端へ緩やかな傾斜で立ち上がり、中位でテラス状の平坦部分を設ける。層は6層からなり、一部分では人為堆積が見られるが（6層、7層）、自然堆積が主である。

遺物は、陶磁器や越中瀬戸、土師質土器などの器物のほか、木製遺物や金属製品、石製品が出土した。陶器は碗、鉢、擂鉢があり、肥前系と在地系のものである。第20図9は肥前系の碗である。腰丸形であり、体部外面は刷毛目となる。鉢は第20図10、12であり、大鉢である。10は内面が刷毛目であり、白色の化粧土を使っている。鉄釉は口縁部のみかかる。高台は逆三角形に削り出す。12は全面鉄釉で、花弁と剣先形の陰刻が施される。高台は方形に削りだす。10が17世紀後葉～18世紀前葉。12は18世紀前葉～中葉頃と考えられる。擂鉢は第20図11と第21図1がいずれも在地系である。第20図11は下地に薄い鉄釉を掛け、口縁端部のみ濃い鉄釉を施すもので、底部は回転糸切り未調整である。第21図1は。体部外面に黄色に変色した灰釉が施され、高台周辺は無釉となる。卸目は細く細かい単位で高台内には『カ』という墨書がある。磁器は碗、小坏、猪口、皿、蓋、段重、火入れが出土した。碗、小坏、猪口は第21図3～12、第22図19～22であり碗は丸形、腰丸形がほとんどで、端反形（19、20）はごく一部の出土で時代も新しい。端反碗の産地は瀬戸美濃系である。皿は五寸皿や中皿、大皿の他に輪花皿が見られ（第21図14、16、17）、14のように色絵のものも出土している。さらに大皿には、『上手』に入る様なものも見られ、全般的に質は高い。蓋（第22図23）は端反碗に合うものである。第22図25の火入れは、キセルの灰を捨てる時についた打痕が残る。磁器の年代は、18世紀前葉～中葉の範疇に入る一群と（第21図3～7、13、第22図21、22）と18世紀中葉～後葉の時期の一群（第21図8～12、14～18、第22図23、25）、さらに19世紀前葉の一群（第22図19、20）がある。遺物の時期幅は広いが19世紀代は量も少なく混入と考えられる。土師質土器は焙烙鍋（第21図2）が出土し、底部内外面には煤痕が見られ、耳はない。木製遺物は漆器椀、結桶、樽、曲物底板、草履の芯、栓などが出土した。漆器椀は外面黒漆、内面朱漆のものである。外面には錫とベンガラから成る金色の蒔絵を配す。樽の蓋や底板には焼印が入り、不明（31）砂□（佐カ）(29）塩傳（32）佐（33）砂カ（30）となる。31には加工によって付いた鋸線状痕が明瞭に残る。

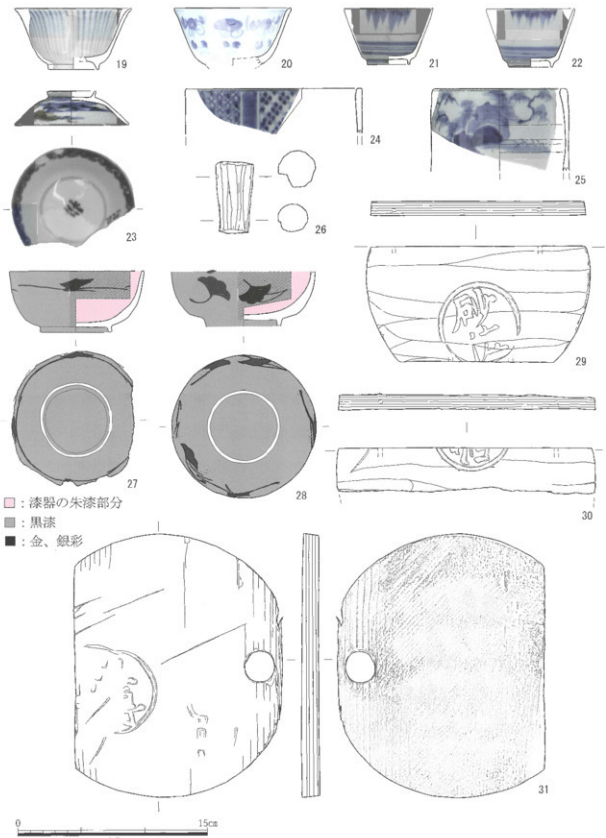


第20図　SD53、81　遺物実測図 (1:3)

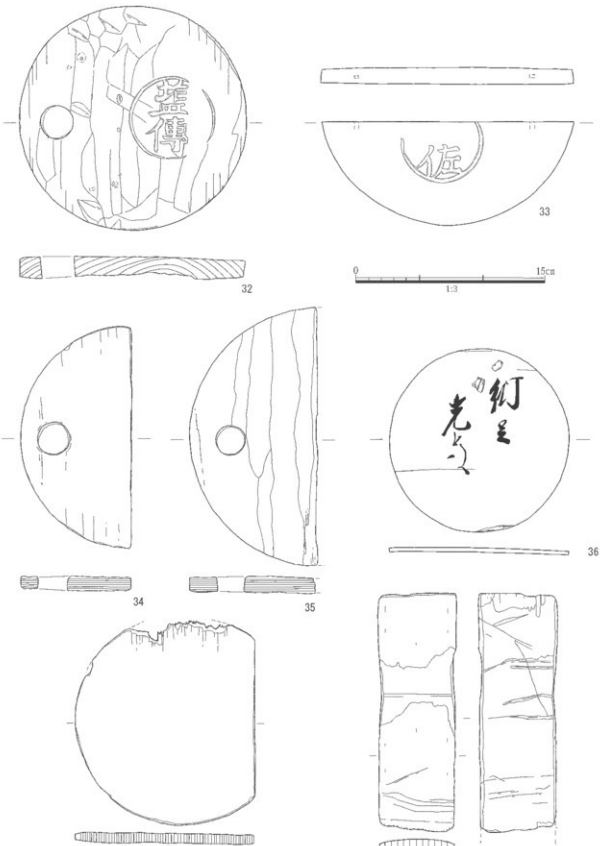


第21図　SD81　遺物実測図その1(1:3)

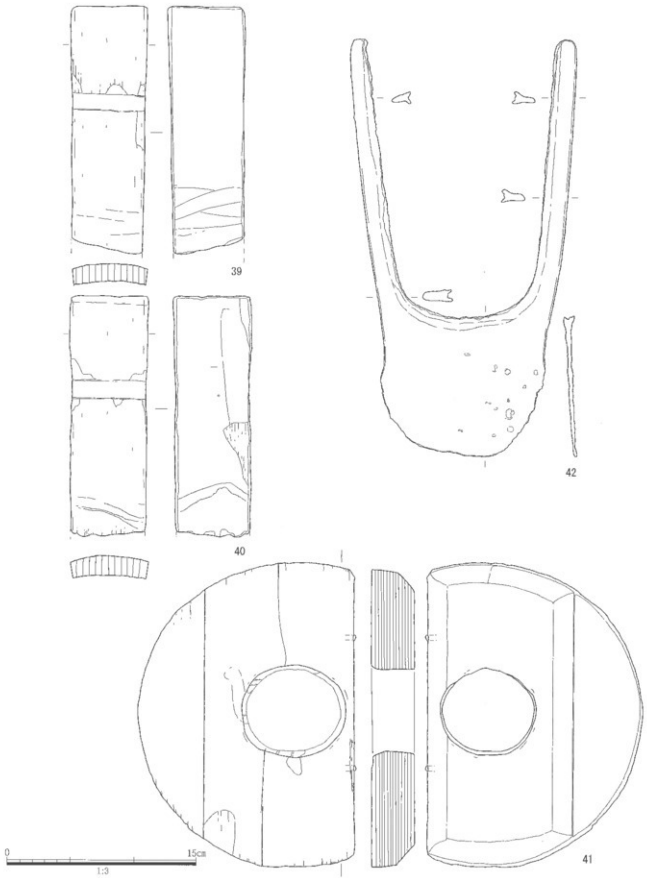
SD81



第22図　SD81　遺物実測図その2 (1:3)



第23図　SD81　遺物実測図その3 (1:3)



第24図　SD81　遺物実測図その4 (1:3)

曲物底板（第23図36）には墨書があり「□そ＼光□□」と書かれていた。結桶側板も数枚出土している。第24図38や第24図39、40は外面の上方に箍が入る方形の窪みを設けるものが見られ、内面下方には、鑿による加工痕が読み取れた。金属製品は鋤先（42）が出土した。

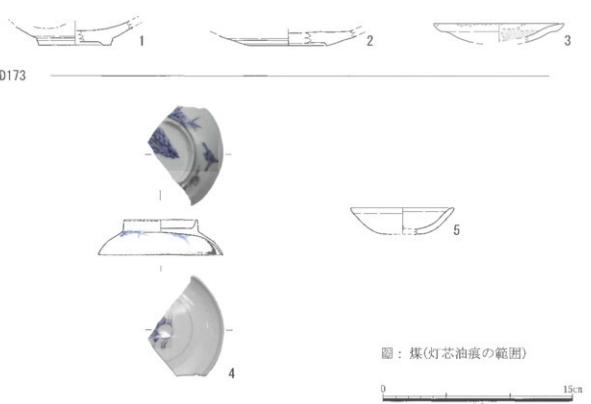
SD166・173・272（第11、25図）

SD166、SD173、SD272はSK132やSK152によって壊されたり、調査区の形状によって分断するため、別番号を付したが同一の遺構である。1区2区のD14～F14グリッドで検出した。遺構の軸方位は東西方向を向く。規模は全長19.38m、幅1.04～1.47m、深さ0.27～0.31mをはかる。断面形状は方形であり、底面は平坦であった。堆積土は単層で、遺構底面の側壁よりの部分には小石が列をなして配されている箇所もある。

遺物は磁器、越中瀬戸、土師質土器が出土したが、遺構深度が浅いことと、出土遺物の時期に開きがあり時間のまとまりが見られない事から、遺構に伴った遺物とは言い難い。

SD166の出土遺物には、陶器皿、土師質土器皿などがある。第25図1は陶器の皿である。底部は削り出しの蛇の目平高台となり、釉薬は底部内面に褐色系の灰釉を施し貫入が入る。また目跡も見られた。2は陶器の皿であり、高台は削り出し高台で底部内面には鉄釉がかかる。3は土師質土器の皿で、手づくねタイプのものである。底部は欠損し口縁部のみのもので、口縁端部には煤痕が見られる。15世紀後半～16世紀代の可能性が考えられる。

SD173の出土遺物には磁器の蓋と土師質土器の皿がある。4は肥前系の広東碗の蓋であり、18世紀後葉～19世紀前葉頃のものと考えられる。5は土師質土器の皿で非ロクロ成形のものであった。15世紀後半～16世紀代と考えられる。



第25図　SD166、173　遺物実測図（1:3）

SD264（第11、26図）

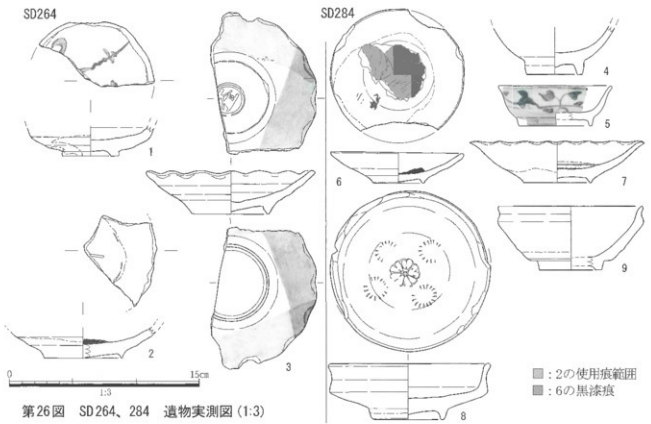
２区のE16～F16グリッドで検出した。遺構の軸方位は東西方向を向き、調査区域外へ広がる。新旧関係のあるSK265より時期が古い。全長は6.96ｍ、幅2.35ｍ、深さ0.28ｍをはかり、断面形はU字形となる。堆積土は３層で、各層の厚さは一定の堆積であったことから、人為堆積土の可能性が高い。

遺物は陶器の皿と越中瀬戸が出土した。第26図１は陶器の皿で、高台は削り出しで、やや灰色の長石釉が内底面と体部外面上方にかかる。内底面には鉄絵が見られる。２は越中瀬戸の皿であり、灰釉がかかる。見込みには釉止めの段はなく、釉は掛かからない。高台は削り出しで三角形となる。３は越中瀬戸のひだ皿で鉄釉と灰釉を掛け分ける。見込みには緩い段状の突起がまわり、中央部には刻印が見られる。高台は削り出しとなる。越中瀬戸の時期は宮田編年Ⅱ期以降と考えられる。

SD284（第11、26図）

２区のK９～K11、L19グリッドで検出した。遺構の軸方位は南北方向を向き、やや弧を描くように調査区内に立地する。溝の北端は攪乱によって消滅しているが、検出位置から調査区域外へ広がりがあったものと推測する。南端は、攪乱等によって状況は不明であるが、調査区域外へ向かわず調査区内で止まる。規模は全長12.05ｍ、幅1.54ｍ、深さ0.40ｍをはかる。断面形状は方形であり、底面は平坦である。堆積土は３層からなり、自然堆積土であった。

遺物は磁器が出土した（第26図４の碗と５の皿）。碗は形状から、17世紀中葉頃の初期伊万里である。５の皿は中国景徳鎮産で小野Ｂ１群（小野1982）15世紀後半～16世紀前半となる。越中瀬戸は皿、ひだ皿、向付である。６の皿は見込みに漆が付着し、釉止めの段がわずかに残る。灰釉は内面のみで高台は削り出しである。７のひだ皿は見込みに釉止めの段が見られ、鉄釉を施す。高台は削り出し。８の向付は灰釉を施し、見込みに印花文を配す。越中瀬戸の時期は宮田編年Ⅱ期頃と考えられる。陶器の９は天目茶碗で鉄釉を施す。高台は削り出し高台で、体部外面下半は露胎となる。



第26図　SD264、284　遺物実測図（1:3）

井戸

SE110（第27～30図）

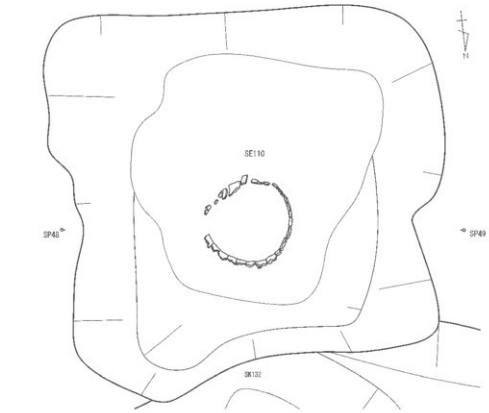
1区のC16グリッドに位置する。堀方は隅丸方形で、その中心部分には宇野分類のBⅡa類（宇野1982）にあたる縦板組無支持の井戸側がある。安全面から遺構底面までは確認できなかったため、水溜の有無は不明である。堀方は長軸4.15m、短軸3.69mで確認した深さは1.7mをはかる。

堀方の断面形状はまっすぐ緩やかに傾斜し、井戸側2段目底面付近で堀方の幅が井戸側よりやや大きくなる程度に狭くなる。堆積土は確認しできたもので3層からなり、西側から人為的に埋めていることが堆積状況から判明した。

堀方からの遺物の出土は陶磁器、土師質土器などがある。井戸側は3段目の存在までは確認したが、作業の安全上の問題から2段目の取り上げにとどめた。1段目は後世の攪乱により上端は激しく破損しているが、1、2段ともに出土時には自立し、側面などには腐食して欠損した籠の結束の痕跡や製材、加工時の工具痕などが明瞭に観察できた。井戸側板の加工痕は1段目と2段目では、その様相が異なる。1段目の表面は、どの板材も鋸線状痕が明確に見られ、その材の両端には、平坦な面を持つ1単位の加工長の長い加工痕が見られる。それが2段目に至るとその作りは一変する。表面には、1段目の時に見られた鋸線状痕は全く見られなくなる。その代わりに表面には、幾筋もの鑿による調整痕が見られるようになる。裏面については、その下方で1、2段ともに鑿による加工が施される。その刃の向きも1段目は横方向へ入るが、2段目は斜めに入れるなど共通した部分が見られないが、この違いについては、井戸の作り替えや、井戸を構築した時の使用材が、他の井戸からの転用材であったから、または井戸側の補修から来る時間差によるものなど、いくつかの仮説が考えられる。土層断面や平面からその痕跡を裏付けるものは見られないが、後述する出土遺物の幅が18世紀中葉前後と19世紀代の2つのまとまりが見られるなど、遺構の構造と類似する点があり注目される。

文字資料は側板の木口部分に3カ所見られた。すべて焼き印でありNo.38は○に『山』以外は○の中に入る文字は記号が不明瞭となる。1段目と2段目の接続方法は1段目が2段目の上に乗る形で結束されていた。

出土遺物の時期は幅が広く、18世紀中葉前後と19世紀代がある。遺物は陶磁器、越中瀬戸が井戸堀方から出土した。陶器は碗（第28図1、2）と餌猪口（5）がある。1は唐津の碗であり、鉄釉による刷毛目が見られ18世紀前葉～中葉頃のものである。2は京、信楽系で体部外面の文様には赤や緑などの色を使った彩色が加えられ、18世紀代と考えられる。5も京、信楽系である。灰釉を施し、薄つくりとなる。体部側面には把手が付く。磁器は、碗（6、7）、皿（8～9、11）段重（10）が出土した。碗は丸形のもので、全体的に厚手の『くらわんか手』となり、18世紀前葉頃のもので、7は端反碗であり、19世紀前葉～中葉頃となる。皿は8が体部外面に唐草文が入り、内面には斜線と白抜きの文字が見られる。18世紀後葉～19世紀前葉となる。9は輪花皿であり、漆継ぎのあとが残る。文様は底部内面に非常に緻密な手による草花文が見られる。18世紀後葉～19世紀前葉。11は内外面ともに青磁釉が掛かり、見込みは蛇の目釉はぎとなる。高台径が大きい。18世紀前葉か。10は色絵の段重であり、九谷様の文様が体部外面に入る。18世紀中葉～後葉頃と考えられる。磁器はすべて肥前系であった。越中瀬戸は向付の3と4の灯明受け皿が見られた。この灯明受け皿は油を皿の見込み部分へ流し込む、切り込みが見られない事から托として使用した可能性も考えられる。これら遺物については宮田編年Ⅲ期頃のものと考えられる。



1 N3/暗灰色粘土質シルト 径10～20cmの2.5GY7/1明オリーブ灰色粘土質シルトブロックわずかに含む。(SE110掘方埋土)

2 N5/灰色粘土質シルト 径10～20cmの2.5GY7/1明オリーブ灰色粘土質シルトブロック多く含む。
径40cmの2.5GY7/1明オリーブ灰色粘土質シルトブロックわずかに含む。(SE110掘方埋土)

3 N2/黒色粘土質シルト 径10～20cmの2.5GY7/1明オリーブ灰色粘土質シルトブロックわずかに含む。
径40cmの2.5GY7/1明オリーブ灰色粘土質シルトブロックわずかに含む。(SE110掘方埋土)

IVe N6/灰色シルト(地山)

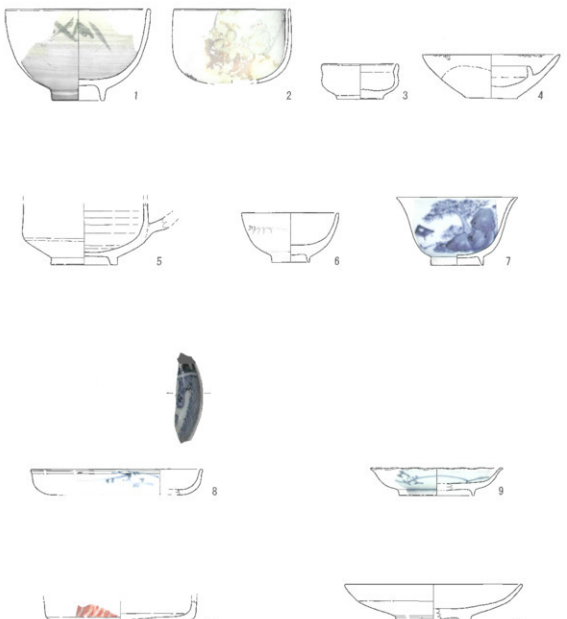
IVk N7/灰白色礫粒砂(地山)

□：地山部分

0　2m

1:40

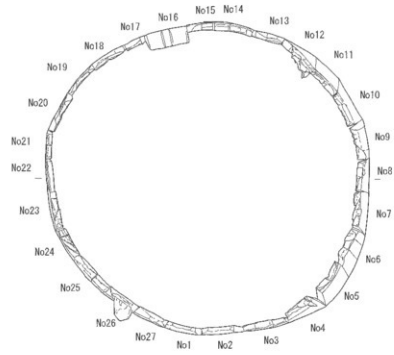
第27図　SE110　遺構平面図、断面図(1:40)

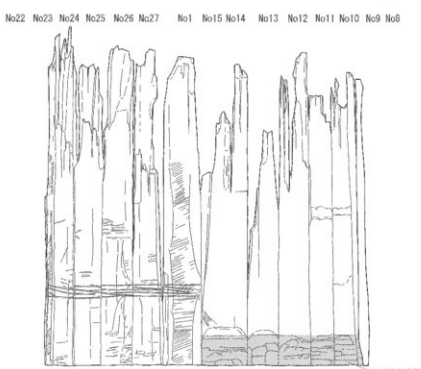


▨：煤(灯芯油煙の範囲)

0　15cm
1:3

第28図　SE110　遺物実測図(1:3)



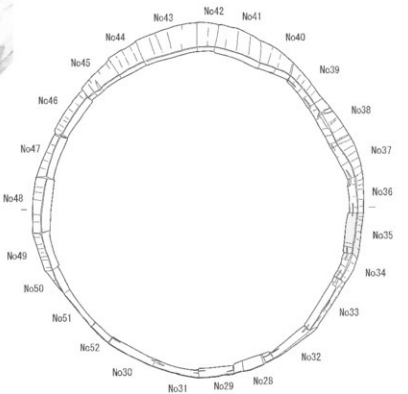


第29図　SE110　井戸側板1段目実測図(1:6)

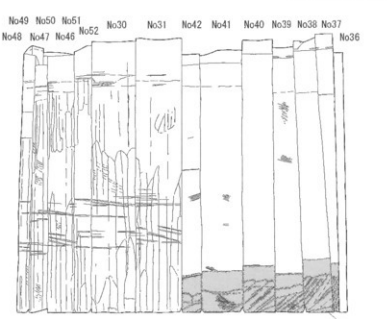
No.35 の木口で見られた刻印

No.38 の木口で見られた刻印

No.45 の木口で見られた刻印



文字資料が見られた側板



当たり痕跡

第30図　SE110　井戸側板２段目実測図 (1:6)

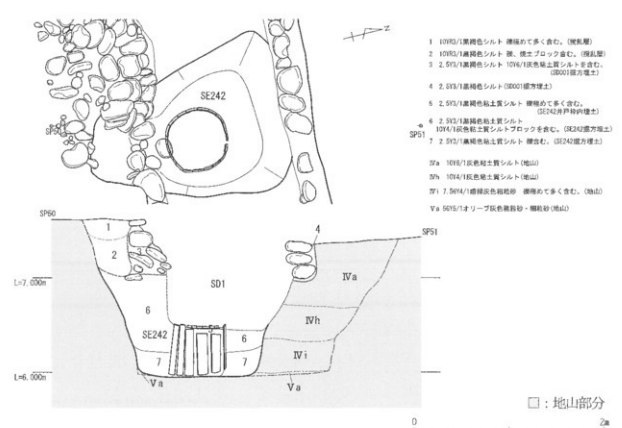
SE242（第31、32図）

1区のB18グリッドで検出した。新旧関係にあるSD1より古く、上部構造はSD1設置時に破壊され不明である。堀方は隅丸方形で、中心部分には、宇野分類のBⅡa類にあたる縦板組無支持の井戸側がある。底面には水溜などの施設は見られない。堀方の規模は長軸1.47m短軸1.43m、残存していた深さは1.14mであった。

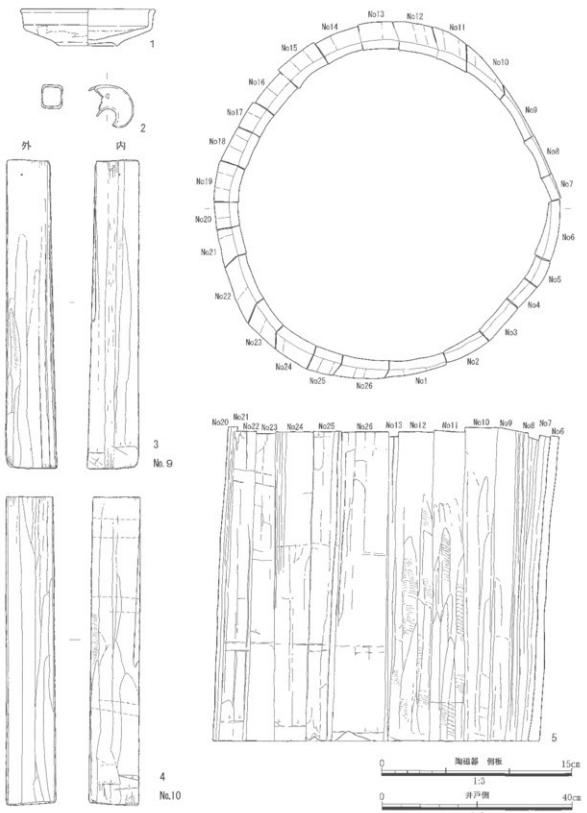
堀方の断面形状は逆ハの字形であり、堆積土は2層からなり、粘性の強い土で埋められている。井戸側は1段だけ出土した。樹種はスギで、側板の縦は腐触で残存しないが、その痕跡から最低3カ所で結束していたことを観察した。井戸側の表、または裏面は木理に合う形で縦方向に段が残り、さらに板材に対し横方向に、直線的な刃止まり痕が何カ所かにわたってある。このことから、打割による材の製材が考えられ、製材方法で他の井戸側との間に違いが見られる。またこの板材の表裏面には、丁寧な調整加工は行われておらず、特に裏面には鋳による細長い窪む断面形の痕跡が幾条にも見られた。

AMSウイグルマッチング法による年代測定をこの井戸側の材を使っておこない、16世紀～17世紀中葉頃の年代であった。

遺物は陶磁器、越中瀬戸、土師質土器と、木製遺物、金属製品などが出土した。陶磁器は細片が多く、実測に耐えうる遺物は少ないが、17世紀後半代の磁器皿などがある。しかし、この井戸を壊して設置しているSD1からの遺物の混入の可能性も考えられ、遺物から遺構の時期の特定は難しい状況にある。遺物は井戸堀方からの出土はなく、井戸内の上層からの出土であった。1は越中瀬戸の向付である。鉄釉を施し、見込み部分は釉はぎとなる。高台は削り出しである。宮田編年のⅡ～Ⅲ期頃と考えられる。2は金属製品で1点出土している。飾り金具的なものと考えられるが、用途不明である。



第31図　SE242　遺構平面図、断面図(1:40)



第32図　SE242　遺物・井戸側板実測図 (1:3・1:8)

SE248（第33～35図）

1区、調査区南側の壁際で検出した。井戸の上方は、後世の撹乱によって大きく削平を受けていたが、堀方の一部や井戸側は残存する。堀方は楕円形で、中心部分には、宇野分類のBⅡa類にあたる縦板組無支持の井戸側が残る。底面での水溜はなかった。堀方の規模は長軸1.27m短軸0.64m深さ1.45mをはかる。

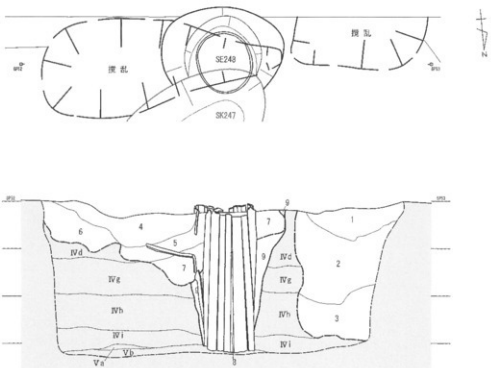
堀方の断面形状は漏斗状に下方が狭くなる形状で、堆積土は第9層のみとなる。遺物は井戸の上層より出土したものに陶磁器が多く見られるが、撹乱による混入の可能性が高い。

井戸側は一段で、材は全長1.5m前後である。腐食により箍の残存はしないが、痕跡から4カ所で結束していたことを確認した。

側板の表面には、製材時または井戸側作成時の加工痕が明確に見られる。鋸線状痕が材の縦方向に見られることから、材の製材には鋸を使用していると考えられる。さらに鋸線状痕の両端に平坦な面を作り出している切削痕があり、この切削痕は、鋸のものより後に付けられることから、製材後の井戸側を組み合わせて、曲面を作り出す工程の加工と考えられる。この痕跡は1単位の加工長は長く、平坦な切削が行われていることから、突き鑿や台鉋系の丸鉋による痕跡の可能性も考えられる。井戸側の最下端部分、いわゆる井戸の最低面となる部分には、内側へ屈曲する加工が施されている。井戸側の裏面は腐食によって、加工の痕跡は明確には見られない。

遺物は陶器、磁器、越中瀬戸や木製遺物の曲物や箸状木製品などが出土した。陶器は第34図3の鉢が出土した。内面と体部外面上方に鉄釉を施す。磁器は碗（5）、猪口（4）、皿（6）、瓶類（7）が出土した。碗は端反碗であり、幕末～近代頃のものである。それに比べて猪口や皿、瓶類は18世紀代の範疇に入る。4は18世紀前葉、6は18世紀後葉、7は18世紀中葉～後葉となり時期差があるため、端反碗は混入であろう。越中瀬戸は灯明受け皿の台無し（1）と匣鉢（2）が出土した。1は鉄釉にが施され、底部は回転糸切り未調整である。匣鉢は鉄釉が内外面に施され、見込み部分には釉はかからない。建水的な使用の可能性も考えられるが、不明である。越前焼の甕（第35図2）も出土している。非常に良く焼締まり無釉となる。口縁端部は平坦で頸部は直立する形となっている。17世紀代以降と考えられる。瓦は1点出土している（第35図3）。丸瓦で先端部と玉縁部分が欠損する。凸面には削り痕が見られ、釘穴も確認できる。凹部には布目痕とケビキ線が入る。近世瓦と考えられる。

木製遺物は曲物の蓋（第35図4、7）底板（6）樽の蓋（5）などが出土した。4や7の蓋には円盤状の板の両端に桜の皮でできた突起が見られ、7には把手が付いていたであろう場所に釘穴が確認できる。結桶の蓋には、円形の穴が見られ、側面には竹釘が確認できた。



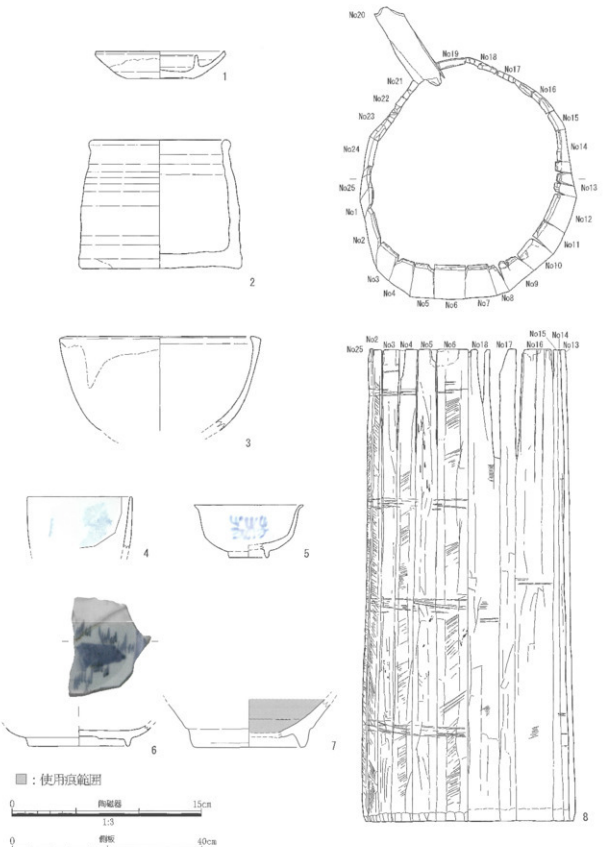
□：攪乱部分
□：地山部分

1　2.5Y3/1黒褐色シルト　礫含む。焼土ブロックわずかに含む。（攪乱層）
2　5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルト 2.5Y3/1黒褐色シルトブロックを含む。（攪乱層）
3　5GY5/1オリーブ灰色細粒砂 5Y3/1オリーブ黒色シルト、炭化物、焼土ブロック含む。（攪乱層）
4　10YR3/1黒褐色シルト 礫、炭粒物多く含む。（攪乱層）
5　2.5Y3/1黒褐色シルト 礫含む。（攪乱層）
6　5Y3/1オリーブ黒色シルト 礫含む。（攪乱層）
7　2.5Y3/1黒褐色シルト（攪乱層）
　5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルトブロックを含む。礫多く含む。
8　2.5Y3/1黒褐色シルト 礫含む。
　最下位に7.5GY4/1暗緑灰色細粒砂含む。（SE248井戸枠内埋土）
9　5GY4/1暗オリーブ灰色細粒砂（SE248裏方埋土）

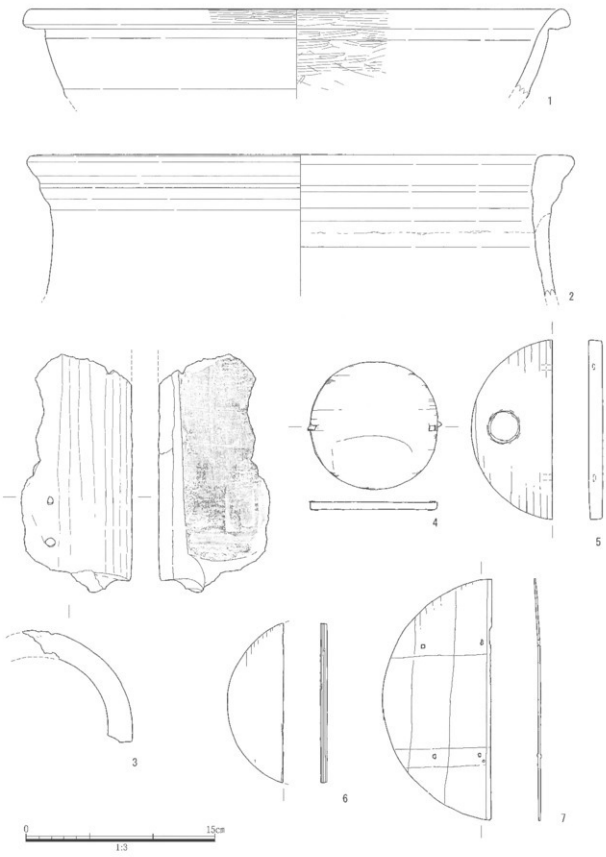
Ⅳd 7.5GY4/1暗緑灰色細粒砂（地山）
Ⅳg 5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルト（地山）
Ⅳh 10Y4/1灰色粘土質シルト（地山）
Ⅳi 7.5GY4/1暗緑灰色細粒砂 礫極めて多く含む。（地山）
Ⅴa 5GY5/1オリーブ灰色細粒砂・細粒砂（地山）
Ⅴb 2.5GY5/1オリーブ灰色礫砂（地山）

0　2m
1:40

第33図　SE248　遺構平面図、断面図（1:40）



第34図　SE248　遺物・井戸側板実測図(1:3・1:8)



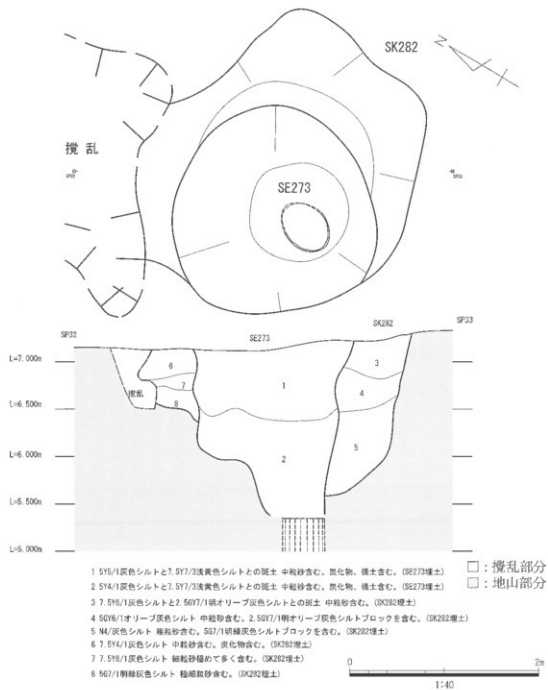
第35図　SE248　遺物実測図(1:3)

SE273（第36図）

２区のK10、L10グリッドに位置する。堀方の平面形は楕円形で、新旧関係にあるSK282より新しい。堀方の規模は長軸2.17m、短軸2.09m、確認した深さは1.99mである。井戸側は１段分の確認はできたが、作業の安全面から側板の取り上げにとどめ、２段目以降や底面の確認には至っていない。

堀方の断面形状は壁南東側の壁がほぼ垂直に底面に至るが、北西側は直線的に底面へ向かい中位でテラス状な平坦面を設け、緩やかな傾斜で底面へ向う。堆積土は２層からなる人為堆積であり、井戸廃絶時に埋め戻されたものと考えられる。

遺物の出土はなかった。



第36図　SE273・SK282　遺構平面図、断面図（1:40）

SE281（第37、39、40図）

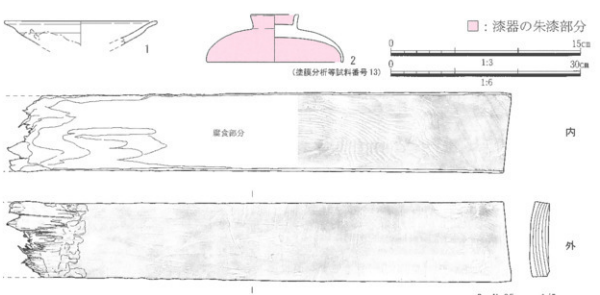
２区のL12グリッドに位置する。調査区東際で検出し、遺構の一部は調査区域外へ広がる。堀方は楕円形で、中心部分には宇野分類のBⅡa類にあたる縦板組無支持の井戸側を確認した。安全面から底面までは確認できなかったため、水溜の有無は不明である。堀方は長軸2.19ｍ、短軸1.03ｍで確認した深さは1.82ｍとなる。井戸側は３段以上からなり、側板の取り上げは安全上２段までについて行った。

堀方の断面形状は直立し堆積土は５層からなる。井戸設置時の埋土で焼土が入る層（第２層）や礫が入る層（第３層）以外には地山由来のブロック土が混入する。

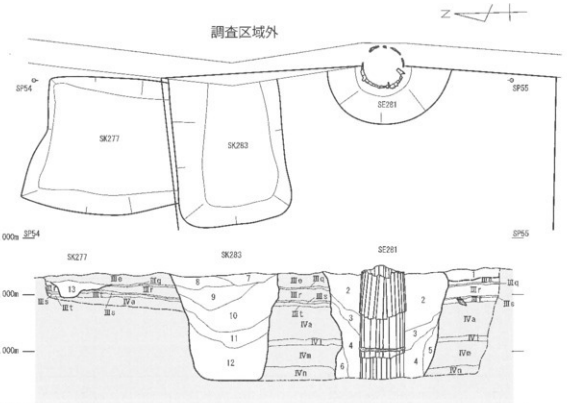
出土した２段分の井戸側のすべての表面には、鋸線状痕が板材の縦方向に見られ、製材段階で鋸を縦挽きに使用した事が伺える。この鋸線状痕の両端には平坦で刃運びの１単位が短いものが多く見られ、突き鑿や鉋による加工痕のものと考えられる。また一部の側板材では、小型の平刃の釿か鑿、鉈によると考えられる加工の痕（No.25）も見られた。裏面は腐食が激しく明瞭に加工痕が観察できるものはなく不明であるが、材同志が重なる下端部分には、鑿で斜めに削っている事が観察できた。

側板の正直部分や木口部分からは、墨書や焼印による文字資料を確認した。墨書は『一』（No.34、48）『二』（No.35、47）『〇』（No.40）『×か入』（No.48）や不明（No.43）など数字や文字、記号などであった。焼印は側板４枚の木口部分で確認した。すべてに共通することは、大きな〇が描かれ、その中に『十一』（No.11）や『二八？』（No.38）など、数字的な意味合いのものが出土した。それ以外のものは不明であった（No.14.24）。

遺物は越中瀬戸と漆器が堀方の堆積土より出土した。越中瀬戸は皿の口縁部付近の破片である（第37図１）。内面の全面と体部外面上方は鉄釉が施される。木製遺物には、漆器椀蓋が１点出土している。内外面ともに朱漆による作りである。塗膜分析による結果では、通常下地に塗られる炭粉渋下地とは違い、仕上がりが堅牢になる「土」の使用が認められ、手間の掛かる工程を踏んでいると言える。使用している樹種もケヤキであり、ブナ属を使用していない。漆器の中でも優品である。



第37図　SE281　遺物実測図（1:3・1:6）



1 2.5Y4/1黄灰色シルト 炭化物、焼土ブロックわずかに含む。

2 2.5Y3/1黒褐色シルト 5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルトブロック、焼土ブロックを含む。礫多く含む。(SE281掘方埋土)

3 2.5Y3/1黒褐色シルト 5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルトブロックを極めて多く含む。礫含む。(SE281掘方埋土)

4 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト 5GY6/1オリーブ灰色粘土質シルトブロックを含む。(SE281掘方埋土)

5 10Y6/1灰色粘土質シルト 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト、7.5GY6/1緑灰色粘土質シルトをわずかに含む。(SE281掘方埋土)

6 10Y6/1灰色粘土質シルト 7.5GY4/1灰色シルトを含む。(SE281掘方埋土)

7 2.5Y3/1黒褐色シルト 5Y4/1灰色細粒砂含む。(SK283埋土)

8 10Y3/1オリーブ黒色シルト 礫、炭化物、焼土ブロックを含む。(SK283埋土)

9 2.5Y3/1黒褐色シルト 礫、腐植物多く含む。(SK283埋土)

10 2.5Y3/1黒褐色シルト 礫、腐植物含む。(SK283埋土)

11 2.5Y3/1黒褐色シルト 礫、腐植物わずかに含む。(SK283埋土)

12 2.5Y3/1黒褐色シルト 腐植物、木片を多く含む。(SK283埋土)

13 5Y4/1灰色シルト 10Y6/2オリーブ灰色粘土質シルトブロック、炭化物、焼土ブロックを含む。(SK277埋土)

Ⅲe 5Y4/1灰色シルト 細粒砂含む。(整地土?)

Ⅲc N1.5/黒色粘土質シルト 炭化物含む。(整地土?)

Ⅲr 5Y2/1黒色粘土質シルト 5Y3/1オリーブ黒色粘土質シルトを含む。(整地土?)

Ⅲs 7.5GY6/1緑灰色粘土質シルト 5Y2/1黒色粘土質シルトを含む。(整地土?)

Ⅲt 5Y2/1黒色粘土質シルト(整地土?)

Ⅳa 10YE/1灰色粘土質シルト 7.5GY6/1緑灰色粘土質シルトを層状に含む。(地山)

Ⅳ1 7.5GY6/1緑灰色粘土質シルト(地山)

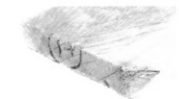
Ⅳe 10Y5/1灰色粘土質シルト 10Y6/1灰色粘土質シルト、7.5GY6/1緑灰色粘土質シルトを層状に含む。(地山)

Ⅳn 7.5Y4/1灰色シルト 10Y5/1灰色粘土質シルトを層状に含む。細粒砂含む。(地山)

□:地山部分

0 4m
1:80

第38図 SE281・SK277・283 遺構平面図、断面図(1:80)

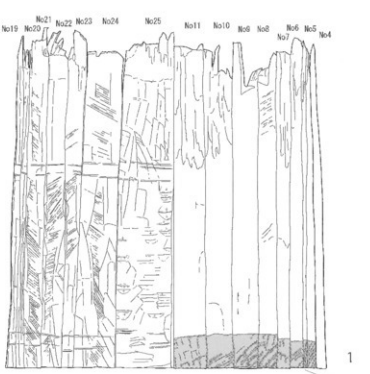


No.11 の木口に見られる刻印

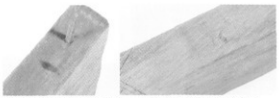
No.14 の木口に見られる刻印

No.24 の木口に見られた刻印

文字資料が見られた側板



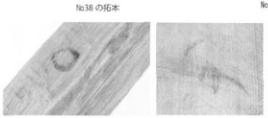
第39図　SE281　井戸側板1段目実測図(1:6)



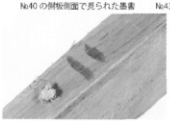
No34の側板側面で見られた墨書　No35の側板側面で見られた墨書

No38の下方木口で見られた刻印

No38の拓本

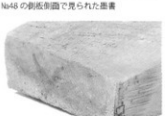


No40の側板側面で見られた墨書　No43の表面で見られた墨書

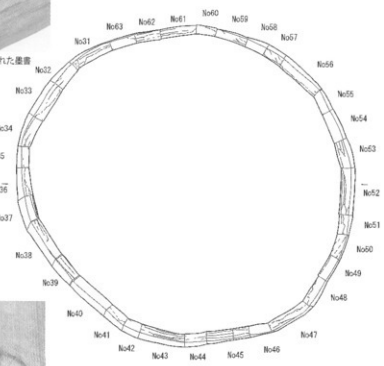


No47の側板側面で見られた墨書

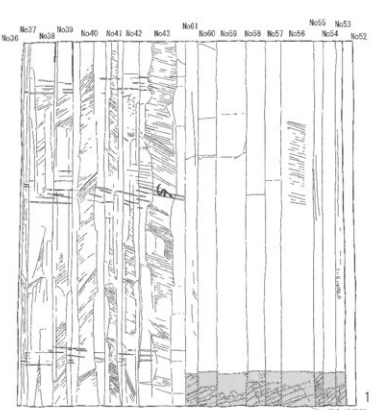
No48の側板側面で見られた墨書



No48の側板下方木口で見られた墨書



文字資料が見られた側板



第40図　SE281　井戸側板2段目実測図(1:6)

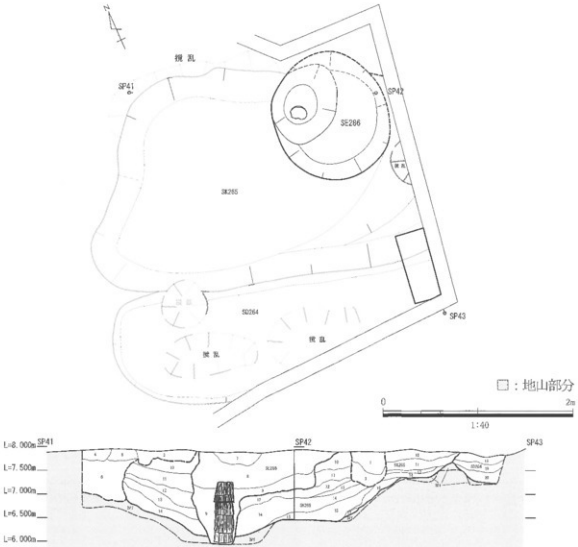
SE286（第41、42図）

1区のF15グリッドに位置する。調査区東側で検出し新旧関係にあるSE286より新しい。堀方は隅丸方形で、中心部分には宇野分類のBⅡa類にあたる縦板組無支持の井戸側が残る。今回検出した井戸側のなかで、一番規模が小さい。井戸側は4段分出土し、水溜はなかった。堀方の規模は長軸2.62m、短軸2.45mで確認した深さは1.93mをはかる。

堀方の断面形状は箱形で、東壁にテラス状の平坦面を作り、西壁際は井戸側分が、さらに深くなる。堀方の堆積土は3層からなり、第1層は、窪んだ部分に溜まった土であり、主な堆積土は第8層、第9層となる。

井戸側は4段ともに表面には、主に鏨や突き鑿による加工痕が残り、工具による表面調整が行われていたことが何える。裏面は板材の上方、下方の両端がやや凹む形となり、その部分は突き鑿により造り出されたことが、加工痕から読み取れる。それ以外の部分については、鏨や鑓と考えられる工具で全面でなく部分的な調整が行われており、調整が施されていない部分については、材の木理が段を成したままの、地肌がそのまま出ている形となっていた。

遺物は堀方から陶器が出土した。第42図1は陶器の碗である。内外面ともに鉄釉を施し体部外面下半は露胎となる。高台は削り出し高台で、斜めに切れ込みが入る。在地系と考えられる。



1 2.5Y4/1黄灰色シルト 礫、炭化物、焼土ブロック、木片含む。(撹乱層)
2 5Y3/1オリーブ黒色シルト 礫、炭化物、焼土ブロックわずかに含む。(撹乱層)
3 2.5Y4/1黄灰色シルト 焼瓦、礫、炭化物、焼土ブロック多く含む。(撹乱層)
4 10YR5/4にぶい黄褐色シルト 砂礫、炭化物含む。(撹乱層)
5 2.5Y4/1黄灰色シルト 礫、炭化物含む。(撹乱層)
6 2.5Y5/1黄灰色シルト 5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルトブロック、10YR3/1黒褐色シルトブロック多く含む。(撹乱層)
NY 7.5GY5/1緑灰色粘土質シルト(地山)

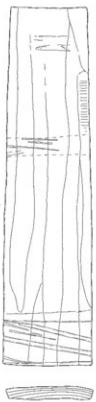
SE286
7 2.5Y3/1黒褐色シルト 7.5GY5/1緑灰色粘土質シルトブロック、礫、炭化物わずかに含む。(SE286埋土)
8 5Y4/1灰色シルト 7.5GY5/1緑灰色粘土質シルトブロック、礫含む。(SE286埋土)
9 5Y4/1灰色粘土質シルト 7.5GY5/1緑灰色粘土質シルトブロック多く含む。(SE286裏方埋土)

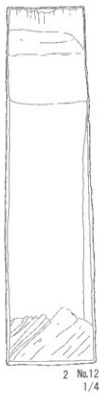
SK265
10 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト 5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルトブロック、炭化物わずかに含む。(SK265埋土)
11 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト 5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルトブロックを含む。(SK265埋土)
12 7.5GY5/1緑灰色粘土質シルト 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロックを含む。(SK265埋土)
13 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト 7.5GY5/1緑灰色粘土質シルトブロックを多く含む。(SK265埋土)
14 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト 7.5GY5/1緑灰色粘土質シルトブロック、細粒砂含む。(SK265埋土)
15 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト 7.5GY5/1緑灰色粘土質シルトブロックわずかに含む。(SK265埋土)
16 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト 7.5GY5/1緑灰色粘土質シルトブロックを含む。礫わずかに含む。(SK265埋土)
17 5Y3/1オリーブ黒色粘土質シルト(SK265埋土)

SD264
18 2.5Y3/1黒褐色シルト 礫わずかに含む。(SD264埋土)
19 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト 礫、炭化物わずかに含む。(SD264埋土)
20 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト 5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルトブロック、炭化物含む。(SD264埋土)

第41図　SE286　遺構平面図、断面図(1:40)

1

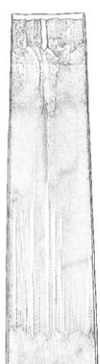




2 No.12
1/4

2段目 1/6
5

3段目 1/6
6



3 3段目 No.33
1/4

4 4段目 No.50
1/4

4段目 1/6
7

井戸側板立面図

0 30cm
1:6

第42図　SE286　遺物・井戸側板実測図(1:3・1:4・1:6)

土坑

SK２（第43～46図）

１区のA18、A19グリッドに位置する。SD１の南側、町屋敷の範囲から検出した。調査区の西側際で確認し平面形は楕円形である。新旧関係にあるSK３より時期は新しく、規模は長軸が2.01m、短軸1.51m、深さ1.07mをはかる。

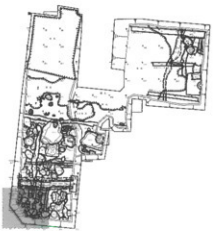
遺物は陶磁器、土師質土器、木製遺物、貝類などが出土し、金彩のかんざしや茶せんなど特異な遺物もあった。遺物の出土状況から、ゴミ穴として使用されたと考えられる。

陶器は碗（第44図１～３、６～11）、鉢、擂鉢（第45図26、27、28）が出土した。碗は丸形や腰折形が多く見られ、京、信楽系（９、10、11）が見られる一方、在地系（１、２）も定量存在する。文様には11のように鉄絵を入れるものや、１や８のように色絵となるものも見られ、７の体部外面には梅文を配す。時期は18世紀前葉～中葉頃や18世紀後葉頃で、18世紀代の範疇にほぼ入る。磁器は碗（第44図４、５、12～16）、猪口（17）鉢（18）、皿（19、20）が出土した。磁器碗も陶器同様丸形が多く、18世紀前葉～中葉頃のものが多い。１点、小野Ｂ２群16世紀後半の中国景徳鎮産の青花の鉢（第44図18）が出土した。越中瀬戸は皿（第44図21）向付（22）匣鉢（23）、灯明受け皿台無し（第45図24）広口壺（29）が出土し、総じて宮田編年Ⅱ～Ⅲ期頃のものと考えられ、陶磁器の時期と符号する。土師質土器は皿が出土した。煤が口縁部に付着し内面には、沈線がまわる（第45図25）。木製遺物には漆器椀蓋（第45図30、31）と椀（32、33）曲物の蓋（34）や下駄（35）がある。漆器は蓋で黒漆のもの（30）と朱漆のもの（31）があり、椀は体部外面が黒漆で内面が朱漆のもの（32、33）が２点出土した。このうち朱漆の蓋について樹種同定と塗膜分析を行った。結果、樹種はケヤキで、下地には「土」が使われ、その上から漆を塗ったことが分かった。下駄は差歯下駄の台部分で、右足用である。金属製品はキセルの吸い口（第46図１）、火箸（２）金彩のかんざし（３）が出土した。

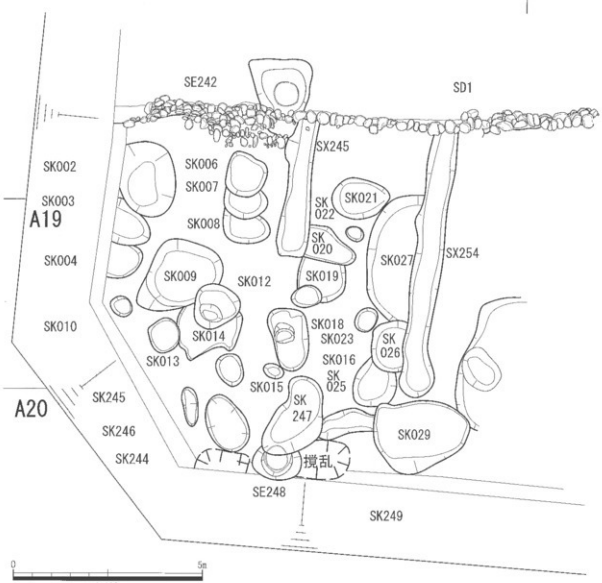
SK３（第43、46図）

１区のA19グリッドに位置する。SD１の南側、町屋の範囲から検出した。調査区の西側際で確認し、平面形は楕円形である。新旧関係にあるSK２より時期は古く、規模は長軸が1.02m、短軸0.96m、深さ0.98mをはかる。

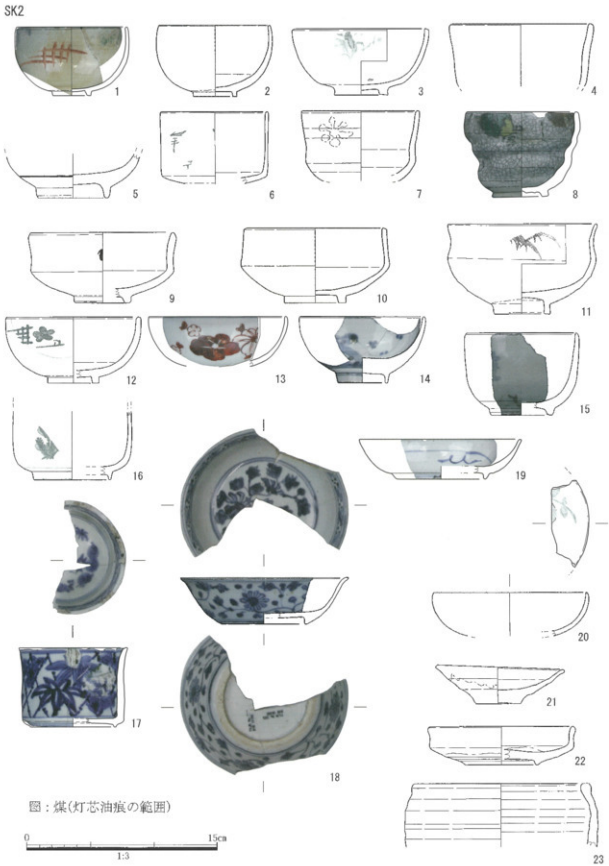
遺物は陶磁器、土師質土器、木製遺物などの様々な遺物が出土し、SK２同様ゴミ穴として使用されたと考えられる。陶磁器は碗、皿、鉢が出土した。碗は陶器の腰折形（第46図４、５）と磁器の腰張形（９）小広東碗（10）がある。４は鉄絵の竹を配し黄釉を施す。９、10は肥前系の磁器である。11の磁器の皿も含めて、時期は４、５が17世紀後半～18世紀代であり、９の17世紀中葉頃や11の18世紀前葉と比較的時期の近いものがある一方、10のように18世紀後葉頃に位置するものもある。越中瀬戸は皿（８、12、13）瓶（15）、壺鉢類（７、14、16、17）がある。皿の12は灰釉を施し、内面は見込み部分が無釉となる。明確な釉止めの段はなく、見込みに使用痕を確認した。高台は削り出しであり、断面三角形となる。８と13は無釉であり、土師質土器と分類する可能性もあるが、形状から越中瀬戸と分類した。底部は回転糸切り未調整であり、使用痕は見込みに確認でき（８、13）煤が付着するもの（13）もあった。鉢は内外面ともに灰釉となり体部外面下方は露胎となる。高台は削り出しである。15～17は鉄釉を施し、底部は回転糸切り未調整となる。宮田編年Ⅱ～Ⅲ期頃となる。木製遺物は連歯下駄の右足用（19）が出土した。



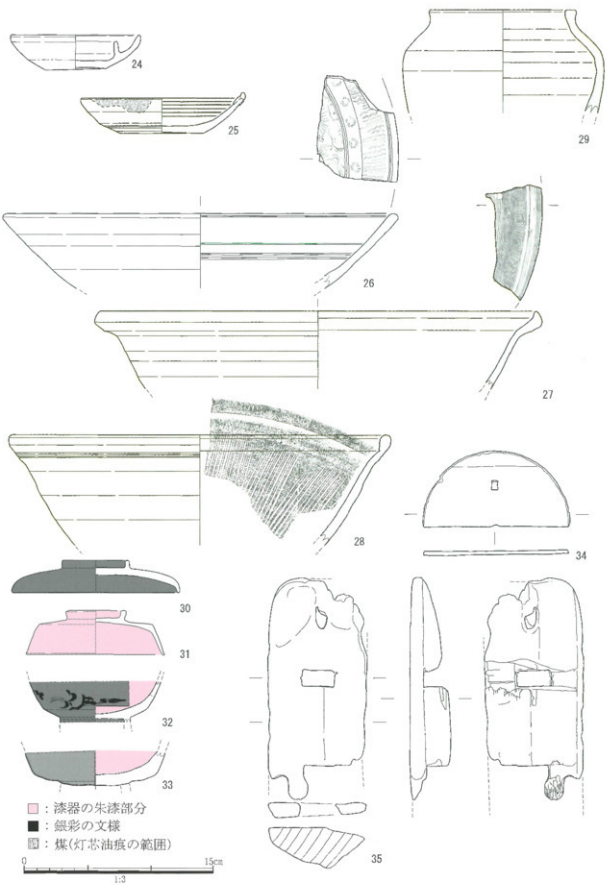
富山城下町遺跡主要部（TYJM）



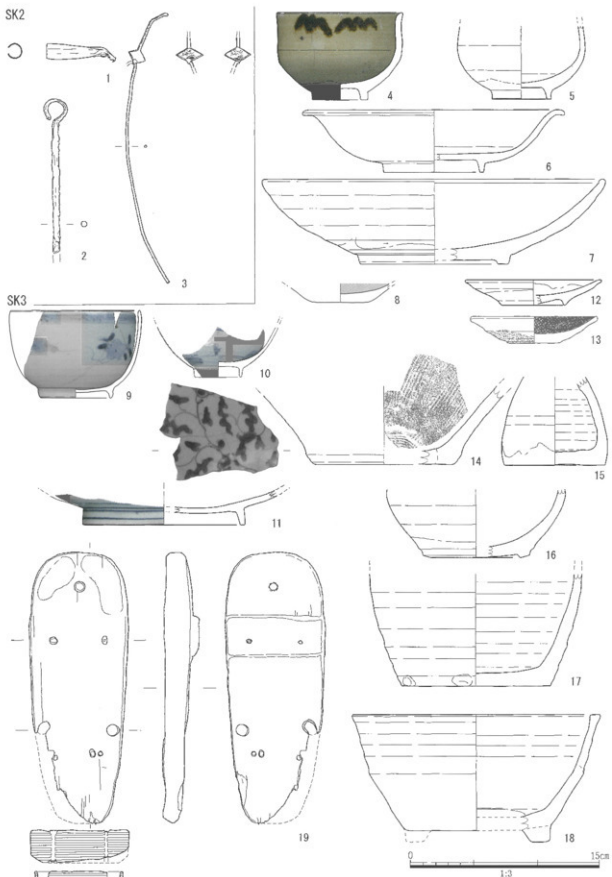
第43図　富山城下町遺跡主要部1区南側町屋部分　遺構平面図（1:100）



第44図　SK2　遺物実測図その1 (1:3)



第45図　SK2　遺物実測図その2 (1:3)



第46図　SK2、3　遺物実測図(1:3)

SK4（第43、47図）

1区のA19グリッドに位置する。SD1の南側、町屋敷の範囲から検出した。調査区の西側際で確認し、平面形は楕円形である。新旧関係にあるSK3より時期は古く、規模は長軸が0.79m、短軸0.92m、深さ0.37mをはかる。

遺物は陶磁器、越中瀬戸、土師質土器、金属製品などが出土した。SK2、3と同様の出土状況であり、ゴミ穴と考えられる。陶器は鉢類が出土した（第47図3）。内面は鉄釉が掛かり、体部外面には灰釉を施す。高台は蛇の目平高台となる。磁器は碗、皿、壺類が出土した（第47図4、6、7）。碗は腰張形であり、17世紀後半～18世紀代である。皿は口縁端部が外方へ屈曲する形で17世紀後半頃と考えられる。7は髪油壺の口縁部片である。越中瀬戸は瓶類（1）と擂鉢（2）が出土した。ともに鉄釉が掛かる。土師質土器は皿がある（5）。底部は回転糸切り未調整であり、内湾気味に口縁端部に至る。金属製品は手鏡と思われる柄の部分が出土した。

SK9（第43、47、48図）

1区のA19グリッドに位置する。SD1の南側、町屋敷の範囲から検出した。調査区の西側隅で確認し、平面形は楕円形である。新旧関係にあるSK12より時期は古く、SK14より新しい。規模は長軸が2.48m、短軸1.79m、深さ0.88mをはかる。

遺物は陶磁器、土師質土器、木製遺物、石製品などが出土した。木製遺物は、漆器の酒盃や曲物、指物の部材など多種である。出土状況からゴミ穴の可能性がある。

陶器は在地系の杉形の碗（第47図9）や土瓶蓋（10）、17世紀後半～18世紀前半頃の肥前系陶器の鉢（21）が出土した。鉢は下地に鉄釉で文様を描き、口縁部に色の濃い鉄釉を施す。また志野の角皿も見られ（19）全面長石釉が掛かり、胎土は粗い。底部には方形の足が付く。磁器は碗（11、14）、皿、（15、18、20）薄手酒杯（12）、がある。碗は11が17世紀後半頃で14が18世紀後葉と時期幅がある。皿は20が芙蓉手の皿で17世紀後葉のほかは、18世紀前葉頃の時期となる。越中瀬戸は皿（16）、向付（17）、擂鉢（22）が出土した。皿は無高台で鉄釉が内底面まで掛かる。底部は回転糸切り未調整である。向付の高台は削り出しで角高台となる。体部内外面には鉄釉が掛かるが、見込みは無釉となる。時期は宮田編年Ⅱ～Ⅲ期頃と考えられる。土師質土器は、皿が出土している（13）。底部は回転糸切り未調整で、底部には粘土紐の接合痕が残る。口縁端部には煤痕が残り、灯明皿として使用したと考えられる。木製遺物は漆器の酒盃（23）と結桶の底板、樽の蓋と考えられる遺物（第48図1、2）、桶か樽の側板を鋸で斜めに切断した材（3）が出土した。酒盃は朱漆で塗られ、濃い朱と金彩蒔絵の文様を配する。樹種はケヤキで塗膜分析では下地処理は「土」である。朱漆は水銀朱である。結桶の底板、樽の蓋や側板材は黒漆が塗られている。

SK10（第43、49図）

1区のA19グリッドに位置する。SD1の南側、町屋敷の範囲から検出した。調査区の西側隅で確認し、平面形は円形である。規模は長軸が0.59m、短軸0.51m、深さ0.18mをはかる。

遺物は越中瀬戸などの在地系と京焼系の陶器が出土した。1は越中瀬戸の無高台の皿であり、鉄釉が内底面まで掛かる。見込みには重ね焼き痕が見られる。陶器の2は在地系の鉢で、3は京焼系の碗である。高台は端部が丸味を持ち鋭さを欠き、高台内には『錦光山』の印が見える。

第47図　SK4、9　遺物実測図(1:3)

SK12（第43、49図）

1区のB19グリッドに位置する。SD1の南側、町屋敷の範囲から検出した。平面形は楕円形である。新旧関係はSK9とSK14より時期は新しく、規模は長軸1.21m、短軸1.20m、深さ0.28mをはかる。

遺物は陶磁器や土師質土器、土人形（箱庭道具）などが出土し、この周辺の遺構の様相と遺物の出土状況から、ゴミ穴の可能性がある。陶器は皿（13）、擂鉢（15）が出土した。皿は底部から体部にかけてロクロヘラケズリが施され、口縁部はロクロナデとなる。体部内面には櫛などによる4条の沈線がめぐる。口縁部に煤が見られる事から、灯明皿として使用したと考えられる。擂鉢の15は色味の濃い鉄釉を施し、産地は唐津系と考えられる。磁器はすべて肥前系であり碗（第49図5）と薄手湯呑（6）が出土した。碗は平形で、高台は断面三角形になる。18世紀後葉頃と考えられる。皿は大皿で、体部内面には草花文、外面には唐草文が描かれる。18世紀前葉頃のものである。越中瀬戸は皿（7、8、10、11）匣鉢（9）広口壺（12）がある。7は鉄釉が施され見込みまでは掛からない。釉止めの段はなく高台は削り出しで、端部は平坦となる。8、9、10、11は無高台の皿であり、内部全面に鉄釉を施し、外面は露胎となる。底部は回転糸切り未調整となる。9や12も鉄釉である。皿から時期は宮田編年Ⅲ期頃と考えられる。

SK13（第43、49図）

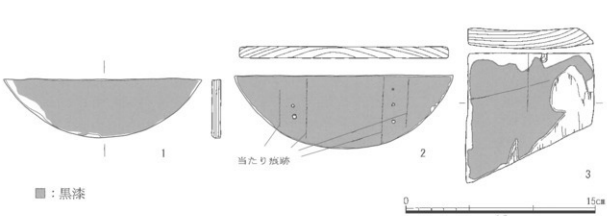
1区のA19グリッドに位置する。SD1の南側、町屋敷の範囲から検出した。平面形は楕円形である。遺構間の前後関係はSK14より時期は新しいものであった。規模は長軸が0.93m、短軸0.85m、深さ0.20mをはかる。

遺物は陶器や土師質土器の細片、越中瀬戸などが出土した。越中瀬戸は壺類（16）がある。内外面ともに鉄釉を施す。

SK14（第43、49図）

1区のA19、B19グリッドに位置する。SD1の南側、町屋敷の範囲から検出した。平面形は隅丸方形である。新旧関係にあるSK9、SK12、SK13より時期は古く、規模は長軸が1.88m、短軸0.93m、深さ0.29mをはかる。

遺物は陶磁器が出土した。17は京、信楽系の碗である。内外面ともにや黄釉となり、見込みを中心に内面には竹の絵柄が入る。高台は丁寧な削り出しで、釉は掛からない。18は磁器の折縁の皿である。高台内には呉須で『大明』の文字が見られ体部外面には渦巻文を配す。17世紀後半以降と考えられる。



第48図　SK9　遺物実測図（1:3）

SK19（第43、50図）

1区のB19グリッドに位置する。SD1の南側、町屋敷の範囲から検出した。平面形は隅丸方形である。新旧関係にあるSK18とSK20より時期は古く、規模は長軸が1.27m、短軸は1.07m、深さが0.14mをはかる。

遺物は陶磁器、越中瀬戸、土師質土器などが出土しているが、遺構深度が浅かったことから近現代の遺物も混入し、遺構に伴った遺物は極めて少ない。陶器は肥前系と在地系の碗（第50図1～4）、皿（5）、建水（15）、徳利（7）が出土している。1は内外面全面施釉による刷毛目で、肥前系のものである。2、4は在地系で、長石釉が掛かり高台は竹の節高台となる。3は鉄釉が掛かり高台は削り出しとなる。5の皿は内面灰釉を施し、見込みには目跡が残りハケ状の沈線が体部内面部分に入る。体部外面は無釉で丁寧なロクロヘラケズリとなり、底部は削り込まれ、やや窪む。口縁部周辺には煤痕が見られ、灯明皿として使用されたものである。信楽系か。磁器は、皿（9）、輪花皿（10）、仏飯器（11）、水滴（12）などが出土した。9は内面口縁部に雷文がめぐり、体部外面は草花文を配する。10は内面にさほど簡略化されていないたこ唐草文を配し、外面には唐草文が見られる。9は18世紀前葉～中葉頃、10は18世紀前葉頃と考えられる。12の水滴は表面に熊を彫り込み、部分的に呉須を塗る。越中瀬戸は皿（6、8）、匣鉢（13、14）擂鉢（16、17）が出土した。皿は口縁部片で全体像を掴めるまでには至っていない。6は鉄釉、8は錆釉が掛かる。匣鉢や擂鉢は鉄釉が施され、底部は回転糸切り未調整となる。越前の甕口縁部（18）や瓦器の火鉢の底部（19）も出土した。

SK21（第43、51図）

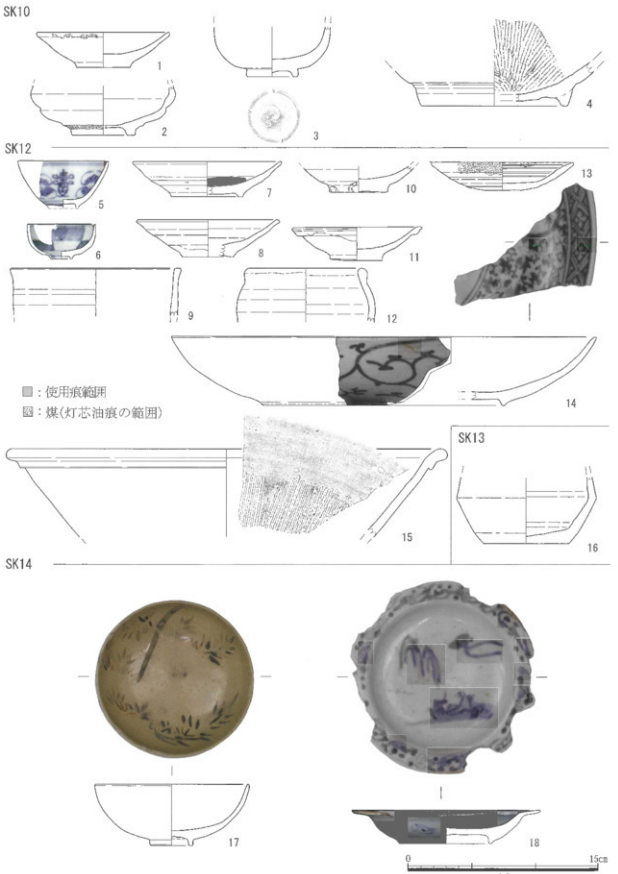
1区のB18、B19グリッドに位置する。SD1の南側、町屋敷の範囲から検出した。平面形は楕円形である。新旧関係にあるSK27より時期は古く、規模は長軸が1.5m、短軸1.09m、深さ0.72mをはかる。

遺物は陶磁器細片、土師質土器が出土した。陶器は碗（第51図1）がある。体部外面には鉄絵で『也』の文字が書かれる。内外面ともに白泥に透明釉が掛かる。腰から下は露胎となる。土師質土器は皿（2、3）であり、ともに底部は回転糸切り未調整となる。口縁端部には煤が見られ、灯明皿として使用されたと考えられる。3については越中瀬戸に器形が類似する事から、釉薬の掛かっていない素地段階のものの可能性もある。

SK23（第43、51図）

1区のB19グリッドに位置する。SD1の南側、町屋敷の範囲から検出した。平面形は楕円形である。遺構間の前後関係はなく、規模は長軸が0.65m、短軸0.53m、深さ0.28mをはかる。

遺物は陶磁器、瓦質土器などが出土した。陶器は碗（第51図4、5）であり、天目形となる。4は肥前系で灰釉が施される。5は瀬戸美濃系で錆釉が内外面に掛かり、体部外面下半は露胎となる。磁器は肥前系で碗（6）酒杯（7）箸置き（9）が出土した。6は筒形で見込みには五弁花文を配し、体部外面には丸に草花文などを描く。18世紀前葉頃と考えられる。酒杯は厚手で染付けはコバルト発色となる。19世紀以降と考えられる。箸置きは生花を白紙で包む形を表現したものであり、片側は欠損する。



第49図　SK10、12、13、14　遺物実測図(1:3)

SK27（第43、51図）

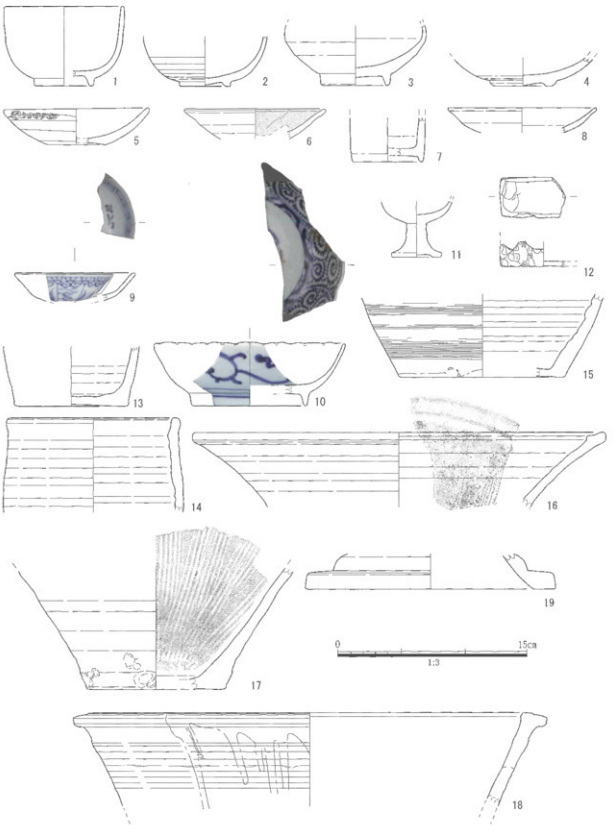
1区のB18、C19グリッドに位置する。SD1の南側、町屋敷の範囲から検出した。平面形は隅丸方形である。新旧関係にあるSK26、SX254より時期は古く、規模は長軸が3.31m、短軸1.27m、深さ0.71mをはかる。

遺物は陶磁器、土師質土器、木製遺物、石製品など多種が出土した。出土状況からゴミ穴の可能性がある。陶器は折縁皿（第51図9）がある。内外面ともに灰釉を施す。磁器は碗（11、12）がある。11は網目文で17世紀代のものと考えられる。12は草花文で17世紀～18世紀代となる。越中瀬戸は、皿（10）と擂鉢が出土した（17、18）。皿の見込みは釉はぎとなり、釉止めの段はない。釉薬は鉄釉で、体部外面下半は露胎となり、高台は削り出し高台となる。擂鉢は鉄釉を施し、胎土は非常に粗い。口辺部は折り返すタイプ（18）とつまみ出す様なタイプの2種類がある。時期は、皿から宮田編年Ⅱ期頃と考えられる。土師質土器は皿である（13～16）。形状などから3種類があり、13のように底部は明瞭な回転糸切り未調整となり、口縁端部はやや肥大する小皿のものと、14、15のように底部からロクロヘラケズリを体部中位まで施す中皿タイプ、そしてその大皿タイプと言える16がある。これらの時期は、13が4点の中で比較的新しい様相を呈するが、残り3点については越前編年（越前　1996）のRF類と考えられ、17世紀代を下限とする時期が考えられる。

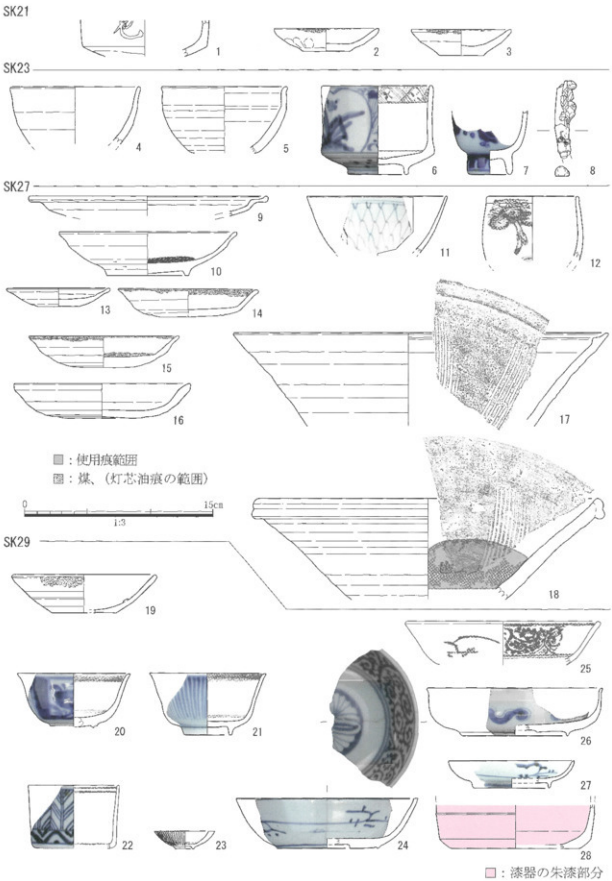
SK29（第43、51図）

1区のB20～C20グリッドに位置する。SD1の南側、町屋敷の範囲から検出した。平面形は隅丸方形である。新旧関係にあるSK45とSK249より時期は新しく、規模は長軸が2.56m、短軸1.87m、深さ0.65mをはかる。

遺物は陶磁器、木製遺物が出土した。陶器は皿（19）、があり、皿は灰釉を施し、内面には櫛状工具による3条ほどの沈線と目跡がある。体部外面は丁寧なロクロヘラケズリで成形し、口縁部外面には煤痕がある。このことから灯明皿として使用されたと考える。信楽系か。磁器は碗（20、21）、猪口（22）、皿（24～27）、紅猪口（23）が出土した。磁器の碗などの一部に瀬戸美濃系（20）や19世紀代の遺物（20、21）があるが、皿では、18世紀前葉～中葉頃のものが多く、一部後葉のもの（27）もあった。その事から遺物の時期は総じて18世紀中葉頃の一群と捉えられる。木製遺物は漆器椀（28）が1点出土した。体部片で口縁部と高台部は欠損していて不明であるが、形状は後述するSK50出土の第59図-41に類似する形と考える。内外面ともに朱漆を塗る。塗膜分析と樹種同定は行っていない。



第50図　SK19　遺物実測図(1:3)



第51図　SK21、23、27、29　遺物実測図(1:3)

SK41（第11、52図）

1区のD20グリッドに位置する。SD1の南側、町屋敷の範囲から検出した。調査区南側東隅の調査区際で検出し調査区域外へ広がる。平面形は隅丸方形であり、遺構間の前後関係はない。規模は長軸が1.66m、短軸1.13m、深さ0.67mをはかる。

遺物は陶磁器、石製品が出土した。陶器は鉢（第52図8）がある。高台は平高台で、体部内外面には色の濃い鉄釉を施す。見込みには目痕が見られた。在地系と考えられる。磁器は碗（1）猪口（2）、皿（3～6）、蓋物の蓋（7）が出土した。磁器の時代は総じて19世紀代のもので、猪口が19世紀前葉～中葉頃に位置するが、碗や3の様な型押しの皿などは、19世紀中葉～幕末である。石製品には砥石（9）が出土した。

SK43（第11、52図）

1区のD18、D19グリッドに位置する。SD1の南側、町屋敷の範囲から検出した。調査区南側東隅の調査区際で検出し調査区域外へ広がる。平面形は隅丸方形であり、遺構間の前後関係はない。規模は長軸が4.89m、短軸1.78m、深さ0.37mをはかる。

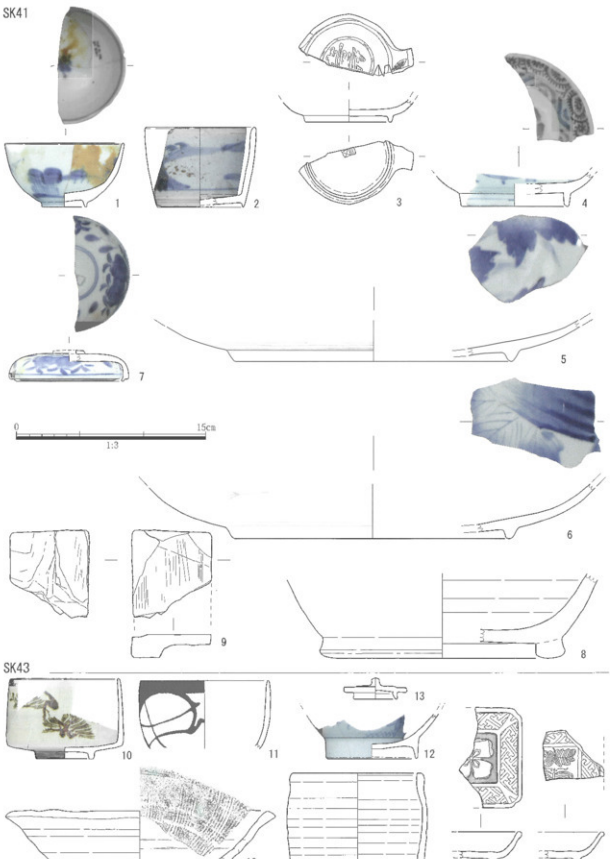
遺物は陶磁器が出土した。陶器は碗（第52図10、11）と蓋（13）がある。10は灰釉で施釉し鉄絵の入る半筒形である。口縁端部は、いわゆる『皮鯨』といわれる鉄釉を掛けて焼成したものである。高台は角高台で削り出しである。11は銅緑釉が掛かり、体部外面はピラ掛けとなる。在地系と考えられる。蓋は茶入れの蓋で、灰釉を施す。磁器は碗（12）、皿（14、15）が見られ、碗は広東碗で18世紀後葉～19世紀前葉頃と考えられる。皿は型打ちのもので、19世紀中葉以降と考えられる。越中瀬戸は擂鉢（16）と匣鉢（17）が出土した。

SK45（第53～55図）

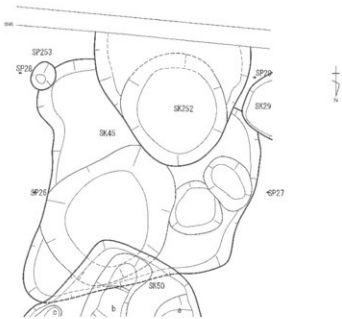
1区のC19、D19、C20、D20グリッドに位置する。SD1の南側、町屋敷の範囲から検出した。調査区南側東隅の調査区際で検出し調査区域外へ広がり、平面形はやや形の崩れた隅丸方形である。新旧関係にあるSK29、SK50、SK252、SP253より時期は古く、規模は長軸が5.02m、短軸4.30m、深さ1.38mをはかる。本遺構は方形のプラン内に、楕円形に深く掘られている箇所を3カ所含む。別遺構とすべき所ではあるが、堆積土が近似し、短期間に掘削と人為的な埋め戻しを繰り返し行っていたことが伺え、一連の遺構として捉えることとした。

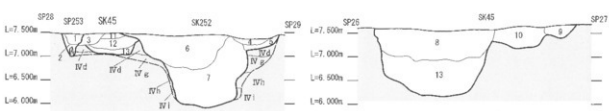
遺物は陶磁器や土師質土器、木製遺物、貝類など多種に出土した。遺物の出土状況から、この遺構はゴミ穴として使用し、同一の場所で大々的な掘削と埋め戻しを繰り返し行っていたことが分かった。

陶器は、碗（第54図1～7）、皿（10、11、12）、鉢（第54図8、9、14、第55図43、49）、擂鉢（第55図47、48）、瓶類、（13）がある。碗は丸形のもので色の濃い鉄釉（柿釉）（1、2）と糸目形～半筒形で柿釉、灰釉、黒釉のもの（3～6）、浅半球形の7があった。碗の産地は不明であるが、5の形状が口縁端部を平坦にし、内面へ引き出し、高台は蛇の目平高台となることから18世紀後葉～19世紀代のものと考えられる。皿は3点ともに灰釉を施し、10の内面には幅の広い櫛で描かれた獅目がある。体部外面は口縁部以外を無釉となる。口縁部には煤が付着する。体部外面は全体的に丁寧なロクロヘラケズリによって成形され、底部は平坦に削り込まれる。信楽系か在地系と考えられ、19世紀前葉～幕末頃のものである。11は口縁部片であり、10と同様と考えられる。12は灯明受け皿の台無しである。11とセットとなるものであろう。10同様体部外面は口縁部以外を無釉とし、丁寧なロクロヘラケズリが施される。19世紀前葉～幕末頃のものと考えられる。鉢は54図8、9で体部内外面とも



第52図　SK41、43　遺物実測図(1:3)





1　2.5Y3/1黒褐色シルト 5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルトブロックを多く含む。礫含む。(SP253埋土)
2　2.5Y3/1黒褐色シルト 5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルトブロックを含む。(SP253埋土)
3　5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルト 2.5Y3/1黒褐色シルトを含む。
4　2.5Y2/1黒色粘土質シルト(SK252埋土)
5　2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト(SK252埋土)
6　2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト 5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルトブロック、礫含む。(SK252埋土)
7　2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト 5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルトブロック、礫多く含む。(SK252埋土)
8　2.5Y3/1黒褐色シルト 10Y6/1灰色粘土質シルトブロックを含む。礫極めて多く含む。(SK45埋土)
9　2.5Y3/1黒褐色シルト 10Y6/1灰色粘土質シルトブロックを含む。礫、炭化物わずかに含む。(SK45埋土)
10　2.5Y3/1黒褐色シルト 10Y6/1灰色粘土質シルトブロックを極めて多く含む。礫、木片含む。(SK45埋土)
11　2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト 5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルト、炭化物わずかに含む。(SK45埋土)
12　2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト 5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルトを多く含む。炭化物含む。(SK45埋土)
13　2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト 7.5GY4/1暗緑灰色細粒砂、腐植物、木片含む。(SK45埋土)

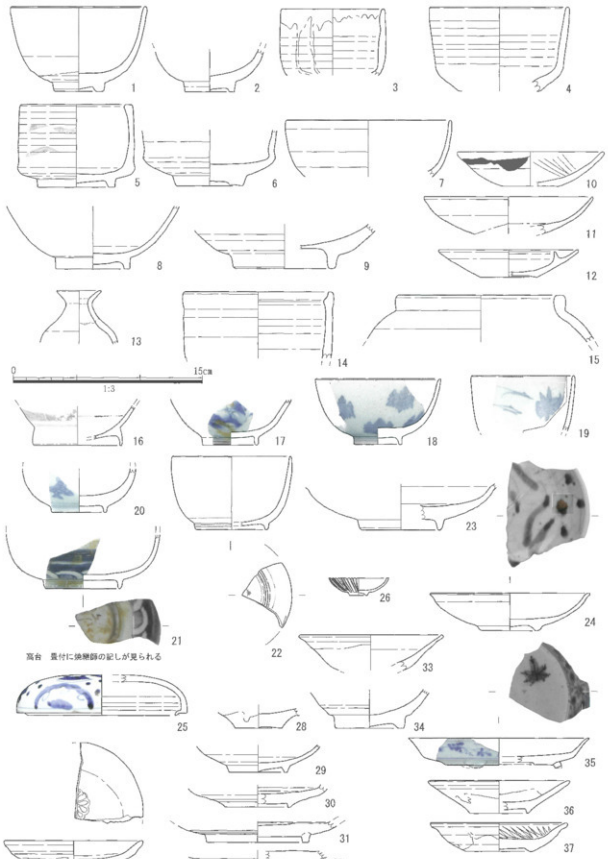
IVd　7.5GY4/1暗緑灰色細粒砂(地山)
IVg　5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルト(地山)
IVh　10Y4/1灰色粘土質シルト(地山)
IVi　7.5GY4/1暗緑灰色粗粒砂、礫極めて多く含む。(地山)

□：地山部分

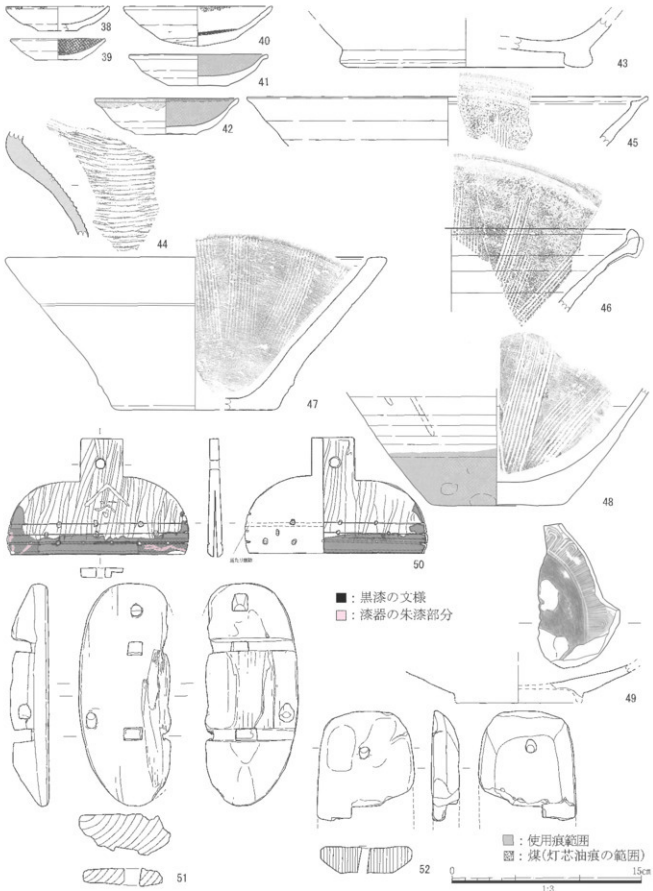
0　3m
1:60

第53図　SK45　遺構平面図、断面図(1:60)

に灰釉を施し、9は内面が刷毛目となる。9は肥前系で18世紀後半からのものと考えられる。14の鉢形容器片は口縁部に受けがあり、内外面ともに灰釉を施し、鉄絵がある。第56図49は内面に剣先形の文様が入り、灰釉と鉄釉を施す。18世紀前葉からのものと考えられる。陶器の擂鉢（第55図47、48）は越前か信楽のものと、肥前系のものがある。第54図13の瓶類は口縁部片で、灰釉を施す。磁器は碗（第54図16～22）、皿（23、24、35）、蓋物の蓋（25）、紅猪口（26）が出土した。碗の産地は17の端反碗が関西系と呼ばれる王子山や三田などであったほかは、多くが肥前系であった。形状は16の様な広東碗があるほか、丸形や腰丸形、腰張形などが見られる。時期は16が18世紀後葉～19世紀前葉、17は19世紀中葉～幕末、コンニャク印判の18は18世紀前葉～中葉頃、19は18世紀中葉～後葉、20、21が18世紀前葉～中葉と時代に開きがある。皿は肥前系で、時期は碗に比べて古相となり、17世紀前葉～中葉や中葉～後葉などといった17世紀代にまとまる傾向がある。35の皿は三足形状のもので、いわゆる『上手』と言われるものが出土した。25の蓋物の蓋は18世紀後葉～19世紀中葉となる。越中瀬戸は碗（34）皿（27～33、36、37）、壺（15）が出土した。碗は底部片で高台は削り出しとなり、釉薬は鉄釉で色の濃い、いわゆる柿釉となる。皿は大、中、小の別があり、大は第54、55図中が27、29、30、37、小は28、30となる。施釉は37が灰釉であるほかは、すべて鉄釉が掛かる。高台は見込みに印花文が入る27が貼り付け高台であり、ほかは削り出しとなる。釉止めの段は37にあり、ほかはない。37の口縁端部は鉄釉が見られ、いわゆる『皮鯨』であった。時期は宮田編年のⅡ～Ⅲ期頃で、比較的Ⅱ期のものは少なく、Ⅲ期以降に位置する一群となる。土師質土器は皿（第55図38～42）で、底部の痕跡からロクロ成形で未調整のもの（38、39、41、42）とロクロ成形でロクロヘラケズリ調整のもの（40）の別がある。またロクロ成形で未調整の中でも大小の別が見られ、大は41、42、小が38、39となる。38の小皿は、越中瀬戸のように底部から口縁端部へ急激に内湾しながら立ち上がり、体部下位で腰を持ち、口縁部へ緩やかに球形を呈する形で、口縁端部は、やや厚めに造り出すという特徴に類似し、施釉前の素地を使用したものの可能性がある。ロクロ成形でロクロヘラケズリ調整のものは、口縁部外面周辺はロクロナデとなり、内面もナデを施す。口縁端部には煤が付着することから、灯明皿として使用されていたと考えられる。珠洲の甕の胴部片が1点出土している（44）。混入であろう。木製遺物は刷毛（50）、下駄（51、52）が出土した。刷毛は表裏ともに刃幅の細い工具で縦に削られた痕跡が数条にわたってあり、片面には屋号が刻印されている。刷毛の毛の部分は欠損するが、黒漆や朱漆が付着し、漆塗り用の刷毛として使用されていたものであることが分かる。下駄は差歯下駄であり51は丸形の露卯下駄である。52は陰卯下駄の可能性があるもので、この2足には漆による塗装はなかった。



第54図　SK45　遺物実測図その1（1:3）



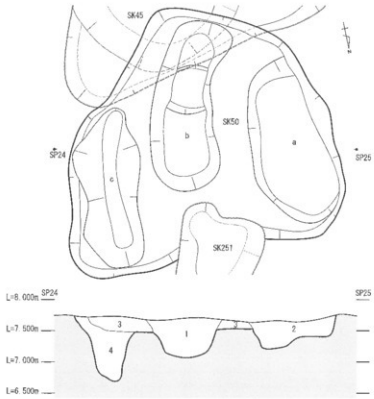
第55図　SK45　遺物実測図その2 (1:3)

SK50（第56～59、61図）

1区のC18、D18、C19、D19グリッドに位置する。SD1の南側、町屋敷の範囲から検出した。平面形はやや形の崩れた隅丸方形である。新旧関係にあるSK251より時期は古く、SK45より新しい。規模は長軸が4.27m、短軸3.85m、深さ1.05mをはかる。SK45同様、同一の場所で度重なる掘削、埋め戻し行為を短期間で行っており、ここでは一連の遺構として捉え、これら穴にはa、b、cと番号を付して観察を行った。

堆積土は、どの穴も単層であった。その土層断面の観察からcが最初に掘られ、埋め戻されたあと、方形の土坑を掘削し、廃棄した後にa、bが掘削された事が分かった。

遺物は陶磁器や木製遺物など多種で、遺物の出土状況から、ゴミ穴の可能性がある。陶器は碗（第57図1、3～5）鉢（第57図8、9、第58図33、34）が出土した。在地系（第57図1、3、5）や京、信楽系（4）などがあり、器形は丸形や腰折れ碗などが見られた。鉢は唐津系のものが多く、9の18世紀代の片口鉢や第58図33、34の擂鉢などがある。磁器は碗（第57図6、10、11、13）、皿（12、14、15）、段重（16）徳利（17）などが出土した。碗は肥前系の陶胎染付（6）や10が18世紀前葉であるのに対し、11の端反碗で19世紀前葉～中葉頃のものがある。皿の時期は18世紀中葉前後が中心であり、器種別の時期幅が見られる。12の皿の高台内には、やや崩れた『筒江』の銘が入り15では、『富貴長春』の文字が見られる。17の徳利は17世紀中葉～後葉頃である。甕は越前のもの（18、19）が出土した。越中瀬戸は皿（第58図20、21）、灯明受け皿の台無し（22）茶入れ（第57図7）壺（第58図23、24、26、27）が出土した。皿は22が削り出し高台となり、鉄釉を施し、見込みは無釉となる。内面には重ね焼き痕が残る。釉止めの段は見られない。口縁端部には煤痕が付着している。20は小皿で底部は回転糸切り未調整で、鉄釉を施す。23の灯明受け皿は、油溜の切り込みはなく、全面鉄釉を施す。底部は回転糸切り未調整である。壺は器種の判明しているもので広口壺（23、26、27、28）と長胴壺（25）、双耳壺（29）がある。ともに底部は回転糸切り未調整となり、鉄釉を施す。製品によってこの鉄釉の濃淡の違いが見られた。時期は皿と壺から宮田編年で皿期頃、相羽編年（相羽　2003）では皿期とし、おおよそ18世紀中葉頃のものと考えられる。土師質土器は皿（30～32）であり、底部は回転糸切り未調整となる。煤痕が口縁端部に見られることから灯明皿として使用したと考えられる。金属製品は、煙管の吸い口が出土した（35）。木製遺物には曲物の底板（第58図36）や蓋（第59図40）、下駄（第59図37～39）漆器椀（41～43）桶（44）、刷毛（第61図1）が出土した。曲物の底板には、墨書の文字で（第58図36）、『濱な＼寿け寺』と書いていた。第59図40は不明である。下駄は差歯下駄（37）と連歯下駄（38、39）が出土した。37、39の下駄は台表、台裏には漆が塗られ、37は露卯下駄で台表、台裏を朱と黒の漆で塗り分けていた。この下駄の樹種はモクレン属で、下地は炭粉渋で赤色顔料はベンガラであった。39の樹種はトネリコ属であった。漆器椀は外面が黒漆、内面が朱漆に塗り分けているもの（41、43）と内外面ともに朱漆のもの（42）の2種類が見られた。43の底面には朱で書かれた文字があり、樹種は41、43がブナ属である。42については樹種同定を行っていない。44の桶には表面に朱漆が塗られ、箍が入っていた部分は塗られていなかった。刷毛（第61図1）にも朱漆が付着しており、漆塗装に使われたと考えられる。この遺構からは漆器が多く出土し、刷毛などの漆塗装の道具も見られた。そのことから漆塗装で出た不要品の廃棄を目的としたゴミ穴である可能性がある。



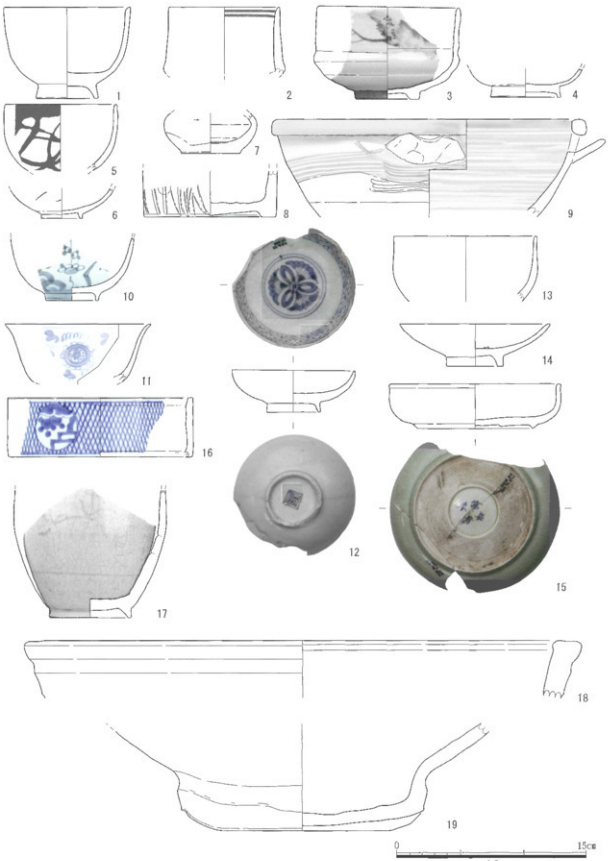
SK50

1 10YR3/1黒褐色シルト 10Y6/1灰色粘土質シルトブロック、礫、腐植物、木片を含む。（SK50-b埋土）
2 10YR3/1黒褐色シルト 10Y6/1灰色粘土質シルトブロック、細砂粒、礫、腐植物多く含む。（SK50-a埋土）
3 2.5Y3/1黒褐色シルト 10Y6/1灰色粘土質シルトブロック、礫含む。（SK50埋土）
4 5Y2/1黒色シルト 10Y6/1灰色粘土質シルトブロックをわずかに含む。（SK50-c埋土）

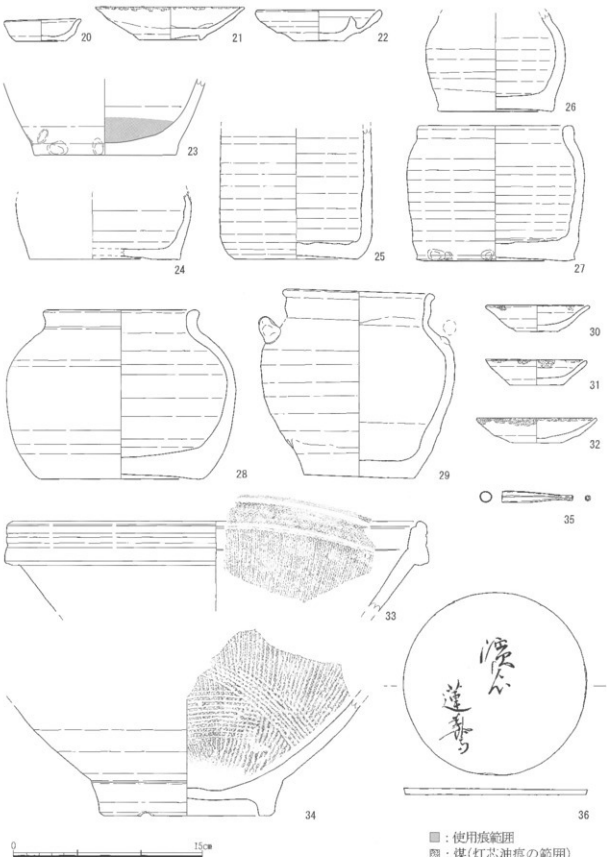
□：地山部分

0 3m
1:60

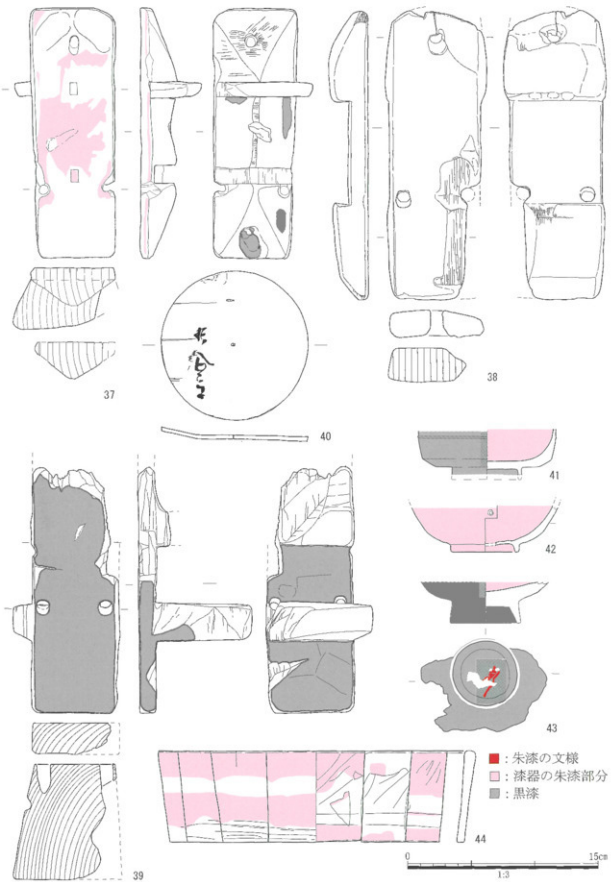
第56図　SK50　遺構平面図、断面図（1:60）



第57図　SK50　遺物実測図その1（1:3）



第58図　SK50　遺物実測図その2 (1:3)



第59図　SK50　遺物実測図その3（1:3）

SK58（第11、61図）

1区のA16、A17グリッドに位置する。SD1の北側、武家屋敷地の範囲から検出した。調査区の西壁際で検出し、大部分は調査区域外へ広がる。平面形はやや形の崩れた隅丸方形である。新旧関係にあるSK239より時期は古く、規模は長軸が5.26m、短軸1.62m、深さ0.35mをはかる。底面は平坦で壁は垂直に上端に至る。

遺物は陶磁器が出土した。陶器は線香筒（第61図4）と壺（5）がある。4は口縁部片であり、内外面ともに緑色に発色した灰釉に鉄絵が入る。5は口縁部から頸部にかけての葉茶壺の破片である。口縁端部は雀母壺壺のように外側へ折り返され、玉縁状に肥大する。頸部は直立気味となり口縁部から頸部まで無釉であるが頸部から下では鉄釉を施す。磁器は肥前系で18世紀前葉の小坏（2）と18世紀中葉頃の碗（3）が出土した。

SK83（第60、61図）

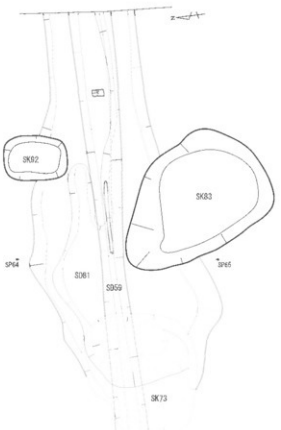
1区のC17、D17グリッドに位置する。SD1の北側、武家屋敷地の範囲から検出した。平面形はやや形の崩れた隅丸方形である。新旧関係にあるSD81より新しい。規模は長軸が3.45m、短軸2.3m、深さ0.82mをはかる。底面はやや船底状で、壁は緩やかな傾斜で立ち上がり上端に至る。堆積土はほぼ単層である。

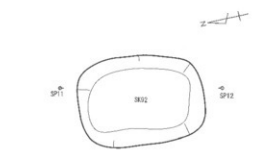
遺物は陶磁器、土師質土器、木製遺物、金属製品などが出土した。陶器は碗（第61図6）がある。肥前系陶器で、内外面ともに鉄釉の刷毛目が施され、17世紀後半頃のものと考えられる。磁器は碗、皿がある。碗、皿ともに肥前系磁器で、7、8は腰張り碗で18世紀中葉～後葉頃、9は丸形で18世紀中葉頃と考えられる。皿は（10、11、15）10や15などは17世紀後葉頃、11は18世紀前葉頃とやや古いものが出土しており、碗と皿では器種別に廃棄に至るまでの時期差が存在する。土師質土器はやや大振りのものが見られるものの、すべて底部は回転糸切り未調整となる。12、13の口縁部には、煤痕が見られ、灯明皿として使用されていた。13は器形的に越中瀬戸の皿に類似し、釉薬を掛ける前の素地の段階の可能性がある。越中瀬戸は擂鉢がある（16）。胎土は粗く、鉄釉を施す。17の擂鉢は在地系のものと考えられ焼締まり、卸目は極細となる。鉄釉は口縁端部にのみかかる。木製遺物は桶が出土した（18、19）。18の外部側面には箍の跡が上下2カ所に見られ、内部側面下方には、鑿によって、やや細く削られた形状がある。19の桶側面には焼き印で丸に『□二』と記された文字が入る。金属製品は天秤の皿（20）が出土した。

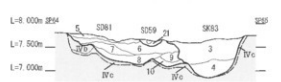
SK92（第60、63図）

1区のD16グリッドに位置する。SD1の北側、武家屋敷地の範囲から検出した。平面形はやや形の崩れた隅丸方形である。新旧関係にあるSD81より古い。規模は長軸が1.33m、短軸0.94m、深さ0.6mをはかる。

遺物は陶器と磁器の細片、木製遺物が出土した。陶器は皿（第63図1、2）がある。1は内面全面と体部外面上方に灰釉が掛かり、内面口縁端部付近には円形の突起がある。底部や体部外面は丁寧なロクロヘラケズリが施されている。2は行灯皿として使用したと考えられる皿である。高台は削り込みとなり、釉薬は長石釉で高台周辺は釉ハギで内面には、暗灰色の釉と鍋緑釉による絵文が描かれ目跡が残る。19世紀以降と考えられる。木製遺物は板状木製品が出土している（3）。片面には黒漆が塗られ、切込みが入り、釘穴が並ぶ。断面は弓状で何か指物の一部材と考えられる。







SD59・SD81・SK83　1/60

1　10YR5/6黄褐色シルト　細粒砂含む。(SD59埋土)

2　10YR4/1褐灰色シルト　細粒砂含む。(SD59埋土)

3　N4/灰色粘土質シルト　5G7/1明緑灰色シルトをブロック状に多く含む。
炭化物多く含む。(SK83埋土)

4　N3/灰色粘土質シルトと5G7/1明緑灰色シルトとの斑土　炭化物含む。(SK83埋土)

5　10YR3/1黒褐色シルト　中粒砂含む。炭化物わずかに含む。(SD81埋土)

6　2.5Y3/1黒褐色シルト　中粒砂含む。炭化物多く含む。(SD81埋土)

7　5G7/1明緑灰色シルトと2.5Y5/1黄灰色シルトとの斑土　炭化物わずかに含む。(SD81埋土)

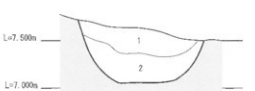
8　2.5Y3/2黒褐色シルト　中粒砂含む。植物片多く含む。(SD81埋土)

9　2.5Y4/1黄灰色粘土質シルトと5Y6/2灰オリーブ色粘土質シルトとの斑土　径5~10cmの小礫含む。
炭化物含む。(SD81埋土)

10　2.5Y5/1黄灰色シルト　細粒砂多く含む。植物片多く含む。(SD81埋土)

Ⅳb　7.5Y4/1灰色シルト　細粒砂含む。(地山)

Ⅳc　5G7/1明緑灰色シルト　極細粒砂含む。(地山)



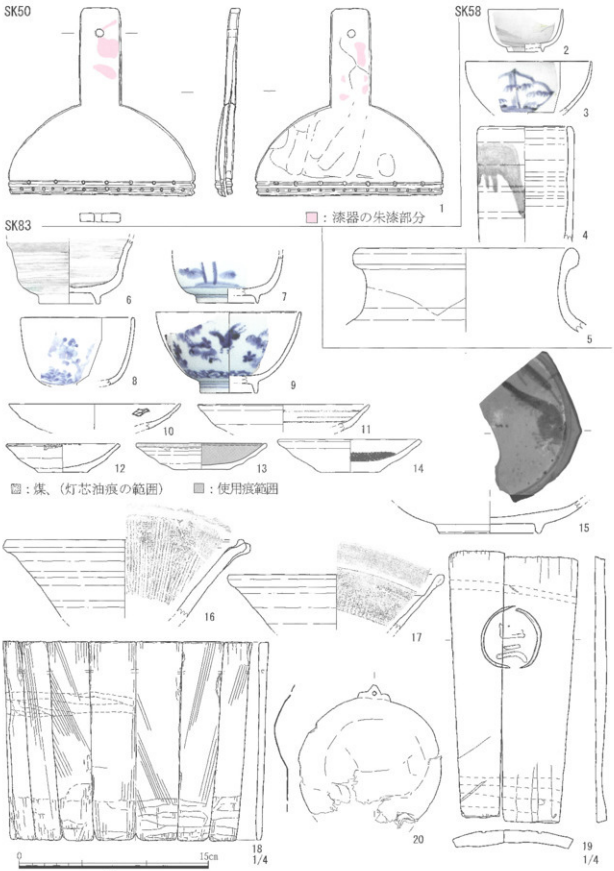
SK092　1/40

1　7.5Y5/1灰色シルト　細粒砂含む。(SK92埋土)

2　2.5Y3/1黒褐色シルト　中粒砂含む。(SK92埋土)

□：地山部分

第60図　SK83、92　遺構平面図、断面図(1:40・1:80)

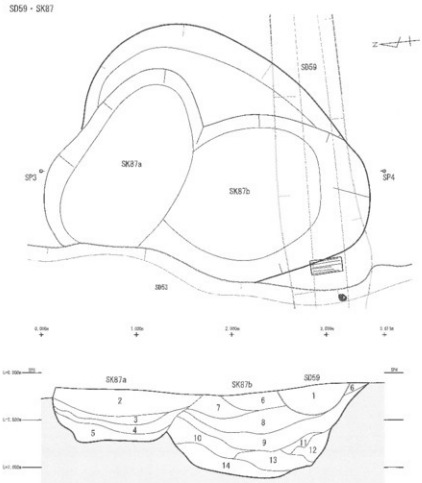


第61図　SK50、58、83　遺物実測図(1:3・1:4)

SK87（第62、63、64図）

1区のB16、C16、B17、C17グリッドに位置する。SD1の北側、武家屋敷地の範囲から検出した。この遺構は大きく3つの土坑からなり、互いに前後関係を持つ。本来は別遺構番号を付すべきだが、遺物の時期や出土状況、さらに後述する遺構の性格などから、遺構番号に枝番号を付して記した。堆積土はSK87aが4層、bが9層からなる。これら堆積土は人為堆積と自然堆積が混在する。SK87aは第2層が人為堆積となり、それ以外は自然堆積の様相を呈する。SK87bはSK87a同様、上層の第6、7層が人為堆積で、8、9、11、12層は自然堆積となる。しかし最下層の10、13、14層は人為堆積の様相を呈する。この最下層は、炭化物や植物片などを多く含む有機質土であった。これら土層観察から穴の堆積状況や新旧関係は、SK87bが掘削当初から廃棄行為が行われ、それがしばらく途絶し自然に埋没していく中で新たな廃棄土坑を確保するため、人為的に埋め戻された後、SK87aを掘削したことが分かった。

遺物は陶磁器、土師質土器、瓦質土器、木製遺物など多種が出土した。陶器は碗（第63図5）、皿（7、8）、鉢類（9、10、14）、擂鉢（15）が出土した。碗は肥前系で、鉄釉が掛かり、体部外面下半は露胎となる。高台は削り出しである。皿は、7が肥前系である。7は内面に銅緑釉が掛かり、見込みは蛇の目釉はぎとなる。体部外面は透明に近い銅緑釉が掛かり、下半部分から露胎となる。高台は削り出し平高台となる。時期は17世紀末葉～18世紀後葉頃のものと考えられる。8は灯明受け皿の台無しである。全体的に焼締まり内面全面に鉄釉がかかる。鉢類は9が内外面黄褐色系の灰釉を施し、体部外面下半から高台にかけて鉄釉を掛け分ける。高台内の中心部分にも鉄釉が掛かり、蛇の目釉はぎとなる。在地系である。10は体部外面に蛇石釉が掛かり、貫入となる。体部内面は口縁部に釉がかかるものの、ほかは無釉である。体部外面下方には、波の形に透かしが入る。底部外面には、解読不明の墨書が書かれる。香炉か火入れとして使用したと考えられる。14は体部内外面に灰釉の掛かる植木鉢の口縁部である。擂鉢は口縁部端部が折り返され、玉縁状になる。胎土は乳白色で緻密である。瀬戸美濃系と考えられる。口縁部には鉄釉が掛かり、卸目は極細く、器厚は薄い作りとなる。底部には糸切り痕がある。胎土は赤褐色を呈する。磁器は総じて肥前系であり、碗、蓋物、皿、猪口、薄手酒杯が出土した。碗（第64図1～5）は腰張り碗や丸碗であり、5は陶胎染付けである。1～3は17世紀中葉～後葉頃のもので、4は18世紀前葉である。蓋物（8、9）は17世紀後葉～18世紀前葉頃のものである。皿（第63図6、第64図10～13）は6が白泥か長石釉を施し、見込みは蛇の目釉はぎとなる。高台は削り出しで17世紀後半以降である。10は17世紀後葉頃で、11が18世紀中葉頃、12が18世紀前葉頃となる。13は中国景徳鎮産の青花で、馬が数頭内面に描かれる。明末～清初頃の手で16世紀末～17世紀前半頃と考えられる。猪口（6）と薄手酒坏（7）は猪口が口縁部で外反する形で、体部にはコンニャク印判を配す。時期は17世紀後葉～18世紀前葉頃、薄手酒坏は18世紀前葉である。越中瀬戸は皿がある（第63図13）。土師質土器は皿が出土した（第63図11、12）。11、12ともに底部は、回転糸切り未調整で、内面には使用痕がある。11は口縁端部が厚く作られるなど、形状が越中瀬戸と近似することから、釉薬を掛ける前の素地の段階の皿と考えられる。木製遺物は台座（第64図14）と箸状木製品（15～19）がある。台座は中央に円形の穴が開き、表面には鑿による横方向への削り痕が確認できる。全般的に薄作りとなる。箸状木製品は断面形が方形に近い形で、両端が細くないタイプ（15、16、18）と断面が楕円形で両端か片端が細くなるタイプ（17、19）があり、どのタイプも側面には成形加工が施される。



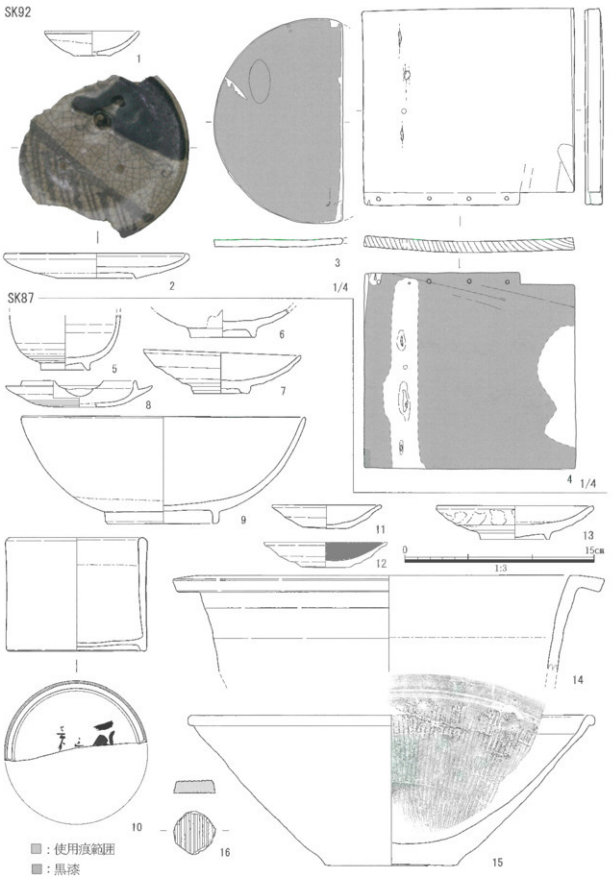
SD59・SK87

1　5Y3/1オリーブ黒色シルト　中粒砂含む。炭化物含む。(SD59堆土)
2　N5/灰色シルト　細粒砂含む。径2～5cmの小礫含む。(SK87-a堆土)
3　N4/灰色シルト　中粒砂含む。植物片多く含む。(SK87-a堆土)
4　7.5Y4/1灰色粘土質シルト　細粒砂含む 植物片多く含む。(SK87-a堆土)
5　N4/1灰色シルトと5B7/1明緑灰色シルトとの斑土　中粒砂含む。植物片多く含む。(SK87-a堆土)
6　2.5Y5/3黄褐色シルト　細粒砂含む。炭化物、焼土含む。(SK87-b堆土)
7　5Y4/1灰色シルト　細粒砂含む。炭化物多く含む。(SK87-b堆土)
8　5Y5/1灰色シルトと7.5Y6/1灰色シルトとの斑土　中粒砂含む。炭化物含む。(SK87-b堆土)
9　7.5Y4/1灰色シルト　中粒砂含む。炭化物含む。植物片多く含む。(SK87-b堆土)
10　2.5Y5/1黄灰色シルト　中粒砂含む。炭化物含む。植物片含む。(SK87-b堆土)
11　7.5Y5/1灰色シルト　中粒砂含む。(SK87-b堆土)
12　7.5Y6/1灰色シルト　中粒砂含む。(SK87-b堆土)
13　2.5Y4/2暗灰黄色シルト　中粒砂含む。径5～10cmの礫含む。(SK87-b堆土)
14　2.5Y4/1黄灰色シルト　細粒砂含む。炭化物含む。(SK87-b堆土)

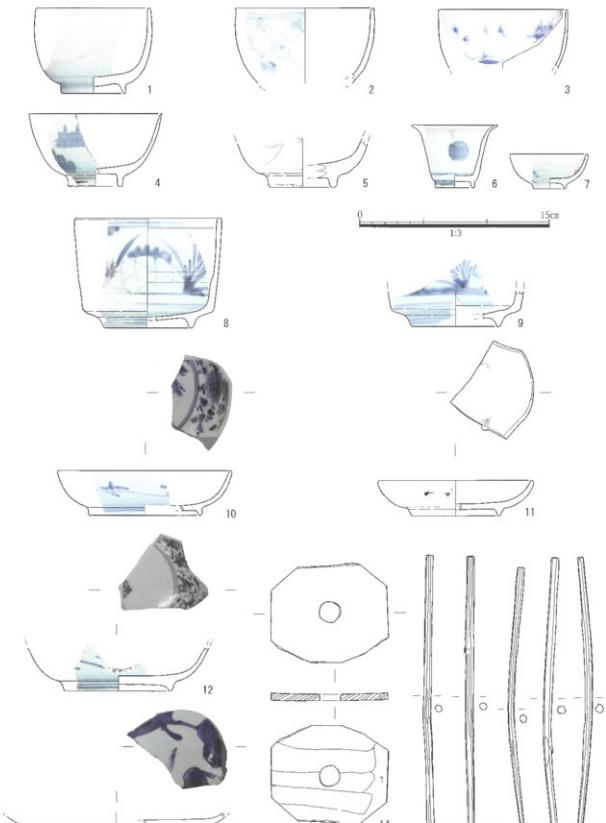
□：地山部分

0　2m
1:40

第62図　SK87　遺構平面図、断面図(1:40)



第63図　SK92、87　遺物実測図（1:3）



第64図　SK87　遺物実測図(1:3)

SK116（第65、67図）

1区のD15、D16グリッドに位置する。SD1の北側、武家屋敷地の範囲から検出した。平面形は隅丸方形である。遺構間の新旧関係はない。規模は長軸が3.75m、短軸3.35m、深さ0.58mをはかる。堆積土は7層からなり、第1、5、6、7層以外は人為堆積であった。第2、3、4層からは炭化物、焼土ブロックが見られ、別の場所で出た炭や灰などを処理した痕跡と考えられる。

遺物は陶器細片や磁器、越中瀬戸、土師質土器や珠洲が出土した。陶器は唐津の鉢（11）がある。内面には剣先形や印花などの文様を配す。下地には長石釉を施し、鉄釉を全面に掛ける。18世紀前葉頃のものと考えられる。磁器は碗（1、2）、皿（3、4）、仏飯器（8）が出土した。4以外は肥前系磁器で4は中国、景徳鎮産であった。1は腰張り碗で18世紀前葉～中葉頃で、2は網目文が入るもので、17世紀中葉～後葉頃である。皿は3が小皿タイプで、18世紀中葉～後葉頃となる。4は中国、景徳鎮産の青花皿で、小野編年E群にあたり、16世紀後半～17世紀前半頃のものである。8の仏飯器は上方の坏部が欠損しているもので、18世紀代であろう。越中瀬戸は皿が出土した（5、6）。5は高台が付け高台で、灰釉を施す。見込みは無釉で釉止めの段や印花文はない。6は無高台で底部は、回転糸切り未調整で体部には鉄釉を施す。宮田編年Ⅱ～Ⅲ期頃と考えられる。珠洲は壺であり、頸部が直立するもので、口縁端部は丸味を持つ方頭状となる。吉岡編年（吉岡　2004）Ⅳ期頃であろう。擂鉢（9、10）には越中瀬戸（9）と唐津がある（10）。9口縁端部のみの遺物で粗い胎土に鉄釉が掛かる。10は、体部外面に叩き痕が見られ、幅広の卸目が内面に見られる。鉄釉はやや濃いめで全面に施す。18世紀後半～19世紀代である。

SK127（第65、68図）

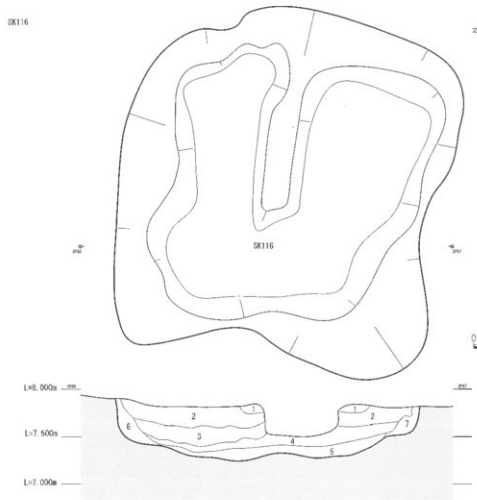
1区のD14、D15グリッドに位置する。武家屋敷地の範囲から検出した。平面形は楕円形で、新旧関係にあるSK256より時期は古い。規模は長軸2.52m、短軸2.00m、深さ0.70mをはかる。

遺物は磁器細片と土師質土器皿がある。皿（1）は非ロクロで底部に墨痕がある。16世紀代か。

SK132（第66、68図）

1区のC14、D14、C15、D15グリッドに位置する。SD1の北側、武家屋敷地の範囲から検出した。平面形は隅丸方形である。新旧関係にあるSE110、SK127より時期は古く、SD166より新しい。規模は長軸が8.26m、短軸6.64m、深さ1.19mをはかる。堆積土は16層からなる。自然堆積の様相も確認できるが、第8、9層のように層の頭が上層に切られている箇所があり、層中の混入物も、ブロック土や腐植物が混じる傾向があることから、人為堆積による堆積土と考えられる。

遺物は陶器、木製遺物、種子類、骨類などが出土した。陶器は志野の丸皿（4）がある。長石釉を施し、高台は削り出しで口縁部は外反しない。高台内には円錐ピンの跡が残る。大窯第Ⅳ段階以降のものと考えられる。磁器は碗（2、3）と皿（5、6、7、8）がある。すべて肥前系で17世紀後葉のものであった。釉薬には、長石釉を施すものが多い。文様は松葉文を配す（6、7）。越中瀬戸は皿が出土した（9）。高台は貼り付け高台で、内面には釉止めの段がある。施釉は灰釉である。宮田編年Ⅱ期と考えられる。土師質土器は皿、鍋が出土した（10～12）。皿はロクロ成形が10で非ロクロは11である。12は焙烙鍋の口縁部の可能性がある。16～17世紀代と考える。越前は口縁部が直立する甕（13）が出土した。木製遺物は卒塔婆（14）柿板片（15～17）箸状木製品（18～20）がある。卒塔婆の表は『南無阿弥陀』の文字があり、裏面は焦げ、刃を入れて切断している。卒塔婆は第11層より出土し、この層からは、曲物に入った焼骨とモモ、トウガン、ウリの種実も出土した。



SK116

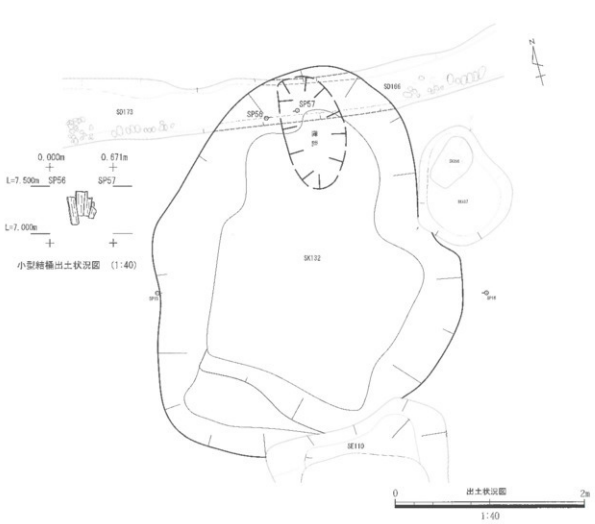
1 10YR5/1褐灰色シルト 細粒砂含む。10YR6/3にぶい黄橙色シルトブロックを含む。
2 10YR3/1黒褐色シルト 細粒砂含む。5YR5/6明赤褐色の焼土ブロック多く含む。炭化物多く含む。
3 10YR2/1黒色シルト 細粒砂含む。炭化物多く含む。植物片多く含む。
4 10YR2/2黒褐色シルト 細粒砂含む。5YR5/6明赤褐色の焼土ブロックわずかに含む。炭化物多く含む。
5 10YR1.7/1黒色シルト 細粒砂含む。炭化物多く含む。
6 10YR4/2灰黄褐色シルト 中粒砂含む。炭化物わずかに含む。
7 7.5Y5/1灰色シルト 中粒砂含む。

SK127

1 10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルト 2.5Y3/1黒褐色シルトを縞めて多く含む。炭化物、焼土ブロック含む。(SK256埋土)
2 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト 10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトを縞めて多く含む。炭化物、焼土ブロック多く含む。(SK256埋土)
3 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト 10YR5/4にぶい黄橙色粘土質シルトブロックを多く含む。炭化物、焼土ブロック多く含む。(SK256埋土)
4 10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルト 2.5Y5/2暗灰黄色シルトブロックを含む。(SK127埋土)
5 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト炭を縞めて多く含む。 10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトブロック、焼土ブロックわずかに含む。(SK127埋土)
6 2.5Y5/2暗灰黄色シルト 10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトをわずかに含む。(SK127埋土)
7 5Y4/1灰色シルト 炭化物、焼土ブロック多く含む。(SK127埋土)
8 5Y4/1灰色粘土質シルト 10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルトを含む。焼土ブロック含む。(SK127埋土)
9 5Y4/1灰色粘土質シルト 5Y2/1黒色粘土質シルトブロックを含む。焼土ブロックわずかに含む。(SK127埋土)
10 2.5Y5/3黄褐色粘土質シルト 10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルト、5Y3/1オリーブ黒色粘土質シルトを含む。焼土ブロック含む。(SK132埋土)
11 2.5Y4/1黄灰色粘土質シルト 5Y5/2灰オリーブ色粘土質シルトをわずかに含む。(SK132埋土)
12 2.5Y4/1黄灰色粘土質シルト 5Y2/1黒色粘土質シルトブロックを含む。(SK132埋土)

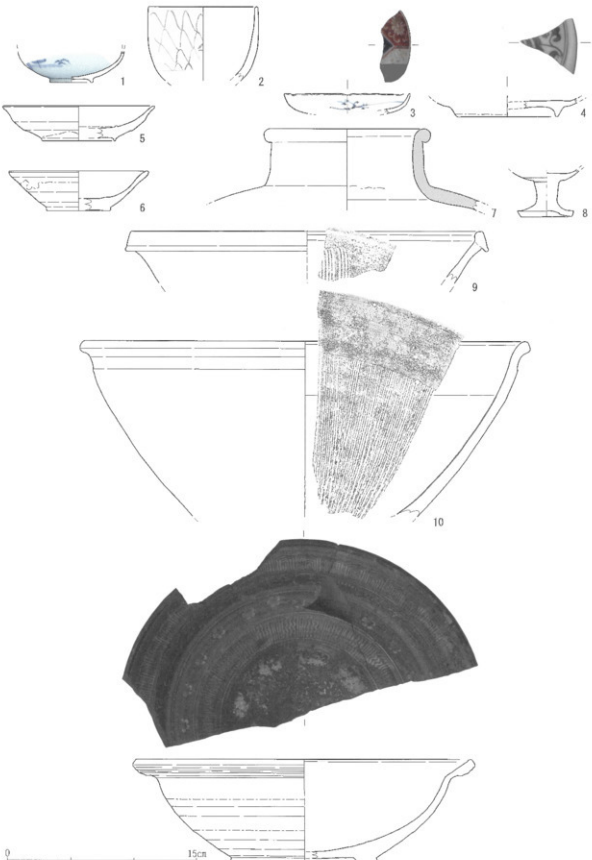
第65図　SK116、127　遺構平面図、断面図(1:40)

SK132

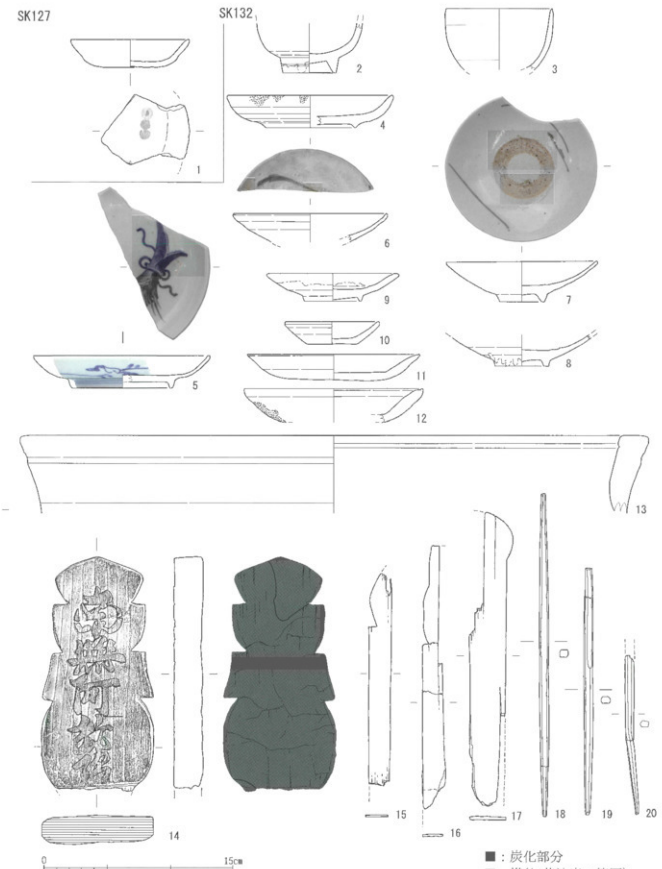


1 10YR3/1黒褐色シルト 細粒砂含む。径5~10cmの小礫含む。炭化物、焼土ブロック多く含む。(SK132埋土)
2 2.5Y5/3黄褐色砂質シルト 細粒砂含む。径5~10cmの小礫含む。(SK132埋土)
3 10YR3/1黒褐色シルト 2.5Y5/3黄褐色砂質シルトの小ブロック含む。炭化物含む。(SK132埋土)
4 2.5Y4/1黄灰色シルト 5Y6/2灰オリーブ色シルトの小ブロックを含む。(SK132埋土)
5 2.5Y4/1黄灰色シルト 2.5Y5/3黄褐色砂質シルトのブロックを含む。(SK132埋土)
6 5Y4/1灰色シルト 2.5Y5/2暗灰黄色シルトを含む。(SK132埋土)
7 5Y4/1灰色シルト 径1~2cmの小礫わずかに含む。腐植物、鉄鉱石わずかに含む。(SK132埋土)
8 2.5Y3/1黒褐色シルト 径2~3cmの小礫わずかに含む。腐植物、鉱鉄鉱わずかに含む。(SK132埋土)
9 2.5Y3/1黒褐色シルト 腐植物、鉄鉱石含む。(SK132埋土)
10 10YR3/1黒褐色シルト 炭化物わずかに含む。(SK132埋土)
11 2.5Y3/1黒褐色シルト 径2~3cmの小礫わずかに含む。腐植物、鉄鉱石を含む。(SK132埋土)
12 2.5Y3/1黒褐色シルト 腐植物多く含む。(SK132埋土)
13 5Y3/1オリーブ黒色シルト 腐植物含む。(SK132埋土)
14 2.5Y3/1黒褐色シルト 腐植物多く含む。(SK132埋土)
15 5Y4/1灰色シルト 2.5Y3/1黒褐色シルトを含む。腐植物含む。(SK132埋土)
16 5Y4/1灰色シルト 腐植物多く含む。(SK132埋土)
17 10YR3/1黒褐色シルト 細粒砂含む。5YR5/8明赤褐色の焼土ブロック多く含む。炭化物多く含む。(SK116埋土)

第66図　SK132　遺構平面図、断面図・小型結桶出土状況図(1:80・1:40)



第67図　SK116　遺物実測図(1:3)



第68図　SK127、132　遺物実測図(1:3)

SK139（第69、75図）

1区のB16、C16グリッドに位置する。SD1の北偶、武家屋敷地の範囲から検出した。平面形は隅丸方形である。新旧関係にあるSE110、SD53より時期は古い。規模は長軸が確認した範囲で2.32m、短軸が2.05m、深さは0.12mをはかる。

遺物は陶磁器細片、土師質土器、瓦質土器細片が出土した。磁器は碗（1）、皿（2）、と青磁釉の掛かる植木鉢（3）がある。1は19世紀中葉頃のもので、3の脚は獣脚となる。4は越中瀬戸の擂鉢で鉄釉が掛かる。

SK146（第69、75図）

1区のB15グリッドに位置する。SD1の北側、武家屋敷地の範囲から検出した。平面形は楕円形である。新旧関係にあるSD53、SX147より時期は新しい。規模は長軸が2.41m、短軸1.41m、深さ0.40mをはかる。

遺物は陶磁器、木製遺物が出土した。陶器は皿で（5、6）、5は内外面に銅緑釉を施す。6は志野の丸皿で大窯第Ⅳ期以降のものである。越中瀬戸は7の匣鉢がある。

SK154（第69、75図）

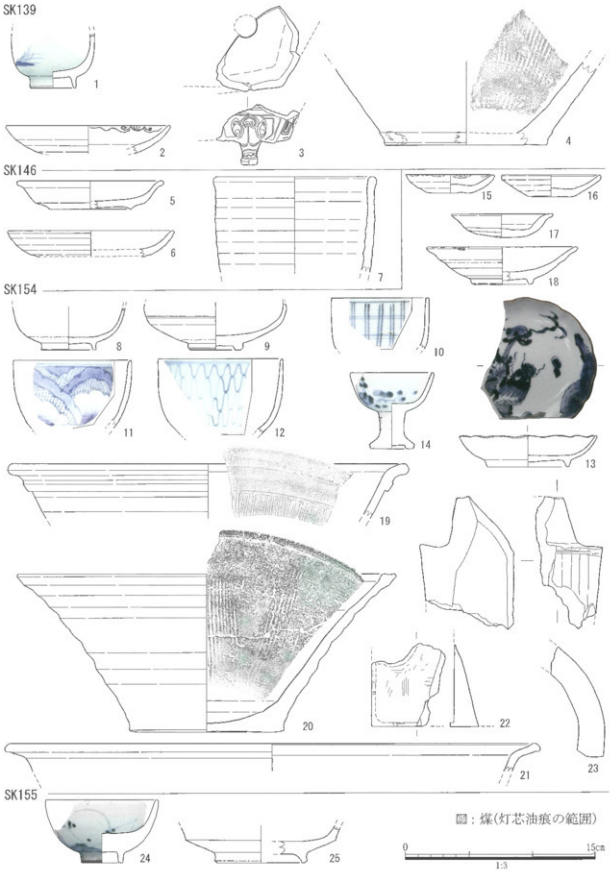
1区のB14グリッドに位置する。SD1の北側、武家屋敷地の範囲から検出した。平面形は楕円形で、新旧関係にあるSK154より時期は古い。規模は長軸が0.8m、短軸0.76m、深さ0.28mをはかる。

遺物は陶磁器、土師質土器、瓦質土器、木製遺物が出土した。陶器は、碗（8）、皿（9）、がある。8、9は京、信楽系のもので、高台は丁寧な削り出しとなり、胎土は乳白色で緻密である。釉は8が乳白色系、9は乳白色～緑系の灰釉となり、9の見込みには目跡が残る。磁器は碗（10、11、12）、皿（13）仏飯器（14）がある。10は腰丸碗で格子文となり18世紀後葉頃である。11は龍の文様が入り12は網目文を配す。これらの磁器はやや古く17世紀中葉～後葉頃と考えられる。13の皿は輪花皿で18世紀後葉頃となり、14の仏飯器は18世紀代である。擂鉢（19、20）は肥前系のもので、濃い鉄釉が全面に掛かる。卸目は間隔の広いもので、18世紀後半～19世紀代と考えられる。19が越中瀬戸である。底部は回転糸切り未調整で、鉄釉を施す。越中瀬戸は皿（18）が出土した。高台は貼り付け高台で、鉄釉を施す。見込みに釉はなく、釉止めの段もない。宮田編年Ⅱ～Ⅲ期頃と考えられる。土師質土器は皿（15、16、17）が出土した。15、16は底部が回転糸切り未調整であり、17はロクロヘラケズリ調整で、体部上方をヨコナデした。15の口縁端部には、煤が付着していることから灯明皿として使用したと考える。これらの皿の15と16は、越中瀬戸と非常に器形が類似するため、釉を掛ける前の素地を使用したものと考える。ほかには、青磁の折縁皿片（21）が見られた。細片のため、鎬の有無は不明である。瓦は丸瓦（23）が出土した。凸面には削り痕がみえ、凹面はケビキが入る。石製品は硯（22）の陸部分がある。

SK155（第69図）

1区のB14グリッドに位置する。SD1の北側、武家屋敷地の範囲から検出した。平面形は楕円形である。新旧関係にあるSK154より時期は新しい。規模は長軸が1.42m、短軸0.73m、深さ0.28mをはかる。

遺物は磁器が出土した。磁器は碗と皿があり、碗は『くらわんか手』で、18世紀中葉から後葉の時期である。25の皿の高台には砂が付着し、削り出しとなる。

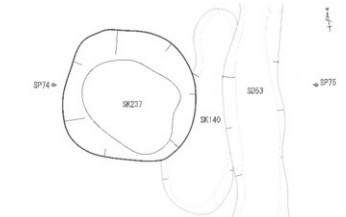


第69図　SK139、146、154、155　遺物実測図(1:3)

SK237（第70、71、72、73図）

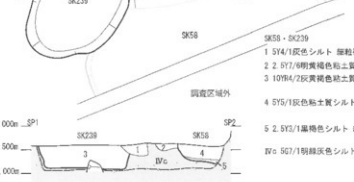
1区のA15、B15、B16グリッドに位置する。SD1の北側、武家屋敷地の範囲から検出した。平面形は楕円形である。新旧関係にあるSK140より時期は新しい。規模は長軸が2.72m、短軸2.72m、深さ2.04mをはかる。堆積土は12層からなり、上層部分に一部自然堆積の層があるものの、主は人為堆積となる。第7、8層、10層は植物遺体などを含み、有機質層である。この3層からは、木製遺物が出土し、特に第8層から下層で顕著であった。遺構の形状から井戸の可能性もあるが、井戸材などの出土がなく積極的に断定はできない。現段階ではゴミ穴と考える。

遺物は陶磁器、土師質土器、木製遺物、竹製品、石製品など多種にわたる。陶器は碗（第71図1、2）、皿（4）鉢（3）壺（5）、火入れ（25）がある。碗は1が鉄釉を施したもので、体部外面下半は露胎となる。2は灰釉を施し、高台は削り出しとなる。ともに肥前系である。皿は底部がロクロヘラ切りとなり、体部外面はヨコナデであった。鉢は3が器厚を薄づくりとし、長石釉がかかる。在地系のもので、他の遺物より時期がやや新しいものと考えられる。25の火入れは肥前系である。下地に長石釉を掛け、鉄釉で刷毛目となる。頸部には印花文を配する。5の壺は志戸呂系のもので、天井部は刷毛目となる。内面には墨書で『□徳三閏五月』(1713年)と書かれる。磁器はすべて肥前系であり、碗（6）、皿（7、8）、鉢（9）が出土した。碗は6が腰丸碗で18世紀前葉～中葉頃である。皿は7が17世紀後半代のもので、8が『くらわんか手』で18世紀前葉～中葉頃である。9の鉢は青磁釉を施したもので、見込みには草花文を片切彫りしたものが入る。高台端部は釉はぎとなるが、高台内は施釉する。肥前系磁器の17世紀後半頃のものと考えられる。越中瀬戸は、皿（10、11）擂鉢（26、27）がある。10は灰釉を施し、釉止めの段がある。見込みには印花文を配し、高台は貼り付け高台である。11は鉄釉が掛かり、見込みには釉止めの段や印花文はない。高台は削り込みである。宮田編年Ⅱ期頃と考えられる。土師質土器は皿である。非ロクロのもの（13～17、21）とロクロのもの（18～20、22～24）の2種類が出土した。このうち22～24のものは、越中瀬戸に器形が類似していることから、施釉する前の素地を使用したと考える。土人形の顔も出土している（12）。木製遺物は漆器椀（第72図28～33）、曲物の火桶（43）、蓋（44）、篦（34）灰ならし（45）、箸状木製品（35～42）、下駄（第73図46～50）が出土した。漆器椀は樹種同定した第72図30、31、32、33で、ごく一般的に使用されているブナ属の材で作製されていることが分かった。文様に銀彩するなどの蒔絵を施している割には、下地処理を一般的な炭粉渋で行うなど、町屋敷から出土した遺物と処理法で違いが現れている。下駄は連歯下駄と差歯の露卯下駄があり、これらの樹種は漆を塗らない48がヒノキであったのに対し、ベンガラ朱の漆や黒漆で飾られた46がブナ属で作られるなど、彩色と樹種の選定には、ある一定の関係が伺える。43の曲物の火桶は、底板の部分で鯛板との接合部に溝を設ける。表、裏面には黒漆を塗る。底部内面の中央には広範囲なコゲ跡が見られ、使用中に炭などを直に置く様な行為があった事が伺える。44の蓋は穴が2穴あり、ここに紐などを通して取っ手として使用したと考える。34の篦は片方が細く柄状になり、もう一方は片側がやや細くなる形状で、包丁の様な形となる。表面には、塗料的な顔料などの付着は見られず、加工痕も摩耗、腐食のため不明である。篦の分類としては、朝倉氏一乗谷で出土した遺物で包丁形、篦Cとして分類されているものが存在し（福井県　1979）、この篦が該当する可能性がある。45の灰ならしは小型で、薄作りとなる。柄と結合する部分には方形の窪みを設けていた。箸状木製品は先端部が細まるものが多くあり、側面は面取りしたものと方形にしたものに分かれる。35は、表面に黒漆を塗る細工を施す。



SD53・SK140・SK237

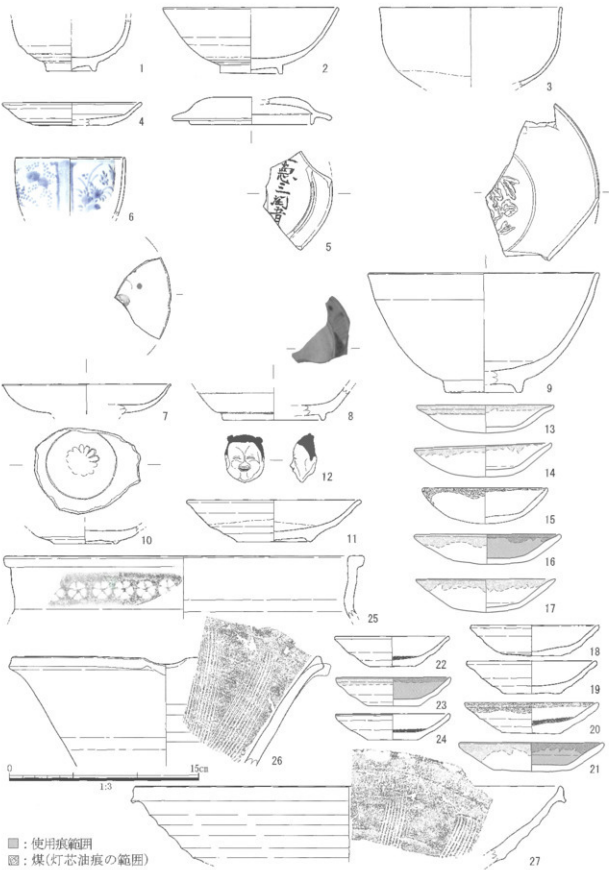
1 7.5Y4/1灰色粘土質シルト 径10～20cmの礫含む。炭化物、焼土含む。(SK237埋土)
2 2.5Y4/1黄灰色シルト 中粒砂含む。5G7/1明緑灰色シルトをブロック状に含む。(SK237埋土)
3 10YR4/2灰黄褐色シルト 細粒砂含む。(SK237埋土)
4 10YR3/1黒褐色粘土質シルトと10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルトとの斑土 径10～20cmの礫多く含む。(SK237埋土)
5 5Y4/2灰オリーブ色粘土質シルトと5Y7/4浅黄色粘土質シルトとの斑土 径5～10cmの礫含む。炭化物、焼土含む。(SK237埋土)
6 10YR3/1黒褐色シルト 細粒砂含む。炭化物、焼土含む。(SK237埋土)
7 10YR5/1褐灰色シルト 細粒砂多く含む。径5～10cmの礫多く含む。植物片多く含む。(SK237埋土)
8 10YR2/1黒色シルト 中粒砂多く含む。径5～10cmの礫含む。木片多く含む。(SK237埋土)
9 2.5Y4/1黄灰色シルトと5Y6/1灰色シルトとの斑土 径2～5cmの小礫含む。炭化物含む。(SK237埋土)
10 5Y5/1灰色シルト 細粒砂含む。(SK237埋土)
11 5Y2/1黒色シルト 細粒砂多く含む。植物片多く含む。(SK237埋土)
12 7.5Y5/1灰色シルト 細粒砂含む。炭化物わずかに含む。(SK237埋土)
13 5Y4/1灰色シルト 細粒砂含む。5G7/1明緑灰色シルトをブロック状に含む。径2～3cmの小礫多く含む。炭化物、焼土含む。(SD53埋土)
14 7.5Y4/1灰色シルト 中粒砂含む。炭化物わずかに含む。(SK140埋土)



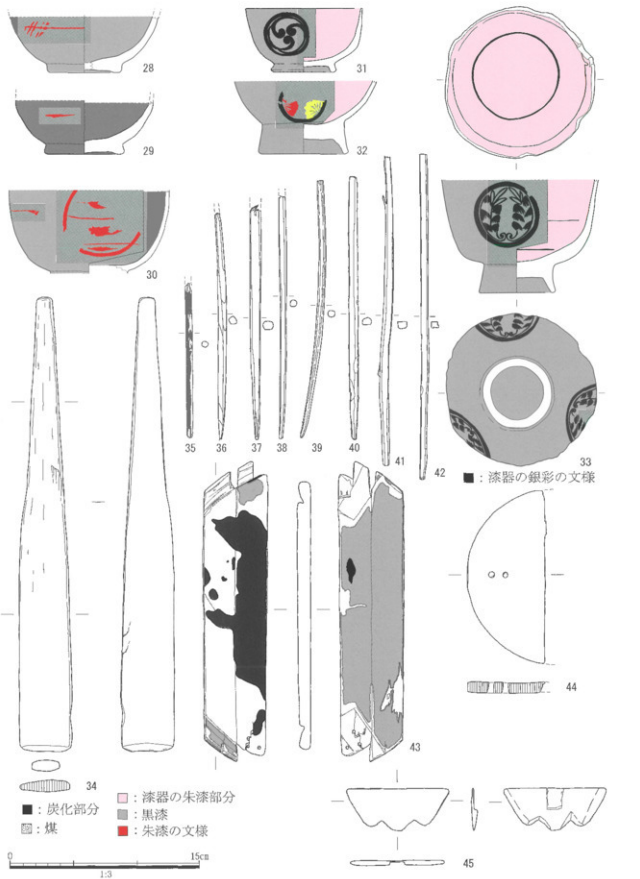
SK58・SK239
1 5Y4/1灰色シルト 細粒砂含む。径5～10cmの礫含む。焼土、炭化物含む。
2 2.5Y7/6明黄褐色粘土質シルト 細粒砂含む。
3 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト 中粒砂含む。炭化物、焼土含む。
径10～20cm礫多く含む。(SK239埋土)
4 5Y5/1灰色粘土質シルト 中粒砂含む。2.5Y7/4浅黄色粘土質シルトをブロック状に含む。
炭化物含む。(SK58埋土)
5 2.5Y3/1黒褐色シルト 細粒砂含む。炭化物、植物片多く含む。(SK58埋土)
IVc 5G7/1明緑灰色シルト(地山)

□：地山部分

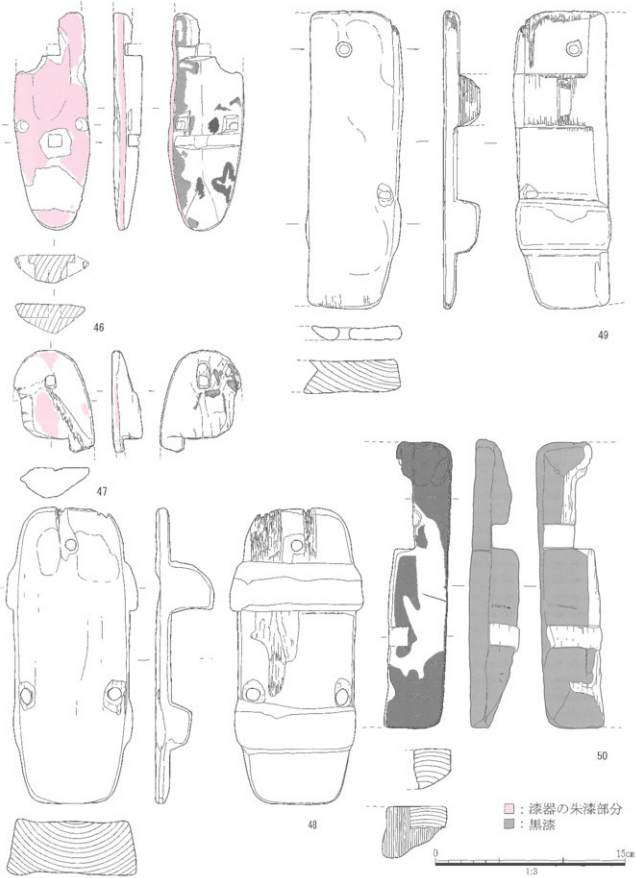
第70図　SK140、237、239　遺構平面図、断面図(1:80)



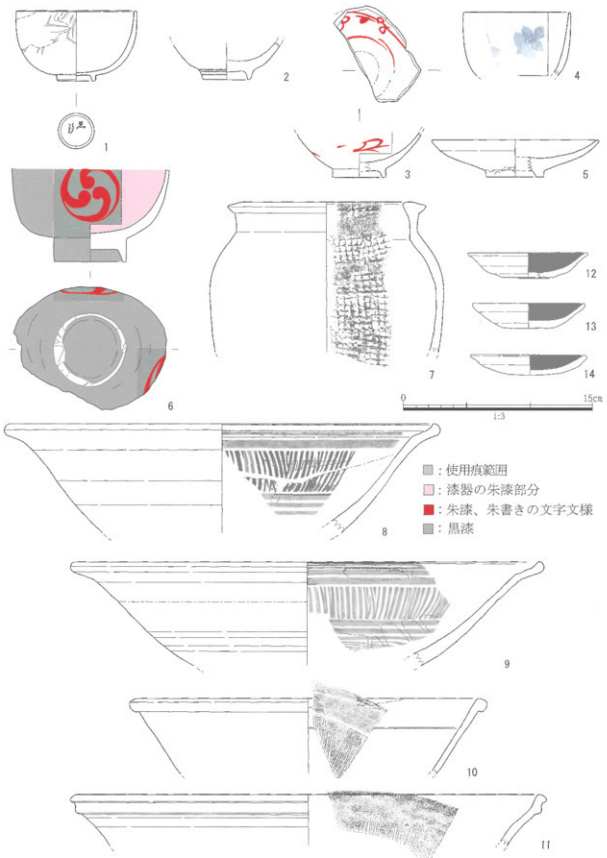
第71図　SK237　遺物実測図その1 (1:3)



第72図　SK237　遺物実測図その2（1:3）



第73図　SK237　遺物実測図その3（1:3）



第74図　SK239　遺物実測図（1:3）

SK239（第70、74図）

1区のA16、B16グリッドに位置する。SD1の北側、武家屋敷地の範囲から検出した。平面形は楕円形である。新旧関係にあるSK58より時期は新しい。規模は長軸が3.08m、短軸2.22m、深さ0.50mをはかる。堆積土は単層で、底面は平坦で壁は垂直に立ち上がる。

遺物は陶磁器、越中瀬戸、土師質土器、木製遺物、貝類などが出土した。陶器は、碗（第74図1）、鉢、擂鉢（8、9、10）がある。碗は丸形碗で高台は、口径が小さく削り出す。黄色の灰釉で貫入がはいる。京、信楽系である。高台内には墨書があるが解読できない。鉢（8、9）は肥前系で18世紀前葉頃である。擂鉢（10）は口縁部のみ鉄釉を施し、口縁端部は肥大する。卸目は、一単位ごとの間隔は空き、先端は引きっぱなしとなる。17世紀後葉～18世紀代と考えられる。磁器は碗（2～4）、皿（5）があり、3は朱色の模様が入る。4は体部にコンニャク印判による文様を配し、時期は18世紀前葉頃である。ほかの碗も18世紀前葉前後の時期である。皿は青磁釉が掛かり、見込みは蛇の目釉はぎとなる。17世紀後半頃と考えられる。越中瀬戸は、壺（7）と擂鉢(11)が出土した。土師質土器は皿で、手づくねのやや古相のもの（14）も見られるが、12、13はロクロ成形である。13は越中瀬戸の皿に形状が類似する。木製遺物には漆器椀（6）がある。巴文で内面は朱漆となる。樹種はケヤキで下地は炭粉渋下地である。

SK236（第75、76図）

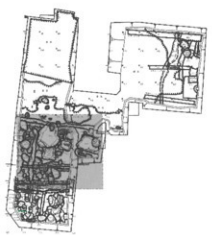
1区のB15グリッドに位置する。SD1の北側、武家屋敷地の範囲から検出した。平面形は楕円形である。新旧関係にあるSD243より時期は古い。規模は長軸が1.99m、短軸1.20m、深さ0.50mをはかる。

遺物は陶磁器、越中瀬戸、土師質土器、木製遺物が出土した。陶器は志野の丸皿がある（第76図1）。口縁部片で、全面長石釉が掛かる。大窯Ⅳ期16世紀末～17世紀代のものと考えられる。磁器は碗（3）、香炉（4）、が出土した。碗は筒形碗で18世紀中葉～後葉頃で、香炉は体部外面上半には青磁釉を施し下半にはたこ唐草文を配する、いわゆる『上手』と言われるものである。体部内面は無釉となる。口縁端部には敲打痕が見られることから、火入れ的な使われ方をしたと考える。18世紀前葉頃と考えられる。越中瀬戸は匣鉢（2）と擂鉢（5）が出土した。ともに鉄釉を施している。木製遺物は栓（6）がある。

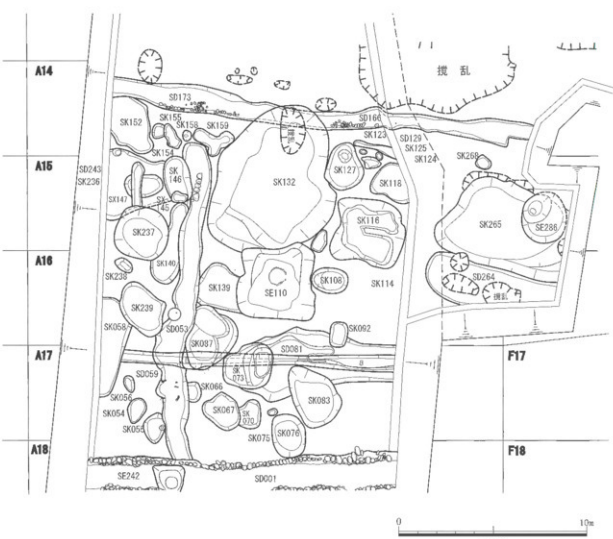
SK238（第75、76図）

1区のA16、B16グリッドに位置する。SD1の北側、武家屋敷地の範囲から検出した。平面形は楕円形である。遺構間の前後関係はない。規模は長軸が0.97m、短軸0.63m、深さ0.34mをはかる。

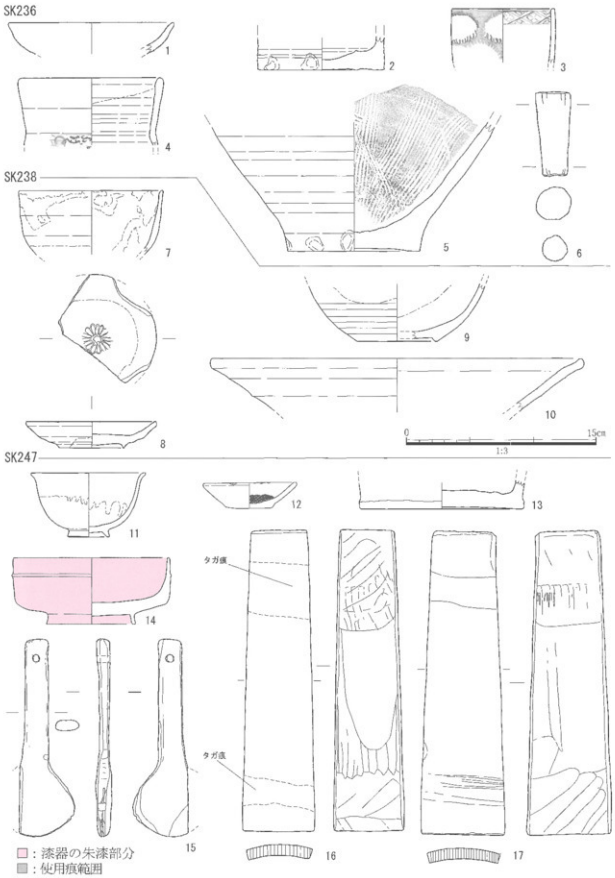
遺物は陶磁器、越中瀬戸、土師質土器、貝類が出土した。陶器は碗（第76図7）があり、鉄釉を施したもので、体部外面下方は、露胎となる。越中瀬戸は皿（8）、壺類（9）と擂鉢（10）が出土した。皿は張り付け高台で、灰釉を施し、体部外面下半は露胎となる。見込みは釉はぎとなり、明瞭な釉止めの段はなく、印花文を配する。この見込みには使用痕も明瞭に見られる。壺類は底部片で、高台は削り込みとなる。擂鉢は口縁部片に鉄釉を施す。時期は宮田編年Ⅱ期頃と考えられる。



富山城下町遺跡主要部（TYJM）



第75図　富山城下町遺跡主要部1区北側地区　遺構平面図（1:200）



第76図　SK236、238、247　遺物実測図 (1:3)

SK247（第43、76図）

1区のB19、B20グリッドに位置する。SD1の南側、町屋敷の範囲から検出した。平面形は不整形である。新旧関係にあるSE248、SK249より時期は新しい。規模は長軸が2.24m、短軸1.31m、深さ0.37mをはかる。

遺物は陶磁器細片、木製遺物が出土した。陶器は碗（第76図11）がある。京、信楽系の端反碗で体部は灰釉が掛かり、口縁部は緑釉を施し掛け分けとなり、時期は19世紀前葉～中葉頃と考えられる。越中瀬戸は匣鉢（13）があり、鉄釉が掛かる。底部内面には重ね焼き痕がある。土師質土器は皿（12）が出土した。口縁端部には煤痕があり、底部は回転糸切り未調整となる。形状が越中瀬戸に類似していることから、施釉前の素地を使った可能性がある。木製遺物は、漆器椀（14）、しゃもじ（15）、桶の側板（17）などが出土した。漆器椀は内外面ともに朱漆が施され、下地処理は『土』である。樹種はケヤキで、町屋敷側から出土した他の朱漆の漆器椀とは、下地処理や樹種などの点で類似する部分が多い。しゃもじは、身の部分が半分欠損したもので、柄には穴が空く。漆などの塗装は見られない。桶の側板は全周せず、部分的なものである。外面には箍の痕が見られ、内面の上下端部分には、鑿によって削り込んだ痕や、真ん中部分を中心に鏃痕が観察できた。

SK249（第43、78図）

1区のB20グリッドに位置する。SD1の南側、町屋敷の範囲に位置する。平面形は方形である。新旧関係にあるSK247、SK29より時期は古い。規模は長軸1.37m、短軸0.62m、深さ0.18mをはかる。

遺物は陶磁器、越中瀬戸、土師質土器、木製遺物が出土した。陶器は壺、甕類（第78図1）や擂鉢（5）がある。1は底部が回転糸切り未調整となり、体部は黄色に発色した灰釉を施す。内面には煤が残る。擂鉢は肥前系で、鉄釉が全面に掛かり底部には高台が付く。高台は踏ん張る形でなく、内側へ向き接地する。卸目は1単位で間隔は空かず、上端は均一な幅でナデが施される。時期は18世紀後葉～19世紀代となる。磁器は2が陶胎染付けの皿である。18世紀前葉頃と考えられる。越中瀬戸は匣鉢（3）があり、鉄釉を施し、底部内面には重ね焼き痕が見られる。土師質土器は皿である。非ロクロ成形であり、16世紀代以降と考えられる。6は土錘である。

SK251（第11、78図）

1区のC18、D18グリッドに位置する。SD1の南側、町屋敷の範囲に位置する。平面形は楕円形である。新旧関係にあるSK50より時期は新しい。規模は長軸1.42m、短軸1.28m、深さ1.54mをはかる。

遺物は陶磁器、木製遺物が出土した。陶器は肥前系の擂鉢（第78図13）で18世紀後葉頃である。磁器は碗（7）、皿（9、10）、猪口（8）がある。7の碗の時期は18世紀前葉である。9、10は輪花皿で17世紀後葉～18世紀前葉の頃となる。猪口は18世紀中葉である。越中瀬戸は皿（11）、壺（12）が出土した。皿、壺ともに鉄釉を施し、皿の底部は回転糸切り未調整となる。

SK252（第53、78図）

1区のC20、D20グリッドに位置する。SD1の南側、町屋敷の範囲に位置する。調査区の南壁際での検出であり、調査区域外へ広がる。平面形は楕円形で、新旧関係にあるSK45より時期は新しい。規模は長軸が3.28m、短軸2.69m、深さ1.52mをはかる。

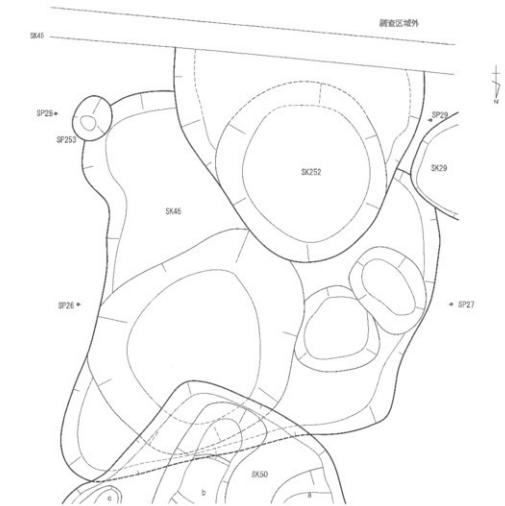
遺物は陶磁器が出土した。陶器は第78図14の碗で高台は削り出しとなり、鉄絵が入る。産地不明時期不明である。15は肥前系の皿である。17世紀中葉～後葉頃と考えられる。

SK277（第38、79、80、81図）

2区のL11グリッドに位置する。SD1の北側であり、武家屋敷の範囲から検出した。平面形は方形で、新旧関係にあるSK283より時期は古い。規模は長軸が2.68m、短軸2.42m、深さ0.2mをはかる。底面は、ほぼ平坦で壁は底面から上端へ直線的に立ち上がる。堆積土は単層となり、遺構の深さが浅かったことから明確な人為的堆積の有無は確認できない。しかし第13層の混入物に地山由来の灰色粘質土ブロックが見られた点や炭化物、焼土ブロックといった混入物が存在する点は、後述するSK283の第8層でも見られる共通点であり、人為堆積の可能性を示唆している。

遺物は陶磁器、土師質土器、木製遺物、石製品など多種である。SK277との立地関係や遺物の出土状況などから、ゴミ穴の可能性がある。

陶器は碗がある。灰釉が掛かるもので、信楽系とも考えられる。磁器はすべて肥前系で、碗（第79図2～4）、皿（5～9）が出土した。碗は2が底部片で、その高台内には墨痕がある。3や4は17世紀中葉～後葉頃のもので、丸形碗である。皿は、5～9の時期が17世紀中葉～後葉頃となり、碗の時期とほぼ同じものとなる。5は見込みが、蛇の目釉はぎとなり、高台は削り出しである。釉薬は均一には掛からず、まだらになる。6や7は高台端部が無釉となり、砂目である。7の口縁部には漆が付着する。越中瀬戸は碗（10）、皿（11～13）、擂鉢（14～17）が出土した。皿は11が貼付け高台で、見込みには印花文を配す。釉止めの段があり、そこから口縁部には灰釉を施す。12、13は削り込み高台で、鉄釉を施す。見込みは、釉はぎとなり使用痕が明瞭に確認できる。体部外面の上方は鉄釉が掛かるが、下方は露胎となる。時期は皿から宮田編年Ⅱ期頃と考えられる。土師質土器は皿（第80図18～25）と鍋（26）が出土した。皿は、18など小皿の部類に入るものも見られたが、底部径の大きいものが主となる。底部は回転糸切り未調整となる。口縁部には煤が付着している事から、灯明皿として使用したものと考えられる。これらの時期は越前編年の17世紀前葉～中葉頃にあたるものと考えられる。23の鍋は口縁部片で、内外面ともに赤彩が施されている。木製遺物は漆器椀（第80図27、28、29）、結桶、曲物底板（第81図31、32）、下駄（33、34）が出土した。漆器椀は外面黒漆、内面朱漆のもので、文様は27がカタバミ文で29は丸に松？と扇文が描かれている。この2点は文様を銀彩の蒔絵とし、成分分析から銀＋石黄からなることが分かった。樹種は、同定を行った27、29がブナ属であることが分かった。漆器の下地処理は炭粉渋下地であり、この2分析の結果の傾向は、武家屋敷で出土したほかの漆器に共通したものであり、樹種同定や塗膜分析を行っていない28も同様の可能性が考えられる。結桶、曲物の底板は厚みのある31と薄い32が出土した。31は結桶の底板である。32は曲物の底板で、内外面ともに黒漆が施され、内面の中心部分には炭化した部分が見られた。このことから火桶として使用したことを考える。下駄は差歯の露卯下駄であり、角形と丸形のものがある。ともに台の部分のみの出土で、歯の部分は欠損していて不明である。石製品は硯が出土した（第80図30）。方形のもので、全般的に使い込まれた感があり、陸には強く擦った痕跡が見られ、海の部分は浅くなっている。



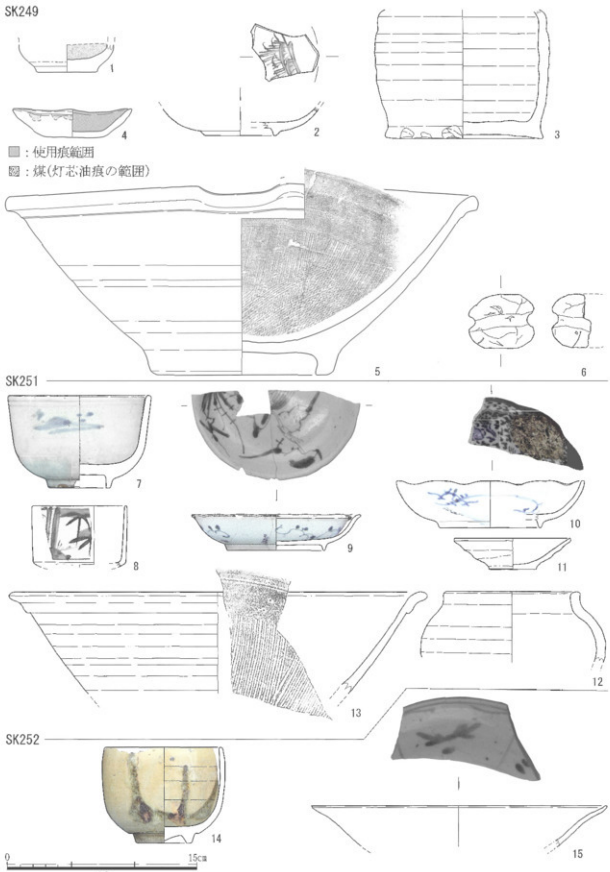
1 2.5Y3/1黒褐色シルト 5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルトブロックを多く含む。礫含む。(SP253埋土)
2 2.5Y3/1黒褐色シルト 5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルトブロックを含む。(SP253埋土)
3 5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルト 2.5Y3/1黒褐色シルトを含む。
4 2.5Y3/1黒色粘土質シルト(SK252埋土)
5 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト(SK252埋土)
6 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト 5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルトブロック、礫含む。(SK252埋土)
7 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト 5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルトブロック、礫多く含む。(SK252埋土)
8 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト 5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルト、炭化物わずかに含む。(SK45埋土)
9 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト 5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルトを多く含む。炭化物含む。(SK45埋土)
10 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト 7.5GY4/1暗緑灰色細粒砂、炭化物含む。(SK45埋土)

IV d 7.5GY4/1暗緑灰色細粒砂(地山)
IV g 5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルト(地山)
IV h 10Y4/1灰色粘土質シルト(地山)
IV i 7.5GY4/1暗緑灰色細粒砂 礫塊めて多く含む。(地山)

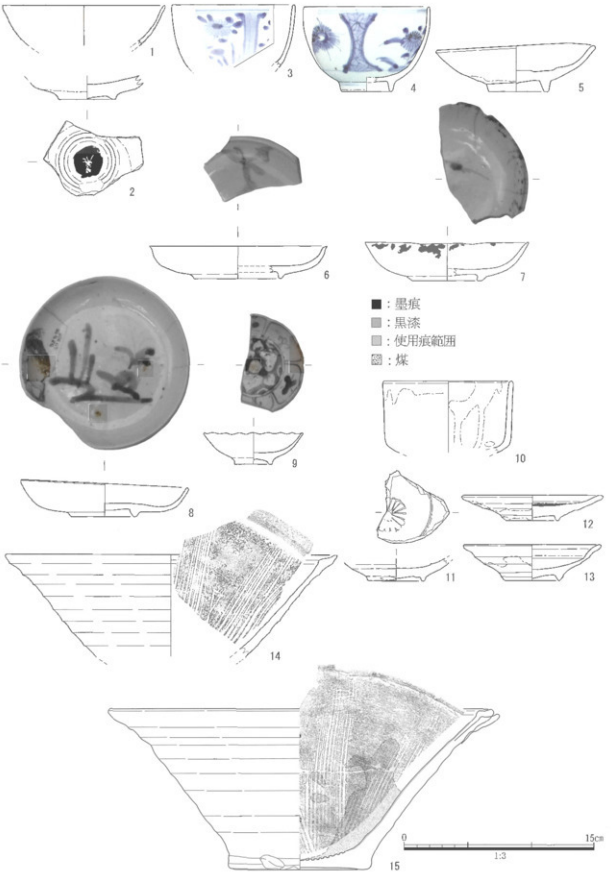
□：地山部分

0 2m
1:50

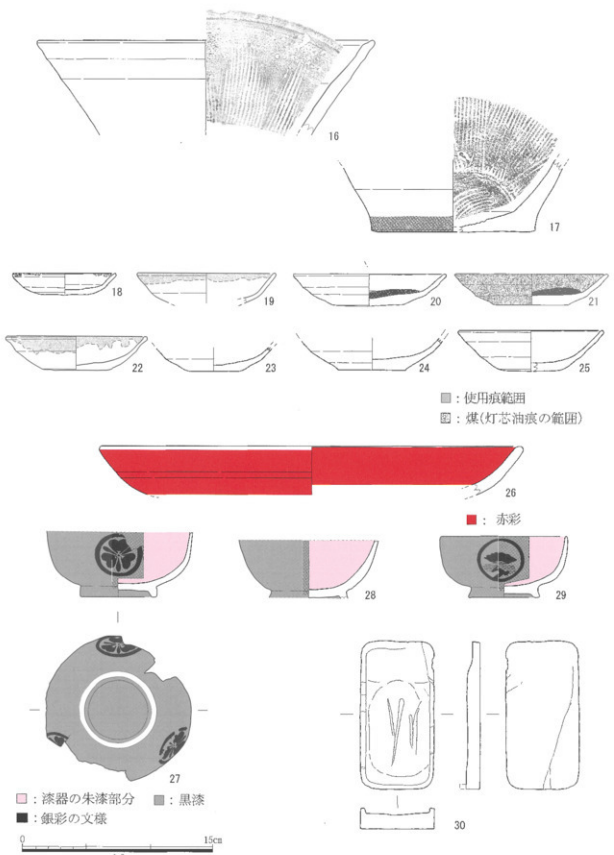
第77図 SK252、45、SP253 遺構平面図、断面図(1:50)



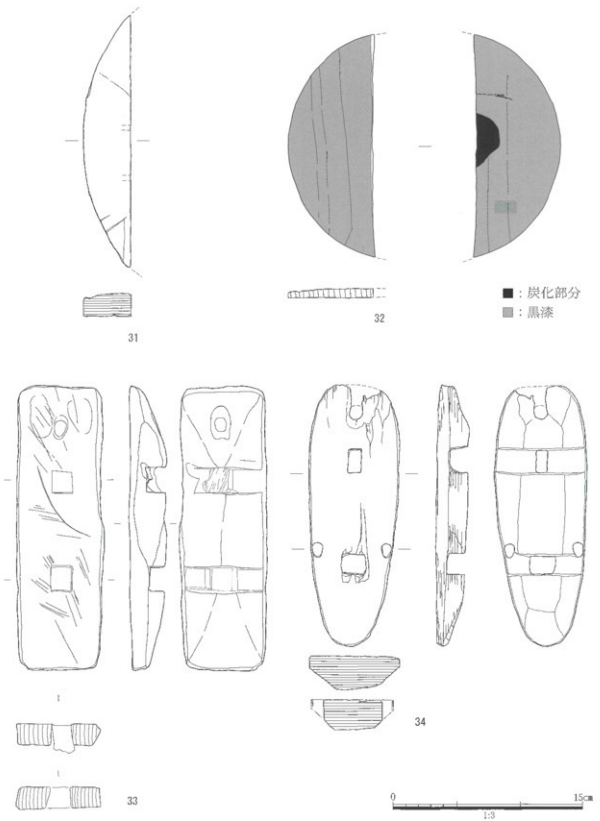
第78図　SK249、251、252　遺物実測図(1:3)



第79図　SK277　遺物実測図その1 (1:3)



第80図　SK277　遺物実測図その2 (1:3)



第81図　SK277　遺物実測図その3（1:3）

SK283（第38、82図）

２区のL11グリッドに位置する。SD１の北側であり、武家屋敷の範囲から検出した。平面形は隅丸方形であり、調査区東壁際で検出し、調査区域外へ広がる。新旧関係にあるSK277より時期は新しい。規模は長軸が2.43ｍ、短軸1.92ｍ、深さ1.86ｍをはかる。堆積土は人為堆積で第10、11、12層は植物遺体を多く含む腐植土である。

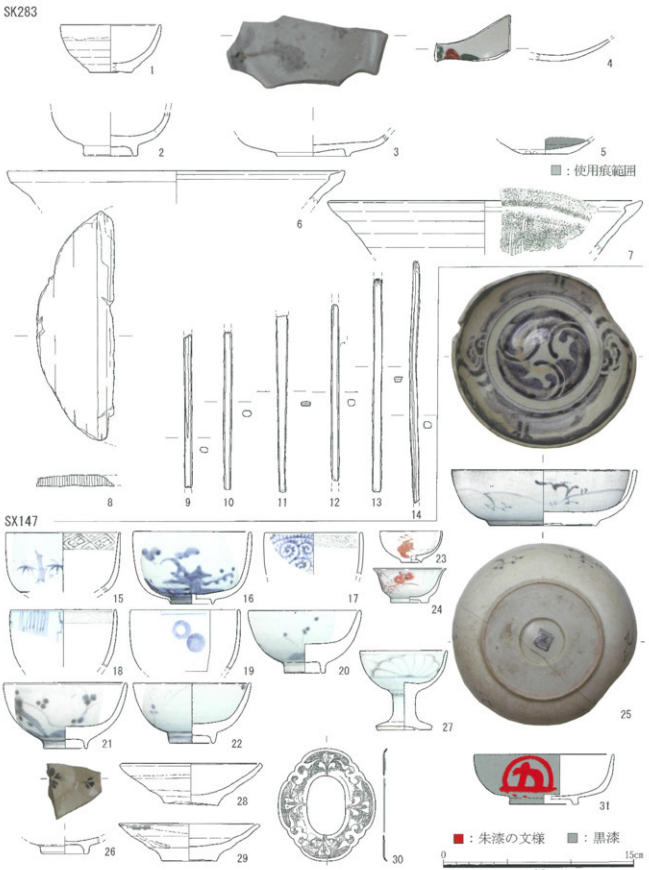
平面形から井戸の堀方とは違い、遺物の出土状況から、ゴミ穴として使用されたと考えられる。

遺物は陶磁器、越中瀬戸、土師質土器、木製遺物などが出土した。陶器は碗（第82図２）、小坏（１）が出土した。碗は底部片で、全面黄色の灰釉を施し、高台は削り出しとなる。胎土は緻密なもので、乳白色となる。瀬戸美濃系と考えられる。小坏は灰色釉が内面と外面の上方に掛かり、底部は回転糸切り未調整となる。磁器は碗（４）、皿（３）があり、４はうがい茶碗の細片で、内面には緑色と赤色による色絵を配す。皿はやや薄い呉須による文様があり、高台端部は砂目となる。17世紀中葉頃のものと考えられる。越中瀬戸は擂鉢の細片があり、鉄釉が掛かる。土師質土器は皿がある（５）。見込みには型打ちによる線が明瞭にあり、使用痕が残る。底部は回転糸切り未調整である。木製遺物は、曲物の底板と箸状木製品が出土した。

SX147（第75、82図）

１区のA15.B15グリッドに位置する。SD１の北側であり、武家屋敷の範囲から検出した。平面形は不整形で、新旧関係にあるSD50、SD243、SK146、236、237より時期は古い。長軸は3.80ｍ、短軸2.91ｍ、深さ0.40ｍをはかる。遺構の深さは浅く、平面形も不整形であり溝とも土坑とも判断できないため、ここでは不明遺構とした。

遺物は陶磁器、土師質土器、木製遺物、金属製品、石製品など多種にわたる。陶器は細片が多い。磁器は碗（第82図15、16、18～22）皿（25、26）猪口（17）紅猪口（23、24）仏飯器（27）がある。碗は総じて、『くらわんか手』の腰丸形で、時期は18世紀中葉頃のものであり、時期的にまとまる。出土遺物の器には、形態の統一性があり、蟹江家で使用していた器の器形への趣向性が感じられる。皿もまた丸形のもので、26が18世紀前葉～中葉頃と、やや古相の部分もあるが、25は18世紀中葉頃と考えられる。紅猪口は総じて18世紀代のもので、27の仏飯器も同様の時代のものと考えられる。越中瀬戸は皿（28、29）が出土した。皿は無高台のもので、底部は回転糸切り未調整となり、内面は鉄釉が全面に掛かり、体部外面は口縁部周辺にのみ施釉し、下方まで露胎となる。見込みには重ね焼き痕が見られる。宮田編年Ⅲ期頃か。木製遺物は漆器椀が出土した。朱漆による文様が見られるもので、高台は低く接地する。金属製品は飾金具で建具など襖の取っ手部分のものと考えられる。金属製品には図示はしていないが、火箸の破片も出土した。



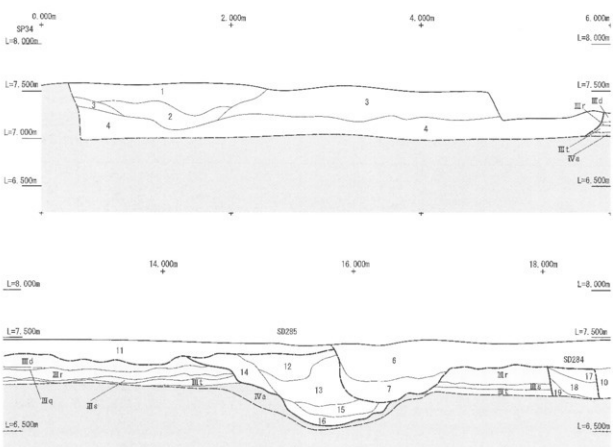
第82図　SK283、SX147　遺物実測図(1:3)

2区の堆積状況について（第83、84図）

2区は、武家屋敷地にあたるが、後世の撹乱によって大きく削平を受けていたため、屋敷地の痕跡はなかった。そこで人為的な整地の確認や自然環境の復元を目的とした試料の採取を、トレンチ3本を東西方向に設定して行った。

トレンチの西側から東へ6mほどの範囲は、3トレンチとも深く撹乱が入っていたことが判明した。トレンチ東側は、各トレンチで撹乱を受けた度合が違い、北側トレンチ以外は、深く撹乱が入ることは無かった。各トレンチで細かい堆積土を含めると21層ほど存在するが、その中で9つの層について、広範囲にその存在を確認することが出来た。この9層の層厚はさまざまであったが、層の底面は平坦で、一定の厚さで堆積するという共通点を持っていた。そのことから人為堆積の可能性が伺えたため、これらの層に対して土壌分析を行い、分析の数値の変動から人為堆積の可能性を探ることとした。

土壌分析は花粉、珪藻、プラントオパール分析を実施し、土壌サンプルは中央トレンチの土層観察面から採取した。その結果、古墳時代頃の土師器の細片が出土したⅢq層の上位層、Ⅲf層、Ⅲg層からは、水田の可能性を示すイネ機動細胞珪酸体が1万を超える数値で検出した。この層の時期は古墳時代以降で、古代、中世の水田であった可能性が非常に高い。またこの水田層の上層であるⅢe層からは、アブラナ科の花粉も多く検出し、栽培植物（蕪、大根、白菜など）の存在の可能性がある。このことから、中世より新しい時代には畑の立地の可能性を提示されている。Ⅲq層より下層については、Ⅲq層の直下の層であるⅢr層で、それまでの湿地環境から突然、乾燥状態の堆積環境となる変化が見られることから、人為的な整地行為による堆積土の可能性がある。ほかの層については、明確な人為堆積の可能性は読み取れなかった。（新宅）



エリア2　北側トレンチ

1　10YR3/1黒褐色シルト 2.5Y3/1黒褐色シルト、炭化物、焼土ブロック含む。(撹乱層)

2　5Y5/1灰色細粒砂 2.5Y3/1黒褐色シルト、5GS/1緑灰色粘土質シルトブロック、焼土ブロック含む。(撹乱層)

3　7.5Y4/1灰色シルト 5GS/1緑灰色粘土質シルトブロック、5Y4/1灰色細粒砂、焼土ブロックわずかに含む。(撹乱層)

4　7.5Y4/1灰色シルト 5GS/1緑灰色粘土質シルトブロック、礫、炭化物含む。(撹乱層)

5　10YR4/1褐灰色シルト 礫含む。(撹乱層)

6　2.5Y3/1黒褐色シルト 砂礫多く含む。(撹乱層)

7　2.5Y4/1黄灰色シルト 砂礫多く含む。(撹乱層)

8　5Y4/1灰色細粒砂 礫多く含む。(撹乱層)

9　2.5Y2/1黒色シルト 細粒砂、炭化物含む。(撹乱層)

10　5Y4/1灰色シルト 砂礫多く含む。焼土ブロックわずかに含む。(撹乱層)

11　5Y4/1灰色シルト 砂礫含む。(撹乱層)

12　2.5Y4/1黄灰色シルト 2.5Y3/1黒褐色シルトを含む。(SD285堆土)

13　2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト 2.5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルトブロック、炭化物含む。(SD285堆土)

14　2.5Y4/1黄灰色粘土質シルト 2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト、礫含む。(SD285堆土)

15　5Y4/1灰色粘土質シルト 炭化物含む。(SD255堆土)

16　5Y3/1オリーブ黒色粘土質シルト 7.5GY5/1緑灰色粘土質シルトブロックを含む。(SD285堆土)

17　2.5Y3/1黒褐色シルト 2.5Y4/1黄灰色シルトを含む。(SD284堆土)

18　2.5Y3/1黒褐色シルト 炭化物を含む。(SD284堆土)

19　7.5Y4/1灰色シルト 細粒砂含む。(SD284堆土)

IIId 5Y4/1灰色シルト 礫わずかに含む。(整地土?)

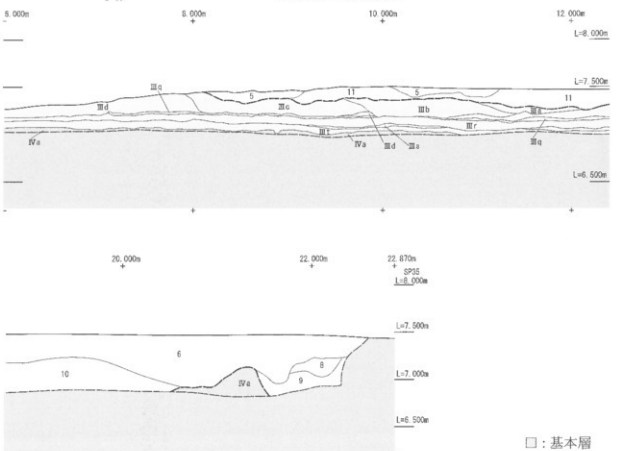
IIIe N1.5/黒色粘土質シルト 炭化物含む。(古墳時代遺物包含層?)

IIIf 5Y2/1黒色粘土質シルト 5Y3/1オリーブ黒色粘土質シルトを含む。

IIIg 7.5GY6/1緑灰色砂土質シルト 5Y2/1黒色粘土質シルトを含む。

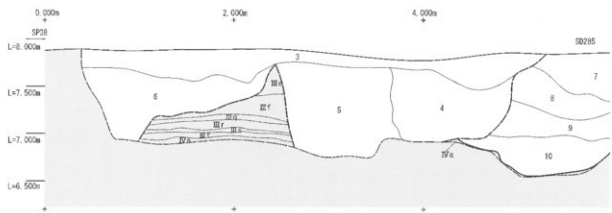
IIIt 5Y2/1黒色砂土質シルト

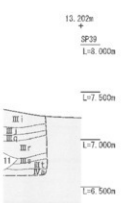
IVa 10YR6/1灰色粘土質シルト(地山)

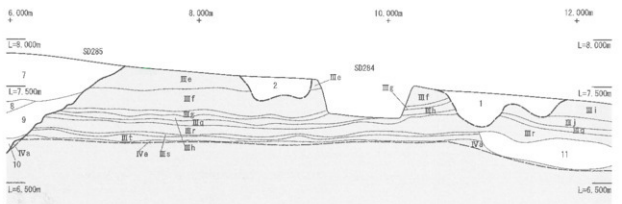


□：基本層

第83図　2区北側トレンチ断面(1:40)


0.000m
2.000m
4.000m
SP38
SD285
L=8.000m
L=7.500m
L=7.000m
L=6.500m
3
6
5
4
7
8
9
10
IIIe
IIIf
IIIg
IIIr
IIIs
IVa


13.202m
SP39
L=8.000m
L=7.500m
L=7.000m
L=6.500m
IIIi
IIIg
IIIr
IIIs
IIIt
IVa



エリア2　中央トレンチ

1　2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト　礫、炭化物を含む。(撹乱層)

2　5Y2/1オリーブ黒色シルト 5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルトブロック、細粒砂、炭化物含む。(撹乱層)

3　2.5Y3/1黒褐色シルト 2.5Y4/2暗灰黄色シルト、礫、炭化物、焼土ブロック含む。(撹乱層)

4　2.5Y3/1黒褐色シルト 礫多く含む。炭化物、焼土ブロック含む。(撹乱層)

5　2.5Y3/1黒褐色シルト 7.5GY6/1緑灰色粘土質シルトブロック、細粒砂、炭化物、焼土ブロック含む。礫堆めて多く含む。(撹乱層)

6　2.5Y4/1黄灰色シルト 7.5GY6/1緑灰色粘土質シルトブロックを多く含む。炭化物、焼土ブロック含む。(撹乱層)

7　2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト 砂礫、炭化物、焼土ブロック含む。(SD285埋土)

8　2.5Y4/1黄灰色粘土質シルト 炭化物わずかに含む。(SD285埋土)

9　2.5Y4/1黄灰色粘土質シルト 炭化物含む。(SD285埋土)

10 5Y3/1オリーブ黒色粘土質シルト 7.5GY5/1緑灰色粘土質シルトブロックを含む。(SD285埋土)

11 7.5Y4/1灰色細粒砂 5Y3/1オリーブ黒色粘土質シルト、5Y4/1灰色細粒砂を含む。(遺構埋土？)

Ⅲe 5Y4/1灰色シルト 細粒砂含む。(畑か)

Ⅲf 5Y3/1オリーブ黒色粘土質シルト 2.5Y5/3黄褐色粘土質シルト、細粒砂含む。マンガンが沈着する。(水田層)

Ⅲg 5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルト 細粒砂を含む。マンガンが沈着する。(水田層)

Ⅲh 5Y4/1灰色粘土質シルト 炭化物含む。(整地土？)

Ⅲi 5Y4/1灰色シルト 細粒砂含む。(整地土？)

Ⅲj 5Y3/1オリーブ黒色粘土質シルト(整地土？)

Ⅲq N1.5/黒色粘土質シルト 炭化物含む。(古墳時代遺物包含層)

Ⅲr 5Y2/1黒色粘土質シルト 5Y3/1オリーブ黒色粘土質シルトを含む。

Ⅲs 7.5GY6/1緑灰色粘土質シルト 5Y2/1黒色粘土質シルトを含む。

Ⅲt 5Y2/1黒色粘土質シルト

Ⅳa 10Y6/1灰色粘土質シルト(地山)

第84図　2区中央トレンチ断面(1:40)

第2表　富山城跡　富山城下町遺跡（主要部）遺構観察表

遺跡名	遺構番号	地区	グリッド	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物	層序
TYJM	SD1	1区	A18-D18	―	(16.35)	(1.90)	1.25	陶磁器、越中瀬戸、土師質土器、人形、木質遺物、金属製品、石製品、自然遺物/貝	29層
TYJM	SK2	1区	A18・A19	楕円形	2.01	1.51	1.07	陶磁器、越中瀬戸、土師質土器、木質遺物、金属製品、自然遺物/種実	単層
TYJM	SK3	1区	A19	楕円形	(1.02)	(0.96)	0.98	陶磁器、越中瀬戸、土師質土器、木質遺物、金属製品	単層
TYJM	SK4	1区	A19	楕円形	(0.79)	(0.92)	0.37	陶磁器、土師質土器、金属製品	単層
TYJM	SK6	1区	B18	不整形	1.23	1.15	0.49		単層
TYJM	SK7	1区	B18・B19	不整形	1.11	(0.58)	0.50		単層
TYJM	SK8	1区	B19	不整形	1.20	(0.56)	0.68		単層
TYJM	SK9	1区	A19・B19	楕円形	2.48	1.79	0.86	陶磁器、越中瀬戸、土師質土器、木質遺物	単層
TYJM	SK10	1区	A19	円形	0.59	0.51	0.18	陶磁器	単層
TYJM	SK12	1区	B19	楕円形	1.21	1.20	0.28	陶器、越中瀬戸	単層
TYJM	SK13	1区	A19	楕円形	0.93	0.85	0.20	陶磁器、土師質土器	単層
TYJM	SK14	1区	A19-B19	隅丸方形	1.88	(0.93)	0.29	陶磁器	単層
TYJM	SK15	1区	B19	円形	0.54	0.35	0.10		
TYJM	SK16	1区	B19	不整形	1.70	1.03	0.43		単層
TYJM	SK18	1区	B19	円形	0.80	0.58	0.24	陶器	単層
TYJM	SK19	1区	B19	隅丸方形	1.27	(1.07)	0.14	陶磁器、越中瀬戸、土師質瓦質土器	単層
TYJM	SK20	1区	B19	不整形	1.33	0.91	0.38		単層
TYJM	SK21	1区	B18・B19	楕円形	1.50	1.09	0.72	陶磁器、土師質土器	単層
TYJM	SK22	1区	B19	円形	0.48	0.36	0.37		
TYJM	SK23	1区	B19	楕円形	0.65	0.53	0.26	陶器、瓦質土器	
TYJM	SK25	1区	B19・C19・B20・C20	不整形	(1.00)	1.09	0.32	陶磁器	単層
TYJM	SK26	1区	B19・C19	円形	1.36	(0.82)	0.48	陶器	単層
TYJM	SK27	1区	B19・C19	隅丸方形	3.31	1.27	0.71	陶磁器、土師質土器	単層
TYJM	SK29	1区	B20・C20	隅丸方形	2.56	1.87	0.65	陶磁器、木質遺物	単層
TYJM	SK39	1区	D20	不整形	(2.34)	(1.39)	0.37		単層
TYJM	SK41	1区	D20	隅丸方形	1.66	(1.13)	0.67	陶磁器、石製品	単層
TYJM	SK43	1区	D18・D19	隅丸方形	4.89	(1.78)	0.37	陶磁器、石製品	単層
TYJM	SK45	1区	C19・D19・C20・D20	隅丸方形	5.02	(4.30)	1.38	陶磁器、越中瀬戸、土師質土器、珠洲、石製品、木質遺物、自然遺物/貝	7層
TYJM	SK50	1区	C18・D18・C19・D19	隅丸方形	4.27	3.85	1.05	陶磁器、越中瀬戸、土師質土器、瓦質土器、木質遺物、金属製品	
TYJM	SD53	1区	B14-B18	南北方向	(16.71)	1.70	0.45	陶磁器、越中瀬戸、土師質土器	単層
TYJM	SK54	1区	B17	不整形	1.36	0.95	0.33	陶器	単層
TYJM	SK55	1区	B17	不整形	1.60	1.17	0.59		単層
TYJM	SK56	1区	B17	楕円形	0.86	0.54	0.23		単層
TYJM	SK58	1区	A16・A17	隅丸方形	5.26	(1.82)	0.35	陶磁器、土師質土器	単層
TYJM	SD59	1区	B17-D17	東西方向	(14.53)	0.87	0.34	木質遺物、金属製品	単層
TYJM	SK66	1区	B17	円形	1.06	(0.68)	0.19		単層
TYJM	SK67	1区	B17・C17	不整形	2.07	1.63	0.38	陶磁器(皿・擂鉢・鉢類・小杯・火入れ)、越中瀬戸(皿)、木質遺物(桶の蓋・底板・栓)	
TYJM	SK70	1区	C17	不整形	1.87	1.32	0.45		
TYJM	SK73	1区	C17	不整形	2.61	2.39	0.30	陶磁器、越中瀬戸	
TYJM	SK75	1区	C17	不整形	0.52	0.34	0.42		単層
TYJM	SK76	1区	C17・C18	楕円形	2.31	1.75	0.50	陶器、土師質土器	
TYJM	SD81	1区	C16・D16・C17・D17	―	(7.86)	3.58	0.52	陶磁器、越中瀬戸、土師質土器、瓦質土器、木質遺物、石製品、金属製品	
TYJM	SK83	1区	C17・D17	不整形	3.45	2.30	0.82	陶磁器、土師質、珠洲、瓦質土器、木質遺物、金属製品	2層
TYJM	SK87	1区	B16・C16・B17・C17	楕円形	3.42	(2.68)	1.00	陶磁器、越中瀬戸、土師質土器、珠洲、瓦質土器、木質遺物	13層
TYJM	SK92	1区	D16	楕円形	1.33	0.94	0.60	陶磁器、木質遺物	2層
TYJM	SK108	1区	D16	楕円形	1.93	1.34	0.50	陶磁器、木質遺物	
TYJM	SE110	1区	C16	隅丸方形	4.15	3.69	(1.70)	陶磁器、土師質土器、木質遺物、自然遺物/貝	3層まで確認
TYJM	SK114	1区	D15	楕円形	1.20	0.71	0.60		単層
TYJM	SK116	1区	D15・D16	隅丸方形	3.75	3.35	0.58	陶磁器、越中瀬戸、珠洲、木質遺物	7層
TYJM	SK118	1区	D15	不整形	(1.83)	2.05	0.19		
TYJM	SK123	1区	D14	楕円形	0.39	0.23	0.13		
TYJM	SK124	1区	D15	不整形	1.04	0.63	0.36		
TYJM	SK125	1区	D14・D15	楕円形	0.43	0.32	0.09		
TYJM	SK127	1区	D14・D15	楕円形	2.52	2.00	0.70	磁器、土師質土器	6層
TYJM	SD129	1区	D14・D15	東西方向	(2.17)	0.50	0.13	土師質土器	
TYJM	SK132	1区	C14・D14・C15・D15	隅丸方形	8.26	6.64	1.19	陶磁器、越中瀬戸、土師質土器、木質遺物、石製品、自然遺物/骨、種子	16層
TYJM	SK139	1区	B16・C16	隅丸方形	(2.05)	2.32	0.12	陶磁器、越中瀬戸、土師質土器、瓦質土器	
TYJM	SK140	1区	B15・B16	楕円形	4.36	1.56	0.39	陶磁器、土師質土器	単層
TYJM	SX145	1区	B15	不整形	0.86	0.59	0.46	陶磁器	
TYJM	SK146	1区	B15	楕円形	2.41	1.41	0.35	陶磁器、土師質土器、木質遺物	単層
TYJM	SX147	1区	A15・B15	不整形	3.80	(2.91)	0.40	陶磁器、土師質土器、木質遺物、石製品、金属製品	
TYJM	SK152	1区	A14・B14	不整形	(3.38)	2.33	0.27		
TYJM	SK154	1区	B14	楕円形	0.80	0.76	0.28	陶磁器、越中瀬戸、土師質土器、、瓦質土器、木質遺物、石製品	

遺跡名	遺構番号	地区	グリッド	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物	層序
TYJM	SK155	1区	B14	不整形	1.42	0.73	0.28	陶器、越中瀬戸	単層
TYJM	SK158	1区	B14	円形	0.54	0.47	0.43		単層
TYJM	SK159	1区	B14・C14	不整形	2.13	1.06	0.24		
TYJM	SD166	1区,2区	D14・F14	東西方向	(11.17)	1.04	0.31	陶磁器、越中瀬戸、土師質土器	
TYJM	SD173	1区	A14・C14	東西方向	(3.21)	1.47	0.27	陶磁器、越中瀬戸、土師質土器	
TYJM	SK226	1区	B15	楕円形	1.59	1.20	0.16	陶磁器、土師質土器、木質遺物	単層
TYJM	SK237	1区	A15・B15・B16	楕円形	2.72	2.72	2.04	陶磁器、越中瀬戸、土師質土器、石製品、人形、木質遺物、ガラス製品	12層
TYJM	SK238	1区	A16・B16	楕円形	0.97	0.62	0.34	陶磁器、越中瀬戸、土師質土器、自然遺物/貝	
TYJM	SK239	1区	A16・B16	楕円形	3.08	2.22	0.50	陶磁器、土師質土器、木質遺物、自然遺物/貝	単層
TYJM	SE242	1区	B18	隅丸方形	1.47	1.43	(1.14)	陶磁器、土師質土器、	2層
TYJM	SD243	1区	B15	南北方向	(2.32)	0.69	0.53	陶器、木質遺物、木質遺物、金属製品	単層
TYJM	SK244	1区	B20	楕円形	1.53	1.04	0.34		
TYJM	SK245	1区	B19	円形	0.85	0.68	0.43	陶器	単層
TYJM	SK246	1区	A20・B20	楕円形	0.96	0.39	0.09		単層
TYJM	SK247	1区	B19・B20	不整形	2.24	1.31	0.37	陶磁器、土師質土器、木質遺物	単層
TYJM	SE248	1区	B20	楕円形	1.27	(0.84)	1.45	陶磁器、越中瀬戸、土師質土器、瓦、木質遺物	埋土が多C2層のみ確認
TYJM	SK249	1区	B20	方形	(1.38)	0.62	0.18	陶磁器、越中瀬戸、土師質土器、木質遺物	単層
TYJM	SK251	1区	C18・D18	楕円形	1.42	1.28	1.54	陶磁器、越中瀬戸、木質遺物	
TYJM	SK252	1区	C20・D20	楕円形	3.28	(2.69)	1.52	陶磁器	4層
TYJM	SP253	1区	D20	円形	0.58	0.48	0.45	木質遺物	2層
TYJM	SX254	1区	B18・B19	南北方向	3.63	0.69	0.29		
TYJM	SX255	1区	C18・D19	南北方向	7.08	0.83	0.35	陶磁器、越中瀬戸	
TYJM	SK256	1区	D14・D15	円形	0.70	0.67	0.68		5層
TYJM	SD264	2区	E16・F16	東西方向	(6.90)	(2.18)	0.29	陶器、越中瀬戸	
TYJM	SK265	2区	E15・F15・E16F16	不整形	(6.87)	4.64	0.90	陶器	
TYJM	SK268	2区	E15	不整形	0.80	0.65	0.24	陶器、木質遺物	単層
TYJM	SK270	2区	G14	楕円形	0.73	0.43	0.17		単層
TYJM	SK271	2区	G14	円形	0.46	0.42	0.33		単層
TYJM	SD272	2区	G14	東西方向	(2.16)	(0.65)	0.13		単層
TYJM	SE273	2区	K10・L10	円形	2.17	2.09	(1.99)	木質遺物	2層確認
TYJM	SK274	2区	L10	楕円形	(1.93)	1.10	0.61		
TYJM	SD275	2区	L9・L10	南北方向	(3.66)	0.88	0.24		
TYJM	SK276	2区	L9・L10	不整形	(3.48)	(0.67)	0.28		
TYJM	SK277	2区	L11	方形	(2.69)	2.42	0.20	陶磁器、土師質土器、木質遺物、石製品	1層以上
TYJM	SK279	2区	K10	円形	0.98	0.84	0.15		
TYJM	SE281	2区	L12	円形	2.19	(1.03)	(1.52)	陶器、木質遺物	5層以上
TYJM	SK282	2区	K10・L10	不整形	(3.28)	(2.77)	0.26		6層
TYJM	SK283	2区	L11	隅丸方形	(2.43)	1.82	1.84	陶磁器、越中瀬戸、土師質土器、木質遺物	6層
TYJM	SD284	2区	K9・K11・L10	南北方向	(12.06)	1.54	0.40	陶磁器、越中瀬戸、土師質土器	
TYJM	SD285	2区	K9・K10・J10・I9	南北方向	(22.55)	1.79	1.28		
TYJM	SE286	2区	F15	円形	2.62	2.45	1.83	陶器、木質遺物	3層
TYJ	SD1	3区・4区	E2・L2・G3・L3・G4・L4・I5・L5	東西方向	45.94	12.78	3.46	陶磁器、珠洲、瓦質土器、木質遺物	

第3表　土器・石製品・金属製品遺物観察表

図版番号	報告番号	遺構番号	層位	種類器種	法量(cm) ( )は復元値 口径(長さ)	器高	高台長	厚さ	底径	重量(g)	調整・施文 内面	外面	釉薬 内面／外面	色調 内面	外面	底部 (成形・調整)	産地	備考
10	1	TYJ SD1	上層	磁器/甕	(5.7)	(5.7)	—	—	3.9	—	ロクロナデ	長石釉で文様を施釉	/灰釉	10YR5/2 灰黄褐	2.5Y5/2 暗灰黄			
	2	TYJ エリア4 SD1一括	—	陶器/甕	(13.4)	—	—	0.5	3.7	—	—	ロクロナデ ロクロヘラケズリ	鉄釉 鉄釉	2.5Y6/1黄灰	2.5Y6/1黄灰			
	3	TYJ E3 SD001	上層	磁器/碗	(11.0)	(3.4)	—	0.5	4.4	—	—	—	—	N8/灰白	N8/灰白			
	4	TYJ E3 SD1	上層	磁器/碗	8.4	3.4	0.5	0.4	3.9	—	—	—	—	N8/灰白	N8/灰白			19C代以降
	5	TYJ E3 SD1	—	越中瀬戸/皿	—	(6.2)	(0.4)	0.7	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙			
	6	TYJ エリア4 トレンチ3	—	陶器/擂鉢	—	(8.3)	—	0.6	(7.5)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/2 灰白	回転糸切り後使用の為 端部が丸味を帯び すり減されている	瀬戸美濃系か	一単位中太11本ほど
	7	TYJ E3 SD1	下層	珠洲/擂鉢	—	—		1.1	—	—	—	—	—	N5/灰	N5/灰			残存長5.0
14	1	SD1	背割内	陶器/碗	9.0	5.1	0.6	0.4	7.2	—	ロクロナデ	ロクロナデ	褐釉～黒釉 褐釉～黒釉	2.5Y8/1灰白	2.5Y8/3淡黄	削り出し高台	瀬戸美濃系か	
	2	SD1	背割内	陶器/碗	(3.4)	(3.2)	0.4	0.9	6.5	—	—	ロクロヘラケズリ	鉄釉(黒釉) 鉄釉(黒釉)	5YR7/3 にぶい橙	5YR7/3 にぶい橙	削り出し高台		
	3	SD1	背割内	陶器/碗	(10.4)	(7.5)	0.8	0.7	7.0	—	ロクロナデ	ロクロナデ ロクロヘラケズリ	灰釉/灰釉	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	削り出し高台		
	4	SD1	上層	陶器/碗	—	(4.8)	0.7	0.3	(2.8)	—	ロクロヘラケズリ	ロクロヘラケズリ	黒釉 黒釉ビラ掛け	N5/1灰～ 10YR6/4 にぶい黄橙	N5/1灰～ 10YR6/4 にぶい黄橙	削り出し高台		
	5	SD1	背割内	陶器/碗	—	(4.5)	0.8	0.3	(2.5)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	削り出し高台		灰釉の地に 鉄釉にて文様を入れている
	6	SD1	下層	陶器/碗	—	5.8	1.2	1.2	(3.8)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白色の長石釉 灰白色の長石釉	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/3 にぶい橙	削り出し高台		
	7	SD1	背割内	陶器/皿	(13.0)	(4.6)	0.5	0.5	4.5	—	ロクロヘラケズリ	ロクロヘラケズリ	灰釉 灰釉	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y6/3 にぶい黄	削り出し高台		
	8	SD1	背割内	陶器/鉢	—	(7.4)	1.0	0.3	(6.5)	—	—	—	鉄釉(黒褐) 鉄釉(黒褐)	10YR7/1灰白	10YR7/1灰白	削り出し高台		
	9	SD1	背割内	陶器/鉢	(13.0)	(8.0)	0.7	0.2	7.3	—		ロクロヘラケズリ	鉄釉(黒褐) 鉄釉(黒褐)	7.5YR6/1 褐灰	7.5YR6/1 褐灰	削り出し高台		
	10	SD1	背割内	陶器/鉢	—	(7.8)	1.8	0.7	(5.4)	—	ハケ目	ハケ目	—	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐		肥前系	
	11	SD1	上層	京焼/蓋	(5.0)	—	—	0.8	—	—	竹文か	—	—	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白			[illegible] 貫入が入る
	12	SD1	上層	陶器/皿	(14.0)	6.0	0.6	0.3	3.8	—	—	—	—	5Y7/1灰白	5Y7/2灰白			円錐ピンの痕が残る (重ね焼き痕あり)
	13	SD1	背割内 最下層	陶器/皿	(15.3)	(2.6)	0.4	0.35	(4.8)	—	—	—	—	2.5Y8/3淡黄	2.5Y8/3淡黄		京・信楽系	19C前葉頃
	14	SD1	背割内 最下層	陶器/皿	(11.0)	(4.0)		0.2	2.4	—	ロクロヘラケズリ	ロクロヘラケズリ	灰釉貫入アリ 灰釉貫入アリ	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	ロクロヘラケズリ調整	京・信楽系	煤かタールが口縁部にあり
	15	SD1	上層	陶器/皿	—	(4.6)	0.8	0.4	(2.5)	—	ロクロヘラケズリ	ロクロヘラケズリ	灰釉 灰釉	5YR6/6橙	5YR5/6 明赤褐	削り出し高台		
	16	SD1	最下層	陶器/合子	(8.4)	(4.4)		0.4	2.8	—	—	—	灰釉 灰釉	5YR8/1灰白	5YR8/1 灰白	ロクロヘラケズリ調整		底部に墨書あり
	17	SD1	背割内	磁器/紅猪口	4.6	1.4	0.2	0.3	1.4	—	—	—	白磁系釉薬 白磁系釉薬	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	菊花形 17C末～18C中
	18	SD1	背割内	陶器/皿	(23.8)	(8.0)	—		4.6	—	—	—	鉄釉 鉄釉	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	削り出し高台		
	19	SD1	最下層	陶器/灯明受皿	(8.6)	(3.0)	—	0.15	1.9	—	ロクロヘラケズリ	ロクロヘラケズリ	灰釉 灰釉	5Y6/1灰	5Y6/1灰	ロクロヘラケズリ調整		
	20	SD1	背割内 最下層	陶器/灯明受皿	(11.2)	(5.2)	—	0.3	2.5	—	—	ロクロヘラケズリ	灰釉 灰釉	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	ロクロヘラケズリ調整		
	21	SD1	背割内	陶器/灯明受皿	12.0	4.8	—	0.9	2.5	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	2.5Y6/2灰黄	2.5Y6/2灰黄	回転糸切り未調整		
15	22	SD1	背割内 最下層	陶器/鉢	(16.4)	—	—	0.8	(3.8)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	灰釉 灰釉	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白			
	23	SD1	背割内	陶器/鉢	—	(11.0)	0.5	0.6	(5.2)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	／白泥	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	削り出し高台		
	24	SD1	上層	陶器/植木鉢	—	(8.0)	—	0.9	(8.7)	—	—	—	黒釉 黒釉	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	ヘラケズリ調整		
	25	SD1	背割内	陶器/壺	(12.4)	(2.6)	—	0.4	10.0	—	—	沈線	鉄釉(赤どべか) 鉄釉(赤どべか)	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	ロクロヘラケズリ調整		
	26	SD1	上層	陶器/壺	(16.4)	—	—	0.5	(4.0)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	灰釉 鉄釉	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙			
	27	SD1	—	陶器/壺、蓋物	—	(12.6)	—	0.7	(9.0)	—	ロクロナデ	ロクロナデ 貼付	鉄釉 鉄釉	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	回転糸切り		
	28	SD1	背割内	陶器/甕	(12.6)	(4.3)	0.6	0.4	4.0	—	ロクロヘラケズリ	ロクロヘラケズリ	灰釉長石釉流し 灰釉長石釉流し	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR7/2 にぶい黄橙	削り出し高台		
	29	SD1	下層	土製品/ 箱庭道具	5.0		—	1.5	—	—	—	—	—	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙			宝塔
	30	SD1	背割内	土製品/ 箱庭道具	—	—	—	0.2	(3.8)	—	—	—	—	5Y7/2灰白	5Y7/2灰白			大黒
	31	SD1	背割内	土製品/人形	11.8	—	—	—	—	—	—	—	—	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白			幅2.6
	32	SD1	背割内	陶器/髪油壺	3.2	4.2	—	(0.4)	5.9	—	—	ロクロナデ	/灰釉	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	回転糸切り未調整		
16	33	SD1	背割内	磁器/碗	(12.0)	5.0	0.0	0.5	6.0	—	—	菊花文	—	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1灰白			18C代
	34	SD1	背割内 最下層	磁器/碗	(9.4)	—	—	0.2	(4.0)	—	—	—	—	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	腰丸形 18C中葉～後葉頃
	35	SD1	背割内 最下層	磁器/碗	(8.2)	—	—	0.8	(4.6)	—	—	矢羽文に 一条の線	透明釉 透明釉	5GY8/1灰白	5GY8/1灰白		肥前系	腰丸形 18C中葉～後葉頃
	36	SD1	背割内 最下層	磁器/碗	(9.8)	—	—	0.4	(4.1)	—	三条の線	松竹梅文	透明釉 透明釉	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	腰丸形 18C中葉～後葉頃
	37	SD1	背割内	磁器/碗	(9.0)	—	—	0.4	(5.6)	—	—	菊花文	透明釉 透明釉	7.5GY8/1 明緑灰	7.5GY8/1 明緑灰			18C代
	38	SD1	背割内	磁器/碗	(7.3)	—	—	0.3	(5.0)	—	—	松竹梅文	くすんだ透明釉 くすんだ透明釉	2.5Y8/1灰白	2.5Y8/1灰白			
	39	SD1	背割内	磁器/碗	—	6.0	0.7	1.2	(5.4)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	透明釉 透明釉	2.5Y6/1黄灰	2.5Y6/1黄灰			陶胎染付
	40	SD1	—	磁器/碗	7.2	3.6	0.6	0.3	4.0	—	—	—	透明釉 貫入が入る	5YR6/6橙	5YR6/6橙	削り出し高台		
	41	SD1	表面	磁器/碗	(9.2)	—	—	0.4	(4.6)	—	—	圏線文	透明釉 透明釉	N8/灰白	2.5GY8/1灰白			
	42	SD1	背割内	磁器/碗	—	(5.0)	0.5	0.5	(2.8)	—	—	—	—	2.5GY8/1 灰白	2.5GY8/1 灰白		肥前系	渦福銘の印アリ 18C後葉頃
	43	SD1	背割内	磁器/碗	—	4.9	0.8	0.4	(2.4)	—	山水文	波濤文	—	7.5GY8/1 明緑灰	7.5GY8/1 明緑灰			18C後葉頃
	44	SD1	背割内 最下層	磁器/皿	—	10.0	0.2	0.5	(2.1)	—	—	—	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	2.5GY8/1 灰白	2.5GY8/1 灰白	蛇の目高台		呉須は薄い
	45	SD1	背割内 最下層	磁器/皿	13.6	7.4	0.5	0.9	4.1	—	菊花文等	唐草文	透明釉に呉須 透明釉に呉須	2.5GY8/1 灰白	2.5GY8/1 灰白		肥前系	くらわんか手 18C前葉～中葉
	46	SD1	背割内 最下層	磁器/皿	13.5	7.2	0.5	0.9	4.3	—	松竹梅	唐草文	透明釉に呉須 透明釉に呉須	2.5Y8/1灰白	2.5Y8/1灰白		肥前系	くらわんか手 18C前葉～中葉頃
	47	SD1	背割内	磁器/皿	(13.4)	3.0	0.5	0.5	2.8	—	—	—	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	2.5Y8/1灰白	2.5Y8/1灰白			18C前葉頃
	48	SD1	背割内 最下層	磁器/皿	—	(22.0)	1.1	1.3	(4.5)	—	—	—	—	2.5Y8/1灰白	2.5Y8/1灰白		肥前系	17C後葉～18C中葉頃
	49	SD1	背割内 最下層	磁器/皿	(17.0)	(9.2)	0.8	0.6	2.8	—	唐草文	草花文	透明釉に呉須 透明釉に呉須	7.5GY8/1 明緑灰	7.5GY8/1 明緑灰		肥前系	18C中葉頃
17	50	SD1	最下層	磁器/皿	(12.4)	(8.1)	0.5	0.45	2.9	—	筆の文様	圏線文	呉須に透明釉 呉須に透明釉	N8/灰白	N8/灰白			
	51	SD1	背割内 最下層	磁器/皿	(14.6)	(9.1)	0.4	0.7	3.7	—	—	—	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	5GY8/1灰白	5GY8/1灰白		肥前系	くらわんか手 18C前葉～中葉頃
	52	SD1	背割内 最下層	磁器/皿	(14.0)	(8.8)	0.5	0.7	3.2	—	—	—	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	5GY8/1灰白	5GY8/1灰白	蛇の目高台	肥前系	18C前葉～中葉頃
	53	SD1	背割内	磁器/皿	—	(13.8)	0.8	0.3	(3.4)	—	—	—	—	7.5GY8/1 明緑灰	7.5GY8/1 明緑灰			
	54	SD1	背割内	磁器/皿	(14.0)	(8.2)	0.5	0.4	4.2	—	—	—	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	2.5GY8/1 灰白	2.5GY8/1 灰白	蛇の目高台	肥前系	色絵18C前葉頃
	55	SD1	背割内	磁器/皿	—	14.6	0.6	0.6	(1.3)	—	—	—	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	5GY8/1灰白	5GY8/1灰白		肥前系	18C前葉～中葉頃
	56	SD1	背割内 最下層	磁器/皿	—	(8.6)	0.5	0.4	(2.1)	—	—	—	透明釉 透明釉	2.5Y8/1灰白	2.5Y8/1灰白	蛇の目高台	肥前系	18C前葉～中葉頃

図版番号	報告番号	遺構番号	層位	種類器種	法量(cm) ( )は復元値						調整・施文		施釉	色調		底部	産地	備考
					口径(長さ)	底径	高台高	厚さ	器高	重量(g)	内面	外面	内面／外面	内面	外面	(成形・調整)		
	57	SD1	背割付近	越中瀬戸/ひょうそく	5.0	3.4	—	1.3	2.8	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	10YR2/1黒	10YR3/3黒褐	回転糸切り未調整		
	58	SD1	背割内	越中瀬戸/ひょうそく	4.8	3.0	—	0.4	2.5	—	ナデ 手づくね	ナデ 手づくね	—	2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄			灯芯部分煤痕あり
	59	SD1	背割内	越中瀬戸/向付	5.7	4.2	—	0.9	2.7	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	5YR6/6橙	5YR6/6橙	回転糸切り未調整		
	60	SD1	最下層	越中瀬戸/皿	(15.4)	(3.6)	—	1.1	2.8	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	5YR7/4 にぶい橙	5YR6/6橙	回転糸切り未調整		
	61	SD1	背割内	越中瀬戸/皿	(10.8)	(4.1)	—	0.9	2.8	—	—	—	鉄釉 鉄釉	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	回転糸切り未調整		
18	62	SD1	背割内	越中瀬戸/皿	10.4	4.2	—	1.0	3.2	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	10YR3/4暗褐	2.5Y8/4 淡黄	回転糸切り未調整		
	63	SD1	—	越中瀬戸/皿	(10.0)	(3.8)	—	0.95	2.75	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	10YR4/3 にぶい黄褐	10YR4/4褐	回転糸切り未調整		
	64	SD1	背割内 最下層	越中瀬戸/皿	(9.4)	(4.3)	—	0.8	2.5	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	7.5YR8/4 浅黄橙	5YR8/4淡橙	回転糸切り未調整		
	65	SD1	背割内	越中瀬戸/皿	(9.8)	(4.2)	—	1.0	3.0	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 透明釉 鉄釉	2.5YR7/2 灰黄	2.5YR7/2 灰黄	回転糸切り未調整		
	66	SD1	背割内 最下層	越中瀬戸/皿	10.2	4.4	—	0.9	2.7	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	回転糸切り未調整		
	67	SD1	背割内	越中瀬戸/皿	—	(8.0)	0.5	0.8	(2.7)	—	ロクロナデ	ロクロナデ ロクロヘラケズリ	灰釉 灰釉	5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	削り出し高台		
	68	SD1	背割内	越中瀬戸/皿	—	0.2	(4.6)	0.7	(1.8)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	灰釉 灰釉	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	削り出し高台		
	69	SD1	背割内	越中瀬戸/皿	11.6	4.8	0.3	1.0	3.3	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	2.5YR5/6 明赤褐	5YR6/6橙	削り出し高台		高台裏に墨書あり
	70	SD1	背割内	越中瀬戸/ひだ皿	(14.0)	(8.0)	0.7	0.6	3.3	—	ロクロナデ	ロクロヘラケズリ	鉄釉 鉄釉	10YR8/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	削り出し高台		
	71	SD1	背割内 最下層	越中瀬戸/捏鉢	—	(9.6)	—	1.0	(5.8)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	回転糸切り未調整		
	72	SD1	背割内	越中瀬戸/捏鉢	9.7	10.1	—	1.2	6.6	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	5YR3/4 暗赤褐	5YR3/2 暗赤褐	回転糸切り未調整		
	73	SD1	背割内	越中瀬戸/捏鉢	(10.6)	(10.2)	—	0.8	6.9	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	回転糸切り未調整		
	74	SD1	最下層	越中瀬戸/捏鉢	(13.7)	—	—	1.0	10.5	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR7/2 にぶい黄橙	回転糸切り未調整		
	75	SD1	下層	越中瀬戸/捏鉢	—	(10.0)	—	1.0	(4.2)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	／鉄釉	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	回転糸切り未調整		
	76	SD1	背割内	越中瀬戸/広口壺	(11.0)	—	—	(0.8)	(5.8)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	5YR7/4 にぶい橙	5YR7/4 にぶい橙			
	77	SD1	背割内	越中瀬戸/広口壺	(12.6)	—	—	0.7	(7.0)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/3 にぶい橙			
	78	SD1	背割内	越中瀬戸/広口壺	(13.6)	—	—	0.8	(9.3)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	2.5YR6/4 にぶい橙	2.5YR6/4 にぶい橙			
	79	SD1	背割内	越中瀬戸/鉢	(18.2)	(10.4)	—	1.4	10.3	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	2.5YR4/4 にぶい赤褐	2.5YR4/4 にぶい赤褐	回転糸切り未調整		
	80	SD1	背割内	石製品/砥石	(7.3)	—	—	0.5	—	—	—	—	—	2.5YR8/3 淡黄	2.5YR8/3 淡黄			幅(3.5)
	81	SD1	背割内	石製品/硯	(10.5)	—	—	1.0	—	—	—	—	—	10YR6/1灰	10YR6/1灰			幅4.8
19	82	SD1	背割内	土師質土器/皿	5.8	3.2	—	0.4	1.7	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	2.5YR7/2 灰黄	2.5YR7/2 灰黄	回転糸切り未調整		口縁部に煤痕あり
	83	SD1	背割内	土師質土器/皿	6.9	3.4	—	0.5	2.0	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	ロクロヘラ切り		口縁部に煤痕あり
	84	SD1	背割内	土師質土器/皿	6.6	3.3	—	0.6	2.0	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	回転糸切り未調整		口縁部に煤痕あり
	85	SD1	背割内	土師質土器/皿	7.7	3.1	—	0.8	2.2	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	回転糸切り未調整		口縁部に煤痕あり
	86	SD1	下層	越中瀬戸/皿	(8.2)	4.4	—	0.8	2.5	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/6 明黄褐	回転糸切り未調整		口縁部に煤痕あり 土師質土器、皿に類似する器形
	87	SD1	最下層	越中瀬戸/皿	7.5	3.6	—	0.5	1.8	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	5YR7/6橙	5YR7/6橙	回転糸切り未調整		土師質土器、皿に類似する器形
	88	SD1	背割内	越中瀬戸/皿	7.7	3.0	—	0.4	2.2	—	—	—	鉄釉 鉄釉	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙	回転糸切り未調整		土師質土器、皿に類似する器形
	89	SD1	背割内 最下層	土師質土器/皿	(7.6)	(3.6)		0.4	1.8	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	回転糸切り未調整		口縁部に煤痕あり
	90	SD1	背割内	土師質土器/皿	7.5	3.2	—	0.7	2.3	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2灰白	回転糸切り未調整		
	91	SD1	背割内	土師質土器/皿	(6.6)	(3.4)	—	0.5	1.7	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	回転糸切り未調整		口縁部に煤痕あり
	92	SD1	背割内	土師質土器/皿	6.5	3.0	—	0.4	1.5	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	回転糸切り未調整		口縁部に煤痕あり
	93	SD1	背割内	土師質土器/皿	(7.6)	(3.3)	—	0.3	1.3	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	回転糸切り未調整		
	94	SD1	背割内	土師質土器/皿	(7.0)	(3.2)	—	0.5	1.8	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	5YR8/4 淡橙	5YR8/4 淡橙	回転糸切り未調整		口縁部に煤痕あり
	95	SD1	上層	土師質土器/皿	(7.0)	(3.1)	—	0.5	1.9	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	7.5YR8/6橙	7.5YR6/6橙	回転糸切り後 周縁ヘラケズリ調整		口縁部に煤痕あり
	96	SD1	上下層	土師質土器/皿	6.6	3.4	—	0.4	1.7	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	回転糸切り未調整		口縁部に煤痕あり
	97	SD1	背割内	土師質土器/皿	(16.6)	(5.0)	—	0.8	2.8	—	ロクロナデ	ロクロナデ ロクロヘラケズリ	—	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙			
	98	SD1	背割内	土師質土器/皿	(13.4)	(5.0)	—	0.8	2.8	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	5YR6/6橙	5YR6/6橙	回転糸切り未調整		
	99	SD1	背割内	越中瀬戸/擂鉢	(28.0)	—	—	1.0	(7.3)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	2.5YR6/6橙	2.5YR6/6橙			おろし目7～8単位
	100	SD1	背割内	越中瀬戸/擂鉢	(18.8)	(8.6)	—	1.0	6.7	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	回転糸切り未調整		おろし目条目21単位
	101	SD1	背割内 最下層	陶器/擂鉢	(30.4)	—	—	0.8	(9.0)	—	ヨコナデ	ヨコナデ	—	10YR5/4 赤褐	10YR5/4 赤褐			おろし目櫛目10～12単位
	102	SD1	上層	越中瀬戸/擂鉢		(8.5)	—	0.8	(3.5)	—	—	—	鉄釉 鉄釉	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	回転糸切り未調整		
	103	SD1	背割内	越中瀬戸/擂鉢	(31.6)	—	—	0.8	(6.6)	—	—	—	鉄釉 鉄釉	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白			おろし目櫛目8単位
	104	SD1	背割内	陶器/擂鉢	(33.4)	—	—	0.8	(4.1)	—	—	—	—	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙			
	105	SD1	背割内	金属製品/古銭	2.5	—	—	0.1	—	2.0	—	—	—	—	—			寛永通宝 最大幅 2.1
	106	SD1	背割内	金属製品/天秤の皿か	(6.05)	—	—	0.05	—	20.5	—	—	—	—	—			最大幅 6.0
	107	SD1	下層	金属製品/煙管吸口	9.2	—	—	0.05	—	16.6	—	—	—	—	—			最大幅 1.1
	108	SD1	—	金属製品/かんざし	(8.4)	—	—	0.1	—	1.9	—	—	—	—	—			最大幅 0.7
	109	SD1	下層	金属製品/毛抜又はかんざし	7.7	—	—	0.3	—	3.0	—	—	—	—	—			最大幅 0.1
	110	SD1	—	金属製品/かんざし	(16.2)	—	—	0.2	—	2.9	—	—	—	—	—			最大幅 0.1
20	1	SD53	—	陶器/皿	(11.0)	(4.6)	0.3	0.8	(2.5)	—	—	ロクロヘラケズリ	緑釉 緑釉	2.5Y7/1灰白	2.5Y7/1灰白	削り出し高台		
	2	SD53	—	磁器/碗	(11.6)	—	—	0.2	(1.7)	—	—	—	白磁釉 白磁釉	N8/灰白	N8/灰白			端反
	3	SD53	—	磁器/碗	(8.6)	3.3	0.6	0.4	3.9	—	草花文 見込みに 「寿」の文字	草花文	透明釉＋コバルト 透明釉＋コバルト	N8/灰白	N8/灰白	蛇の目高台		半球形 端反 高台部釉ハギ 19世紀代
	4	SD53	—	磁器/碗	(3.7)	(5.2)	0.5	0.3	6.1	—	—	草花文＋ 二条の帯線	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白			
	5	SD53	—	磁器/皿		(7.7)	0.5	0.4	(1.5)	—	プリント		透明釉 透明釉	N8/灰白	N8/灰白			
	6	SD53	—	磁器/皿	(13.6)	(8.4)	0.4	0.4	3.4	—	草花文	不明	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白			
	7	SD53	—	陶器/皿	(11.4)	(8.0)	—	0.3	1.8	—	ロクロヘラケズリ	ロクロヘラケズリ	鉄釉(ハケ塗り) 鉄釉(ハケ塗り)	7.5YR8/1 灰黄	10YR6/3 にぶい黄橙	ロクロヘラケズリ		内面に煤かうるしが付着 19C代
	8	SD53	—	土師質土器/皿	(18.8)	(7.5)	—	0.7	4.2	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	ロクロヘラケズリ		15C後葉～16C代 内面 使用痕アリ 煤灯心油痕かアリ
	9	SD81	—	磁器/碗	(12.2)	(5.4)	0.9	1.0	6.15	—	ハケ目	ハケ目	—	2.5YR5/4 にぶい赤褐	2.5YR5/4 にぶい赤褐		肥前系	18C前葉頃
	10	SD81 集石部	—	陶器/大鉢	—	(13.2)	1.3	0.5	(8.5)	—	ロクロヘラナデ 白泥ハケ目	ロクロヘラナデ	—	2.5YR5/4 にぶい赤褐	2.5YR5/4 にぶい赤褐		肥前系	17C後葉～18C前葉頃
	11	SD81	—	陶器/擂鉢	(35.2)	(9.6)	—	1.5	8.7	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	10R4/6赤	10R5/6赤	回転糸切り未調整	在地系	櫛歯のおろし目一単位9本 掻き締めている
	12	SD81	—	陶器/大鉢	(29.6)	(11.0)	1.4	0.7	7.1	—	花弁等の線刻	—	鉄釉 鉄釉	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	削り出し高台	肥前系	18C前葉～中葉頃

図版番号	報告番号	遺構番号	層位	種別器種	法量(cm) ( )は復元値 口径(長さ)	底径	高台高	厚さ	器高	重量(g)	調整・施文 内面	外面	施釉 内面／外面	色調 内面	外面	技法 (成形・調整)	産地	備考
21	1	SD81 検出面	—	陶器/擂鉢	(23.8)	(9.0)	0.15	0.4	4.1	—	—	—	灰釉 灰釉	7.5YR6/6橙	10YR7/4 にぶい黄橙	削り出し高台	在地系	底部に文字アリ「□□」 二文字目は「カ」の可能性があるが不明 擂鉢のおろし目が無数に入る
	2	SD81	—	土師質土器/焙烙鍋	33.0	—	—	0.5	7.1	—	ヨコナデ	ヨコナデ 手持ち ヘラケズリ後ナデ	—	5YR6/6橙	5YR5/4 にぶい赤褐		在地系	煤痕アリ
	3	SD81	—	磁器/碗	(9.8)	(4.0)	0.5	0.3	3.5	—	—	草花文	透明釉 透明釉＋呉須	N8/灰白	2.5GY8/1 灰白		肥前系	高台内に「冨○ 是賞」アリ 19C前葉頃
	4	SD81	—	磁器/碗	(9.9)	4.0	0.4	0.3	5.5	—	—	草花文	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	19C前葉頃
	5	SD81	—	磁器/碗	(8.7)	(3.7)	0.6	0.6	5.2	—	—	草花文	透明釉 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	半丸形 18C前葉～中葉頃
	6	SD81	—	磁器/碗	(11.2)	4.6	0.7	0.3	5.8	—	—	草花文	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	2.5Y8/1灰白	5GY8/1 灰白		肥前系	19C前葉頃
	7	SD81	—	磁器/碗	(9.2)	(4.0)	0.4	0.3	4.8	—	—	梅樹文	透明釉 透明釉	5G7/1 明緑灰	5B7/1 明青灰		肥前系	18C前葉～中葉頃
	8	SD81	—	磁器/碗	—	(3.6)	0.3	0.4	(4.3)	—	—	—	—	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	腰丸形 18C中葉～後葉頃
	9	SD81	—	磁器/碗	(8.4)	(2.5)	0.5	0.4	(5.4)	—	—	—	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	腰丸形 18C中葉～後葉頃
	10	SD81	—	磁器/碗	(9.8)	0.4	(3.6)	0.4	4.8	—	—	—	—	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	腰丸形 18C中葉～後葉頃
	11	SD81 検出面	—	磁器/碗	8.2	3.2	0.4	0.4	5.2	—	見込みに草花文	—	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	7.5Y8/1 灰白	7.5Y8/1 灰白		肥前系	腰丸形 18C中葉～後葉頃
	12	SD81	—	磁器/碗	—	(4.6)	0.5	0.5	(8.1)	—	—	梅花文＋二条の帯線	透明釉 呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	腰丸形 18C中葉～後葉頃
	13	SD81	—	磁器/皿	(15.6)	(8.4)	0.3	0.4	4.4	—	草花文	—	透明釉＋呉須 透明釉	N8/灰白	N8/灰白	蛇の目高台	肥前系	窯屋銘の印アリ 18C前葉～中葉頃
	14	SD81	—	磁器/皿		(8.2)	0.5	0.5	(1.8)	—	色絵文	蓮華文	—	N8/灰白	N8/灰白	蛇の目高台	肥前系	色絵 蛇の目高台 18C中葉～後葉
	15	SD81	—	磁器/皿	(12.0)	4.4	0.3	0.4	3.4	—	格子文 見込は 蛇の目釉ハギ	—	透明釉＋呉須 透明釉	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	18C中葉～後葉頃
	16	SD81	—	磁器/皿	(10.7)	(6.8)	0.4	0.5	2.4	—	山水文	—	透明釉＋呉須 透明釉	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	18C後葉～19C前葉頃
	17	SD81	—	磁器/皿	(10.8)	(8.4)	0.5	0.35	2.4	—	鷺	—	透明釉＋呉須 透明釉	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	18C後葉頃
	18	SD81	—	磁器/皿	—	(13.8)	1.2	0.7	(3.3)	—	魚か	唐草文＋四条の帯線	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	鍋島に近い皿 18C中葉頃
22	19	SD81	—	磁器/碗	(9.3)	(4.0)	0.4	0.3	4.9	—	—	蝶貝文	透明釉 透明釉	5G7/1 明緑灰	5B7/1 明青灰		瀬戸美濃系	19C前葉頃
	20	SD81	—	磁器/碗	(9.2)			0.7	(4.6)	—	—	三条の細帯線と一条の太線	不明	N8/灰白	N8/灰白		瀬戸美濃系	19C代
	21	SD81	—	磁器/猪口	(7.0)	(3.4)	0.4	0.3	4.5	—	—	雨降文＋六条の帯線	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	18C前葉
	22	SD81	—	磁器/小坏	(7.0)	(3.4)	0.5	0.2	4.7	—	—	雨降文と大半に帯線	透明釉 透明釉＋呉須	N8/灰白	2.5GY8/1 灰白		肥前系	19C前葉頃
	23	SD81	—	磁器/蓋	10.0	4.2	0.5	0.3	3.0	—	草花文	蝶＋草花文	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	丸皮形 18C後葉 1780年代
	24	SD81	—	磁器/段重	(14.0)	—	—	0.4	3.55	—	—	四方襷＋七宝繋文	透明釉 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	18C代
	25	SD81	—	磁器/火入	(10.3)	—	—	0.5	(6.6)	—	—	山水画 風景	透明釉 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	18C中葉～後葉
24	42	SD81		金属製品/鋤先	33.5	—	—	1.1	—	543.2	—	—	—	—	—			最大幅 18.1
25	1	SD186	—	陶器/皿	—	(5.6)	2.5	0.8	2.0	—	—	ロクロヘラケズリ	長石釉(やや黒い) 長石釉(やや黒い)	2.5Y6/2 灰黄	10YR5/2 灰黄褐	削り出し 蛇の目平高台		目跡あり
	2	SD186	—	陶器/皿	—	(6.1)	0.2	0.8	(1.2)	—	—	ナデ	鉄釉/	5Y6/1灰	5Y6/1灰	削り出し高台		
	3	SD186	—	土師質土器/皿	(10.4)	—	—	0.4	(1.5)	—	ナデ	ナデ	—	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙			15C後葉～16C代 灯心油痕アリ
	4	SD173	—	磁器/蓋	(10.0)	5.6	0.7	0.3	2.8	—	—	—	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	広東碗 18C後葉～19C前葉
	5	SD173	—	土師質土器/皿	8.2	—	—	0.4	(2.1)	—	ヨコナデ	ヨコナデ	—	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			15C後葉～16C代
26	1	SD284	—	陶器/皿	—	(4.5)	0.4	0.9	2.4	—	ロクロヘラケズリ	—	長石釉 長石釉	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐			産地不明
	2	SD284	—	越中瀬戸/皿	—	(6.2)	0.3	1.1	(2.4)	—	—	—	灰釉 灰釉	2.5Y8/3淡黄	2.5Y8/2灰白	削り出し高台		内部 使用痕アリ
	3	SD284	—	越中瀬戸/ひだ皿	(13.4)	6.1	0.6	0.75	(3.4)	—	文字アリ「一会」か	—	灰釉鉄釉のかけわけ 灰釉鉄釉のかけわけ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙			内面 重ね焼き痕アリ
	4	SD284	—	磁器/碗	—	(4.4)	0.6	1.2	(3.0)	—	—	—	白泥貫入＋呉須 白泥貫入＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	高台端部砂目 初期伊万里 17C前葉頃
	5	SD284	—	磁器/皿	(9.0)	(5.6)	0.4	0.58	3.2	—	見込みに文様 (不明)	唐草文と 二条の帯線	—	2.5Y8/灰白	2.5Y8/灰白		景徳鎮系	16世紀後半～17世紀前半
	6	SD284	—	越中瀬戸/皿	10.6	4.0	0.3	0.6	2.5	—	—	—	灰釉 灰釉	5YR5/4 にぶい赤褐	10YR6/3 にぶい黄橙			内面に有機物付着 漆と顔料
	7	SD284	—	越中瀬戸/ひだ皿	(14.0)	(5.3)	0.4	0.8	3.3	—	—	ロクロヘラケズリ	鉄釉 鉄釉	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	削り出し高台		見込み底面は使用痕アリ 焼止めの跡アリ
	8	SD284	—	越中瀬戸/向付	12.9	6.7	0.7	1.3	4.5	—	印花文	—	灰釉 灰釉	2.5Y5/1黄灰	2.5Y5/1黄灰	削り出し高台		「向付」の鉢形碗
	9	SD284	—	陶器/碗	(11.4)	(5.0)	0.3	0.75	5.1	—	—	—	黒釉鉄釉流し 黒釉鉄釉流し	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙		瀬戸美濃系か	18C前葉～中葉
28	1	SE110 検出面	—	陶器/碗	(11.6)	(4.2)	1.2	0.5	7.3	—	白釉流しハケ目	白釉流しハケ目	灰釉＋鉄絵 灰釉＋鉄絵	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	削り出し高台	肥前系	18C前葉～中葉
	2	SE110	—	陶器/碗	(8.3)	—	—	0.3	5.8	—	—	色絵	灰釉 灰釉	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白		京 信楽系	丸形 色絵
	3	SE110	—	越中瀬戸/向付	(8.2)	(3.7)	—	0.7	2.8	—	—	—	鉄釉 鉄釉	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	回転糸切り未調整		
	4	SE110	—	越中瀬戸/灯明受皿	(11.0)	4.1	—	1.0	3.5	—	—	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/3 にぶい橙	回転糸切り未調整		托か
	5	SE110	—	陶器/餌猪口	—	5.3	0.7	0.3	(4.8)	—	—	—	灰釉 灰釉	7.5Y8/1灰白	7.5Y8/1灰白	削り出し高台 ロクロヘラケズリ	京 信楽系	
	6	SE110	—	磁器/碗	7.8	3.9	0.6	0.3	4.0	—	—	—	—	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	くらわんか手 18C前葉
	7	SE110	—	磁器/碗	(3.6)	4.2	0.7	0.2	5.4	—	—	風景画	透明釉 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	焼継師の印あり 19C前葉～中葉頃
	8	SE110	—	磁器/皿	(13.8)	—	—	0.4	(2.1)	—	蝶花文	唐草文	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	18C後葉～19C前葉頃
	9	SE110	—	磁器/輪花皿	(10.5)	(6.0)	0.4	0.5	2.2	—	草花文	唐草文	—	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	18C後葉～19C前葉頃
	10	SE110	—	磁器/段重	—	(8.0)	0.4	0.3	(2.2)	—	—	色絵と数本の帯線	透明釉 透明釉	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白		肥前系	18C中葉～後葉
	11	SE110	—	磁器/皿	(14.1)	(5.6)	0.75	0.3	3.45	—	蛇の目釉ハギ	—	青磁釉 青磁釉	5Y7/2灰白	5Y7/2灰白	削り出し高台	肥前系	高台端部釉なし 高台の径が大きい 18C前葉頃か
32	1	SE242	—	越中瀬戸/向付	(10.8)	(2.6)	0.25	0.35	2.95	—	—	—	鉄釉 鉄釉	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y6/2 灰黄	削り出し高台		見込み部分は無釉 「向付」の鉢形碗
	2	SE242		金属製品/簪金具	3.4	—	—	0.1~0.2	—	25.1	—	—	—	—	—			最大幅 1.3
34	1	SE246	—	越中瀬戸/灯明受皿	(10.5)	(5.3)	—	0.7	2.2	—	—	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	10YR6/1 褐灰	10YR6/1 褐灰	回転糸切り未調整		托か
	2	SE246	上層	越中瀬戸/[illegible]	11.4	—	(12.0)	1.1	10.3	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	回転糸切り未調整		口縁端部,内面底部釉ハギ 内面底部に重ね焼き痕アリ
	3	SE246	—	陶器/鉢	(16.1)	—	—	0.8	(7.5)	—	—	—	鉄釉 鉄釉	7.5YR7/1 明褐灰	5YR7/2 明褐灰			
	4	SE246	—	磁器/猪口	(8.2)	—	—	0.5	(4.15)	—	—	コンニャク印判	—	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	18C前葉頃
	5	SE246	—	磁器/碗	(3.8)	(3.0)	0.7	0.4	4.2	—	—	—	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	幕末～近代
	6	SE246	上層	磁器/皿	—	(8.1)	0.6	0.5	(1.6)	—	風景画	—	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白	蛇の目高台	肥前系	焼継痕アリ(ガラス接ぎ) 18C後葉頃
	7	SE246	—	磁器/脚鉢	—	(9.6)	1.1	0.4	(3.8)	—	—	—	/ 透明釉	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	底部白磁釉 高台端部 釉ハギ 内面に使用痕アリ 19C中葉～後葉頃
35	1	SE246	上層	土師質土器/鉢か鍋	(42.6)	—	—	1.2	(7.15)	—	—	ヨコナデ	—	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐			骨壷か
	2	SE246	上層	陶器/甕	(44.0)	—	—	0.85	(11.3)	—	—	—	鉄釉 鉄釉	5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙		越前系	17C代以降
	3	SE246	上層	瓦/丸瓦	18.1	—	—	2.0	—	—	—	—	—	2.5Y8/3淡黄	2.5Y8/3淡黄			最大幅 8.7、釘穴2つアリ 擦痕が見られる

図版番号	報告番号	遺構番号	層位	種類器種	法量(cm) ( )は復元値						調整・施文		施釉	色調		技法	産地	備考
					口径(長さ)	底径	高台高	厚さ	器高	重量(g)	内面	外面	内面／外面	内面	外面	(成形・調整)		
37	1	SE201	–	越中瀬戸/皿	(12.2)	–	–	0.5	(2.0)	–	–	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	5YR6/1灰	5YR6/1灰			
42	1	SE260	–	陶器/碗	8.7	4.5	0.5	1.0	7.7	–	–	–	鉄釉に灰釉流し 鉄釉に灰釉流し	10YR6/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐		在地系	
44	1	SK2	–	陶器/碗	(9.0)	(3.0)	0.4	0.3	5.5	–	–	鉄絵	灰釉 灰釉	5Y8/2灰白	5Y8/2灰白	削り出し高台	在地系	SK002とSK004接合
	2	SK2	–	陶器/碗	(9.6)	3.4	0.4	0.3	5.7	–	–	–	鉄釉 鉄釉	2.5Y8/1 灰白	10YR8/2 灰白	削り出し高台	在地系	鉄釉 18C代
	3	SK2	–	陶器/碗	(15.8)	4.2	0.4	0.5	5.2	–	–	草花文	灰釉鉄釉流し 灰釉鉄釉流し	2.5YR7/4 淡赤橙	2.5YR7/4 淡赤橙			半球形 目跡アリ
	4	SK2	–	磁器/碗	(11.4)	–	–	0.4	(3.0)	–	–	呉須が見られる	透明釉 貫入アリ 透明釉 貫入アリ	N7/灰白	N7/灰白		肥前系	陶胎染付
	5	SK2	–	磁器/碗	–	(3.6)	1.1	0.8	(3.5)	–	–	一条の染付	灰釉 灰釉	5Y6/1灰	5Y6/1灰		肥前系	陶胎染付
	6	SK2	–	陶器/碗	(9.6)	–	–	0.5	(3.6)	–	–	–	白濁貫入アリ 白濁貫入アリ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白			口縁部鉄釉
	7	SK2	–	陶器/碗	(9.4)	–	–	0.5	(3.7)	–	–	白釉による 櫛文	灰釉白釉流し	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR6/3 にぶい褐		肥前系	腰折型
	8	SK2	–	陶器/碗	8.8	4.5	0.4	0.3	5.9	–	–	色絵が入る	長石釉 貫入が入る 長石釉 貫入が入る	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	削り出し高台 巴高台	瀬戸美濃系か	18C後葉頃
	9	SK2	–	陶器/碗	(11.8)	(4.5)	0.5	0.7	5.6	–	–	鉄釉入る	灰釉 灰釉	5Y7/1灰白	2.5Y8/1灰白		京、信楽系	
	10	SK2	–	陶器/碗	(11.4)	(4.8)	0.6	0.4	8.0	–	–	–	青磁釉 青磁釉	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	削り出し高台	京、信楽系	
	11	SK2	–	陶器/碗	12.9	4.5	1.1	0.4	7.2	–	–	–	灰釉 灰釉	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	削り出し高台	京、信楽系	18C前葉～中葉頃
	12	SK2	–	磁器/碗	(10.7)	(4.0)	0.5	0.6	5.3	–	–	白釉	–	5Y8/1灰	5Y8/1灰		京、信楽系	18C前葉頃
	13	SK2	–	磁器/碗	(11.0)	–	–	0.4	(4.0)	–	–	花の文様	–	N8/灰白	N8/灰白			
	14	SK2	–	磁器/碗	9.9	4.0	0.8	1.2	5.3	–	–	草花文	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N7/灰白		肥前系	くらわんか手 18C前葉～中葉頃
	15	SK2	–	磁器/碗	(9.0)	(5.1)	0.6	0.4	6.8	–	–	コンニャク印判	–	N7/灰白	N7/灰白		肥前系	陶胎染付
	16	SK2	–	磁器/碗		(5.0)	0.4	0.6	(5.5)	–	–	コンニャク印判	透明釉 透明釉	N8/灰白	N8/灰白			
	17	SK2	–	磁器/猪口	(6.0)	(6.6)	0.3	0.4	6.3	–	草花文	草花文	透明釉 透明釉	N8/灰白	N8/灰白	蛇の目高台	肥前系	蒸道具 灰落とし 18C前葉頃
	18	SK2	–	磁器/鉢	13.2	(6.0)	0.6	0.45	3.7	–	草花文	草花文	透明釉 透明釉	N8/灰白	N8/灰白	削り出し高台	景徳鎮系	小野B2群 18C後半
	19	SK2	–	磁器/皿	(13.0)	(6.8)	0.5	0.3	3.2	–	染付	染付	透明釉 透明釉	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	くらわんか手 高台接地面は釉が剥がれている 18C前葉～中葉頃
	20	SK2	–	磁器/皿	(12.4)	–	–	0.4	(3.4)	–	瑠璃釉で草花文	–	透明釉 透明釉	7.5Y8/1 灰白	7.5Y8/1 灰白			
	21	SK2	–	越中瀬戸/皿	10.3	3.7	–	1.1	2.9	–	ロクロナデ	ロクロナデ	/ 鉄釉	7.5YR8/4 浅黄色	7.5YR8/4 浅黄色	回転糸切り未調整		
	22	SK2	–	越中瀬戸/向付	(11.0)	(5.6)	0.35	0.75	3.1	–	ロクロナデ	ロクロナデ ロクロヘラケズリ 調整	鉄釉 鉄釉	10YR6/4 にぶい黄橙	2.5Y6/3 にぶい黄	削り出し高台		
	23	SK2	–	越中瀬戸/擂鉢	(13.8)	–	–	0.7	(5.1)	–	–	–	自然釉 自然釉	2.5Y7/4 浅黄	10YR7/6 明黄褐			
45	24	SK2	–	越中瀬戸／ 灯明受皿か皿	10.2	4.8	–	0.6	2.6	–	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	2.5Y6/1 黄灰	7.5YR8/4 浅黄橙	回転糸切り未調整		内面受け部は一部欠損 重ね焼き痕あり
	25	SK2	–	土師質土器/皿	13.0	6.6	–	0.5	2.8	–	ロクロナデ 摩滅(圧痕)	ロクロナデ 粗いハケ状工具 によるヨコハケ	–	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	回転ヘラ切り		内耳か(脚付) 灯心油痕アリ
	26	SK2	–	陶器/鉢	(31.6)	–	–	0.8	(6.0)	–	鉄釉(?)長石釉で 白色として区画 2段目には 印花を配す	–	鉄釉 鉄釉	10R5/4赤褐	10R5/4赤褐		肥前系	ハケ目
	27	SK2	–	陶器/鉢	(36.0)	–	–	0.6	(6.2)	–	–	–	鉄釉 鉄釉	2.5Y6/4 にぶい橙	2.5Y6/4 にぶい橙		肥前系	縁折形 浅鉢 象嵌技法による三島手
	28	SK2	–	陶器/擂鉢	(30.8)	–	–	0.7	(8.6)	–	–	–		10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙			卸目一単位10本
	29	SK2	–	越中瀬戸/壺	(11.6)	–	–	0.9	(8.2)	–	–	–	鉄釉 鉄釉	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙			
46	1	SK2	–	金属製品/煙管 吸口	(5.5)	–	–	0.05	–	5.5	–	–	–	–	–			最大幅 (1.3)
	2	SK2	–	金属製品/火箸	(12.3)	–	–	0.4	–	12.1	–	–	–	–	–			最大幅 (0.6)
	3	SK2	–	金属製品/ かんざし	(21.6)	–	–	0.2	–	6.3	–	–	–	–	–			最大幅 (2.2) 金彩
	4	SK3 SK4	–	陶器/碗	(10.0)	(4.4)	0.9	0.35	7.0	–	–	鉄絵(竹)	黄釉(灰釉) 内面に貫入が 見られる	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	削り出し高台	京信楽系か	腰折形 被熱(火災?)露胎煤付着 17C後半～18C代
	5	SK3	–	陶器/碗	–	(4.7)	0.9	0.4	5.8	–	–	–	黄釉(灰釉) 黄釉(灰釉)	2.5Y8/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	削り出し高台	瀬戸美濃系か	17C後半～18C代
	6	SK3	–	陶器/折縁皿	(21.0)	(9.0)	1.0	0.4	5.0	–	ロクロナデ 蛇の目釉ハギ	ロクロナデ	褐釉 褐釉	10YR7/1 灰白	10YR7/1 灰白			
	7	SK3	–	越中瀬戸/鉢	(27.4)	(12.0)	0.3	0.9	6.8	–	ロクロ調整 (ナデか)	ロクロ調整 (ナデか) ロクロヘラケズリ 調整	灰釉 灰釉	10YR6/4 浅黄橙	10YR6/4 浅黄橙	削り出し高台		
	8	SK3	–	越中瀬戸/皿	–	(4.6)	–	0.7	(1.8)	–	ロクロナデ	ロクロナデ	–	10YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白	回転糸切り		使用痕アリ
	9	SK3 SK4	–	磁器/碗	(10.4)	(5.0)	0.5	0.4	7.6	–	–	–	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白	削り出し高台	肥前系	腰張形 17C中葉頃
	10	SK3 SK9	–	磁器/碗	–	(3.6)	0.7	0.4	(4.0)	–	–	–	白泥＋呉須 白泥＋呉須	5Y8/1灰白	7.5Y8/1灰白		肥前系	高台接地面は釉ハギ 小広東碗 18C後葉頃 1770年以降
	11	SK3	–	磁器/皿	–	(13.0)	1.0	0.4	(2.7)	–	草花文	–	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	18C前葉～中葉頃
	12	SK3	–	越中瀬戸/皿	(10.9)	(5.0)	0.4	0.7	2.1	–	ロクロナデ	ロクロナデ	灰釉 灰釉	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	削り出し高台		
	13	SK3	–	越中瀬戸/皿	(10.2)	(4.2)	–	0.6	2.1	–	ロクロナデ	ロクロナデ	–	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	回転糸切り未調整		油痕アリ
	14	SK3	–	陶器/擂鉢	–	(11.0)	–	1.1	(6.2)	–	–	–	/鉄釉	7.5YR8/2 灰白	7.5YR8/2 灰白	摩耗のため不明		底面は使用痕が激しく調整不明 卸目10本単位ほど
	15	SK3	–	越中瀬戸/瓶	–	(8.0)	–	1.0	(7.0)	–	ロクロナデ	ロクロナデ	/鉄釉	5YR7/6橙	5YR7/6橙	回転糸切り周縁一部 ナデ		
	16	SK3	–	越中瀬戸/ [illegible]	–	(8.4)	0.3	0.9	(5.5)	–	ロクロナデ	ロクロナデ	/鉄釉	N6/灰	2.5Y7/2灰黄	削り出し高台		
	17	SK3	–	越中瀬戸/ 擂鉢か壺	–	(11.8)	–	1.0	(9.0)	–	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	回転糸切り未調整		指頭痕アリ 破片断面に漆が付着か
	18	SK3	–	陶器/鉢	(18.8)	(11.8)	0.5	1.3	10.2	–	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙		在地系	三足
47	1	SK4	–	越中瀬戸/花瓶	–	–	–	0.5	(5.1)	–	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙			
	2	SK4	–	越中瀬戸/擂鉢	–	(11.4)	–	0.8	(3.0)	–	–	–	鉄釉 鉄釉	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	回転糸切り未調整		
	3	SK4	–	陶器/鉢類	–	(8.2)	0.4	0.4	(2.0)	–	–	体部側面 キザミが入る	黒釉 灰釉	N1.5/黒	10YR8/4 にぶい黄橙	削り出し平高台		底部灰釉 高台脇部釉ハギ
	4	SK4	–	磁器/碗	–	(3.5)	0.7	0.5	(4.3)	–	–	–	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	7.5Y8/1灰白	7.5Y8/1灰白			高台畳付にも 一条の呉須の線が入る 17C後葉～18C代
	5	SK4	–	土師質土器/皿	(8.6)	(3.2)	–	0.4	1.8	–	ロクロナデ	ロクロナデ	–	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	回転糸切り未調整		
	6	SK4	–	磁器/皿	(9.6)	(4.8)	0.4	0.5	2.2	–	呉須入る	–	白泥 透明釉 白泥 透明釉	5G7/1 明緑灰	5G7/1 明緑灰			高台端部は釉ハギ
	7	SK4	–	磁器/壺	(2.6)	–	–	0.3	(2.8)	–	–	–	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N7/灰白			
	8	SK4	–	金属製品/柄	(9.0)	–	–	0.6	–	21.3	–	–	–	–	–			最大幅 (1.4)
	9	SK9	–	陶器/碗	(10.4)	(4.0)	0.6	0.7	6.2	–	–	–	白泥釉 白泥釉	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	削り出し高台		杉形
	10	SK9	–	陶器/土瓶蓋	(8.3)	(4.2)	–	0.7	1.65	–	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/3 淡黄	回転糸切り未調整		
	11	SK9	–	磁器/碗	–	–	–	0.6	–	–	–	–	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	7.5GY8/1 明緑灰	5GY8/1 灰白			17C後半頃
	12	SK9	–	磁器/薄手酒坏	(5.4)	(1.8)	0.2	0.3	2.5	–	–	草花文	白泥＋呉須 白泥＋呉須	N8/灰白	N8/灰白			

図版番号	報告番号	遺構番号	層位	種類器種	法量(cm)（ ）は復元値						調整・施文		施釉	色調		底部	産地	備考
					口径(長さ)	底径	高台高	厚さ	器高	重量(g)	内面	外面	内面／外面	内面	外面	(成形・調整)		
47	13	SK9	—	土師質土器/皿	(7.0)	(4.6)		0.25	1.55	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	糸切り後ナデ調整		煤痕(灯心油痕)アリ
	14	SK9	—	磁器/碗	(10.0)	(3.6)	0.7	0.4	4.3	—	—	—	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	小広東碗 18C後葉頃 1770年以降
	15	SK9	—	磁器/皿	—	(14.4)	0.4	0.7	(3.3)	—	—	—	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/1灰白	N8/1灰白		肥前系	丸形 染付大皿 高台畳付釉ハギ 18C前葉頃
	16	SK9	—	越中瀬戸/皿	(11.6)	(4.8)	—	0.3	3.0	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	回転糸切り未調整		
	17	SK9	—	越中瀬戸/向付	—	(7.5)	0.5	1.0	(3.7)	—	ロクロナデ	ロクロナデ ロクロヘラケズリ	鉄釉 鉄釉	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	削り出し高台		釉はドブづけ
	18	SK9	—	磁器/皿	—	(8.8)	0.5	0.3	(3.2)	—	—	—	白泥＋呉須 白泥＋呉須	7.5Y8/1灰白	7.5Y8/1灰白	蛇の目高台	肥前系	18C前葉頃
	19	SK9	—	志野/角皿	—	—	0.4	0.8	(3.4)	—	—	—	白泥釉 白泥釉	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白			長29.5 最大幅8.5 貫入が入る 胎土は粗い 17C代
	20	SK9	—	磁器/皿	(21.2)	(9.5)	0.6	0.7	3.75	—	草花文	うずまき文	白泥＋呉須 白泥＋呉須	2.5Y8/1灰白	2.5Y8/1灰白		肥前系	高台部端部釉ハギ 芙蓉手 青花写し 17C後葉頃
	21	SK9	—	陶器/鉢	(31.6)	—	—	0.9	8.7	—	—	—	鉄釉 鉄釉	N4/灰白	N3/灰白		肥前系	ハケ目 17C後半～18C前半
	22	SK9	—	越中瀬戸/擂鉢	(28.6)	(10.8)	—	1.2	11.45	—	—	—	鉄釉 鉄釉	10YR6/3 浅黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	回転糸切り未調整		底部端部には使用痕が見られ 角が丸くなる 中太一単位10本
49	1	SK10	—	越中瀬戸/皿	(10.6)	(4.4)	—	1.1	2.6	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	回転糸切り未調整		重ね焼きの痕アリ 煤痕か
	2	SK10	—	陶器/鉢	—	(5.6)	0.6	0.2	(4.0)	—	—	ヘラ状工具 によるキザミ	灰釉 灰釉	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	削り出し高台		幕末～明治期以降か
	3	SK10	—	陶器/碗	—	4.0	0.4	1.1	(4.0)	—	—	—	灰釉貫入入る 灰釉貫入入る	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	竹ノ節高台か	京焼系	高台内に「錦光山」の印アリ
	4	SK10	—	越中瀬戸/擂鉢	—	(11.6)	0.6	—	(3.5)	—	—	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	ロクロヘラ切り		中太一単位10本
	5	SK12		磁器/碗	(7.2)	(2.4)	0.4	0.35	(3.7)	—	—	—	透明釉 透明釉	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	18C後葉頃 1770年以降
	6	SK12	—	磁器/薄手酒杯	(5.4)	1.6	0.2	0.45	2.6	—	—	—	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白			18C後葉頃
	7	SK12	—	越中瀬戸/皿	(11.6)	(5.6)	0.3	0.8	2.8	—	ロクロナデ	ロクロナデ ロクロヘラケズリ	鉄釉 (鉄釉＋一部黒釉混在)	10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰			使用痕アリ
	8	SK12	—	越中瀬戸/皿	(11.6)	(4.1)	—	0.9	3.0	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	5YR6/3 にぶい橙	10YR6/4 にぶい黄橙	回転糸切り未調整		重ね焼き痕アリ
	9	SK12	—	越中瀬戸/擂鉢	(13.6)	—	—	0.5	(3.7)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/3 にぶい橙			
	10	SK12	—	越中瀬戸/皿	—	(4.8)	—	1.0	(2.1)	—	ロクロナデ	ロクロナデ 指頭痕アリ	鉄釉(錆釉) 鉄釉(錆釉)	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	回転糸切り未調整		
	11	SK12	—	越中瀬戸/皿	10.4	4.1	—	0.8	2.7	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	回転糸切り未調整		
	12	SK12	—	越中瀬戸/ 広口壺	(8.4)	—	—	0.5	(4.2)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐			
	13	SK12	—	陶器/皿	(11.4)	5.9	—	0.55	3.2	—	ロクロナデ 注縁が 三条平行に走る	ロクロナデ ロクロヘラケズリ 銘	鉄釉 灰釉	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR6/6 橙	ロクロヘラケズリ 調整	信楽系	灯明皿として使用 煤付着アリ
	14	SK12	—	磁器/皿	(34.0)	(19.2)	0.5	0.65	5.5	—	武田菱文と 草花文	唐草文	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	断面に接着の跡あり 18C前葉頃
	15	SK12	—	須佐/擂鉢	(35.4)	—	—	0.7	(7.6)	—	—	—	鉄釉 鉄釉	10R4/3赤褐	10R4/3赤褐			一単位11本 櫛いおろし目
	16	SK12	—	越中瀬戸/蓋類	—	(6.6)		0.6	(5.2)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	回転糸切り未調整		
	17	SK14	—	陶器/碗	12.4	3.3	0.5	0.4	4.5	—	竹の文様	—	灰釉(細い貫入) 灰釉(細い貫入)	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	削り出し高台	京信楽系	浅半球形
	18	SK14	—	磁器/皿	15.0	7.2	0.6	0.6	2.7	—	山水文と 草花文	染付	透明釉 透明釉	N8/灰白	N8/灰白	高台裏に 「大明」の文字＋ うずまき文 高台部釉ハギ		気泡が目立つ 17C後半以降
50	1	SK19	—	陶器/碗	(9.4)	(4.7)	0.8	0.4	6.35	—	—	—	灰釉 灰釉 白泥釉流し	5Y7/2 灰白	5Y7/2 灰白		肥前系	
	2	SK19	—	陶器/碗	(9.4)	(4.7)	0.8	0.4	6.35	—	—	—	灰釉 灰釉 白泥釉流し	5Y7/2 灰白	5Y7/2 灰白	竹の節高台となる	在地系	
	3	SK19	—	陶器/碗		(5.4)	0.7	0.8	(5.8)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	褐釉(鉄釉) 褐釉(鉄釉)	10YR7/1 灰白	10YR7/1 灰白	ロクロヘラケズリ 削り出し高台か	在地系	
	4	SK19	—	陶器/碗	—	(4.8)	0.2	0.9	(3.2)	—	—	—	長石釉 (釉はかいらぎ状) 長石釉 (釉はかいらぎ状)	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	竹の節高台となる	在地系	
	5	SK19	—	陶器/皿	11.35	4.6	—	0.35	3.0	—	ロクロナデケズリ (丁寧)	ロクロナデ ケズリ(丁寧) ロクロヘラケズリ	灰釉 灰釉	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	ロクロヘラケズリ	信楽系か	煤付着 重ね焼き 内面に目跡アリ
	6	SK19	—	越中瀬戸/皿	(11.3)	—	—	0.5	(2.4)	—	—	—	錆釉(鉄釉) 錆釉(鉄釉)	2.5YR6/6橙	2.5YR6/6橙			内面 煤が点在
	7	SK19	—	陶器/徳利		(8.8)	0.5	0.6	(3.5)	—	—	—	灰釉 灰釉	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	削りだし高台		
	8	SK19	—	越中瀬戸/皿	(11.6)	—	—	0.4	(2.6)	—	—	—	—	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/3 にぶい橙			熱を受けて黒色に変色 部分的ながら黒色化
	9	SK19	—	磁器/皿	(9.8)	—	—	0.4	(2.2)	—	雷文	草花文	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白			18C前葉～中葉
	10	SK19	—	磁器/皿	(15.2)	(8.2)	0.6	0.7	4.9	—	タコ唐草文	唐草文	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	5GY8/1 灰白	5GY8/1灰白			丸形 18C前葉
	11	SK19	—	陶器/仏飯器	—	(4.0)	—	0.7	(4.5)	—	—	—	白泥＋呉須 白泥＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	
	12	SK19	—	磁器/水滴	5.2	—	—	0.4	(2.8)	—	—	—	—	7.5Y8/1 灰白	N8/灰白			最大幅(3.2)
	13	SK19	—	越中瀬戸/擂鉢	—	8.1	—	0.8	(4.8)	—	—	—	鉄釉 自然釉	5YR7/6橙	5YR7/6橙	回転糸切り未調整		
	14	SK19	—	越中瀬戸/擂鉢	(13.8)	—	—	0.6	(7.6)	—	—	—	鉄釉 鉄釉	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐			
	15	SK19	—	陶器/建水		(12.8)	—	0.6	(6.65)	—	ロクロナデ(雑)	ハケナデ	鉄釉 灰釉	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	ナデ		
	16	SK19	—	越中瀬戸/擂鉢	(33.0)	—	—	0.8	(5.05)	—	—	—	錆釉(鉄釉) 錆釉(鉄釉)	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄		瀬戸美濃系 か	
	17	SK19	—	越中瀬戸/擂鉢	—	(11.0)	—	0.8	(8.7)	—	—	指頭痕アリ	—	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙		瀬戸美濃系 か	中太おろし目
	18	SK19	—	陶器/甕	(37.6)	—	—	1.0	(7.45)	—	ヨコナデ	ヨコナデ	鉄釉 鉄釉が垂れる	2.5Y5/2 灰黄	10YR6/4 にぶい黄橙		越前系	
	19	SK19	—	瓦質土器/ 火鉢か	(20.0)	—	—	1.5	(2.8)	—	ヨコナデ	黒色研磨ミガキ	—	5Y5/1灰	5Y7/1灰白			足部分と考えられる(鍔鉢か) 端部は黒色とはならず灰白
51	1	SK21	—	陶器/碗	—	—	—	0.55	(3.9)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	白泥 白泥釉＋透明釉	2.5Y8/4 淡黄	2.5Y8/4 淡黄			体部に文字あり「也」か
	2	SK21	—	土師質土器/皿	(8.4)	3.8	—	0.5	1.9	—	ロクロナデ	ロクロナデ 指頭痕アリ	—	10YR6/2 にぶい黄橙	10YR6/2 にぶい黄橙			煤痕(灯心油痕)
	3	SK21	—	土師質土器/皿	7.9	3.4	—	0.8	2.1	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	5YR7/6橙	5YR7/6橙	回転糸切り未調整		煤痕(灯心油痕)
	4	SK23	—	陶器/碗	(10.4)	—	—	0.8	(4.6)	—	—	—	灰釉 灰釉	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白		肥前系	天目形
	5	SK23	—	陶器/碗	(10.0)	—	—	0.6	(5.5)	—	—	—	錆釉(鉄釉) 錆釉(鉄釉)	2.5YR4/6 赤褐	10R4/4 赤褐		瀬戸美濃系 越中瀬戸 在地か	天目形
	6	SK23	—	磁器/碗	(9.8)	(4.8)	0.7	0.5	7.1	—	—	—	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	18C前葉頃
	7	SK23	—	磁器/酒杯		(3.2)	1.2	0.6	(5.1)	—	草花文	—	透明釉にコバルト 透明釉にコバルト	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白			幕末明治期以降
	8	SK23	—	磁器/ 筆置き	6.2	—	—	1.2	—	—	—	—	—	N8/灰白	N8/灰白			
	9	SK27	—	陶器/折縁皿	(19.0)	—	—	0.4	1.6	—	—	—	—	7.5Y8/1灰白	7.5Y8/1灰白			
	10	SK27	—	越中瀬戸/皿	(14.2)	(6.6)	0.4	0.8	3.6	—	ロクロナデ	ロクロヘラケズリ	鉄釉 鉄釉	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙			見込み中心に使用痕アリ
	11	SK27	—	磁器/碗	(11.2)	—	—	0.4	4.8	—	—	網目文	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白			17C代
	12	SK27	—	磁器/碗	(7.4)	—	—	0.5	(5.2)	—	—	—	—	5GY8/1灰白	5GY8/1灰白			18C代
	13	SK27	—	土師質土器/皿	(8.4)	(5.4)	—	0.8	1.5	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	5Y4/1灰	5Y4/1灰	回転糸切り未調整		新しいもの

図版番号	報告番号	遺構番号	層位	種類器種	法量(cm) ( )は復元値 口径(長さ)	底径	高台高	厚さ	器高	重量(g)	調整・施文 内面	調整・施文 外面	釉薬 内面／外面	色調 内面	色調 外面	底部 (成形・調整)	産地	備考
51	14	SK27	—	土師質土器/皿	11.1	5.6	—	0.6	2.3	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	10YR7/6 明黄褐	10YR8/6 黄橙	ロクロヘラケズリ		煤痕(灯心油痕)アリ 17Cを下限とする
	15	SK27	—	土師質土器/皿	(13.0)	(3.6)	—	0.8	2.5	—	ロクロナデ	ロクロナデ ロクロヘラケズリ	—	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙	ロクロヘラケズリ		煤痕(灯心油痕)アリ 内面油痕アリ 17Cを下限とする
	16	SK27	—	土師質土器/皿	(14.2)	(6.0)	—	0.6	2.8	—	ロクロナデ	ロクロナデ ロクロヘラケズリ	—	10R5/8赤	10R5/8赤	ロクロヘラケズリ		17C代を下限とする
	17	SK27	—	越中瀬戸/擂鉢	(32.0)	—	—	0.8	(7.4)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙			中太一単位6本以上
	18	SK27	—	越中瀬戸/擂鉢	(27.0)	—	—	1.1	(8.1)	—	—	—	—	5YR7/4 にぶい橙	5YR7/4 にぶい橙			一単位11本 内面使用痕アリ
	19	SK29	—	陶器/皿	(11.6)	(5.2)	—	0.3	(3.1)	—	ロクロヘラケズリ	ロクロヘラケズリ	灰釉 灰釉	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	ロクロヘラケズリ	信楽系	煤痕(灯心油痕)アリ 重ね焼き痕 円盤ピン痕
	20	SK29	—	磁器/碗	(9.0)	—	—	0.6	(4.3)	—	—	—	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		瀬戸美濃系	端反り形 19C中葉頃
	21	SK29	—	磁器/碗	(9.2)	4.7	(3.6)	0.5	4.9	—	—	網掛り文 連続した 線描き文	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白	高台端部 釉ハギ		幕末～明治期 19C代
	22	SK29	—	磁器/猪口	(7.4)	—	—	0.4	(3.0)	—	—	矢羽文に 渦巻文	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白			
	23	SK29	—	磁器/紅猪口	(4.4)	(1.5)	0.2	0.2	1.4	—	—	—	透明釉 透明釉	N8/灰白	N8/灰白			
	24	SK29	—	磁器/皿	(14.4)	(8.0)	0.3	0.5	4.0	—	タコ唐草文	唐草文	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白	蛇の目高台	肥前系	丸形 18C前葉～中葉頃
	25	SK29	—	磁器/皿	(15.6)	—	—	0.5	(3.5)	—	—	—	—	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	丸形 五寸皿 18C前葉～中葉頃
	26	SK29	—	磁器/皿	(14.0)	(8.4)	0.4	0.65	3.8	—	線文	—	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白	蛇の目高台 釉ハギ	肥前系	五寸皿 端反形 18C前葉～中葉頃
	27	SK29	—	磁器/皿	(10.0)	(6.0)	0.4	0.4	2.2	—	草花文	草花文	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	丸形小皿 18C中葉～後葉頃
52	1	SK41	—	磁器/碗	(8.4)	3.6	0.5	0.6	5.1	—	「寿」の文字	家屋に植栽か	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白	高台端部 釉ハギ	瀬戸美濃系	半球形 19C中葉～幕末
	2	SK41	—	磁器/猪口	(6.8)	(6.8)	0.35	0.5	6.4	—	—	—	白泥＋呉須＋透明釉 白泥＋呉須＋透明釉	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	口縁部銹釉 焼継アリ 19C前葉～中葉頃
	3	SK041	—	磁器/皿	—	(6.6)	0.5	0.5	(1.8)	—	「壽」吉祥文が入る	—	—	N8/灰白	N8/灰白		瀬戸美濃系	型打ち 19C後葉 1850年代以降
	4	SK41	—	磁器/皿	—	(8.6)	1.1	0.8	(2.7)	—	タコ唐草＋?	—	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	19C中葉頃
	5	SK41	—	磁器/皿	—	(22.4)	0.7	0.55	3.3	—	菊花文	—	—	10Y8/1 灰白	10Y8/1 灰白		肥前系	輪花皿 19C中葉～幕末
	6	SK41		磁器/皿	—	(22.0)	0.7	0.6	4.4	—	—	—	—	N8/灰白	N8/灰白			
	7	SK41	—	磁器/蓋物・蓋	(9.6)	—	—	0.6	(2.5)	—	—	草花文	染付＋透明釉 染付＋透明釉	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	丸形 外面 風化 銹化してツヤがない
	8	SK41	—	陶器/鉢	—	(19.0)	1.15	0.95	(8.75)	—	—	—	鉄釉 鉄釉	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	高台端部 釉ハギ	在地系	
	9	SK41	—	石製品/砥石	(7.1)	—	—	1.8	—	—	—	—	—	5YR6/6 明赤褐	5YR2/4 極暗赤褐			最大幅 6.3
	10	SK43 SK56	—	陶器/碗	(8.6)	(4.6)	0.6	0.35	6.4	—	—	鉄絵	—	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	削り出し高台		口縁部 灰釉
	11	SK43	—	陶器/碗	(10.1)	—	—	0.3	(5.4)	—	—	—	鉄釉 緑釉流し 緑釉ビラがけ	N7/灰白	10YR7/3 にぶい黄橙		在地系	
	12	SK43	—	磁器/碗	—	(7.2)	1.0	0.4	(3.6)	—	—	—	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白	高台端釉ハギ	肥前系	広東碗 18C後葉～19C前葉 1780年～1820年
	13	SK43	—	陶器/茶入れの蓋	(5.0)	—	—	0.4	1.65	—	ロクロナデ	ロクロナデ	灰釉 灰釉	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄			
	14	SK43	—	磁器/皿	6.0	—	0.3	0.5	2.5	—	草花文	—	透明釉 しのぎ＋呉須 透明釉 しのぎ＋呉須	10Y8/1 灰白	10Y8/1 灰白		瀬戸美濃系	最大幅 (3.9) 型打ち皿 19C中葉以降
	15	SK43	—	磁器/皿	4.6	—	—	0.55	2.45	—	草花文	—	透明釉 しのぎ 透明釉 しのぎ	10Y8/1 灰白	10Y8/1 灰白		瀬戸美濃系	最大幅 (3.8) 型打ち皿 19C中葉以降
	16	SK43		越中瀬戸/擂鉢	(21.6)			0.7	(4.5)				鉄釉 鉄釉	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙			櫛描 一単位7本
	17	SK43		越中瀬戸/さや鉢	(10.4)			0.6	(7.3)		ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	10YR8/4浅黄色	10YR8/4浅黄色			
54	1	SK45	—	陶器/碗	(11.0)	4.1	0.4	1.2	6.8	—	—	—	鉄釉 鉄釉	N7/灰白	N7/灰白	削り出し高台		
	2	SK45	—	陶器/碗	—	(4.0)	0.3	1.1	(3.5)	—	—	—	鉄釉(掛釉) 鉄釉(掛釉)	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	削り出し高台		
	3	SK45	—	陶器/碗	(8.3)	—	—	0.5	(5.3)	—	—	—	釉 釉	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白			
	4	SK45	—	陶器/碗	(11.2)	—	—	0.8	(6.8)	—	—	—	黒釉 黒釉	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白		瀬戸美濃系	18C後半～19C代
	5	SK45	—	陶器/碗	(9.0)	(8.2)	0.5	0.8	6.6	—	—	鉄釉で文様	灰釉 灰釉	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄			
	6	SK45	—	陶器/碗	—	(5.3)	0.2	1.3	(4.4)	—	ロクロナデ	ロクロヘラケズリ	/灰釉	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	削り出し蛇の目高台		18C後葉～19C代
	7	SK45	—	陶器/碗	(13.0)	—	—	0.35	(4.55)	—	—	—	—	5Y6/1灰	5Y6/1灰			
	8	SK45	—	陶器/鉢	—	(8.0)	0.5	0.9	(5.0)	—	—	ロクロナデ	灰釉 灰釉	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	ロクロナデ		
	9	SK45	—	陶器/鉢	—	(8.2)	1.5	0.3	(3.5)	—	—	—	灰釉白釉流し 灰釉	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄		肥前系	ハケ目
	10	SK45	—	陶器/皿	11.7	4.5	—	0.3	2.75	—	圧痕が 口縁部に付く	滑 丁寧な ロクロナデ	灰釉 灰釉 貫入が入る	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	ロクロヘラケズリ	信楽系	灯明皿
	11	SK45	—	陶器/皿	(13.4)	—	—	0.6	3.0	—	—	—	灰釉 灰釉	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白		信楽系	18C～幕末
	12	SK45	—	陶器/灯明受皿	(11.2)	(4.6)	—	0.3	(2.2)	—	—	回転ヘラケズリ	灰釉 灰釉	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	回転ヘラケズリ	信楽系	19C前葉～幕末
	13	SK45	—	陶器/瓶類	(3.6)	—	—	0.4	(4.3)	—	ナデ	—	/灰釉	10YR6/1 褐灰	10YR6/1 褐灰			
	14	SK45	—	陶器/鉢形容器	(12.0)	—	—	0.7	(3.3)	—	—	—	灰釉 灰釉	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰			鉄絵が入る
	15	SK45	—	越中瀬戸/短頸壺	(13.6)	—	—	0.7	(3.5)	—	ロクロナデ	ロクロナデ ロクロヘラケズリ	鉄釉 鉄釉	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙			
	16	SK45	—	磁器/碗	—	(7.0)	0.6	0.2	(3.1)	—	—	—	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白	高台端部釉ハギ	肥前系	広東碗 18C末葉～19C前葉頃
	17	SK45	—	磁器/碗	—	(4.4)	0.7	0.3	(3.8)	—	見込み中心に「寿」	円に龍か	染付＋透明釉 染付＋透明釉	N8/灰白	N8/灰白	高台端部釉ハギ	関西系 王子山、三田系か	半球形 端反碗 19C中葉～幕末
	18	SK45	—	磁器/碗	(10.0)	(3.8)	0.5	0.6	5.2	—		コンニャク印判	透明釉 透明釉	N8/灰白	N8/灰白		肥前系 波佐見	くらわんか手 18C前葉～中葉頃
	19	SK45	—	磁器/碗	(8.4)	—	—	0.4	(4.4)	—	—	コンニャク印判	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系 波佐見	くらわんか手 腰丸 18C中葉～後葉頃
	20	SK45	—	磁器/碗	—	4.4	0.5	0.8	(3.5)	—	—	草花文	—	N8/灰白	N8/灰白		肥前系 波佐見	くらわんか手 18C前葉～中葉頃
	21	SK45	—	磁器/碗	—	(8.0)	0.7	0.45	(4.3)	—	—	扇の文様	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白	焼継部の印 高台端部釉ハギ	肥前系	半球形 焼継痕アリ 焼継師の印「久口」 二文字目は「八」か 18C前葉～中葉
	22	SK45	—	磁器/碗	(9.4)	(3.8)	0.4	0.3	5.9	—	—	一条の圏線	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系か	高台に二条の圏線
	23	SK45	—	磁器/皿	—	(5.3)	0.6	1.0	(3.0)	—	蛇の目釉ハギ	—	透明釉 透明釉	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	17C中葉～後葉
	24	SK45	—	磁器/皿	(12.8)	(4.6)	0.4	0.6	3.0	—	草花と花弁	—	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	17C前葉～中葉 1630年～1640年
	25	SK45	—	磁器/蓋物・蓋	(15.6)	—	—	0.5	3.2	—	—	—	透明釉 呉須＋透明釉	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	浅半球形 端部釉ハギ 18C後葉～19C中葉頃
	26	SK45	—	磁器/紅猪口	(4.6)	1.4	0.2	0.25	1.4	—	—	—	透明釉 透明釉	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	18C中葉～19C前葉
	27	SK45	—	越中瀬戸/皿	(11.0)	(5.8)	0.28	0.73	2.45	—	草花文	—	鉄釉 鉄釉	5YR5/4 にぶい赤褐	2.5YR6/6橙	貼付け高台		
	28	SK45	—	越中瀬戸/皿	—	(3.8)	—	1.0	(1.6)	—	—	—	鉄釉 鉄釉	10Y6/1灰白	10Y7/1灰白	回転糸切り未調整		
	29	SK45	—	越中瀬戸/皿	—	(4.6)	0.4	0.7	(2.2)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	削り出し高台		
	30	SK45	—	越中瀬戸/皿	—	(5.2)	0.3	0.8	(1.8)	—	—	ロクロヘラケズリ	鉄釉 鉄釉	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	ロクロ削り出し高台		
	31	SK45	—	越中瀬戸/皿	—	(8.2)	0.4	0.8	(1.7)	—	—	ロクロヘラケズリ	鉄釉/	2.5YR7/1 灰白	2.5YR7/1 灰白	ロクロヘラ切り		付高台

図版番号	報告番号	遺構番号	層位	種類器種	法量(cm) ( )は復元値						調整・文様		釉薬	色調		技法	産地	備考
					口径(長さ)	底径	高台高	厚さ	器高	重量(g)	内面	外面	内面/外面	内面	外面	(成形・調整)		
54	32	SK45	—	越中瀬戸/皿	—	(9.6)	0.4	0.9	(1.3)	—	ロクロナデ	—	/鉄釉	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y7/3 浅黄	削り出し高台 ロクロヘラケズリ		
	33	SK45	—	越中瀬戸/皿	(11.5)	—	—	0.7	(2.6)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙			
	34	SK45	—	越中瀬戸/碗	—	5.8	0.4	1.0	(2.1)	—	—	ロクロヘラケズリ	鉄釉(鉄釉) 鉄釉(鉄釉)	5Y4/1灰	5Y4/1灰	削り出し高台		
	35	SK45	—	磁器/皿	(14.4)	(8.6)	0.25	0.5	(2.4)	—	—	—	透明釉+呉須 透明釉+呉須	N8/灰白	N8/灰白	蛇の目高台 釉ハギ	肥前系	高台「上手」17C後葉頃
	36	SK45	—	越中瀬戸/皿	(11.4)	(4.6)	0.35	0.6	2.65	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉(鉄釉) 鉄釉(鉄釉)	2.5Y7/4浅黄	2.5Y7/3浅黄	削り出し高台		
	37	SK45	—	越中瀬戸/皿	(11.6)	(5.4)	0.2	0.8	2.3	—	釉止めの段アリ ソギ	—	灰釉 灰釉	N7/灰白	N7/灰白	削り出し高台		
55	38	SK45	—	土師質土器/皿	(8.2)	(3.8)	—	0.55	1.95	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	2.5YR6/8橙	2.5YR6/8橙	回転糸切り未調整		口縁部煤痕(灯心油痕)アリ
	39	SK45	—	土師質土器/皿	(7.6)	(3.8)	—	0.3	1.7	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	回転糸切り未調整		内面 使用痕アリ
	40	SK45	—	土師質土器/皿	(11.7)	(5.6)	—	0.9	3.2	—	ヨコナデ	ヨコナデ 手持ちヘラケズ	—	2.5Y7/3浅黄	2.5Y7/3浅黄	手持ちヘラケズリ		煤(灯心油痕)アリ
	41	SK45	—	土師質土器/皿	11.0	4.8	—	0.8	2.5	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	回転糸切り未調整		内面 全面使用痕アリ
	42	SK45	—	土師質土器/皿	11.0	4.2	—	0.8	2.5	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	回転糸切り未調整		内面 全面使用痕アリ
	43	SK45	—	陶器/火鉢	—	(20.2)	1.2	1.0	(3.9)	—	—	—	黒釉 黒釉	2.5Y7/1灰白	2.5Y7/1灰白	ロクロヘラナデ		
	44	SK45	—	砥石/砥	—	—	—	0.8	(1.45)	—	—	—	—	2.5Y4/1黄灰	2.5Y4/1黄灰			
	45	SK45	—	越中瀬戸/擂鉢	(32.0)	—	—	0.8	(4.0)	—	—	—	鉄釉 鉄釉	5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙			おろし目一単位7本
	46	SK45	—	越中瀬戸/擂鉢	(30.2)	—	—	1.0	(6.6)	—	—	—	鉄釉(錆釉) 鉄釉(錆釉)	5YR6/6橙	5YR6/6橙			おろし目一単位11本中太
	47	SK45	—	陶器/擂鉢	(30.2)	(11.6)	—	0.85	12.2	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	摩耗していて不明	越前系か 信楽系	細い目 一単位10本 底部非常に使い込まれている
	48	SK45	—	陶器/擂鉢	—	10.6	—	1.8	(9.4)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	5YR5/6 明赤褐	5YR6/4 にぶい橙			底部非常に使い込まれ 胴部は丸味を帯びる おろし目一単位9本中太の目 使用痕アリ
	49	SK45	—	陶器/鉢	—	(10.0)	—	0.5	(3.0)	—	白泥象嵌 刷毛文	—	—	2.5YR6/8橙	2.5YR6/8橙		肥前系	[illegible] 三島手 砂目
57	1	SK50	—	陶器/碗	(10.6)	—	—	1.2	7.3	—	—	—	黄釉 黄釉	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	貫入		高台脇部釉ハギ 19C以降
	2	SK50	—	磁器/碗	(9.8)	—	—	0.71	(5.35)	—	—	—	青磁釉 青磁釉	N8/灰白	N8/灰白			[illegible] 18C代
	3	SK50 SK251	—	陶器/碗	11.4	5.1	0.4	0.3	7.4	—	—	鉄絵「丸文」	灰釉 灰釉	5Y7/1灰白	2.5Y7/2灰白	削り出し高台	京信楽系	SK251とSK050が接合 底部には刻み文入る 腰折碗 18C前葉頃
	4	SK50-c		陶器/碗		5.8	0.3	0.8	(2.3)				黄釉 黄釉	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白		京焼風か 京信楽系	中央畳付に「砂」(不明)アリ
	5	SK50-a	—	陶器/碗	(8.8)	—	—	0.45	(5.3)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	/青磁釉のビラ掛け	N5/灰	N5/灰		在地系	
	6	SK50-a		磁器/碗	—	(3.8)	0.5	0.3	(2.4)	—	—	鉄絵が入る	灰釉貫入が見られる 灰釉貫入が見られる	2.5Y8/1灰白	2.5Y8/1灰白	削り出し高台	肥前系	陶胎染付 18C前葉
	7	SK50	—	越中瀬戸/茶入れ	—	4.7	—	0.82	(3.2)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	灰釉 灰釉	2.5Y8/4 淡黄	2.5Y8/4 淡黄	回転糸切り未調整		
	8	SK50	—	陶器/鉢	—	10.4	0.4	1.0	3.7	—	ロクロナデ	ロクロナデ ヘラ状工具による文様	—	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄	ロクロヘラケズリ		
	9	SK50	—	陶器/片口鉢	(24.4)	—	—	0.95	(7.8)	—	—	白釉流し ハケ目	鉄釉 鉄釉	10YR5/1 褐灰	10YR5/3 にぶい黄褐		肥前系	18C代
	10	SK50	—	磁器/碗	—	(4.2)	0.8	0.5	(5.0)	—	—	草花文	透明釉 呉須	N5/灰白	N8/灰白		肥前系	高台畳部釉なし 18C前葉頃
	11	SK50	—	磁器/碗	(11.8)	—	—	0.5	(4.8)	—	—	三条の圏線と一条の太線	不明	N8/灰白	N8/灰白		瀬戸美濃系	19C前葉〜中葉頃
	12	SK50	—	磁器/皿	9.8	4.2	0.7	0.8	3.4	—	菱形文＋草花文	—	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	[illegible] 底部に「[illegible]」の文字 18C前葉〜中葉頃
	13	SK50-b	—	磁器/碗	(11.4)	—	—	0.8	(5.2)	—	—	—	青磁釉 青磁釉	N8/灰白	N8/灰白			
	14	SK050	—	磁器/皿	(12.8)	4.4	0.8	0.65	3.4	—	蛇の目釉ハギ	—	白磁釉 白磁釉	N8/灰白	N8/灰白	削り出し高台	波佐見	陶胎土器
	15	SK50 SK251	—	磁器/皿	13.4	6.25	0.3	0.4	3.55	—	(松竹梅)＋亀	—	透明釉＋呉須 青磁釉	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	蛇の目高台	肥前系	「富貴長春」の文字 18C中葉〜後葉頃
	16	SK50	—	磁器/段重	(14.8)	—	—	0.5	4.7	—	—	網目文＋梅文	—	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	網目に窓区画文 18C中葉〜後葉
	17	SK50	—	磁器/[illegible]	—	(6.4)	0.7	0.9	(10.2)	—	—	—	—	5YR6/6橙	N7/灰白		肥前系	陶胎染付 17C中葉〜後葉頃
	18	SK50	—	陶器/甕	(44.8)	—	—	1.6	(4.3)	—	—	—	/自然釉	5Y5/1灰	5Y5/1灰白		越前系	17C以降
	19	SK50	—	陶器/甕	—	19.4	—	1.0	(3.55)	—	—	—	—	5Y7/1灰白	7.5YR7/6橙		越前系	
58	20	SK50	—	越中瀬戸/皿	6.1	4.0		0.4	1.9	—	—	—	鉄釉 鉄釉	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	回転糸切り未調整		
	21	SK050		越中瀬戸/皿	(11.8)	5.0	0.4	0.85	2.8	—	—	—	鉄釉 鉄釉	10Y8/1 灰白	10Y8/1 灰白	貼付け高台		口縁部煤付着
	22	SK50	—	越中瀬戸/灯明受皿	(9.7)	(4.8)	—	0.65	2.5	—	—	—	鉄釉 鉄釉	2.5Y7/4 浅黄	2.5Y7/4 浅黄	回転糸切り未調整		[illegible]か
	23	SK50	—	越中瀬戸/広口壺	—	11.4	—	1.0	(8.1)	—	ロクロナデ	ロクロナデ 指頭痕アリ	鉄釉 鉄釉	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	回転糸切り未調整		内面うるし痕アリ 使用痕アリ
	24	SK50-a	—	越中瀬戸/壺	—	12.0	—	0.7	(5.4)	—	—	—	鉄釉 鉄釉	7.5YR7/2 明褐灰	7.5YR7/2 明褐灰	回転糸切り未調整		見込みに焼きふくれが見られる
	25	SK50	—	越中瀬戸/長頸壺	—	(9.7)	—	1.1	16.5	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y4/2 暗灰黄	回転糸切り未調整		
	26	SK50	—	越中瀬戸/広口壺	—	9.3	—	1.0	7.9	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	10R5/6 赤褐	10R5/6 赤褐	回転糸切り未調整		
	27	SK50	—	越中瀬戸/広口壺		9.5	—	1.0	7.9	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	10R6/6 赤橙	10R6/6 赤橙	回転糸切り未調整		
	28	SK50	—	越中瀬戸/広口壺	(12.8)	(13.1)	—	1.2	13.8	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/3 にぶい橙	回転糸切り未調整		
	29	SK10 SK50-b	—	越中瀬戸/双耳壺	(12.0)	8.8	—	1.3	14.75	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y5/2 暗灰黄	回転糸切り未調整		
	30	SK50	—	土師質土器/皿	(9.4)	(3.4)	—	0.5	2.1	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	10YR8/3 浅黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	回転糸切り未調整		口縁部煤付着アリ
	31	SK50	—	土師質土器/皿	8.1	4.2	—	0.6	2.1	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR6/6 橙	回転糸切り未調整		口縁部煤付着アリ
	32	SK50-c	—	土師質土器/皿	(9.4)	4.0	—	0.4	2.0	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	回転糸切り未調整		煤(灯心油痕)付着
	33	SK50	—	陶器/擂鉢	(33.4)	—	—	0.9	(7.2)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	10R4/6赤	10Y3/1 オリーブ黒			おろし目一単位9本以上 [illegible] 18C代
	34	SK50	—	陶器/擂鉢		14.0	1.3	0.8	(9.3)	—	—	ロクロ削り	鉄釉 鉄釉	10R5/6赤	10R5/6赤		肥前系	中太一単位9本
	35	SK50	—	金属製品/煙管吸口	5.6	—	—	0.05	—	6.0	—	—	—	—	—			最大幅 0.9
61	2	SK58	—	磁器/小坏	(8.0)	(2.8)	0.3	0.45	3.4	—	—	草花文	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	半球形 18C前葉頃
	3	SK58	—	磁器/碗	(10.0)	—	—	0.4	(4.1)	—	—	区画に[illegible]	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	浅半球形 18C中葉頃
	4	SK58	—	陶器/[illegible]	(7.7)	—	—	0.6	(3.3)	—	—	—	灰釉に鉄釉流し 灰釉に鉄釉流し	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白		瀬戸美濃か	
	5	SK58	—	陶器/黒茶碗	(15.0)	—	—	0.6	(6.9)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	/一部鉄釉	2.5Y8/2灰白	2.5Y7/2灰黄			
	6	SK83	—	陶器/碗	—	(4.9)	0.9	0.5	(5.2)	—	—	—	—	2.5Y7/3浅黄	2.5Y7/3浅黄			17C後半〜
	7	SK83	—	磁器/碗	—	(4.8)	0.6	0.55	(3.8)	—	—	草花文(蛇文)	透明釉 透明釉＋呉須	2.5Y8/1灰白	2.5Y8/1灰白		肥前系	見込に一条の圏線がまわる 腰はり形 18C中葉〜後葉頃
	8	SK83	—	磁器/碗	(9.8)	—	—	0.6	(5.4)	—	—	草花文	透明釉 透明釉＋呉須	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白		肥前系	18C中葉〜後葉頃
	9	SK83	—	磁器/碗	(11.6)	(4.5)	0.7	0.6	(6.5)	—	—	草花文＋馬	透明釉 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	18C中葉頃
	10	SK83	—	磁器/皿	(13.6)	—	—	0.62	3.3	—	—	—	—	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	17C後半
	11	SK83		磁器/皿	(13.6)	—		0.6	(2.2)	—	—	—	—	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	18C前葉頃
	12	SK83	—	土師質土器/皿	(9.1)	(4.0)	—	0.4	2.3	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	7.5YR7/4 にぶい橙	10YR8/2 灰白	回転糸切り未調整		煤(灯心油痕)付着アリ
	13	SK83	—	土師質土器/皿	(10.4)	(4.5)	—	0.35	2.1	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	回転糸切り未調整	越中瀬戸系 在地か	煤(灯心油痕)付着アリ 内面使用痕アリ
	14	SK83	—	土師質土器/皿	11.4	4.8	—	0.9	2.65	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	5YR6/6橙	5YR6/6橙	回転糸切り未調整	越中瀬戸系 在地か	内面使用痕アリ
	15	SK83	—	磁器/皿	—	(8.0)	0.7	0.6	(2.6)	—	草花文	—	透明釉＋呉須 透明釉	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	17C後葉頃

図版番号	報告番号	遺構番号	層位	種類特徴	法量(cm)（ ）は復元値 口径(長さ)	底径	高台高	厚さ	器高	重量(g)	調整・施文 内面	外面	施釉 内面／外面	色調 内面	外面	底部 (成形・調整)	産地	備考
	16	SK83	―	越中瀬戸/擂鉢	(19.4)	―	―	0.8	(6.2)	―	―	―	鉄釉 鉄釉	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙			一単位中太7本
	17	SK83	―	陶器/擂鉢	(17.2)	―	―	0.49	(4.5)	―	ロクロヘラナデ	ロクロヘラナデ	口縁端部のみ 鉄釉	5B2/1青黒	5B2/1青黒		在地系	一単位13本
	20	SK83	―	金属製品/天秤皿	(17.2)	―	―	0.03	―	18.0	―	―	―	―	―			最大幅 11.2
63	1	SK92	―	陶器/皿	(7.6)	(2.6)	―	0.3	2.0	―		ロクロヘラケズリ	灰釉 灰釉	5Y6/2 灰黄	2.5Y6/3 にぶい黄	ロクロヘラケズリ		
	2	SK92	―	陶器/皿	(14.8)	6.2	0.4	0.5	2.0	―	貫入が入る	貫入が入る	緑釉＋鉄釉に長石釉 緑釉＋鉄釉に長石釉	10YR8/4 浅黄橙	2.5Y7/4 浅黄	削り出し高台	瀬戸美濃系か	19C代
	5	SK87	―	陶器/碗	―	3.9	0.4	0.7	(4.4)	―	―	ロクロヘラケズリ	黒褐釉 黒褐釉	7.5Y6/1 灰	7.5Y6/1 灰	削り出し高台		天目茶碗
	6	SK87	―	磁器/皿	―	5.2	0.6	0.3	(2.4)	―	蛇の目釉ハギ	―	長石釉か白泥 長石釉か白泥	7.5YR8/2 灰白	N8/灰白	削り出し高台		陶胎染付 17C後半～
	7	SK87	―	陶器/皿	12.5	4.4	0.35	0.7	3.3	―	―	―	灰釉 灰釉	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	削り出し高台	肥前系	見込みは蛇の目釉ハギ 内ノ山窯 17C末～18C後葉
	8	SK87		陶器/灯明受皿	(11.6)	(4.0)		0.3	2.1		ロクロナデ	ロクロナデ		10R4/4赤褐	10R4/3赤	ロクロヘラケズリ		
	9	SK87	―	陶器/鉢	22.8	8.2	1.1	0.4	8.5	―	―	―	灰釉 灰釉 鉄釉	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	削り出し高台	瀬戸美濃系か	高台裏には円形に鉄釉をぬる
	10	SK87	―	陶器/鉢皿	(11.3)	(11.6)	0.5	0.5	5.1	―	ロクロナデ	―	長石釉に貫入入る 長石釉に貫入入る	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白			底部に墨書アリ 「口＼三＼そか口」 香炉、火入れか
	11	SK87	―	土師質土器/皿	6.7	3.8	―	0.3	1.9	―	ロクロナデ	ロクロナデ	―	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/3 にぶい橙	回転糸切り未調整	越中瀬戸系の素地か	
	12	SK87	―	土師質土器/皿	(8.6)	4.1	―	0.55	2.0	―	ロクロナデ	ロクロナデ	―	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	回転糸切り未調整	越中瀬戸系の素地か	見込み内面に使用痕アリ
	13	SK87	―	越中瀬戸/皿	(12.55)	(5.5)	0.4	1.0	2.7	―	ロクロナデ	ロクロナデ ロクロヘラケズリ	鉄釉 鉄釉	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR6/3 にぶい褐	削り出し高台		見込み部分に重ね焼き痕アリ 釉の内側に使用痕アリ
	14	SK87	―	陶器/植木鉢	(34.5)	―	―	0.8	(7.2)	―	―	―	灰釉 灰釉	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白		瀬戸美濃系	
	15	SK87	―	陶器/擂鉢	(32.6)	(10.7)	―	1.7	12.05	―	―	―	鉄釉 鉄釉	2.5YR4/1 赤灰	2.5YR3/1 暗赤灰	回転糸切り未調整		おろし目 一単位輪目13本
	16	SK87	―	珠洲焼/土製円盤	3.4	―	―	―	1.0	―	―	―	―	7.5GY4/1 暗緑灰	10G3/1 暗緑灰			
64	1	SK87	―	磁器/碗	(3.8)	(5.0)	0.7	0.8	6.65	―	―	―	―	N8/1灰白	N8/1灰白		肥前系	17C中葉頃
	2	SK87	―	磁器/碗	(11.6)	―	―	0.5	(5.0)	―	二条の界線	草花文	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	17C中葉～後葉頃
	3	SK87	―	磁器/碗	(10.4)	―	―	0.3	(4.7)	―	―	草花文	透明釉 透明釉	N8/灰白	N8/灰白			17C後葉
	4	SK87	―	磁器/碗	(10.6)	(4.4)	1.0	0.4	5.8	―	―	コンニャク印判	透明釉 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	接合箇所に焼継剤残る 8C前葉頃以降
	5	SK87	―	磁器/碗	―	(3.0)	0.35	1.1	(3.9)	―	―	―	―	2.5Y6/1 黄灰	5YR4/6 赤褐			陶胎染付
	6	SK87	―	磁器/猪口	6.8	3.1	0.5	0.5	5.6	―	―	コンニャク印判 剝か	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	縦長形 17C後葉～18C前葉頃
	7	SK87	―	磁器/酒杯	(8.2)	2.6	0.5	0.3	2.8	―	―	草花文	透明釉 透明釉＋呉須	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白		肥前系	酒坏を転用口として使用か 18C前葉頃
	8	SK87	―	磁器/蓋物	(11.7)	(7.0)	0.6	0.3	6.8	―	―	草花文＋ 六条の界線	透明釉 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	17C後葉～18C前葉頃
	9	SK87	―	磁器/蓋物	―	(7.0)	0.7	0.8	(2.7)	―	―	草花文に 四条の界線	透明釉 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	17C後葉～18C前葉頃
	10	SK87	―	磁器/皿	(13.6)	(5.6)	0.4	0.4	3.6	―	草花文	唐草文	―	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白		肥前系	17C後葉頃
	11	SK87	―	磁器/皿	(12.2)	(6.0)	0.5	4.5	2.05	―	―	―	―	N8/灰白	N8/灰白			18C中葉頃
	12	SK87		磁器/皿		(3.6)	0.5	6.6	(3.4)		草花文	唐草文	―	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	底部 銘入るが不明 18C前葉頃
	13	SK87		磁器/皿		(11.6)	0.7	0.4	(1.7)		鳳の絵	二条の界線	―	N8/灰白	N8/灰白		景徳鎮系	16C末～17C前半
67	1	SK116	―	磁器/碗	―	(3.4)	0.2	0.2	(2.5)	―	―	―	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	腰はり形 18C前葉～中葉頃
	2	SK116	―	磁器/碗	(8.6)	―	―	0.7	5.9	―	―	網目文	―	N8/灰白	N8/灰白			陶胎染付
	3	SK116	―	磁器/碗	(10.6)	―	―	0.4	(1.6)	―	色絵	唐草文	―	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	18C中葉～後葉頃
	4	SK116	―	磁器/皿	―	(5.0)	0.5	0.85	1.7	―	草花文	―	透明釉 透明釉	N8/灰白	N8/灰白		景徳鎮産	高台端部 砂付 16C後半～17C前半
	5	SK116	―	越中瀬戸/皿	(12.2)	―	―	0.8	2.8	―	―	ロクロヘラケズリ	灰釉(白色) 灰釉(白色)	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	貼付け高台		内面に釉止めの段アリ
	6	SK116	―	越中瀬戸/皿	(11.2)	(3.2)	―	1.0	3.2	―	―	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	回転糸切り未調整		
	7	SK116	―	珠洲/甕	(13.2)	―	―	0.8	(6.05)	―	―	―	―	2.5Y4/1黄灰	2.5Y3/1黒褐			吉岡編年IV期
	8	SK116	―	磁器/仏飯器	―	4.2	―	0.7	(3.8)	―	―	二条の界線	白泥釉＋呉須 白泥釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白			
	9	SK116	―	越中瀬戸/擂鉢	(28.0)	―	―	0.8	(4.2)	―	―	―	鉄釉 鉄釉	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙			
	10	SK116	―	陶器/擂鉢	(38.6)	―	―	1.1	14.0	―	―	―	鉄釉 鉄釉	2.5Y4/6 赤褐	2.5Y4/6 赤褐		肥前系	おろし目 一単位11本 側面に格子目状のタタキ痕残る 18C後半～19C代
	11	SK116	―	陶器/鉢	(27.2)	(11.6)	1.2	0.5	9.1	―	―	―	―	10R5/4赤褐	10R5/4赤褐		肥前系	18C前葉頃
68	1	SK127	―	土師質土器/皿	(9.5)	―	―	0.5	2.2	―	ナデ	ナデ	―	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	ナデ		底部 墨痕アリ 非ロクロ 16C代か
	2	SK132	―	磁器/碗	―	(4.3)	0.8	0.8	(4.0)	―	―	―	―	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	17C末～18C以降
	3	SK132	―	磁器/碗	(8.6)	―	―	0.55	4.9	―	―	―	―	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	
	4	SK132	―	志野/丸皿	(13.2)	(7.2)	0.25	0.85	2.6	―	―	―	―	2.5Y7/1灰白	2.5Y7/1灰白		肥前系	口縁部錆アリ
	5	SK132	―	磁器/皿	(14.2)	(8.0)	0.5	0.55	2.8	―	草花文	唐草文＋ 三条の界線	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	17C後葉頃
	6	SK132	―	磁器/皿	(12.4)	―	―	0.5	(2.3)	―	―	―	白泥＋呉須 白泥＋呉須	N7/灰白	N7/灰白		肥前系	17C後葉頃
	7	SK132	―	磁器/皿	(12.8)	(3.6)	0.6	7.5	3.35	―	蛇の目釉ハギ	―	白泥＋呉須 白泥	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙		肥前系	17C後半
	8	SK132	―	磁器/皿	―	(4.3)	0.5	1.0	(2.5)	―	蛇の目釉ハギ	―	白泥 白泥	N8/灰白	N8/灰白	削り出し高台	肥前系	高台端部釉ハギ 波佐見 17C後葉頃
	9	SK132	―	越中瀬戸/皿	(10.6)	(4.5)	0.3	0.9	2.2	―	―	―	灰釉 灰釉	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	貼付け高台		内部釉止めの段アリ
	10	SK132	―	土師質土器/皿	(7.6)	3.9	―	0.4	1.8	―	ロクロナデ	ロクロナデ	―	5YR7/6橙	5YR7/6橙	回転糸切り未調整	越中瀬戸系の素地か	
	11	SK132	―	土師質土器/皿	13.8	―	―	0.6	2.1	―	ユビナデ	ヨコナデ	―	2.5Y7/1灰白	2.5Y7/1灰白			手づくね 16C～
	12	SK132	―	土師質土器/鍋	(14.2)	―	―	0.8	(2.7)	―	―	―	―	10YR6/3 にぶい黄褐	10YR7/4 にぶい黄橙			外面煤付着アリ
	13	SK132	―	陶器/甕	(30.4)	1.0	―	―	(5.7)	―	―	―	―	2.5Y7/1灰白	2.5Y7/1灰白		越前系	17C以降
69	1	SK139	―	磁器/碗	―	(3.6)	0.6	6.8	(4.35)	―	―	草花文	透明釉 透明釉	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白		肥前系	腰丸形 18C中葉頃
	2	SK139	―	磁器/皿	(13.2)			0.5	(2.3)	―	―	―		N8/灰白	N8/灰白			
	3	SK139	―	青磁/植木鉢	―	―	―	―	(4.8)	―	―	―	青磁釉	N8/灰白	N8/灰白			全長(8.8) 最大幅(6.2)
	4	SK139	―	越中瀬戸/擂鉢	―	(13.8)	―	1.0	(8.7)	―	―	型擦痕アリ	鉄釉 鉄釉	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	不明瞭		おろし目
	5	SK146	―	陶器/皿	(11.6)	(8.5)	0.15	0.55	2.25	―	―	―	灰釉(緑部釉) 灰釉(緑部釉)	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白			
	6	SK146	―	志野/丸皿	(13.3)	―	―	0.6	(3.1)	―	―	―	長石釉 長石釉	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白			大窯IV期
	7	SK146	―	越中瀬戸/擂鉢	(15.0)	―	―	0.7	(7.7)	―	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙			口縁端部釉ハギ
	8	SK154	―	陶器/碗	―	4.3	0.5	0.51	3.45	―	―	―	黄釉 黄釉	10YR8/灰白	10YR8/灰白	削り出し高台	京信楽系	
	9	SK154	―	陶器/皿	―	4.4	0.3	0.8	(3.6)	―	―	―	灰釉	5Y7/2灰白	2.5Y8/2灰白		京信楽系	目跡あり
	10	SK154	―	磁器/碗	(7.6)	―	―	0.45	(4.1)	―	―	いげた文	透明釉 透明釉	7.5Y8/1 灰白	7.5Y8/1 灰白		肥前系	腰丸形 18C後葉頃
	11	SK154	―	磁器/碗	(9.4)	―	―	0.5	(5.4)	―	―	―	透明釉＋呉須 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	17C中葉～後葉頃
	12	SK154	―	磁器/碗	(10.0)	―	―	0.5	6.0	―	―	網目文	透明釉 透明釉	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	網目文 17C中葉～後葉頃
	13	SK154	―	磁器/皿	(10.6)	(3.5)	0.5	0.5	2.5	―	菊文	―	透明釉 透明釉＋呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	銘
	14	SK154	―	磁器/仏飯器	(8.5)	(3.4)	0.5	0.65	6.05	―	―	草花文	透明釉 透明釉＋呉須	7.5Y8/1 灰白	7.5Y8/1 灰白		肥前系	19C代
	15	SK154		土師質土器/皿	7.0	3.4	―	0.7	1.5	―	ロクロナデ	ロクロナデ	―	5YR7/4 にぶい橙	5YR7/4 にぶい橙	回転糸切り未調整	越中瀬戸系素地か	煤(灯心油痕)アリ
	16	SK154	―	土師質土器/皿	7.9	3.7	―	0.6	1.7	―	ロクロナデ	ロクロナデ	―	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	回転糸切り未調整	越中瀬戸系素地か	

図版番号	掲載番号	遺構番号	層位	種類/器種	法量(cm)( )は復元値 口径(長さ)	底径	高台高	厚さ	器高	重量(g)	調整・技法 内面	外面	釉薬 内面/外面	色調 内面	外面	底部 (成形・調整)	産地	備考
	17	SK154	—	土師質土器/皿	8.1	—	—	0.7	1.9	—	ロクロナデ	ロクロナデ ロクロヘラケズリ ロクロヘラ切り	—	2.5Y8/2 灰白	5Y8/1 灰白	ロクロヘラ切り		
	18	SK154	—	越中瀬戸/皿	(12.6)	(4.8)	0.4	0.7	3.0	—	ロクロナデ	ロクロナデ ロクロヘラケズリ	鉄釉 鉄釉	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/3 にぶい橙	削り出し高台		
	19	SK154	—	陶器/擂鉢	(32.2)	—	—	0.8	(4.4)	—	—	—	鉄釉 鉄釉	7.5YR4/1 褐灰	7.5YR4/1 褐灰		肥前系	一単位 中太7本 18C後葉~19C代
	20	SK154	—	越中瀬戸/擂鉢	(30.4)	(12.5)	—	0.7	12.6	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	5YR4/2 灰褐	5YR4/2 灰褐	回転糸切り未調整	瀬戸美濃系か	一単位12本
	21	SK154	—	青磁/香炉	(43.0)	—	—	0.8	(2.2)	—	—	—	—	N6/灰白	N8/灰白			12C以降
	22	SK154	—	石製品/硯	6.7	—	—	2.3	—	—	—	—	—	2.5GY6/1 オリーブ灰	2.5GY6/1 オリーブ灰			最大幅5.6、粘板岩
	23	SK154	—	瓦/丸瓦	10.5	—	—	2.0	—	—	—	—	—	N7/灰白	N7/灰白			最大幅4.5 瓦質 内面に工具痕
	24	SK155	—	磁器/碗	(9.0)	3.2	0.85	1.45	5.0	—	—	草花文	透明釉 透明釉+呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	18C中葉~後葉頃
	25	SK155	—	磁器/皿	—	(7.0)	0.65	1.9	3.0	—	—	—	白磁釉(やや青色が入る) 白磁釉(やや青色が入る)	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	17C以降
71	1	SK237	下層	陶器/碗	—	4.9	0.4	1.2	(4.1)	—	—	—	黒釉 黒釉	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y6/3 にぶい黄	削り出し高台 ロクロヘラケズリ	肥前系	天目茶碗
	2	SK237	上層 下層	陶器/碗	13.9	4.9	0.5	0.8	5.3	—	—	ロクロヘラケズリ	灰釉 灰釉	5Y6/3 オリーブ黄灰	2.5Y7/2 灰黄	削り出し高台	肥前系	
	3	SK237	下層	陶器/鉢	(14.6)	—	—	0.4	(8.4)	—	—	ロクロヘラケズリ	長石釉か ハケぬり	2.5Y6/1黄灰	2.5Y6/1黄灰		在地系	
	4	SK237	上層	陶器/皿	11.1	(8.0)	—	0.5	1.85	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ロクロヘラ切り		
	5	SK237	上層	陶器/蓋	(12.4)	(9.5)	0.65	0.3	(2.2)	—	—	—	—	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙		志戸呂産か	墨書にて『正徳三年閏五月』(1713年) 記入る
	6	SK237	上層	磁器/碗	(9.6)	—	—	0.3	(4.7)	—	—	草花文	透明釉 透明釉+呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	18C前葉~中葉頃
	7	SK237	—	磁器/皿	(13.5)	—	—	0.7	(2.4)	—	—	—	透明釉+呉須 透明釉+呉須	N8/灰白	N8/灰白			17C後半
	8	SK237	上層	磁器/皿	—	(7.9)	4.5	0.8	(2.65)	—	不明	二条の圏線	透明釉+呉須 透明釉+呉須	N7/灰白	N7/灰白		肥前系	くらわんか手 18C前葉~中葉頃
	9	SK237	—	磁器/鉢	18.4	6.1	0.6	1.0	9.6	—	片刃彫りによる文様	—	青磁釉 青磁釉	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	17C後半
	10	SK237	—	越中瀬戸/皿		5.0	0.2	0.9	(1.3)	—	印花	ロクロヘラケズリ	灰釉/	N6/灰	N6/灰	貼付け高台		
	11	SK237	下層	越中瀬戸/皿	(13.8)	5.8	0.3	0.7	3.4	—	ロクロナデ	ロクロナデ ロクロヘラケズリ	鉄釉 鉄釉	10YR8/4 浅黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	削り出し高台		
	12	SK237	下層	磁器/人形	(3.8)	—	—	0.5	—	—	—	—	—	N8/灰白	N8/灰白			最大幅2.1 接合面に指で接着した痕アリ
	13	SK237	上層	土師質土器/皿	(10.8)	—	—	0.5	2.25	—	ナデ	ナデ	—	5YR7/6橙	5YR7/6橙	ナデ		燈(灯)心油痕付着アリ 非ロクロ成形
	14	SK237	—	土師質土器/皿	11.9	—	—	0.5	2.5	—	ヨコナデ	ナデ	—	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	ナデ		燈(灯)心油痕付着 非ロクロ成形
	15	SK237	下層	土師質土器/皿	10.9	—	—	0.5	2.8	—	ナデ	ナデ	—	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	ナデ		燈(灯)心油痕付着アリ 非ロクロ成形
	16	SK237	下層	土師質土器/皿	11.7	6.0	—	0.5	2.4	—	ナデ	ナデ	—	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/3 にぶい橙	ナデ		内面は燈以外使用痕アリ 燈(灯)心油痕付着アリ 非ロクロ成形
	17	SK237	下層	土師質土器/皿	(11.1)	—	—	0.4	2.7	—	ヨコナデ	ナデ	—	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ナデ		燈(灯)心油痕付着アリ 非ロクロ成形
	18	SK237	上層	土師質土器/皿	(10.3)	4.15	—	0.4	2.45	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	7.5YR8/3 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	回転糸切り未調整		ロクロ成形
	19	SK237	下層	土師質土器/皿	(10.4)	(4.8)	—	0.6	2.8	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	5Y7/2灰白	5Y7/2灰白	回転糸切り未調整		ロクロ成形
	20	SK237	—	土師質土器/皿	10.7	4.8	—	0.7	2.5	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	回転糸切り未調整		内面 使用痕アリ 燈(灯)心油痕付着アリ ロクロ成形
	21	SK237	—	土師質土器/皿	(11.6)	(6.1)	—	0.65	2.3	—	ナデ	ナデ	—	7.5YR7/4 にぶい橙	5YR7/4 にぶい橙	ナデ		内面全面使用痕アリ 燈(灯)心油痕付着アリ 非ロクロ成形
	22	SK237	—	土師質土器/皿	(11.6)	(6.1)	—	0.55	2.2	—	ナデ	ナデ	—	7.5YR7/4 にぶい橙	5YR7/4 にぶい橙	ナデ		内面全面使用痕アリ 燈(灯)心油痕付着アリ 非ロクロ成形
	23	SK237	下層	土師質土器/皿	(9.2)	4.0	—	0.5	2.3	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙	回転糸切り未調整	越中瀬戸系産地か	燈(灯)心油痕付着 内部使用痕アリ ロクロ成形
	24	SK237	下層	土師質土器/皿	9.2	4.0	—	0.7	2.1	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	回転糸切り未調整	越中瀬戸系産地か	内面 使用痕アリ ロクロ成形
	25	SK237	下層	陶器/火入れ	(26.0)	—	—	0.6	(5.0)	—	—	—	鉄釉に長石釉流し 鉄釉に長石釉流し	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐		肥前系	
	26	SK237	上層	越中瀬戸/擂鉢	(24.6)	—	—	0.8	(8.75)	—	—	—	—	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙			一単位10本
	27	SK237	上層	越中瀬戸/擂鉢	(34.6)	—	—	0.9	(6.1)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄		瀬戸美濃系か	一単位中太9本
74	1	SK239	—	陶器/碗	(9.6)	(3.1)	0.45	0.25	5.65	—	—	緑色の色絵	黄釉+貫入 黄釉+貫入	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	削り出し高台	京、信楽系	高台底部に墨書「造月」か
	2	SK239	—	磁器/碗	—	(3.6)	0.6	0.8	(3.0)	—	—	—	—	N8/灰白	N8/灰白			
	3	SK239	—	磁器/碗	—	(4.2)	0.5	0.7	(3.6)	—	染書きか赤絵	赤書き	灰釉/	N8/灰白	N8/灰白			高台端部 釉ハギ
	4	SK239	—	磁器/碗	(8.6)			0.4	5.1	—	—	コンニャク印判	—	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	くらわんか手 18C前葉~中葉頃
	5	SK239	—	磁器/皿	(13.3)	(4.6)	0.5	1.1	3.0	—	蛇の目釉ハギ	—	青磁釉 青磁釉	N8/灰白	N6/灰白			高台端部 砂目 17C後葉
	7	SK239	—	陶器/壺	(15.8)	—	—	0.75	(12.0)	—	格子状のあて具痕アリ	ヨコナデ	鉄釉 鉄釉	2.5YR4/2 灰赤	2.5YR3/2 暗赤褐			口縁部 釉ハギ
	8	SK239	—	陶器/鉢	(35.0)	—	—	1.2	(8.7)	—	—	—	—	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐		肥前系	18C前葉頃
	9	SK239	—	陶器/鉢	(38.8)	—	—	1.1	(8.3)	—	—	—	—	10R4/4赤褐	10R4/4赤褐		肥前系	18C前葉頃
	10	SK239	—	陶器/擂鉢	(20.6)	—	—	0.4	(6.05)	—	—	—	鉄釉 鉄釉	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR4/2 灰褐		肥前系	17C後葉~18C代
	11	SK239	—	越中瀬戸/擂鉢	(38.2)	—	—	0.8	(4.1)	—	—	—	—	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙			一単位12本
	12	SK239	—	土師質土器/皿	(9.6)	4.0	—	0.4	2.0	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	10YR8/3 浅黄橙	5YR6/6橙	回転糸切り未調整		内面 使用痕アリ ロクロ成形
	13	SK239	—	土師質土器/皿	(9.0)	4.0	—	0.6	2.0	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	回転糸切り未調整	越中瀬戸系産地か	内面 使用痕アリ 越中瀬戸に類似 ロクロ成形
	14	SK239	—	土師質土器/皿	(9.3)	—	—	0.4	1.6	—	—	ヨコナデ ナデ	—	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	ナデ		内面 全面使用痕アリ 手づくね 非ロクロ成形 16C~17C初か
76	1	SK236	—	瓦器/丸瓦	(13.2)	—	—	0.7	2.5	—	—	—	長石釉 長石釉	7.5Y8/1灰白	7.5Y8/1灰白			大堀相馬
	2	SK236	—	越中瀬戸/擂鉢	—	(10.0)	—	0.6	(2.6)	—	ロクロナデ	ロクロナデ 棒状工具によるナデ 指頭痕アリ	鉄釉 鉄釉	5YR7/4 にぶい橙	5YR7/4 にぶい橙	回転糸切り未調整		
	3	SK236	—	磁器/碗	(3.2)	—	—	0.46	(4.3)	—	—	—	—	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	筒形 18C中葉~後葉
	4	SK236	—	磁器/香炉	(11.6)	—	—	0.5	(5.3)	—	—	タコ唐草文	青磁釉 青磁釉 呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	口縁内側に融付痕アリ「上手」 18C前葉頃
	5	SK236	—	越中瀬戸/擂鉢	—	(10.4)	—	1.2	(10.0)	—	ロクロナデ	ロクロナデ 指頭痕アリ	鉄釉 鉄釉	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	回転糸切り未調整		一単位10本
	7	SK236	—	陶器/碗	(11.4)	—	—	0.52	6.1	—	—	—	鉄釉黒釉流し 鉄釉黒釉流し	7.5Y7/1灰白	7.5Y7/1灰白		京信楽系	端反形 19C前葉~中葉頃
	8	SK236	—	越中瀬戸/皿	(10.4)	(5.2)	0.3	0.8	2.1	—	印花文	ロクロヘラケズリ	灰釉 灰釉	2.5YR6/6橙	10YR6/3 にぶい黄橙	貼付け高台		見込み部分に使用痕アリ
	9	SK236	—	越中瀬戸/香炉		(6.4)	0.2	0.6	(4.6)	—	—	ロクロヘラケズリ	鉄釉 鉄釉	5YR5/3 にぶい赤褐	5YR5/3 にぶい赤褐	削り出し高台		
	10	SK236	—	越中瀬戸/擂鉢	(29.6)			0.8	4.2	—	—	—	—	2.5YR7/6橙	2.5YR7/6橙			
	11	SK247	—	陶器/碗	(9.2)	2.3	0.4	0.5	5.1	—	—	—	緑釉 黄褐釉(長石釉) 緑釉 黄褐釉(長石釉)	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白		京信楽系	19C前葉~中葉頃
	12	SK247	—	土師質土器/皿	7.45	3.7	—	0.4	2.1	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	回転糸切り	越中瀬戸系産地か	燈(灯)心油痕付着アリ 内面使用痕アリ
	13	SK247	—	越中瀬戸/擂鉢	—	(13.1)	—	1.3	(3.2)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	灰釉 鉄釉	2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	回転糸切り未調整		内面 漆書痕アリ
78	1	SK249	—	陶器/香炉蓋	—	(4.8)		1.8	(2.2)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	/黄釉	2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	回転糸切り未調整		内面 煤付着
	2	SK249	—	磁器/皿	—	(5.7)	0.6	0.4	(2.3)	—	—	—	—	N8/灰白	N8/灰白			釉陶染付 19C前葉頃
	3	SK249	—	越中瀬戸/擂鉢		(13.1)		1.3	(3.2)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	回転糸切り未調整		
	4	SK249	—	土師質土器/皿	9.5	4.7	—	0.5	2.3	—	ナデ	ナデ	—	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	ナデ		16C代 内面 全面使用痕アリ 歪み大 手づくね 燈(灯)心油痕付着アリ
	5	SK249	—	陶器/擂鉢	(37.0)	(14.0)	1.6	0.8	15.1	—	ロクロヘラケズリ	ロクロヘラケズリ	鉄釉 鉄釉	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	ロクロナデ	肥前系	18C後葉~19C代

図版番号	報告番号	遺構番号	層位	種類器種	法量(cm) ( )は復元値 口径(長さ)	底径	高台高	厚さ	器高	重量(g)	調整・施文 内面	外面	施釉 内面／外面	色調 内面	外面	底部 (成形・調整)	産地	備考
78	6	SK249	—	土製品/土錘	5.1	—	—	—	4.2	—	—	—		10YR8/1 灰白	10YR4/1 褐灰			
	7	SK251	—	磁器/碗	11.3	5.1	1.1	0.8	7.4	—	—	草花文	透明釉 透明釉+呉須+白泥	7.5Y8/1灰	7.5Y8/1灰		肥前系	底部白泥+透明釉 高台端部釉ハギ 18C前葉頃
	8	SK251	—	磁器/猪口	(7.5)			0.4	(4.8)	—	—	—	—	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	18C中葉頃
	9	SK251	—	磁器/輪花皿	(13.4)	(7.7)	0.4	0.4	2.9	—	草花文	唐草文	—	7.5Y8/1灰白	7.5Y8/1灰白		肥前系	17C後葉～18C前葉頃
	10	SK251	—	磁器/輪花皿	(15.0)	—	—	0.4	3.75	—	草花文	唐草文に 三条の帯線	—	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	17C後葉～18C前葉頃
	11	SK251	—	越中瀬戸/皿	9.3	3.8	—	0.4	2.5	—	—	—	鉄釉 鉄釉	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR4/3 にぶい黄褐	回転糸切り		見込み部に別の釉付着
	12	SK251	—	越中瀬戸/壺	19.8	—	—	0.7	(5.0)	—	—	—	鉄釉(錆釉) 鉄釉(錆釉)	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/2灰褐			
	13	SK251	—	陶器/擂鉢	(33.4)	—	—	0.9	(8.1)	—	—	—	鉄釉 鉄釉	7.5R4/2 灰赤	7.5R4/2 灰赤		肥前系	一単位 12本
	14	SK252	—	陶器/碗	(9.1)	(4.4)	0.6	1.1	7.2	—	—	—	灰釉 灰釉鉄釉流し	10YR8/3 浅黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	削り出し高台		
	15	SK252	—	磁器/皿	(22.8)	—	—	0.5	3.3	—	—	—	—	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	17C中葉～後葉頃
79	1	SK277	—	陶器/碗	(13.0)	—	—	0.36	(3.2)	—	—	—	灰釉 灰釉	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白		信楽系	
	2	SK277	—	磁器/碗	—	(4.5)	0.2	1.1	(1.8)	—	—	—	長石釉 長石釉	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白		肥前系	高台裏に墨痕アリ
	3	SK277	—	磁器/碗	(9.6)	—	—	0.4	(5.0)	—	—	—	透明釉+呉須 透明釉+呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	17C中葉～後葉頃
	4	SK277	—	磁器/碗	(9.0)	(4.0)	0.8	0.3	6.8	—	—	—	透明釉 透明釉+呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	17C中葉頃
	5	SK277	—	磁器/皿	12.8	4.7	0.8	1.1	3.8	—	蛇の目釉ハギ	—	青磁釉 青磁釉	N8/灰白	N8/灰白	削り出し高台で ロクロヘラケズリ	肥前系	歪み大 砂目 17C後半
	6	SK277	—	磁器/皿	(14.2)	(7.0)	0.6	0.55	2.8	—	—	—	白泥+呉須 白泥+呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	砂目 17C中葉～後葉頃
	7	SK277	—	磁器/皿	(13.0)	(5.0)	0.5	0.8	3.1	—	文様	—	透明釉 透明釉	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	高台端部 砂目釉ハギ 欠損した口縁の一部を削り再利用 17C中葉頃
	8	SK277	—	磁器/皿	13.5	5.3	0.5	0.6	2.7	—	—	—	透明釉+呉須 透明釉	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	高台端部 釉ハギ 砂目 17C中葉頃
	9	SK277	—	磁器/輪花皿	(8.0)	3.0	0.3	0.5	2.5	—	芙蓉手 草花文	—	—	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	初期伊万里 17C中葉頃
	10	SK277	—	越中瀬戸/碗	(10.4)	—	—	0.4	(5.7)	—	—	—	鉄釉に黒釉流し 鉄釉に黒釉流し	2.5Y7/1灰白	2.5Y7/1灰白			
	11	SK277	—	越中瀬戸/皿		(4.4)	0.4	0.6	(1.0)	—	印花文	ロクロヘラケズリ	—	5YR4/8赤褐	5Y7/1灰白	削り出し高台		内面 釉止め 段で灰釉止まる
	12	SK277	—	越中瀬戸/皿	(11.3)	4.1	0.4	0.9	2.0	—	ロクロナデ	ロクロナデ ロクロヘラケズリ	鉄釉 鉄釉	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	削り出し高台		内面底部は使用痕アリ 重ね焼き痕アリ
	13	SK277	—	越中瀬戸/皿	(11.6)	(4.3)	0.5	0.7	2.8	—	—	ロクロヘラケズリ	鉄釉 鉄釉	10YR6/3 にぶい黄橙	5Y6/1灰	削り出し高台		内面 使用痕アリ
	14	SK277	—	越中瀬戸/擂鉢	(26.3)	—	—	0.64	6.1	—	—		鉄釉 鉄釉	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙		瀬戸美濃系か	おろし目 一単位 中太5本
	15	SK277	—	越中瀬戸/擂鉢	31.6	11.3	—	0.8	12.8	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	回転糸切り未調整		一単位11条
80	16	SK277	—	越中瀬戸/擂鉢	(27.6)	—	—	1.0	(7.55)	—	—	—	鉄釉 鉄釉	5YR4/3 にぶい赤褐	5YR4/2 灰褐			おろし目 一単位中太10本 割れ口に煤付着 廃棄後火熱を受けたと 思われる
	17	SK277	—	越中瀬戸/擂鉢	—	15.0	—	0.42	(5.8)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR8/3 浅黄橙	回転糸切り未調整		使用痕著しい
	18	SK277	—	土師質土器/皿	8.2	5.1	—	0.4	1.7	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	7.5YR7/2 明褐灰	7.5YR7/2 明褐灰	ロクロヘラ切り		17C前葉～中葉頃 煤(灯心油痕)付着アリ
	19	SK277	—	土師質土器/皿	(11.0)	—	—	0.4	(2.4)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	5YR6/6橙	5YR6/6橙			17C前葉～中葉頃 煤(灯心油痕)付着アリ
	20	SK277	—	土師質土器/皿	(12.2)	5.6	—	0.6	2.8	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	回転糸切り未調整	越中瀬戸系素地か	17C前葉～中葉頃 内面は底面に使用痕アリ
	21	SK277	—	土師質土器/皿	(13.2)	(5.0)	—	0.6	2.5	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰黄橙	回転糸切り		内面 使用痕アリ 全体に煤付着 17C前葉～中葉
	22	SK277	—	土師質土器/皿	11.3	5.5	—	0.4	2.7	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	2.5Y8/3淡黄	2.5Y8/2灰白	回転糸切り未調整		煤(灯心油痕)付着アリ 17C前葉～中葉
	23	SK277	—	土師質土器/皿	—	4.4	—	0.5	(1.9)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/3 にぶい橙	回転糸切り未調整		17C前葉～中葉頃
	24	SK277	—	土師質土器/皿	—	—	(5.3)	0.9	(2.6)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	回転糸切り未調整	越中瀬戸系素地か	17C前葉～中葉頃
	25	SK277	—	土師質土器/皿	(11.8)	(5.0)		0.6	(3.2)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	2.5Y5/1黄灰	2.5Y6/2灰黄	回転糸切り未調整		17C前葉～中葉
	26	SK277	—	土師質土器/ ほうろく(鍋)か	(33.6)	—	—	0.8	(3.9)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙			赤彩 口縁端部赤彩なし
	30	SK277	—	石製品/硯	13.9	—	—	1.7		—	—	—	—	N2/黒	N2/黒			最大幅5.9
82	1	SK283	—	陶器/小杯	(8.0)	(3.4)	—	0.7	3.8	—	—	ロクロナデ	長石釉 長石釉	2.5Y5/1黄灰	2.5Y5/1黄灰	回転糸切り未調整		
	2	SK283	—	陶器/碗	—	(4.4)	0.7	0.5	(3.5)	—	—	—	黄釉 黄釉	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白		瀬戸美濃系	高台端部 釉ハギ 底部無釉
	3	SK283	—	磁器/皿	—	(8.0)	0.5	0.7	(1.7)	—	—	—	—	N8/灰白	N8/灰白	透明釉	肥前系	高台端部 釉ハギ 砂目 18C中葉頃
	4	SK283	—	磁器/碗	(8.0)			0.5		—	色絵	—	—	N8/灰白	N8/灰白		肥前系又は九谷系	最大幅13.0 うがい茶碗
	5	SK283	—	土師質土器/皿	—	3.8	—	0.4	1.2	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	ロクロナデ		内面 使用痕アリ
	6	SK283	—	越中瀬戸/擂鉢	(27.0)	—	—	0.7	(2.85)	—	—	—	鉄釉 鉄釉	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙			
	7	SK283	—	越中瀬戸/擂鉢	(25.2)	—	—	0.8	(4.3)	—	—	—	鉄釉 鉄釉	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙			おろし目 一単位 5本以上
	15	SX347	—	磁器/碗	(9.1)	—	—	0.5	(4.8)	—	菱形文	松竹梅	透明釉+呉須 透明釉+呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	くらわんか手 腰丸形 18C中葉頃
	16	SX347	—	磁器/碗	(9.4)	(3.45)	0.4	0.35	5.8	—	菱形文	松に東屋	透明釉 透明釉+呉須	2.5Y8/1灰白	2.5Y8/1灰白		肥前系	くらわんか手 腰丸形 18C中葉頃
	17	SX347	—	磁器/猪口	(7.8)			0.3	(3.25)	—	菱形文	タコ唐草文		N8/灰白	N8/灰白		肥前系	18C前葉～中葉頃
	18	SX347	—	磁器/碗	(9.4)	—	—	0.3	(4.7)	—	菱形文	網目文	透明釉+呉須 透明釉+呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	くらわんか手 腰丸形 18C中葉頃
	19	SX347	—	磁器/碗	(8.6)	—	—	0.2	(4.8)	—	—	円形文に 帯線一条	透明釉 透明釉	7.5Y8/1灰白	7.5Y8/1灰白		肥前系	くらわんか手 腰丸形 18C中葉頃
	20	SX347	—	磁器/碗	(9.0)	3.2	0.85	1.45	5.0	—	—	草花文	透明釉 透明釉+呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	くらわんか手 腰丸形 18C中葉頃
	21	SX347	—	磁器/碗	(9.8)	(3.5)	0.7	1.1	5.2	—	—	草花文	透明釉 透明釉+呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	くらわんか手 腰丸形 18C中葉頃
	22	SX347	—	磁器/碗	(9.4)	(3.8)	0.6	0.8	4.8	—	—	草花文+ 三条の帯線	白泥 白泥+呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	くらわんか手 腰丸形 18C中葉頃
	23	SX347	—	磁器/紅猪口	(4.8)	(1.6)	0.35	0.3	2.55	—	—	色絵(赤)エビ	—	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	18C代
	24	SX347	—	磁器/紅猪口	(5.8)	(3.1)	0.2	0.3	2.8	—	—	色絵(赤) 草花文	透明釉 透明釉	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	18C代
	25	SX347	—	磁器/皿	14.7	8.5	0.1	1.0	4.5	—	草花文	唐草文	透明釉+呉須 透明釉+呉須	N8/灰白	N8/灰白	蛇の目高台 中心に渦巻き文アリ	肥前系	全体的に火熱を受け釉が変色 18C中葉頃
	26	SX347	—	磁器/皿	—	(3.8)	0.7	0.3	(1.4)	—	草花文	—	黄釉 黄釉	5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白		瀬戸美濃系	18C前葉～中葉
	27	SX347	—	磁器/仏飯器	(7.0)	4.3	—	0.8	6.3	—	—	菊花文	透明釉 透明釉+呉須	N8/灰白	N8/灰白		肥前系	18C前葉～中葉
	28	SX347	—	越中瀬戸/皿	11.4	4.3	—	0.7	3.2	—	—	—	鉄釉 鉄釉	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	回転糸切り未調整		見込み部分に重ね焼き痕アリ
	29	SX347	—	越中瀬戸/皿	11.25	4.4	—	1.1	3.0	—	ロクロナデ	ロクロナデ	鉄釉 鉄釉	10R2/1 赤黒	5YR5/4 にぶい赤褐	回転糸切り未調整		見込み部分に重ね焼き痕アリ
	30	SX347	—	金属製品/ 指金具	9.0	—	—	0.1	—	22.7	—	—	—	—	—			最大幅 7.8

第4表　木製遺物観察表

図版番号	報告番号	遺構番号	層位	種類器種	法量(cm)（ ）は復元値						加工・施文		漆 内面/外面 表/裏	木取り	備考
					口径・全長(残存長)	幅	厚さ	底径高台径	高台長	器高	内面	外面			
19	8	TYJ L5 SD001	—	漆器椀	9.8	—	0.3～0.8	5.4	0.4	3.0	—	—	黒漆/黒漆	—	底部外面に朱文字「大」
	9	TYJ 4区 SD001 一括	—	漆器椀	12.0	—	0.3～1.9	(5.6)	1.3	7.5	—	—	黒漆/黒漆	—	底部外面に朱文字「二」
	10	TYJ 4区 トレンチ3 SD001	—	漆器椀	—	—	0.6	(6.0)	—	(4.4)	—	—	朱漆/朱漆	—	
	11	TYJ SD001 一括	—	しゃもじ	17.3	(3.7)	1.2	—	—	—	—	—	朱漆,黒漆/黒漆	—	
19	111	SD061	上層	草履芯	(21.6)	8.5	0.7	—	—	—	—	—	—	—	
22	26	SD081	—	栓	5.7	3.1	2.9	—	—	—	—	—	—	—	
	27	SD081	—	漆器椀	(10.7)	—	0.2～0.6	5.7	0.4	4.9	—	文様アリ	朱漆/黒漆	—	
	28	SD081	—	漆器椀	(11.4)	—	0.4～0.9	(6.0)	—	(4.4)	—	文様アリ	朱漆/黒漆	—	
	29	SD081	—	桶か樽の底板か蓋	17.9	9.3	1.1	—	—	—	—	—	—	柾目	焼印アリ「谷口」(「砂佐」か)
	30	SD081	—	桶か樽の底板か蓋	20.7	(3.7)	1.2	—	—	—	—	—	—	柾目	焼印アリ 不読
	31	SD081	—	樽の蓋	21.0	16.5	1.4	—	—	—	—	—	—	柾目	焼印アリ 不読　ノコギリ線状痕アリ
23	32	SD081	—	樽の蓋	17.9	18.1	1.7	—	—	—	—	—	—	板目	焼印アリ「垣儀」
	33	SD081	—	桶か樽の底板か蓋	20.1	8.3	1.3	—	—	—	—	—	—	—	焼印アリ「五」
	34	SD081	—	樽の蓋	17.8	8.8	1.1	—	—	—	—	—	—	柾目	
	35	SD081	—	樽の蓋	20.8	(10.2)	1.3	—	—	—	—	—	—	柾目	
	36	SD081	—	曲物の蓋	14.6	14.4	0.3	—	—	—	—	—	—	—	墨書アリ「口そへ丸口口」
	37	SD081	—	曲物底板	16.3	14.4	0.9	—	—	—	—	—	—	柾目	
	38	SD081	—	結桶の側板	(19.1)	6.1	1.1	—	—	—	—	—	—	柾目	
24	39	SD081	—	結桶の側板	(19.8)	6.2	1.4	—	—	—	—	—	—	柾目	丸ノミによる刳抜
	40	SD081	—	結桶の側板	(19.2)	(6.2)	1.5	—	—	—	—	—	—	柾目	
	41	SD081	—	樽の蓋か 作業台か	24.5	17.2	3.4	—	—	—	—	—	—	板目	
32	3	SE242	—	側板	65.0	9.7	2.0	—	—	—	—	—	—	柾目	No.9
	4	SE242	—	側板	64.5	10.4	1.7	—	—	—	—	—	—	板目	No.10
	5	SE242	—	井戸枠	70.0	—	1.8	68.0	—	66.0	—	—	—	—	
34	8	SE248	—	桶	62.6	—	1.6	66.4	—	151.9	—	—	—	—	
35	4	SE249	—	曲物の蓋	10.2	10.1	0.6	—	—	—	—	—	—	柾目	桜の皮
	5	SE248	—	樽の蓋	14.2	6.5	1.1	—	—	—	—	—	—	板目	
	6	SE249	上層	曲物の底板	(12.7)	(4.6)	0.5	—	—	—	—	—	—	柾目	
	7	SE248	上層	曲物の蓋	19.3	8.7	0.2	—	—	—	—	—	—	柾目	当たり痕跡アリ
37	2	SE281	—	漆器椀蓋	11.0		0.2～1.0	4.2	0.5	3.8	—	—	朱漆/朱漆	—	
	3	SE281	—	側板	60.8	12.9	3.0	—	—	—	—	—	—	板目	SE281－No.25
42	2	SE296	—	井戸側板	38.2	9.6	1.3	—	—	—	—	—	—	板目	2段目 No.12
	3	SE296	—	井戸側板	38.0	9.7	0.9	—	—	—	—	—	—	板目	3段目 No.33
	4	SE296	—	井戸側板	38.0	7.5	1.1	—	—	—	—	—	—	板目	4段目 No.55
	5	SE296	—	井戸側	31.0	—	—	—	—	36.0	—	—	—	—	2段目
	6	SE296	—	井戸側	30.4	—	—	—	—	36.4	—	—	—	—	3段目
	7	SE296	—	井戸側	32.8	—	—	—	—	39.4	—	—	—	—	4段目
45	30	SK002	—	漆器椀蓋	13.4	—	0.6	5.4	0.5	3.8	—	—	黒漆/黒漆	—	

図版番号	報告番号	遺構番号	層位	種類器種	法量(cm) ( )は復元値 口径・全長(残存長)	幅	厚さ	底径 高台径	高台長	器高	加工・施文 内面	外面	漆 内面／外面 表／裏	木取り	備考
45	31	SK002	—	漆器椀蓋	11.9	—	0.2〜0.4	4.8	0.5	3.6	—	—	朱漆/朱漆	—	
	32	SK002	—	漆器椀	—	—	0.4	(5.7)	—	(3.2)	—	朱漆で文様	朱漆/黒漆	—	
	33	SK002	—	漆器椀	—	—	(0.6)	(5.6)	—	(2.8)	—	—	朱漆/黒漆	—	
	34	SK002	—	曲物の蓋	6.0	14.7	0.3	—	—	—	—	—	—	—	
	35	SK002	—	下駄	(17.7)	7.8	3.3	—	—	—	—	—	—	柾目	
46	49	SK003	—	下駄	21.4	7.8	(2.8)	—	—	—	—	—	—	柾目	
47	23	SK009	—	漆器皿	(8.4)		0.1〜0.4	(2.6)	—	2.1	文様 梅か	—	朱漆/朱漆	—	内外面口縁端部に朱漆 内面中央部に金彩(梅か) 全体的に歪みアリ
48	1	SK009	—	桶の底板	16.9	4.7	0.7	—	—	—	—	—	黒漆/	—	
	2	SK009	—	樽の蓋	17.5	3.8	0.9	—	—	—	—	—	黒漆/黒漆	板目	当たり痕跡アリ
	3	SK009	—	桶か樽の側板	10.4	10.1	1.4	—	—	—	—	—	黒漆/	板目	ノコギリによる切断
51	28	SK029	—	漆器椀	—		0.4	10.2	—	(3.5)	—	—	朱漆/朱漆	—	
55	50	SK045	—	刷毛	0.25	14.55	0.7	—	—	—	—	—	黒漆 朱漆/黒漆	—	漆塗り用の刷毛　墨書アリ「ノへ水」 当たり痕跡アリ 裏面欠損
	51	SK045	—	下駄	17.8	7.4	3.1	—	—	—	—	—	—	板目	差歯
	52	SK045	—	下駄	(8.6)	7.7	2.1	—	—	—	—	—	—	柾目	
58	36	SK056-a	—	曲物の底板	14.5	14.6	0.5	—	—	—	—	—	—	—	墨書アリ「[illegible]」
59	37	SK056-a	—	下駄	20.0	(8.0)	5.0	—	—	—	—	—	朱漆/黒漆	板目	差歯露卯下駄 平面形は方形 銀杏形歯
	38	SK060	—	下駄	23.1	8.15	3.1	—	—	—	—	—	—	柾目	
	39	SK056-a	—	下駄	(19.7)	(8.6)	6.1	—	—	—	—	—	黒漆/黒漆	板目	一木連歯下駄 歯の形は銀杏形 後の緒が斜めに穿孔されている
	40	SK056-a	—	曲物の蓋	11.9	11.8	0.3	—	—	—	—	—	—	—	墨書アリ 不鮮
	41	SK060	—	漆器椀	—	—	0.3〜0.5			(3.5)	—	—	朱漆/黒漆	—	
	42	SK060	—	漆器椀	—	—	0.2	5.4	0.6	3.7	—	—	黒漆/朱漆	—	
	43	SK060	—	漆器椀	—	—	0.4〜1.2	5.7	1.2	(3.3)	—	—	朱漆/黒漆	—	高台内面に文字アリ
	44	SK060	—	鉢	25.4	—	0.9	23.6		7.3	—	—	朱漆/朱漆	柾目	
61	1	SK060	—	刷毛	14.9	15.0	0.8	—	—	—	—	—	朱漆か/朱漆	—	
	16	SK063	—	鉢	(26.0)	—	1.1	(25.4)	—	21.0	—	—	—	—	タガ痕アリ
	19	SK063	—	桶か樽の側板	20.8	(13.0)	1.5	—	—	—	—	—	—	柾目	タガ痕アリ
63	3	SK062	—	曲物底板	21.6	(13.6)	(0.8)	—	—	—	—	—	黒漆/	—	
	4	SK062	—	不明板材	20.7	22.3	1.2	—	—	—	—	—	/黒漆	柾目	木釘挿入アリ　あたり痕アリ
64	14	SK087	—	台座	(7.8)	5.2	0.5	—	—	—	—	—	—	—	
	15	SK087	—	箸状木製品	22.2	0.6	0.5	—	—	—	—	—	—	—	
	16	SK087	—	箸状木製品	22.2	0.7	0.5	—	—	—	—	—	—	—	
	17	SK087	—	箸状木製品	21.4	0.5	0.7	—	—	—	—	—	—	—	
	18	SK087	—	箸状木製品	22.3	0.7	0.6	—	—	—	—	—	—	—	
	19	SK087	—	箸状木製品	22.2	0.6	0.7	—	—	—	—	—	—	—	
68	14	SK132	—	卒塔婆	(18.5)	9.0	2.3	—	—	—	—	—	—	柾目	頭部切断 小刀か 裏面は焦げ 「南無阿弥陀」の文字アリ
	15	SK132	—	経板片	(16.0)	1.8	0.15	—	—	—	—	—	—	—	
	16	SK132	—	経板片	21.0	1.8	0.2	—	—	—	—	—	—	—	
	17	SK132	—	経板片	(23.4)	2.9	0.3	—	—	—	—	—	—	—	
	18	SK132	—	箸状木製品	25.8	0.7	0.6	—	—	—	—	—	—	—	

図版番号	報告番号	遺構番号	層位	種類器種	法量(cm) ( )は復元値						加工・施文		漆 内面/外面 赤/黒	木取り	備考
					口径全長(残存長)	幅	厚さ	底径高台径	高台長	器高	内面	外面			
68	19	SK132	—	箸状木製品	(19.7)	0.7	0.5	—	—	—	—	—	—	—	
	20	SK132	—	箸状木製品	(12.7)	0.7	0.5	—	—	—	—	—	—	—	
72	28	SK237	下層	漆器椀	—	—	0.6	(6.0)	0.2	(4.5)	—	朱漆で文様	黒漆/黒漆	—	
	29	SK237	下層	漆器椀	—	—	0.9	6.4	0.2	4.3	—	朱漆で文様	黒漆/黒漆	—	
	30	SK237	—	漆器椀	—	—	0.3~0.5			(6.7)	—	朱漆で文様	黒漆/黒漆	—	
	31	SK237	—	漆器椀	(9.3)	—	0.2~0.8	5.3	0.5	6.1	—	巴文	朱漆/黒漆	—	
	32	SK237	—	漆器椀	—	—	0.3~1.2	7.2	1.2	(5.8)	—	文様アリ	朱漆/ 黒漆・朱漆・黄漆	—	
	33	SK237	—	漆器椀	—	—	0.3~1.3	6.1	1.2	(9.0)	二条圏線アリ	文様三箇所アリ	朱漆/黒漆	—	
	34	SK237	下層	蓋	36.3	4.2	1.0	—	—	—	—	—	—	柾目	
	35	SK237	下層	箸状木製品	(12.3)	0.5	0.45	—	—	—	—	—	—	—	箸か
	36	SK237	下層	箸状木製品	(18.6)	0.6	0.6	—	—	—	—	—	—	—	
	37	SK237	下層	箸状木製品	(16.7)	0.9	0.7	—	—	—	—	—	—	—	
	38	SK237	下層	箸状木製品	(19.25)	0.6	0.5	—	—	—	—	—	—	—	
	39	SK237	上層	箸状木製品	20.6	0.6	0.5	—	—	—	—	—	—	—	
	40	SK237	下層	箸状木製品	21.0	0.7	0.56	—	—	—	—	—	—	—	
	41	SK237	下層	箸状木製品	24.7	0.7	0.55	—	—	—	—	—	—	—	
	42	SK237	—	箸状木製品	25.95	0.6	0.5	—	—	—	—	—	—	—	
	43	SK237	—	火箸	24.0	5.1	1.1	—	—	—	—	—	漆/黒漆	—	組み合わせのおひつ的な物か 側面にけがアリ
	44	SK237	下層	曲物の蓋	13.8	6.3	0.9	—	—	—	—	—	—	柾目	
	45	SK237	下層	灰ならし	3.4	8.2	0.4	—	—	—	—	—	—	—	
73	46	SK237	—	下駄	(17.3)	5.9	2.3	—	—	—	—	—	朱漆/黒漆	柾目	差歯露卯下駄 平面形は楕円形 歯部欠損
	47	SK237	—	下駄	(8.2)	(5.0)	2.4	—	—	—	—	—	朱漆/黒漆	—	
	48	SK237	下層	連歯下駄	23.75	10.55	4.5	—	—	—	—	—	—	板目	完形
	49	SK237	—	連歯下駄	23.0	(7.55)	2.9	—	—	—	—	—	—	板目	
	50	SK237	下層	下駄	22.8	(4.0)	(4.0)	—	—	—	—	—	黒漆/黒漆	板目(本体)	全面黒漆
74	8	SK239	—	漆器椀	—	—	0.3~1.4	5.8	1.0	(7.4)	—	朱巴文	朱漆/黒漆	—	
76	6	SK238	—	栓	6.7	2.75	2.6	—	—	—	—	—	—	—	
	14	SK247	—	漆器椀	12.4	—	0.2~1.1	7.1	0.75	5.3	—	—	朱漆/朱漆	—	
	15	SK247	—	しゃもじ	15.8	(4.0)	1.3	—	—	—	—	—	—	—	
	16	SK247	—	桶の側板	24.2	5.7	0.9	—	—	—	—	—	—	柾目	タガ痕アリ
	17	SK247	—	桶の側板	24.3	6.6	0.8	—	—	—	—	—	—	柾目	
80	27	SK277	—	漆器椀	—	—	0.3~0.7	6.0	0.4	(3.2)	—	文様三箇所アリ	朱漆/黒漆	—	一部歪みアリ
	28	SK277	—	漆器椀	—	—	0.3~0.7	—	—	(4.0)	—	—	朱漆/黒漆	—	
	29	SK277	—	漆器椀	10.0	—	0.2~0.6	6.7	0.3	4.9	—	文様一箇所アリ	朱漆/黒漆	—	
81	31	SK277	—	結桶の底板	(20.1)	(3.5)	1.8	—	—	—	—	—	—	—	
	32	SK277	—	曲物の底板	(17.6)	(8.5)	0.7	—	—	—	—	—	黒漆/	柾目	裏面焼痕アリ
	33	SK277	—	下駄	22.7	7.0	3.0	—	—	—	—	—	—	柾目	差歯露卯下駄　ノミ痕アリ 後ろの眼が彫られておらず 緒を足指で挟むものと思われる

遺跡番号	遺跡番号	遺跡番号	層位	遺跡種類	放置(m3)（ ）は復元値						加工・強工		用	木取り	備考
					口径・台長（現存長）	幅	厚さ	最低高台径	高台長	容量	内面	外面	内面／外面 表／裏		
81	34	SK277	—	下駄	29.9	7.2	3.7	—	—	—	—	—	—	板目	
82	9	SK283	—	鉄道の道板	18.3	5.2	0.9	—	—	—	—	—	—	柾目	
	8	SK283	—	著状木製品	(12.2)	0.6	0.4	—	—	—	—	—	—	—	
	10	SK283	—	著状木製品	(32.6)	0.7	0.5	—	—	—	—	—	—	—	
	11	SK283	—	著状木製品	(14.1)	0.95	0.38	—	—	—	—	—	—	—	
	12	SK283	—	著状木製品	(34.1)	0.6	0.5	—	—	—	—	—	—	—	
	13	SK283	—	著状木製品	(37.0)	0.6	0.4	—	—	—	—	—	—	—	
	14	SK283	—	著状木製品	18.3	0.6	0.5	—	—	—	—	—	—	—	
	21	SK147	—	道路板	(31.2)	—	0.2～0.5	(2.5)	0.4	4.0	—	水大字アリ	黒塗／黒塗	—	口縁部赤みアリ

第5表　井戸側観察表　（　）は残存部分の数値

遺構名	遺物番号	段目	法量 全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	木取り	加工痕跡や刻印の有無 外面	内面	上端	下端	側面	木釘痕の状況	当たり痕跡の状況	備考
SE110	373-1	1	(79.3)	10.0	1.8	板目	縦線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	不明瞭	－	－	平坦ながらも雑な作り	－	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の下方1か所でみられる。
SE110	374-2	1	(67)	11	2	板目	縦線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面は鑿痕あり	－	－	平坦ながらも雑な作り	－	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の下方1か所でみられる。
SE110	375-3	1	(59.8)	12	1.8	板目	平坦ながらも加工痕は不明瞭	全体に不明瞭下面は鑿痕あり	－	－	平坦ながらも雑な作り	－	内面下方にあり接合部分	
SE110	376-4	1	(76)	10.5	1.8	柾目	縦線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面は鑿痕あり	－	－	平坦 正直台使用か	－	内面下方にあり接合部分	
SE110	377-5	1	(69	9	1.8	板目	鐁による削り痕あり	全体に不明瞭下面は鑿痕あり	－	－	平坦ながらも雑な作り	－	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の下方1か所でみられる。
SE110	378-6	1	(80.5)	10.6	1.8	柾目	縦線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面は鑿痕あり	－	－	平坦 正直台使用か	－	内面下方にあり接合部分	
SE110	379-7	1	(81.8)	10	1.8	柾目	縦線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面は鑿痕あり	－	－	平坦 正直台使用か	－	内面下方にあり接合部分	
SE110	380-8	1	(73)	9	1.8	板目	平坦ながらも加工痕は不明瞭	全体に不明瞭下面は鑿痕あり	－	－	平坦 正直台使用か	－	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の下方1か所でみられる。節有材
SE110	381-9	1	(75)	11	1.8	板目	不明瞭	全体に不明瞭下面は鑿痕あり	－	－	平坦ながらも雑な作り	－	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の下方1か所でみられる。
SE110	382-10	1	(74)	11	1.2	板目	縦線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面は鑿痕あり	－	－	平坦 正直台使用か	－	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の下方1か所でみられる。節有材
SE110	383-11	1	(41.0)	5.0	2.1	板目	不明瞭	不明瞭	－	－	平坦ながら不明瞭	－	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の下方1か所でみられる。
SE110	384-12	1	(73.0)	10.5	1.5	板目	縦線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面は平鑿痕らしきものあり	－	－	平坦 正直台使用か	－	内面下方にあり接合部分	
SE110	385-13	1	(85.0)	8.5	1.8	板目	平坦ながらも加工痕は不明瞭	全体に不明瞭下面も不明瞭ながらも鑿痕らしきものあり	－	－	平坦 正直台使用か	－	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の下方1か所でみられる。
SE110	-14	1	(78.0)	12.8	1.8	板目	鐁による削り痕あり	全体に不明瞭下面は平鑿痕らしきものあり	－	－	平坦 正直台使用か	－	－	タガ痕が外面の下方1か所でみられる。
SE110	387-15	1	(51.0)	5.0	1.8	板目	不明瞭	不明瞭	－	－	平坦ながら不明瞭	－	－	
SE110	388-16	1	(48.0)	11.0	5.5	板目	不明瞭ながらも縦線状痕の様な痕跡が見られる	－	－	－	－	－	－	柱の台座などの建築部材の一部と考えられる材 ほぞ部分などに鑿の刃先痕は見られるものの鋸痕は観察できない
SE110	389-17	1	(41.0)	5.0	2.1	板目	不明瞭	不明瞭	－	－	－	－	－	角材に近い形状
SE110	390-18	1	(64.0)	9.0	1.8	板目	不明瞭	不明瞭	－	－	平坦 正直台使用か	－	内面下方にあり接合部分	
SE110	391-19	1	(80.5)	10.0	2.0	板目	平坦ながらも加工痕は不明瞭	全体に不明瞭下面も不明瞭ながらも鑿痕らしきものあり	－	－	平坦 正直台使用か	－	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の下方1か所でみられる。
SE110	392-20	1	(75.0)	10.0	1.8	柾目	縦線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面は平鑿痕らしきものあり	－	－	平坦 正直台使用か	－	内面下方にあり接合部分	
SE110	393-21	1	(40.5)	8.0	1.7	板目	平坦ながらも加工痕不明瞭。側面は面取りをする。	全体に不明瞭下面も不明瞭ながらも鑿痕らしきものあり	－	－	平坦ながらも雑な作り	－	内面下方にあり接合部分	
SE110	394-22	1	(5.5)	9.7	1.0	板目	平坦ながらも加工痕不明瞭。側面は面取りをする。	全体に不明瞭下面も不明瞭ながらも鑿痕らしきものあり	－	－	平坦ながらも雑な作り	－	内面下方にあり接合部分	
SE110	395-23	1	(85.0)	10.5	1.7	板目	縦線状痕あり両端辺部には鉋痕あり。	全体に不明瞭下面は平鑿痕らしきものあり	－	－	平坦 正直台使用か	－	内面下方にあり接合部分	
SE110	396-24	1	(87.0)	8.5	2.0	板目	平坦ながらも加工痕は不明瞭。	全体に不明瞭下面は平鑿痕らしきものあり	－	－	平坦 正直台使用か	－	内面下方にあり接合部分	
SE110	397-25	1	(78.5)	11.5	1.8	板目	平坦ながらも加工痕不明瞭。側面は面取りをする。	全体に不明瞭下面は平鑿痕らしきものあり	－	－	平坦 正直台使用か	－	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の下方1か所でみられる。
SE110	398-26	1	(82.0)	9.0	2.2	板目	平坦ながらも加工痕は不明瞭	全体に不明瞭下面は平鑿痕らしきものあり	－	－	平坦 正直台使用か	－	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の下方1か所でみられる。
SE110	399-27	1	(82.0)	10.0	1.8	板目	平坦ながらも加工痕は不明瞭	全体に不明瞭下面は平鑿痕らしきものあり	－	－	平坦 正直台使用か	－	－	タガ痕が外面の下方1か所でみられる。
SE110	430-28	2	(70.0)	11.0	3.0	板目	鐁による削り痕あり	全体に不明瞭上面に丸鑿痕あり	鋸による切断痕あり	－	平坦な作り	あり	－	タガ痕が外面の上方1か所でみられる。下方は斜めに削り出したため、木釘痕が露出している。
SE110	431-29	2	(70.0)	9.6	2.2	板目	鐁による削り痕あり	全体に不明瞭上面に丸鑿痕あり	－	－	平坦な作り	あり	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の上方1か所でみられる。下方は斜めに削り出したため、木釘痕が露出している。
SE110	432-30	2	(70.0)	13.5	2.5	板目	鐁による削り痕あり	不明瞭	鋸による切断痕か	－	平坦な作り	あり	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の上方1か所でみられる。下方は斜めに削り出したため、木釘痕が露出している。
SE110	433-31	2	(70.0)	13.2	2.0	板目	鐁による削り痕あり	全体に不明瞭上面に丸鑿痕あり	－	－	平坦な作り	－	内面下方にあり接合部分	
SE110	434-32	2	(70.5)	12.0	2.7	板目	鐁による削り痕あり	全体に不明瞭上面に丸鑿痕あり	－	－	平坦な作り	あり	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の上方1か所でみられる。下方は斜めに削り出したため、木釘痕が露出している。
SE110	435-33	2	(70.0)	13.7	3.0	板目	鐁による削り痕あり	全体に不明瞭上面に鑿痕あり	－	－	平坦な作り	－	－	
SE110	436-34	2	(70.5)	9.0	3.0	板目	鐁による削り痕あり	全体に槍鉋による削り痕あり上面に鑿痕あり	－	－	平坦な作り 刃止め痕あり 鋸使用か	あり	－	下方は斜めに削り出したため、木釘痕が露出している。外面の槍鉋痕は左から右方向へ刃が進む。

遺構名	遺物番号	段目	法量			木取り	加工痕跡や刻印の有無					木釘痕の状況	当たり痕跡の状況	備考
			全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		外面	内面	上端	下端	側面			
SE110	437-35	2	69.2	13.0	2.8	板目	鐇による斫り痕あり	風蝕により不明瞭ながらも下方には、丸鑿痕あり	–	–	平坦 正直台 使用か			タガ痕が外面の上方1か所でみられる。下方は斜めに削り出したため、木釘痕が露出している。
SE110	438-36	2	67.0	9.5	3.0	板目	鐇による斫り痕あり	風蝕により不明瞭ながらも下方には、丸鑿痕あり	–	–	平坦 正直台 使用か			タガ痕が外面の上方1か所でみられる。下方は斜めに削り出したため、木釘痕が露出している。
SE110	439-37	2	72.0	10.5	2.2	板目	鐇による斫り痕あり	風蝕により不明瞭ながらも下方には、鑿痕あり	–	–	平坦 正直台 使用か			タガ痕が外面の上方1か所でみられる。下方は斜めに削り出したため、木釘痕が露出している。
SE110	440-38	2	70.0	15.0	2.8	板目	鐇による斫り痕あり	風蝕により不明瞭ながらも下方には、鑿痕あり	–	–	平坦 正直台 使用か			タガ痕が外面の上方1か所でみられる。下方は斜めに削り出したため、木釘痕が露出している。
SE110	441-39	2	68.0	10.0	2.5	板目	鐇による斫り痕あり	風蝕により不明瞭ながらも下方には、鑿痕あり	–	–	平坦 正直台 使用か			タガ痕が外面の上方1か所でみられる。下方は斜めに削り出したため、木釘痕が露出している。
SE110	442-40	2	70.0	9.8	2.0	板目	鐇による斫り痕あり	風蝕により不明瞭ながらも下方には、鑿痕あり	–	–	平坦 正直台 使用か			
SE110	443-41	2	66.8	14.2	2.4	板目	鐇による斫り痕あり	風蝕により不明瞭	–	–	平坦 正直台 使用か			
SE110	444-42	2	67.0	5.0	2.0	板目	鐇による斫り痕あり	風蝕により不明瞭	–	–	平坦 正直台 使用か			
SE110	445-43	2	67.2	14.3	2.2	板目	鐇による斫り痕あり側面には手斧痕と思われる痕跡も見られる	風蝕により不明瞭	–	–	平坦 正直台 使用か			
SE110	446-44	2	66.0	9.0	2.2	板目	鐇による斫り痕あり	風蝕により不明瞭	–	–	平坦 正直台 使用か			
SE110	447-45	2	65.0	10.5	2.5	板目	鐇による斫り痕あり	風蝕により不明瞭	–	–	平坦 正直台 使用か		内面下方にあり接合部分	
SE110	448-46	2	68.0	12.8	3.0	板目	鐇による斫り痕あり	全体に不明瞭下面は鑿痕と考えられる痕跡あり	–	–	平坦 正直台 使用か			
SE110	449-47	2	69.0	10.5	2.2	板目	鐇による斫り痕あり	全体に不明瞭下面は鑿痕と考えられる痕跡あり	–	–	平坦 正直台 使用か			
SE110	450-48	2	68.5	15.0	3.0	柾目	鐇による斫り痕あり	全体に不明瞭下方に丸鑿痕あり	–	–	平坦 正直台 使用か	–	内面下方にあり接合部分	
SE110	451-49	2	66.5	10.5	3.0	柾目	鐇による斫り痕か	全体に不明瞭下方は鑿痕と考えられる痕跡あり	–	–	平坦 正直台 使用か	下端片面に木釘穴あり	–	
SE110	452-50	2	65.0	7.5	2.8	板目	鐇による斫り痕あり	全体に不明瞭下方は鑿痕と考えられる痕跡あり	–	木口には斜めに切削の刃痕あり	平坦 正直台 使用か	下端片面に木釘穴あり	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の下方1か所でみられる。
SE110	453-51	2	66.0	12.0	2.8	板目	鐇による斫り痕あり	全体に不明瞭下方は鑿痕と考えられる痕跡あり	–	–	平坦 正直台 使用か	–	–	内面下方の平鑿痕が始まる箇所には一条の線が彫られる。
SE110	454-52	2	68.4	5.5	2.0	板目	鐇による斫り痕か	全体に不明瞭下方は鑿痕と考えられる痕跡あり	–	–	平坦 正直台 使用か	–	–	
SE242	463-1	1	(64.0)	11.5	1.8	板目	不明瞭	鐇による斫り痕あり	–	–	平坦ながらも雑な作り	上端両側面に木釘残存	–	
SE242	464-2	1	(65.5)	9.8	2.0	柾目	鉈状工具の加工痕と刃痕あり	不明瞭	–	–	平坦ながらも雑な作り	–	–	タガ痕が外面の下方1か所でみられる。
SE242	465-3	1	(64.5)	9.8	1.5	柾目	全般的に平坦ながらも加工痕は不明瞭 下方では鉈状工具による刃止まり痕が見られる	平坦ながらも明確な加工痕なし	–	–	平坦ながらも雑な作り	上端両側面に木釘穴あり	–	タガ痕が外面の下方1か所でみられる。
SE242	466-4	1	(49.0)	4.6	2.5	柾目	不明瞭	不明瞭	敲打痕あり	刃先を入れて切断した痕跡あり	平坦な作り	–	–	
SE242	467-5	1	(62.5)	6.0	2.0	板目	全般的に平坦ながらも加工痕は不明瞭 下方では工具による無数の刃先痕が見られる	鐇による斫り痕あり	–	–	平坦ながらも雑な作り	上端両側面に木釘穴あり	–	
SE242	468-6	1	(64.5)	12.7	2.0	板目	鉈状工具かと思われる刃先痕あり	鐇による斫り痕あり	–	–	平坦ながらも雑な作り	–	内面下方にあり接合部分	下方は風食が激しい。
SE242	469-7	1	(64.4)	6.7	2.0	板目	鉈状工具かと思われる刃先痕あり	鐇による斫り痕あり	–	–	平坦ながらも雑な作り	上端両側面に木釘穴と木釘残存	内面下方にあり接合部分	下方は風食が激しい。
SE242	470-8	1	(63.2)	9.5	1.5	板目	不明瞭	不明瞭	–	–	平坦ながらも雑な作り	上端両側面に木釘穴あり	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の上で1ヵ所でみられる
SE242	471-9	1	(65.0)	9.7	2.0	柾目	全般的に平坦ながらも加工痕は不明瞭	全般的に平坦ながらも加工痕は不明瞭 下方では鉈状工具による刃止まり痕が見られる	–	–	平坦ながらも雑な作り	上端両側面に木釘穴と木釘残存	–	
SE242	472-10	1	(64.5)	10.4	1.7	板目	全般的に平坦ながらも加工痕は不明瞭 下方では鉈状工具による刃止まり痕が見られる	鐇による斫り痕あり	–	–	平坦ながらも雑な作り	上端両側面に木釘穴と木釘残存	–	
SE242	473-11	1	(64.5)	8.0	2.1	板目	全般的に平坦ながらも加工痕は不明瞭 下方では鉈状工具による刃止まり痕が見られる	鐇による斫り痕あり	–	–	平坦ながらも雑な作り	上端両側面に木釘穴あり	内面下方にあり接合部分	
SE242	474-12	1	(64.5)	9.4	1.8	板目	全般的に平坦ながらも加工痕は不明瞭 下方では鉈状工具による刃止まり痕が見られる	鐇による斫り痕あり	–	–	平坦ながらも雑な作り	上端両側面に木釘穴と木釘残存	–	
SE242	475-13	1	(64.3)	8.5	2.0	板目	鐇による斫り痕あり	鐇による斫り痕あり	–	–	平坦ながらも雑な作り	上端両側面に木釘穴と木釘残存	–	タガ痕が外面の上で1ヵ所でみられる。 下方は風食が激しい。

遺構名	遺物番号	段目	法量			木取り	加工痕跡や刻印の有無					木釘痕の状況	当たり痕跡の状況	備考
			全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		外面	内面	上端	下端	側面			
SE242	476-14	1	(64.0)	9.6	1.8	柾目	全般的に平坦ながらも加工痕は不明瞭 下方では工具による刃止まり痕が見られる	上方と下方で全般的に平坦ながらも加工痕は不明瞭	-	-	平坦ながらも雑な作り	上端両側面に木釘穴あり	-	
SE242	477-15	1	(64.5)	9.2	1.8	板目	鑿による斫り痕あり	鑿による斫り痕あり	-	-	平坦ながらも雑な作り	-	内面下方にあり 土中部分	タガ痕が外面の下で1ヵ所でみられる。 材は節有材。
SE242	478-16	1	(65.5)	7.5	1.8	板目	全般的に平坦ながらも加工痕は不明瞭 下方では鉇状工具による刃止まり痕が見られる	鑿と考えられる斫り痕あり	-	-	平坦な作り	上端両側面に木釘穴あり	-	タガ痕が外面の下方1か所でみられる。
SE242	479-17	1	(66.5)	6.3	2.0	柾目	全般的に平坦ながらも加工痕は不明瞭 下方では鉇状工具による刃止まり痕が見られる	不明瞭	-	直線的な切断痕	平坦な作り	上端両側面に木釘残存と中位片面に木釘穴あり	-	
SE242	480-18	1	(63.5)	6.8	2.2	板目	全般的に平坦ながらも加工痕は不明瞭 下方では鉇状工具による刃止まり痕が見られる	鑿と考えられる斫り痕あり	-	-	平坦な作り	上端両側面に木釘穴と木釘残存	-	タガ痕が外面の中位と下方の2か所でみられる。
SE242	481-19	1	(65.0)	8.2	2.2	板目	全般的に平坦ながらも加工痕は不明瞭 下方では鉇状工具による刃止まり痕が見られる	鑿と考えられる斫り痕あり	-	-	平坦ながらも雑な作り	上端両側面に木釘穴と木釘残存	-	
SE242	482-20	1	(66.5)	8.3	2.2	板目	全般的に平坦ながらも加工痕は不明瞭 下方では鉇状工具による刃止まり痕が見られる	不明瞭	-	-	平坦ながらも雑な作り	上端両側面に木釘穴と木釘残存	-	
SE242	483-21	1	(66.5)	6.8	2.0	板目	全般的に平坦ながらも加工痕は不明瞭	不明瞭	-	-	平坦な作り	上端両側面に木釘穴あり	-	タガ痕が外面の下方1か所でみられる。
SE242	484-22	1	(65.4)	12.3	2.4	板目	鉇状工具かと思われる刃先痕あり	鑿と考えられる斫り痕あり	-	-	平坦な作り	上端両側面に木釘穴と木釘残存 下方片側にも木釘穴あり	内面上方にあり	
SE242	485-23	1	(64.0)	6.5	2.0	板目	全般的に平坦ながらも加工痕は不明瞭	不明瞭	-	-	平坦な作り	上端両側面に木釘穴あり	-	
SE242	486-24	1	(65.0)	9.6	2.0	板目	全般的に平坦ながらも加工痕は不明瞭 下方では鉇状工具による刃止まり痕が見られる	不明瞭	-	-	平坦な作り	上端両側面に木釘穴あり		材は節持ち材。
SE242	487-25	1	(65.0)	6.5	2.0	板目	全般的に平坦ながらも加工痕は不明瞭	鑿と考えられる斫り痕あり	-	-	平坦な作り	上端両側面に木釘穴あり	内面上方にあり	下方は風食が激しい。
SE242	488-26	1	(64.0)	11.0	2.2	板目	全般的に平坦ながらも加工痕は不明瞭	鑿と考えられる斫り痕あり	-	-	平坦な作り	上端両側面に木釘穴と木釘残存		材は節持ち材 下方は風食が激しい。
SE248	517-1	1	151.0	6.0	2.0	柾目	鋸線状痕あり 両端辺部には鉋痕あり 下方には、手斧、鉈などによって斜めに削られる	平坦ながら加工痕不明	-	-	平坦 正直台使用か	-	-	
SE248	518-2	1	150.0	12.0	2.0	板目	鋸線状痕あり 両端辺部には鉋痕あり 下方には、手斧、鉈などによって斜めに削られる	平坦ながら加工痕不明	-	-	平坦 正直台使用か	-	-	
SE248	519-3	1	151.0	8.2	2.0	板目	平坦ながら加工痕不明 下方には、手斧、鉈などによって斜めに削られる	平坦ながら加工痕不明	-	-	平坦 正直台使用か	-	-	
SE248	520-4	1	151.0	7.0	2.5	板目	鋸線状痕あり 両端辺部には鉋痕あり 下方には、手斧、鉈などによって斜めに削られる	平坦ながら加工痕不明	-	-	平坦 正直台使用か	-	-	芯部分が残る
SE248	521-5	1	151.0	9.0	2.0	板目	平坦ながら加工痕不明 下方には、手斧、鉈などによって斜めに削られる		-	-	平坦 正直台使用か	-	-	
SE248	522-6	1	151.0	9.8	2.0	柾目	鋸線状痕あり 両端辺部には鉋痕あり 下方には、手斧、鉈などによって斜めに削られる	平坦ながら加工痕不明	-	-	平坦 正直台使用か	-	-	
SE248	523-7	1	150.5	6.0	2.0	板目	平坦ながら加工痕不明 下方には、手斧、鉈などによって斜めに削られる	平坦ながら加工痕不明	-	-	平坦 正直台使用か	-	-	
SE248	524-8	1	146.0	5.8	2.0	板目	鋸線状痕あり 両端辺部には鉋痕あり 下方には、手斧、鉈などによって斜めに削られる	平坦ながら加工痕不明 ただし薄っらと線状の加工痕らしきものアリ	-	-	平坦 正直台使用か	-	-	芯部分が残る 側面の一部は面取りされている

連携名	遺物番号	段目	法量			木取り	加工痕跡や別匠の有無					木釘痕の状況	当たり痕跡の状況	備考
			全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		外面	内面	上端	下端	側面			
SE248	525-9	1	151.0	9.2	2.0	板目	平坦ながら加工痕不明下方には、手斧、鉋などによって斜めに削られる	平坦ながら加工痕不明	–	–	平坦 正直台使用か	–	–	
SE248	526-10	1	151.0	9.0	2.0	板目	縦線状痕あり 南端辺部には鉋痕あり 下方には、手斧、鉋などによって斜めに削られる	平坦ながら加工痕不明	–	–	平坦 正直台使用か	–	–	
SE248	527-11	1	151.0	8.7	2.0	柾目	縦線状痕あり 南端辺部には鉋痕あり 下方には、手斧、鉋などによって斜めに削られる	平坦ながら加工痕不明	–	–	平坦 正直台使用か	–	–	
SE248	528-12	1	151.0	10.0	2.0	柾目	縦線状痕あり 南端辺部には鉋痕あり 下方には、手斧、鉋などによって斜めに削られる	平坦ながら加工痕不明	–	–	平坦 正直台使用か	–	–	
SE248	529-13	1	147.0	11.0	2.0	板目	平坦ながら加工痕不明下方には、手斧、鉋などによって斜めに削られる	平坦ながら加工痕不明	–	–	平坦 正直台使用か	–	–	
SE248	530-14	1	151.0	10.0	2.0	柾目	縦線状痕あり 南端辺部には鉋痕あり 下方には、手斧、鉋などによって斜めに削られる	平坦ながら加工痕不明	–	–	平坦 正直台使用か	–	–	
SE248	531-15	1	151.0	7.0	2.0	柾目	縦線状痕あり 南端辺部には鉋痕あり 下方には、手斧、鉋などによって斜めに削られる	平坦ながら加工痕不明	–	–	平坦 正直台使用か	–	–	
SE248	532-16	1	150.8	13.0	2.0	柾目	縦線状痕あり 南端辺部には鉋痕あり 下方には、手斧、鉋などによって斜めに削られる	平坦ながら加工痕不明	–	–	平坦 正直台使用か	–	–	
SE248	533-17	1	150.0	6.5	2.0	柾目	縦線状痕あり 南端辺部には鉋痕あり 下方には、手斧、鉋などによって斜めに削られる	平坦ながら加工痕不明	–	–	平坦 正直台使用か	–	–	
SE248	534-18	1	(150.0)	10.0	2.0	柾目	縦線状痕あり 南端辺部には鉋痕あり 下方には、手斧、鉋、鑿などによって斜めに削られる	平坦ながら加工痕不明	–	–	平坦 正直台使用か	–	–	
SE248	535-19	1	(102.0)	7.0	2.0	板目	縦線状痕あり 南端辺部には鉋痕あり 下方には、手斧、鉋、鑿などによって斜めに削られる	平坦ながら加工痕不明	–	–	平坦 正直台使用か	–	–	
SE248	536-20	1	(147.0)	10.0	2.0	柾目	縦線状痕あり 南端辺部には鉋痕あり 下方には、手斧、鉋、鑿などによって斜めに削られる	平坦ながら加工痕不明	–	–	平坦 正直台使用か	–	–	
SE248	537-21	1	(74.0)	6.5	2.0	板目	平坦痕 表が見られる	平坦ながら加工痕不明	–	–	平坦 正直台使用か	–	–	
SE248	538-22	1	(87.4)	7.5	2.0	柾目	縦線状痕あり 南端辺部には鉋痕あり 下方には、手斧、鉋、鑿などによって斜めに削られる	平坦ながら加工痕不明	–	–	平坦 正直台使用か	–	–	
SE248	539-23	1	(148.0)	10.0	2.0	板目	平坦痕	平坦ながら加工痕不明	–	–	平坦 正直台使用か	–	–	
SE248	540-24	1	150.8	10.0	2.0	柾目	縦線状痕あり 南端辺部には鉋痕あり 下方には、手斧、鉋、鑿などによって斜めに削られる	平坦ながら加工痕不明	–	–	平坦 正直台使用か	–	–	
SE248	541-25	1	147.0	7.0	2.0	柾目	平坦ながら加工痕不明下方には、手斧、鉋などによって斜めに削られる	平坦ながら加工痕不明	–	–	平坦 正直台使用か	–	–	
SE281	561-1	1	(76)	11.0	2.5	柾目	整痕の様な刃物あり	全体に不明瞭下部に丸鑿痕あり	–	–	平坦 正直台使用か	–	内面下方にあり 接合部分	外面に残る刃幅は1.5cm
SE281	562-2	1	(76)	6.0	2.0	柾目	縦線状痕あり 南端辺部は鉋痕あり	全体に不明瞭下部に鑿痕あり	–	–	平坦 正直台使用か	–	–	

遺構名	遺物番号	段目	法量			木取り	加工痕跡や刻印の有無					木釘痕の状況	当たり痕跡の状況	備考
			全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		外面	内面	上端	下端	側面			
SE281	563-3	1	(77)	9.0	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部は鉋痕あり	全体に不明瞭下面に鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	−	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の上下2か所でみられる
SE281	564-4	1	(78)	8.0	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	−	−	
SE281	565-5	1	(8.0)	7.0	2.0	柾目	鋸線状痕と鑿の刃先痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	−	−	平坦で正直台使用か 下方に不明加工痕あり	−	−	
SE281	566-6	1	(79)	5.0	2.0	柾目	平坦ながらも、加工痕見られず	全体に不明瞭下面に鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	−	内面下方にあり接合部分	
SE281	567-7	1	(76)	11.0	1.9	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	−	内面下方にあり接合部分	内側面左下方に刃先で×××と連続した痕が見られる。タガ痕は上下2か所でみられる。
SE281	568-8	1	(76)	6.8	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	−	内面下方にあり接合部分	内側面右中位に刃先で////と連続した痕が見られる。タガ痕は上下2か所でみられる。
SE281	569-9	1	(7.9)	9.4	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	−	−	内側面左下方に刃先で////と連続した痕が見られる。タガ痕は上下2か所でみられる。内面下方には打墨痕が見られる。
SE281	570-10	1	(78.5)	8.0	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	−	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の上下2か所でみられる
SE281	571-11	1	(77.5)	9.4	2.0	柾目	鋸線状痕と鑿の刃先痕あり	全体に不明瞭下面に鑿痕あり	−	刻印あり	平坦で薄らと鋸線状痕が見える。鋸→正直台の順で使用か	−	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の上下2か所でみられる
SE281	572-12	1	(77.0)	9.0	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面に鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	内側面右中位にあり	−	タガ痕が外面の上下2か所でみられる。
SE281	573-13	1	(81.0)	8.9	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面に不明瞭な鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	−	−	内側面右上方と中位の2カ所に刃先で×××と連続した痕が見られる。タガ痕は下方の1カ所で見られた。
SE281	574-14	1	(81.0)	12.0	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面に鑿痕あり	−	刻印あり	平坦正直台使用か	−	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の上下2か所でみられる。
SE281	575-15	1	(79.0)	8.0	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕、鑿痕あり	全体に不明瞭下面に鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	−	−	内面下方には不明瞭ながらも打墨痕が見られる。タガ痕は上方1カ所。
SE281	576-16	1	(82.0)	4.0	2.0	柾目	平坦ながらも、加工痕見られず	全体に不明瞭下面に鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	−	内面下方にあり接合部分	内側面右下方に刃先で×××と連続した痕が見られる。タガ痕は上下2か所でみられる。内面下方には不明瞭な打墨痕あり。
SE281	577-17	1	(79.0)	12.0	1.8	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕、鑿痕あり	全体に不明瞭下面に鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	内側面右下方にあり	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の上下2か所でみられる。
SE281	578-18	1	(75.5)	5.8	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面に不明瞭な鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	−	−	
SE281	579-19	1	(77.0)	8.0	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕、鑿痕あり	全体に不明瞭下面に鑿痕あり	−	刻印か	平坦正直台使用か	−	−	タガ痕が外面の上下2か所でみられる
SE281	580-20	1	(75.5)	9.0	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕、鑿痕あり	全体に不明瞭下面に鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	−	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の上下2か所でみられる。内面下方には打墨痕が見られる。
SE281	581-21	1	(81.2)	6.2	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕、鑿痕あり	全体に不明瞭下方には鋸線状痕あり 接合部分には鑿痕	−	−	平坦正直台使用か	内側面右中位にあり	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の上下2か所でみられる。
SE281	582-22	1	(76.5)	7.2	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面に鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	内側面左中位にあり	−	
SE281	583-23	1	(78.0)	5.5	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕、鑿痕あり	全体に不明瞭下面に不明瞭な鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	−	内面下方にあり接合部分	内側面右下方と中位に刃先で×××と連続した痕が見られる。タガ痕は上下2か所でみられる。
SE281	584-24	1	(75.0)	11.5	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕、鑿痕あり	全体に不明瞭下面に鑿痕あり	−	刻印あり	平坦正直台使用か	内側面左下方にあり	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の上下2か所でみられる。
SE281	585-25	1	(80.0)	27.0	1.9	柾目	手斧痕や鉋、鑿痕あり	全体に不明瞭下面に鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	−	−	外側面右端部にはやや打墨痕が見られる。タガ痕は外面の上方1カ所でみられる。節有材。
SE281	586-26	1	(81.5)	8.2	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	内側面右下方にあり	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の上下2か所でみられる。
SE281	587-27	1	(78.0)	7.0	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	内側面右下方にあり	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の上下2か所でみられる。内面下方には打墨痕あり。
SE281	588-28	1	(76.0)	8.8	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	−	−	内側面右下方に刃先で×××と連続した痕が見られる。タガ痕が外面の上方1カ所でみられる。内面下方
SE281	589-29	1	(77.0)	9.2	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕、鑿痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	−	−	内側面右中位から下方にかけて刃先で×××と連続した痕が見られる。タガ痕が外面の上方1カ所でみられる。内面下方には打墨痕あり。
SE281	590-30	1	(76.0)	5.0	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕、鑿痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	−	−	内側面右下方に刃先で×××と連続した痕が見られる。タガ痕が外面の上方1カ所でみられる。
SE281	591-31	2	(84.0)	13.0	2.0	板目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘残存	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の上下2か所でみられる。
SE281	592-32	2	(84.0)	8.0	2.3	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下方には鋸線状痕あり 接合部分には鑿痕あり	打痕あり	−	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘、木釘穴あり	−	内側面右下方に刃先で×××と連続した痕が見られる。タガ痕が外面の上方1カ所でみられる。
SE281	593-33	2	(84.3)	8.3	2.1	柾目	平坦で鋸線状痕が見られる	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	内面右側面の上下端に木釘穴あり	内面下方にあり接合部分	
SE281	594-34	2	(84.0)	8.5	2.4	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕、鑿痕あり	全体に不明瞭下面に鑿痕あり	打痕あり	−	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘残存	−	
SE281	595-35	2	(83.7)	6.0	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	打痕あり	−	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘、木釘穴あり	−	
SE281	596-36	2	(84.0)	8.0	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面に鑿痕あり	打痕あり	−	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘、木釘穴あり	内面下方にあり接合部分	外面に残る加工痕の刃幅は4cmほど。
SE281	597-37	2	(84.0)	5.6	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	打痕あり	−	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘穴あり	−	内側面右下方に刃先で×××と連続した痕が見られる。タガ痕が外面の上、下方に2カ所でみられる。
SE281	598-38	2	(83.4)	10.4	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕か鑿痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	−	刻印あり	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘、木釘穴あり	−	木口に刻印あり ○に「大」
SE281	599-39	2	(84.0)	4.5	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	打痕あり	−	平坦正直台使用か	下端両側面に木釘穴あり	−	タガ痕が外面の上方1カ所でみられる。
SE281	600-40	2	(84.0)	11.3	2.0	板目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕か鑿痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	打痕あり	鋸による切断痕あり	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘穴あり	−	
SE281	601-41	2	(84.4)	5.8	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕か鑿痕あり	全体に不明瞭下方には鋸線状痕あり 接合部分には鑿痕あり	−	−	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘残存	−	

遺構名	遺物番号	段目	法量			木取り	加工痕跡や刻印の有無					木釘痕の状況	当たり痕跡の状況	備考
			全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		外面	内面	上端	下端	側面			
SE281	602-42	2	(84.0)	4.5	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕か鑿痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	打痕あり	-	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘穴あり	内面下方にあり接合部分	
SE281	603-43	2	(84.0)	11.3	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	-	-	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘、木釘穴あり	-	外面中位には墨痕あり。タガ痕が外面の上方1カ所でみられる。
SE281	604-44	2	(84.2)	5.1	2.2	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面に鑿痕あり	打痕あり	-	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘残存	-	内側面左上方に刃先で×××と連続した痕が見られる。
SE281	605-45	2	(84.0)	10.5	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	打痕あり	-	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘、木釘穴あり下端にもあり	内面下方にあり接合部分	内側面左上方に刃先で×××と連続した痕が見られる。タガ痕が外面の上方1カ所でみられる。
SE281	606-46	2	(84.5)	6.1	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕か鑿痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	打痕あり	-	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘穴あり	内面下方にあり接合部分	
SE281	607-47	2	(84.4)	12.2	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕か鑿痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	打痕あり	刻印あり	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘、木釘穴あり	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の上方1カ所でみられる。右側側面に「二」の墨書あり
SE281	608-48	2	(84.2)	6.5	2.3	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕か鑿痕あり	全体に不明瞭下面に鑿痕あり	-	墨痕あり	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘、木釘穴あり	内面下方にあり接合部分	タガ痕が外面の上下2か所でみられる。 墨痕は下段面に「×」と左側側面に「二カ」「いカ」。
SE281	609-49	2	(84.3)	6.0	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕か鑿痕あり	全体に不明瞭下面に鑿痕あり	打痕あり	-	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘、木釘穴あり	内面下方にあり接合部分	
SE281	610-50	2	(84.0)	5.6	2.3	柾目	平坦で、鉋痕と鑿痕が若干確認できる	全体に不明瞭下面に鑿痕あり	-	-	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘、木釘穴あり	内面下方にあり接合部分	内側面右上方に刃先で×××と連続した痕が見られる。タガ痕が外面の下方1カ所でみられる。
SE281	611-51	2	(84.2)	5.0	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕か鑿痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	打痕あり	-	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘残存	内面下方にあり接合部分	
SE281	612-52	2	(84.2)	11.7	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕か鑿痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	-	-	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘、木釘穴あり	内面下方にあり接合部分	
SE281	613-53	2	(84.1)	5.6	2.1	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭だが鑿や鉋痕、鋸線状痕もみられる 下面に丸鑿痕あり	打痕あり	-	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘、木釘穴あり	内面下方にあり接合部分	
SE281	614-54	2	(83.5)	7.0	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面に鑿痕あり	-	-	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘、木釘穴あり	内面下方にあり接合部分	
SE281	615-55	2	(84.2)	4.5	2.2	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面に鑿痕あり	打痕あり	-	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘穴あり	-	内側面左下方に刃先で×××と連続した痕が見られる。
SE281	616-56	2	(84.0)	11.0	2.0	板目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕か鑿痕あり	全体に不明瞭下面に鑿痕あり	-	-	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘残存	内面下方にあり接合部分	
SE281	617-57	2	(83.8)	6.0	2.5	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕か鑿痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	打痕あり	-	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘、木釘穴あり	内面下方にあり接合部分	
SE281	618-58	2	(84.0)	5.2	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕か鑿痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	打痕あり	-	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘、木釘穴あり	内面下方にあり接合部分	側面下端に刃止まり痕が見られ、削り残しが観察できる。正直台以外の道具(鉄)による加工の可能性も考えられる。
SE281	619-59	2	(83.0)	7.9	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕か鑿痕あり	全体に不明瞭下面に鑿痕あり	打痕あり	-	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘、木釘穴あり	内面下方にあり接合部分	
SE281	620-60	2	(84.0)	4.8	2.5	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕か鑿痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	打痕あり	-	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘、木釘穴あり	内面下方にあり接合部分	側面下端に刃止まり痕が見られ、削り残しが観察できる。正直台以外の道具(鉄)による加工の可能性も考えられる。
SE281	621-61	2	(84.2)	10.0	2.0	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕か鑿痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	打痕あり	-	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘、木釘穴あり	内面下方にあり接合部分	
SE281	622-62	2	(84.2)			柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕か鑿痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	打痕あり	-	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘、木釘穴あり	内面下方にあり接合部分	内側面右上方に刃先で×××と連続した痕が見られる。
SE281	623-63	2	(84.0)	6.0	2.1	柾目	鋸線状痕あり両端辺部には鉋痕あり	全体に不明瞭下面に丸鑿痕あり	打痕あり	-	平坦正直台使用か	上端両側面に木釘穴あり	内面下方にあり接合部分	
SE286	674-1	1	(35.0)	8.5	1.0	板目	鐁による表面加工あり	不明瞭ながら下方には鑿による切削痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か
SE286	675-2	1	(32.0)	3.8	1.0	板目	鐁による表面加工が主で、一部鑿痕も見られる	不明瞭ながら下方に切削痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か
SE286	676-3	1	(32.0)	6.0	1.2	板目	鐁による表面加工が主で、一部鑿痕も見られる	不明瞭ながら下方には鑿による切削痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か
SE286	677-4	1	(31.5)	5.0	1.0	板目	不明瞭ながら一部で鑿痕が見られる	不明瞭ながら下方には鑿によると思われる切削痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か
SE286	678-5	1	(32.0)	7.0	1.0	板目	鐁による表面加工が主で、一部鑿痕も見られる	不明瞭ながら下方には鑿による切削痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か
SE286	679-6	1	(30.0)	4.5	0.8	板目	鐁による表面加工が主で、一部鑿痕も見られる	不明瞭ながら下方には鑿による切削痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か
SE286	680-7	1	(33.0)	6.0	1.0	板目	不明瞭ながら一部で鑿痕が見られる	不明瞭ながら下方には鑿による切削痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か
SE286	681-8	1	(32.0)	6.0	1.0	板目	鐁による表面加工が主で、一部鑿痕も見られる	全体的に不明瞭	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か
SE286	682-9	1	(32.0)	9.5	1.0	板目	鐁による表面加工が主で、一部鑿痕も見られる	全体的に不明瞭	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か

遺構名	遺物番号	段目	法量			木取り	加工痕跡や刻印の有無					木釘痕の状況	当たり痕跡の状況	備考
			全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		外面	内面	上端	下端	側面			
SE286	683-10	1	(29.0)	5.0	1.0	柾目	全体的に不明瞭	不明瞭ながら下方には鑿による切削痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	
SE286	684-11	2	38.0	9.0	1.0	板目	全体的に不明瞭	不明瞭ながら下方には鑿による切削痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	
SE286	685-12	2	38.0	9.0	1.0	板目	鐁による表面加工が主で、一部鑿痕も見られる	突き鑿による調整痕が見られる。上方、下方には丸鑿などによる切削痕がある。	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工痕は比較的良好に残る 加工に鐁使用か
SE286	686-13	2	38.0	8.2	1.0	板目	鐁による表面加工が主で、一部鑿痕も見られる	不明瞭ながら上方、下方には鑿による切削痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か
SE286	687-14	2	38.0	4.8	1.0	板目	全体的に不明瞭	不明瞭ながら上方、下方には鑿による切削痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	
SE286	688-15	2	38.0	4.0	1.0	板目	鐁による表面加工が主で、一部鑿痕も見られる	不明瞭ながら上方、下方には鑿による切削痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	外面から内面へ	-	和釘が外面から内面へ1カ所あり 加工に鐁使用か
SE286	689-16	2	38.0	3.5	1.0	板目	鐁による表面加工が主で、一部鑿痕も見られる	不明瞭ながら上方、下方には鑿による切削痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か
SE286	690-17	2	38.0	5.0	1.0	板目	鐁により表面の加工痕が見られる	不明瞭ながら上方、下方には鑿による切削痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か
SE286	691-18	2	38.5	6.0	1.0	板目	鐁により表面の加工痕が見られる	不明瞭ながら上方、下方には鑿による切削痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か
SE286	692-19	2	38.5	3.7	1.0	板目	鐁により表面の加工痕が見られる	不明瞭ながら下方には鑿による切削痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か
SE286	693-20	2	38.0	8.0	1.0	板目	鐁により表面の加工痕が見られる	鐁による表面加工痕が見られ、上方と下方には鑿痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か
SE286	694-21	2	38.0	5.0	1.0	板目	鐁により表面の加工痕が見られる	不明瞭ながら上方、下方には鑿による切削痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	
SE286	695-22	2	38.0	7.0	1.0	板目	鐁により表面の加工痕が見られる	鐁による表面加工痕が見られ、上方と下方には鑿痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か
SE286	696-23	2	38.0	11.0	1.0	板目	鐁により表面の加工痕が見られる	不明瞭ながら上方、下方には鑿による切削痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か
SE286	697-24	2	38.0	7.0	1.0	板目	全体的に不明瞭	不明瞭ながら上方、下方には鑿による切削痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か
SE286	698-25	2	38.0	4.0	1.0	板目	鐁により表面の加工痕が見られる	不明瞭ながら上方、下方には鑿による切削痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か
SE286	699-26	2	38.0	5.3	1.0	板目	鐁により表面の加工痕が見られる	不明瞭ながら上方、下方には鑿による切削痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か
SE286	700-27	2	38.0	6.0	1.0	板目	鐁により表面の加工痕が見られる	不明瞭ながら上方、下方には鑿による切削痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か
SE286	701-28	2	37.5	9.8	1.0	板目	鐁により表面の加工痕が見られる	不明瞭ながら上方、下方には鑿による切削痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か
SE286	702-29	2	38.0	3.6	1.0	板目	全体的に不明瞭	不明瞭ながら上方、下方には鑿による切削痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	
SE286	703-30	3	38.0	7.0	1.0	板目	鐁により表面の加工痕が見られる	鐁による表面加工痕が見られ、上方と下方には鑿痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	内面の両端には木の節理の段が残る 加工に鐁使用か
SE286	704-31	3	38.0	11.0	1.0	板目	鐁により表面の加工痕が見られる	鐁による表面加工痕が見られ、上方と下方には鑿痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工痕は比較的良好に残る 加工に鐁使用か
SE286	705-32	3	38.1	4.0	1.2	板目	鐁により表面の加工痕が見られる	鐁による表面加工痕が見られ、上方と下方には鑿痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工痕は比較的良好に残る 加工に鐁使用か
SE286	706-33	3	38.0	9.2	1.0	板目	鐁により表面の加工痕が見られる	鐁による表面加工痕が見られ、上方と下方には鑿痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工痕は比較的良好に残る 加工に鐁使用か
SE286	707-34	3	38.2	9.4	0.8	板目	鐁により表面の加工痕が見られる	鐁による表面加工痕が見られ、上方と下方には鑿痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工痕は比較的良好に残る 加工に鐁使用か
SE286	708-35	3	38.3	3.7	1.0	板目	鐁により表面の加工痕が見られる	鐁による表面加工痕が見られ、上方と下方には鑿痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か
SE286	709-36	3	38.1	7.0	1.0	板目	鐁により表面の加工痕が見られる	鐁による表面加工痕が見られ、上方と下方には鑿痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か
SE286	710-37	3	38.2	4.0	1.1	板目	鐁により表面の加工痕が見られる	上方と下方で加工痕があり、鑿などによる加工のない部分は木の地肌が残る	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工痕は比較的良好に残る 加工に鐁使用か
SE286	711-38	3	38.4	6.0	1.2	板目	鐁により表面の加工痕が見られる	上方と下方で加工痕があり、鑿などによる加工のない部分は木の地肌が残る	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鐁使用か

遺構名	遺物番号	段目	法量 全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	木取り	加工痕跡や刻印の有無 外面	内面	上端	下端	側面	木灯後の状況	地たり後跡の状況	備考
SE286	712-39	3	36.1	7.8	1.2	板目	鑿により表面の加工痕が見られる	上方と下方で加工痕があり、鑿などによる加工のない部分は木の地肌が残る	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鍵使用か
SE286	713-40	3	36.1	8.0	1.2	板目	鑿により表面の加工痕が見られる	下地工程による水平ないつり痕あり、縁の上方、下方に仕事による加工痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	
SE286	714-41	3	36.0	8.5	1.0	板目	鑿により表面の加工痕が見られる	上方と下方で加工痕があり、鑿などによる加工のない部分は木の地肌が残る	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鍵使用か
SE286	715-42	3	36.0	8.0	1.0	板目	鑿により表面の加工痕が見られる	上方と下方で加工痕があり、鑿などによる加工のない部分は木の地肌が残る	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鍵使用か
SE286	716-43	3	36.0	10.0	1.0	板目	鑿により表面の加工痕が見られる	上方と下方で加工痕があり、鑿などによる加工のない部分は木の地肌が残る	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鍵使用か
SE286	717-44	3	36.2	9.2	1.0	板目	鑿により表面の加工痕が見られる	上方と下方で加工痕があり、鑿などによる加工のない部分は木の地肌が残る	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工痕は比較的良好に残る 加工に鍵使用か
SE286	718-45	3	36.4	5.8	1.0	板目	全体的に平坦痕	上方と下方で、鑿などによる加工痕あり	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	
SE286	719-46	3	35.5	8.4	0.8	板目	鑿により表面の加工痕が見られる	上方と下方で加工痕があり、鑿などによる加工のない部分は木の地肌が残る	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鍵使用か
SE286	720-47	4	36.0	10.0	1.2	板目	鑿により表面の加工痕が見られる	上方と下方で加工痕があり、鑿などによる縁取もみられる、加工のない部分は木の地肌が残る	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鍵使用か
SE286	721-48	4	36.0	8.7	1.0	板目	鑿により表面の加工痕が見られる	上方と下方で加工痕があり、鑿などによる縁取もみられる、加工のない部分は木の地肌が残る	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鍵使用か
SE286	722-49	4	36.0	9.0	1.0	板目	鑿により表面の加工痕が見られる	上方と下方で加工痕があり、鑿などによる縁取もみられる、加工のない部分は木の地肌が残る	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鍵使用か
SE286	723-50	4	36.0	7.5	1.0	板目	鑿により表面の加工痕が見られる	上方と下方で加工痕があり、鑿などによる縁取もみられる、加工のない部分は木の地肌が残る	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鍵使用か
SE286	724-51	4	36.0	5.0	1.0	板目	鑿により表面の加工痕が見られる	上方と下方で加工痕があり、鑿などによる縁取もみられる、加工のない部分は木の地肌が残る	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鍵使用か
SE286	725-52	4	36.0	9.4	1.0	板目	鑿により表面の加工痕が見られる	上方と下方で加工痕があり、鑿などによる縁取もみられる、加工のない部分は木の地肌が残る	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鍵使用か
SE286	726-53	4	36.2	4.0	1.2	板目	鑿により表面の加工痕が見られる	上方と下方で加工痕があり、鑿などによる縁取もみられる、加工のない部分は木の地肌が残る	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鍵使用か
SE286	727-54	4	36.0	6.2	1.0	板目	鑿により表面の加工痕が見られる	上方と下方で加工痕があり、鑿などによる縁取もみられる、加工のない部分は木の地肌が残る	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鍵使用か
SE286	728-55	4	36.0	6.2	1.0	板目	鑿により表面の加工痕が見られる	上方と下方で加工痕があり、鑿などによる縁取もみられる、加工のない部分は木の地肌が残る	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に鍵使用か

遺構名	遺物番号	段目	法量			木取り	加工痕跡や形態の有無				木釘痕の状況	当たり痕跡の状況	備考
			全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		外面	内面	上端	下端	側面			
SE286	729-58	4	37.0	6.0	1.0	板目	鋸により表面の加工痕が見られる	上方と下方で加工痕があり、整なだによる調整もみられる。加工のない部分は木の地肌が残る	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に雑使用か
SE286	730-57	4	38.0	6.4	1.0	板目	鋸により表面の加工痕が見られる	上方と下方で加工痕があり、整なだによる調整もみられる。加工のない部分はまの地肌が残る	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に雑使用か
SE286	731-56	4	37.5	8.5	1.0	板目	鋸により表面の加工痕が見られる	上方と下方で加工痕があり、整なだによる調整もみられる。加工のない部分はまの地肌が残る	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に雑使用か
SE286	732-59	4	37.5	8.2	1.0	板目	鋸により表面の加工痕が見られる	上方と下方で加工痕があり、整なだによる調整もみられる。加工のない部分は木の地肌が残る	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に雑使用か
SE286	733-60	4	38.0	8.8	1.0	板目	鋸により表面の加工痕が見られる	上方と下方で加工痕があり、整なだによる調整もみられる。加工のない部分はまの地肌が残る	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に雑使用か
SE286	734-61	4	38.0	8.0	1.0	板目	鋸による表面の加工痕が見られる	上方と下方で加工痕があり、整なだによる調整もみられる。加工のない部分はまの地肌が残る	-	-	平坦ながら雑なつくり	外縁から内側へ	-	木釘か釘打が1カ所外面～裏面へあり 加工に雑使用か
SE286	735-62	4	38.0	11.0	1.0	板目	鋸により表面の加工痕が見られる	上方と下方で加工痕があり、整なだによる調整もみられる。加工のない部分はまの地肌が残る	-	-	平坦ながら雑なつくり	-	-	加工に雑使用か